

第3章 狩猟具（武器）

本遺跡出土の狩猟具として、石鏃、石槍、投擲、石匙、刃器などがある。

第1節 石鏃（PL. 46~53, PL. 61）

本遺跡より出土する石鏃には、打製と磨製とがある。打製石鏃は総数1165点であり、サスカイトを石材として用いている。大阪府・奈良県境二上山地域に産出するサスカイトである。磨石鏃は5点であり、石材はサスカイトの他に玢岩、ホルンフェルスをも利用している。

石鏃とは、矢の先端に装着され、「狩猟具」「武器」として機能するものである。

打製石鏃

打製石鏃は、基部の形状、茎の有無を基準にして次の様に5分類を行った。

タイプ分類

- Aタイプ 凹基無茎式 基部が凹むもの。
- Bタイプ 平基無茎式 基部が直線をなすもの。
- Cタイプ 円基無茎式 基部が円く突出するもの。
- Dタイプ 尖基無茎式 基部が鋭く尖るもの。
- Eタイプ 凸基有茎式 茎をもつもの。

Aタイプ、Bタイプ、Cタイプについては、最大幅が基部にあるものと、上位にあり基部においてやや狭くなるものとに小分類を行い、それぞれ1）、2）とした。

Dタイプ、Eタイプについては、逆刺の部分が角をなすものと、角をなさずにならだかに下るものとに小分類を行い、それぞれを、1）、2）とした。

なお、各部分の名称を fig.19 の様にした。削片の部分名称については『柴雲出』⁴⁹⁾に準ずるものである。平面において一方の面をA面、他方をB面とするが、これは写真図版に載っている面をA面、反対側の面をB面とする。載っていない分については、便宜的に呼称しているが、一応、中高で、筒の通る面をA面、平

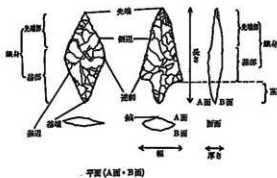


fig.19 石鏃の各部名称

坦で、主要刺離面の残る面をB面という様に、目安にしている。

制罐面の状況 なお、制罐面の状況は、貝殻状制罐面⁴⁰⁾(フリー)、階段状制罐面⁴¹⁾(ステップ)、がみられるが、一覧表には主として階段状制罐面について記した。観察によれば、一側辺が貝殻状制罐面よりなるもの、貝殻状制罐面と階段状制罐面が混在するもの、一側辺が全て階段状制罐面を呈し、他側辺は貝殻状制罐面を呈するもの、一側辺が全て階段状制罐面よりなるもの等がある。さらに、階段状制罐面が深くて段をなすものや、浅く痕跡のみ残るもの等があり、種々の様相を示す。しかしながら、この両者は、フリーフレイキングによる調整制罐の結果、貝殻状制罐面を呈するもの、階段状制罐面を呈するものがあらわれると考えられる。また、その打撃がサスキットの石目に逆っている場合は、階段状制罐面を呈する。即ち、弥生時代においては、技法として両者を意図したものではなく、打撃・石材の状況により両者があらわれると考えたい。

Aタイプ 凹基無茎式。124点あり。最大幅が基辺にあるA-1タイプは104点(完形品35点)で大多数を占め、最大幅が、基辺より上位にあり、基辺にむかって狭くなるA-2タイプは、わずかに20点(完形品12点)である(PL.46-17・41・52)。

法量は、長さ15.8mm~46.7mm(平均28.6mm)、幅7.0mm~25.4mm(平均17.4mm)、厚さ2.3mm~6.3mm(平均4.2mm)、重量0.4g~3.2g(現存最大重量3.7g)(平均1.6g)である。

形態的にみると、基辺の凹みは全体として浅く、大体深さ3mm位の凹基が普通である。一番深い凹基は深さ約6mmを示す(PL.46-42)。基辺は円く彎曲して凹むものが、大半を占め(PL.46-25・47)、他にV字形に凹むもの(PL.46-1・20)や両端で急に屈曲し、中央は平坦な凹基のもの(PL.46-21、S-09-0194)等がある。

側辺は、直線的にのびるもの(PL.46-22・42・53)、ふくらみをもって基辺に至るもの(PL.46-18・33)、ふくらみをもつ部分と内彎する部分が組み合わさり、途中で段をもつ複雑な形態のもの(PL.46-1・2・6・7・9・25・36)、直線的にのびるが途中で段をもつもの(PL.46-19)等があり、先端より内彎して基辺に至るものはない。5分眼中、Aタイプが最も側辺の形態に変化がみられる。

Aタイプは全体として薄身であるが、幅狭・長身で側辺が略直線的にのびる一群は厚身である(PL.46-10・11・21・22・52・53)。厚みは大体5mm前後になる。

なお、この中の1点(PL.46-32)は土壌基(SJ233)より、人骨に伴出しているものである。

Bタイプ 平基無茎式。74点あり。5分眼中最も少ない。B-1タイプは42点(完形品8点)で(PL.47-8・17・33)、B-2タイプは30点(完形品18点)、不明品は2点となる。

法量は、長さ17.7mm~39.1mm(現存最大長40.1mm)(平均28.6mm)、幅10.4mm~26.7mm(現存最大幅29.2mm)(平均15.8mm)、厚さ2.8mm~7.2mm(平均4.4mm)、重量0.6g~4.8g(平均2.1g)である。

基辺は、中軸線と直交する方向に存するものが大半であり、わずかに斜基もある(PL.47-3・6・10、S-09-0077)。

側辺の形態は、直線的にのびるもの(PL.47-1・22)、先端より内彎して下るもの(PL.47-21)と、ふくらみをもつ部分と内彎部分が組み合わさり、途中で段をもつ形態のもの(PL.47-24・25、S-09-0455)、直線的にはのびるが途中で段をもつもの(PL.47-

3)等があるが、大半はふくらみをもつ側辺形態のものである(PL.47-8・11・32)。

Bタイプは、厚みはない方だが、B-2タイプはB-1タイプに比較して、全体的に厚みをもつ。B-1タイプの厚さは2.8mm~7.9mm(平均4.2mm)であり、B-2タイプは2.8mm~7.2mm(平均4.7mm)である。

Cタイプ 円基無蓋式。136点あり。C-1タイプは42点(完形品24点)で(PL.48-9・10・12・15・33)、C-2タイプは94点(完形品43点)である(PL.48-2・23・27)。

法量は、長さ18.2mm~52.8mm(現存最大長62.2mm)(平均32.9mm)、幅9.4mm~30.7mm(平均15.6mm)、厚さ1.7mm~8.5mm(平均4.7mm)、重量0.5g~10.6g(平均2.6g)である。

全体として薄身である。側辺の形態は、大半は先端からふくらみをもつもの(PL.48-24・25・27・37)であるが、他に、内彎して下るもの(PL.48-1・4・23・31)や、ごく先端の側辺は、内彎しており、先端は細く鋭く突出し、下半はふくらみをもつ側辺のもの(PL.48-2・20、S-09-1295)がある。

Dタイプ 尖基無蓋式。166点あり。逆刺が角をなすD-1タイプは36点(完形品6点)で(PL.49-2・6・7)、逆刺部が角をなさず、なだらかに下る、柳葉形態を呈するD-2タイプは126点(完形品34点)である(PL.49-28~30)。

法量は、長さ21.2mm~50.3mm(現存最大長69.6mm)(平均34.7mm)、幅8.7mm~24.5mm(平均15.1mm)、厚さ2.4mm~8.8mm(平均4.8mm)、重量0.6g~5.7g(現存最大重量7.8g)(平均2.1g)である。

側辺の形態は、大半はふくらみをもつもの(PL.49-21・33、S-09-0111)であるが、他に直線的にのびるもの(PL.49-22・23・32、S-09-0374)や、内彎するもの(PL.49-11・45)や、ごく先端の側辺は内彎しており、先端は細く鋭く突出し、下半はふくらみをもつ側辺のもの(PL.49-31)等がある。

Eタイプ 凸基有蓋式。279点あり。5分類中、数が最も多い。逆刺が角をなし、茎の挟りの明瞭なE-1タイプは94点(完形品25点)であり、逆刺が角をなさず、円くなだらかで、茎の挟りが緩やかなE-2タイプは185点(完形品47点)である(PL.51-14~16)。

法量は、長さ23.7mm~63.6mm(現存最大長68.2mm)(平均39.7mm)、幅7.7mm~29.8mm(平均17.0mm)、厚さ2.5mm~10.0mm(平均5.7mm)、重量1.1g~7.9g(現存最大重量9.0g)(平均3.5g)である。

Eタイプは、基部や茎の形態には種々のものがあり、逆刺が明らかに角をなすもの(PL.51-2・7・12)の他に、逆刺は円くなだらかだが、茎の挟りが明瞭なもの(PL.51-14・26・34、S-09-0879)がある。

側辺の形態は、ふくらみをもつものが大半である。この他に、直線的にのびるもの(PL.51-11、S-09-1264)や、内彎するもの(PL.51-12)がある。

Eタイプの中に、「大型石鏡」がある。これは、長さが大体50mm前後以上を示すものである。長さは茎が折れのため、正確な長さは不明であり、それに伴い、重量も不明である。推定重量3g以上、現存最大重量7.9g。典型的なもの、38点ある。

これは、幅広で薄身のもの(49点)(PL.51-7・11)と、幅狭で厚身のもの(29点)(P

大型凸基
有蓋式石鏡

L. 50-1・2)とがある。ともに腹身中央に筋が通るが、横断面形は、前者は扁平な菱形、後者は菱形を呈する。

幅と厚さの法量を求めると、前者は、幅18.5mm~29.8mm(平均22.7mm)、厚さ5.0mm~7.1mm(平均5.7mm)となり、後者は、幅11.1mm~16.8mm(平均12.9mm)、厚さ5.2mm~9.6mm(平均6.9mm)となる。

両者とも丁寧な調整刻離が施され、中央に筋が通り、揃った刻離面が並列しており、側辺のエッジは鋭くつくられる。

前者には、E-1タイプが15点、E-2タイプが3点で、逆刺が角をなし、明瞭な茎をつくるものが多い。茎は、つけねで折れているものが多いが、比較的長い茎がつくられていた様である(PL.51-9、S-09-0859、1263)。

身幅が広いわりに、側辺のエッジは非常にうすく鋭く、一直線状にのびる。

後者には、E-1タイプはなく、E-2タイプのみ、29点がある。基部は両側面に緩やかな袂りを入れたもの(PL.50-6・10)と、逆刺部より直線的に狭くなるもの(PL.50-2・7)とがあり、後者は、Dタイプの中に入れる事が可能とも考えられる。幅状で厚身のわりに刃先は鋭く、側辺は屈折に粗相はあるが、殆ど全点がジグザグを呈する(PL.50-1・7)。⁴³⁾鋸歯状刻離のものもある(PL.50-6・7)。

遺構より出土するものは、その中で6点と少ないが、いずれも中期に属する。その内、5点は第Ⅱ-Ⅲ様式期のものである。

A~Eタイプの中で、形態的に特殊なものが数点みられた(Fig.21)。

なお、破片の中に、細身で先端が、非常に鋭く(先端角約22°)、側辺はまっすぐにのびる形態のものがある(Fig.21-1・2)。丁寧な調整刻離が施され、中央に筋が通り、側辺は鋸歯状刻離である。全体形は不明。この他に、両端が欠損しているが、両側辺が平行してのびる中央部破片もある(Fig.21-3)。これは、両面とも揃った刻離面が並列しており、中央に筋が通る。側辺には、鋸歯状刻離が施される。

未製品

全体の調整刻離面に凹凸があり、不揃いで、粗く、更に調整を施して作り得る、完成品の法量と比較して大きい一群がある。これを未製品とする。308点あり。

未製品は、A~Eタイプに比べて、やはり大刻離面を残すものの割合が多く、未製品全体の約80%を占め、その内、両面に残存するものは50%以上になる。その内、自然面を残すものも多く、約1割弱になる。それは、一方の平面上の他、基端、先端、側辺上にみられ、また平面から基端にかけて残すものもみられる(PL.52-1・9・10・21)。大刻離面の残存状況も種々みられ、中央部だけでなく、基部に残るもの、先端部に残るもの、左右に片寄るもの等の様相があり(PL.52-11・12・20、S-09-0588)、また、側辺に、割片の折れ面(打ち割り面の可塑性もある)が厚く残るものもみられる(S-09-0766)。主要刻離面の打点も一定ではなく、上方、下方、右方向、左方向等があり、また、先端や基端、左右の側辺上に打点があるものが比較的多い(S-09-0796)。⁴⁴⁾

未製品は、完成品にくらべて、調整刻離は粗く、面構成も不揃いで凹凸が大きい加工状況のものである。剥片の両面とも両側辺、又は、三辺より、打ち欠きをして厚みをとったもの（P.L.52-2、S-09-0209）、調整刻離を施して成形するもの（P.L.52-8、S-09-1045）で、この調整刻離は一回だけでなく、複数の調整を施す場合もみられる（S-09-1387）。更に、周辺沿いに細かい調整刻離を施す（P.L.52-10）。繰り返し、調整が施される場合はこの様な状況を示すが、中央に大刻離面を残し、周辺のみ小さな調整刻離だけのものもある（P.L.52-3・4）。

形態的にも変化に富む。未製品の中で、各タイプに分類しうるものは、合計 207点である。Aタイプ16点（A-1 14点、A-2 2点）、Bタイプ67点（B-1 27点、B-2 38点）、Cタイプ61点（C-1 18点、C-2 42点）、Dタイプ41点（D-1 9点、D-2 25点）、Eタイプ22点（E-1 5点、E-2 16点）となる。この他に、更に祖型とみられる不整形の一群が96点あり、三角形、楕円形、ポイント状の平面形態を示す。

未製品と呼称したものの中に、周辺のエッジや、表面全体が磨滅しているものが多々みられる（P.L.52-3・21）。これは、分類上、「未製品」としたが、この加工状況で使用された石器とも考えられる。石器より大型の「尖頭器」と分類した一群、「石槍」とも考えあわせて、今後検討を要する事である。

未製品の磨滅

製作状況

大刻離面の残存状況は fig.20 の通りである。比較的薄身のAタイプ、Bタイプは、両面に大刻離面を残すものが多いが、比較的厚身のEタイプは、やはり大刻離面を残さないものが多い。これは必要とする剥片とも関係しており、Aタイプ、Bタイプは薄身の剥片を利用しており、両面に大刻離面を残すものの厚さは、Aタイプでは、2.0mm~6.0mm、Eタイプでは 3.0mm~10mmとなる。Eタイプでは、厚身の剥片を用いている。

剥片名	両面		片面		なし	
	点数 (自然数)	割合 (%)	点数 (自然数)	割合 (%)	点数	割合 (%)
Aタイプ	45(7)	38	33	27	46	37
Bタイプ	37(2)	50	18(1)	22	21	28
Cタイプ	68(2)	51	37(1)	27	30	22
Dタイプ	51(4)	31	40(4)	24	75	45
Eタイプ	71(5)	25	78(5)	28	130	47
未製品	189(27)	61	88(12)	29	31	10
合計	482(47)	42	289(23)	27	333	31

剥片の厚さ

fig-20 大刻離面の残存状況²¹⁾

刻離調整の状況は、両面とも両側辺に調整刻離を施して成形し、観察によれば、中央に初段階の刻離面を残すものがあり、数回の調整を行っていた事がわかる。更に側辺(または三辺)沿いに細かな調整を施す。これは、側辺のエッジを薄く鋭くするための調整、および、側辺を整えるための調整の、両者が考えられる。後者の例として、鋸歯状刻離（P.L.46-36、P.L.50-6）や両面から交互に調整刻離を施してはいるが、交互刻離状のジグザグを呈する側辺を形成するもの（P.L.46-9、P.L.50-1）、また、両面とも側辺沿いのみごく小さな調整刻離を施して側辺が一直線にのびるように整形しているもの（P.L.51-7・12）、両面とも一方の側辺沿いに急傾斜面を呈する、細かな鋸歯状刻離を施し、横断面形が扁平な平行四辺形を呈するもの、扁平なものに多く、厚味をもたせている。（P.L.46-33、S-09-1463²²⁾）等

を挙げることができる。鋸歯状刻離は全タイプにみられ、合計49点存する（PL. 46—37、PL. 47—32、PL. 48—27、PL. 51—2、S—09—0484のタイプ（以下タイプ省略））。

各タイプの製作上の特徴をみれば、Aタイプ、Bタイプは、両面に大刻離面を残すものが多く、薄い剥片に調整刻離を施して成形する。薄身の剥片を利用しているものが大半である。また、両面とも大刻離面よりなり、周辺沿いに小さな調整を施しただけのものもある（PL. 47—7・29）。Cタイプもこれに準じる。

Dタイプ、Eタイプは、前者と比較して、両面とも調整刻離を何度も施しているものが多い。既に、前者と比べて厚身の剥片を利用している。

幅広で薄身のものは、両面中央に大きく大刻離面を残すが（PL. 49—8・30・31・39、PL. 51—2・18・25）、厚身の剥片を利用して、大刻離面を残さぬ程調整を施しているものの方が多いといえる。

Eタイプで大刻離面を残すものは、全体の約30%であるが、その中には薄く調整刻離を施す事を目的としたにもかかわらず、力が及ばずに大刻離面を残すもの（PL. 51—15・22）と一つの方法として周辺沿いのみ細かな調整を施すものがある。これは中央に大きく大刻離面を残しており、薄い剥片を利用している。剥片が薄いが故にそれ以上の調整を施す必要がなかったものとみられる（PL. 51—18、S—09—0038、0079、0659、0961、1265）。また、大刻離面を残すから作りが粗いという事ではなく、丁寧な調整を施しているものもあり、揃った刻離面が並列する面構成をなすものもある（PL. 50—25、PL. 51—2・12）。

大型凸蓋 有蓋式石鏝

Eタイプの中の「大型石鏝」は特に丁寧な調整刻離によって作られる。

幅狭・厚身のものは、両面とも揃った刻離面が並列しており、中央に鏝が通る。20点中、階段状刻離面をもつものは1点のみで、それは片面中央に大刻離面を残すが、他は全て貝殻状刻離面を呈す。中央鏝に至る刻離によって作られるもの（PL. 50—1）が多いが、更に側沿いに細かな調整を施して側沿いを整えているもの（PL. 50—9）や鋸歯状刻離を施すもの（PL. 50—7）もみられる。

幅広・薄身のものは、薄い剥片を利用しており、両面に大刻離面を残すもの（PL. 50—25、S—09—0054、0894、1262）、片面に自然面を残すもの（S—09—0089）がある。両面とも両側より薄く丁寧な調整刻離により、中央に鏝が通る。薄く奥行のある調整刻離の後、側沿いに更に細かな調整により非常に薄いエッジが直線をなす側沿いをつくっている。押し刻離¹³⁷を施しているものもあると考えられる（PL. 51—7）。鋸歯状刻離を施すものもみられる（S—09—0894）。

幅狭・厚身のもの、幅広・薄身のものはともに中央に真直ぐに鏝が通り、全体形、面の構成ともに整ったつくりのものである。

転用

回転鏝 石鏝に分類しているもので、C・D・Eタイプの中には、その先端や基端、茎などに回転鏝をもつものがある（PL. 53）。19点あり、石鏝としての本来の機能を離れて、石鏝として使用されたものである。

また、石鏢に分類した中にも、回転痕をもつが、形體的には石鏢とみられるものがあり、両類と考えられる（S-12-0202、0239、0307、0396、0402、0536）。

磨製石鏢

磨製石鏢は、5点検出されている。石材はサスカイトの他に、玢岩やホルンフェルスを用いている。

基部の形態によって4種類に分けられる。即ち、基部の両側に深い挟りを入れて、鏢身と蓋が明確に区分できる有蓋式のもの（P.L. 47-47）、基部が狭くなって下り、基部両側面に浅い挟りを入れたもの（P.L. 47-45）、基部両側辺がほぼ平行しており、蓋辺はわずかに彎曲するもの（P.L. 47-44）、基部の両側辺が磨ってあり、基部が尖った尖蓋式のもの（P.L. 47-46）の四者である。前二者は鏢身中央に鏢が通っておらず、横断面形は、扁平な杏仁形を呈するか、または、ごく浅い鏢を形成するもので、後二者は鏢身中央に鏢が通っており、横断面形は菱形を呈する。また、前者は、先端は比較的身幅が広く、側辺はふくらみをもつが、後二者の先端は比較的身幅が狭く、直線的にのびると考えられる。

後二者は、第Ⅱ-Ⅱ様式期である。

注 43) 「狩猟具」として統括したが、石鏢、石槍の中には武器と考えられるものもある。また、狩猟の際の解体作業などに使用されるであろう石匙や刀器も狩猟活動に伴うものとして、ここに含めるものである。

44) 未製品の中に1点、ホルンフェルスを石材とするものがある。（S-09-1972）

45) 小林行雄・佐原真『紫雲出』純岡町文化財保護委員会 1964

46-47) 剝離面の状況としては、貝殻状剝離面（フリーな状況）と階段状剝離面（ステップ状）とがある。貝殻状剝離面は、剥片・石核ともにその周縁がスムーズに終っており、隣の面と接線となすのみである。階段状剝離面は、剥片に於ては、その末端は折れたように終り、石核に残る剝離面は、末端が鋭をもつものである。

M. バークットによれば、力の加え方が明確であり、線に対して内から外へむけて力を与えるフリーフレイキングを施すと、貝殻状剝離面になり、線に対して外から内へむけて力を与えるステップフレイキングを施すと、階段状剝離面になるということである。

F. ゴルド 芹沢長介・林澤作訳『旧石器時代』（世界大図説 623） 1971

M. バークット 酒井中男訳『旧石器時代』（帝塚山大学考古学叢書第1輯） 1974

杉原正介『日本先土器時代の研究』 1974

芹沢長介『先史時代(1)―無土器時代―』（『考古学ノート』1） 1957

48) 鋸歯状剝離とは、素材の縁辺に、加工具を使用して、圧迫を加えることによって幅・奥行ともに1mm前後の細かな剝離を施すことである。平面的にみて、縁辺は鋸歯状を呈する。その加工具として、骨や角や堅い木片あるいは金属製の道具が考えられる。

松沢直生『弥生時代の石槍と呼ばれる石器(下)』（『考古学ジャーナル』No.124） 1976

49) 先端の両側面に接線をもうけて、その延長角度である。

50) 打点の方向の判別しうる未製品は134点中、52点であり、約4割を占める。

51) この表は、大剝離面の判別可能なものについて作成した。

52) 鋸歯状剝離とは、素材の一边に、一方から剝離を施した後、それを高速して、剝離を施した辺に対する一边に、一方から剝離を施すことである。横断面形は平行四辺形を呈する。本遺跡の石鏢では、鏢身やその先端部にのみ、側面に沿った細かな鋸歯状剝離が施されている。石鏢全体の中では僅かであるが、比較的、薄身のものにみられる。薄く成形するのではなく、厚さを維持し、側辺の整形を目的とする異型である。

芹沢長介『大分県早水台における前期旧石器の研究』（『日本文化研究所研究報告第1集』）

1965

53) 押し剥離とは、加工しようとする物をたたくかわりに、その縁に、加工具の先端を使用して、圧迫を加えることによって剥離することである。きわめて薄い剥片を剥離することができ、器面調整を目的とする剥離技法である。その加工具として、骨や角や堅い木片の道具が考えられる。

F. ボルド 芹沢長介・林謙作訳『旧石器時代』（世界考古学選書 623） 1971

M. パーキット 瀬訪伸男訳『旧石器時代』（帝塚山大学考古学叢書第1輯） 1974

杉原荘介『日本先土器時代の研究』 1974

芹沢長介 「先史時代(1)―無土器時代―」（『考古学ノート』1） 1957

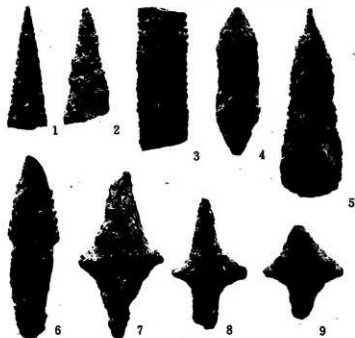


fig-21 石器の特殊形態

約 1 : 1

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.46-1	S-09-0531 MU63 黒褐色粘質土層	25.7 15.0 3.8 1.8		A-1 細身。逆刺は鋭い。両面共調整刺離面（以下調整面と略す）よりなる。A面基辺とB面右側辺はステップ状を呈す。	菱形	
PL.46-2	S-09-0235 KV61 土坑 (SK 420) 第3層・黒色砂質土層	(27.5) (14.5) 3.7 (1.0)		A-1 細身。両平面共に先端から基部にかけて細長く大刺離面が残る。A面先端部左側辺は大刺離面のまみである。両平面の右側辺とA面の左側辺下半の刺離は急角度に入っている。	先端部 菱形 基部 不整六角形	
PL.46-3	S-09-0978 不明	(29.5) 16.9 3.4 (1.0)		A-1 細身。先端部から下に側辺は広がらず真直ぐのび、基部で斜下に広がる。基辺は平基びみで逆刺のみ下方に突出する。刺離は全体におよび、両平面共に鋭が通る。	菱形	
PL.46-4	S-09-0005 不明	27.0 14.6 4.0 1.3		A-1 A面の先端部から基部にかけて細長く大刺離面が残る。両平面共に刺離面の大きさはほぼそろっているが、B面の左側辺中央に、大きな刺離面が1つある。基部に最大厚あり。	扁平な菱形	
PL.46-5	S-09-0951 JU66 黒褐色土層	(29.3) (17.7) 5.1 (2.3)		A-1 A面の右側辺はステップ状を呈す。B面の中央に大刺離面が残る。中央に最大厚あり。	扁平な菱形	
PL.46-6	S-09-0165 KH62 第3層・褐色砂質土層	24.4 14.8 2.9 0.8		A-1 A面の中央の左側に右方に打点を持つ大刺離面が残る。B面中央にも大刺離面が残る。基辺の刺離は小さい。A面先端部に鋭が通る。	扁平な菱形	
PL.46-7	S-09-1234 JS64 溝 (SF 081) 黒褐色土層	36.1 14.9 4.2 1.6		A-1 縦長のもの。逆刺は下方をむくが、基辺は平基びみである。調整刺離は全体に及び両平面共に鋭が通る。B面下半はステップ状を呈す。側辺は更に調整刺離を施しており、刺離は小さくA面両側辺とB面左側辺はステップ状を呈す。	扁平な菱形	
PL.46-8	S-09-1255 IB62 礫混黒褐色土層	41.7 13.5 4.4 1.8		A-1 縦長のもの。両平面共に調整面よりなり、鋭が通る。基辺は半円状に凹む。側辺の刺離は、ほぼ一定で、整っている。A面左側辺とB面右側辺は基部でステップ状を呈す。	扁平な菱形	
PL.46-9 PL.61-1	S-09-1002 LO58 溝 (SF 430) 黒色土層	46.7 14.8 4.4 2.7		A-1 縦長のもの。両平面共に鋭が通る。側辺の刺離はほぼ一定で、整っている。基辺はステップ状を呈す。	扁平な菱形	
PL.46-10	S-09-0075 IC・IH 62・68 灰土層	35.5 16.5 5.8 2.8		A-1 逆刺は鈍く、基辺は平基びみである。両平面共に先端部に鋭が通る。A面基部中央に大刺離面が残る。右側辺の刺離は左側辺に比べて大きく、この為、鋭は右側辺に彎曲する。左側辺はやや角度を持つ面で、中央にステップ状を呈する部分がある。基辺の刺離は急角度に入る。B面基部中央に大刺離面が残る。右側辺は大きくステップ状を呈す。B面の調整はあらい。	不整形	
PL.46-11	S-09-0351 LA66 土坑 (SK 274) 第3層	35.8 15.5 4.6 2.2		A-1 逆刺は鈍い。中央に細長く大刺離面が残る。両側辺共に刺離は小さく、中央ののびない。右側辺の刺離は急角度に入っている。B面は右側辺からの刺離面が大きく1つ中央にあり、他の刺離は小さく中央ののびない。右側辺に沿ってステップ状を呈す。	先端部 扁平な菱形 基部 不整形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡








図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	現長 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.46-12	S-09-0311 KQ64 第2層	(27.8) (17.6) 3.4 (1.6)		A-1 両面共中央のびて切り合っている調整刻線を施した後に、細かな刻線を施しており、側辺は不揃いな扇形状を呈する。	扁平な菱形	
PL.46-13	S-09-0472 LD63 第2層	(30.1) (17.7) 3.4 (1.4)		A-1 A面の先端部から基部にかけて中央に細長く大刻線面が残る。両平面共に側辺はステップ状を呈し、さらに細かな調整刻線を施す。先端部は扇形状を呈する。	扁平な菱形	
PL.46-14	S-09-0155 KF68 第1層・黒色砂質土層下部	31.2 17.8 5.2 2.0		A-1 側辺は台形状に凹むが、逆刺は鈍い。調整刻線は全体に及び、B面中央に筋が通る。先端は磨滅する。	扁平な菱形	石鏡か 
PL.46-15	S-09-0612 JD68・69 黒色粘質土層	24.9 19.2 3.4 1.2		A-1 三角形状。逆刺は鋭く、基部の凹みは浅い。A面基部はステップ状を呈し、中央に大刻線面が残る。B面基部中央にも残る。A面右側辺とB面の先端部左側辺には細かな調整刻線が更に施される。	扁平な菱形	
PL.46-16	S-09-0425 MZ	24.5 13.5 4.7 1.3		A-1 逆刺は鈍く、基部の凹みは浅い。A面の先端部に小さく大刻線面が残る。調整は粗く、中央の1点に側辺からの刻線が集まって山状になり最大厚を持つ。B面基部に大刻線面が残る。	三角形	
PL.46-17	S-09-1293 HY58 黒褐色土層	26.0 7.0 4.0 1.7		A-2 基部の凹みは浅い。両側辺共に基部では、主軸とほぼ平行となっている。A面はステップ状を呈する。B面は右方に打点を持つ主要刻線面で周辺に刻線を施すが、B面もステップ状を呈する。先端部の両側辺は磨滅し、先端部B面は横方向に磨滅される。	先端部 杏仁形 基部 不整形	石鏡か 
PL.46-18 PL.51-2	S-09-0259 MK59 黒色砂質土層	23.8 17.1 3.3 1.3		A-2 A面は調整面よりなり、ステップ状を呈する刻線が混在する。B面基部には、大刻線面が残り、右側辺には、ステップ状を呈する刻線が混在する。	先端部 三角形 基部 扁平な菱形	
PL.46-19 PL.51-3	S-09-0716 MK57 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	18.7 8.0 2.3 0.4		A-1 小型。先端は細く鋭い。側辺は中央に段を明瞭に持ち真直ぐにのびる。A面中央は大刻線面で、B面中央は左方に打点を持つ主要刻線面である。周辺に小さな調整刻線を施す。B面基部左側辺はステップ状を呈する。	先端部 扁平な菱形 基部 不整形四辺形	
PL.46-20	S-09-0444 KZ 表掘	21.3 14.6 3.3 0.9		A-1 側辺は先端部で広がり、角をつくり、基部にかけてやや内湾する。両面ともに調整面よりなる。	扁平な菱形	
PL.46-21	S-09-0460 LC60 第3層	35.1 17.5 5.3 2.5		A-2 側辺は屈曲して台形状に凹む。調整刻線は全体におよび両面に筋が通るが、ステップ状を呈する刻線が混在する。A面左側辺沿いには、更に細かな調整刻線が施される。両側辺の逆刺部分は磨滅。	扁平な菱形	
PL.46-22 PL.51-4	S-09-0945 JU66 黒褐色土層	35.5 19.8 5.2 2.4		A-1 側辺は台形状に深く凹む。両面共に基部中央に大刻線面を残す。A面左側辺はステップ状を呈し、A面右側辺、B面両側辺にも混在する。	先端部 扁平な菱形 基部 扇形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構番号 形位	法量 (mm) (g)	視長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	線 考
PL.46-23	S-09-0611 JC68 黒色砂質土層	(27.7) (19.9) 5.0 (2.0)	A-1 先端は鈍い。A面基部右寄りに大刺離面残存。B面中央に筋が通る。B面の右側辺を除き、側辺にはステップ状を呈する刺離が混在する。	先端部 三角形 基部 扁平な菱形		
PL.46-24	S-09-0228 KU60 第3層・黒色砂質土層	(33.2) (18.1) 3.9 (2.1)	A-1 両平面共に左側辺には、ステップ状の刺離が混在する。A面基部中央に大刺離面残存。両平面共に右側辺のエッジには、更に細かな調整を施しており、両側辺は鋸歯状を呈する。A面の右寄りとB面中央に筋が通る。	扁平な菱形		
PL.46-25	S-09-0643 JA65 溝 (SF 079) 黄褐色粘質土層	(30.1) (20.5) 4.2 (1.7)	A-1 両側辺は、先端部に不明瞭な段を持ち、その上方は内彎しており、先端は細く鋭い。それより下方、基部にかけて浅く内彎して下り、逆刺部は凹くおさまる。その部分には、エッジに細かな調整が両平面共に施され、鋸歯状を呈する。	扁平な菱形		
PL.46-26	S-09-0681 JY58 整地層	25.3 17.9 4.0 1.6	A-2 B面基部中央に若干大刺離面が残る。A面は調整面よりなる。A面中央の刺離の他はステップ状を呈する。両平面共に、側辺沿いの小さい調整もステップ状を呈する。	扁平な菱形		
PL.46-27	S-09-0404 KX66 土坑 (SK 282) 第3層	(23.5) (21.3) 4.2 (1.7)	A-1 基部は両平面共にステップ状を呈し、刺離は中央にのびない。A面は大きく打ち欠き、右側辺上半は深いステップ状を呈し、基部右に大刺離面が残る。B面は、右方に打点を持つ大刺離面。B面先端部左側辺を除き、両面両側辺沿いに小さな刺離を施す。両側辺は不揃いな鋸歯状を呈する。	三角形		
PL.46-28	S-09-0488 LC68 第2層	27.0 20.9 4.1 2.0	A-2 側辺は外彎して下り、基部は中央で小さく閉む。A面中央には、右方に打点を持つ主要刺離面が残る、基部は小さな刺離からなる。B面は自然面で、右側辺上半と左側辺のみ調整刺離を施す。	先端部 扁平な菱形 基部 不整形		
PL.46-29	S-09-1311 不明	25.3 16.1 5.0 1.7	A-2 A面は調整面よりなり、B面基部中央に大刺離面が残る。側辺は不揃いな鋸歯状を呈する。	扁平な菱形		
PL.46-30	S-09-0469 LF63 第2層	28.6 17.6 4.5 2.0	A-1 先端は鈍い。A面は調整面よりなり、中央に筋が通る。B面中央に大刺離面が残る。両平面共にステップ状を呈するものが混在する。両平面共に、更に右側辺沿いに小さな刺離を施すが、これはステップ状を呈する。	扁平な菱形		
PL.46-31	S-09-0373 MD61 溝 (SF 074) 褐色粘質土層	(19.8) 18.0 4.6 (1.3)	A-1 先端は鈍い。両平面共に刺離の多くはステップ状刺離面を呈し、中央に大刺離面残存。	扁平な菱形		
PL.46-32	S-09-1191 LY64 土坑 (SJ 233)	21.3 16.1 2.7 0.8	A-1 両平面共に大刺離面よりなり、周辺に小さな刺離を施す。基部の刺離は側辺に比べ小さい。	扁平な菱形		
PL.46-33	S-09-0229 KU60 第3層・黒色砂質土層	23.6 20.0 3.4 1.4	A-1 A面は主要刺離面でB面は大刺離面である。A面右側辺とB面の左側辺と基部に調整刺離後に、両平面左側辺沿いとA面基部沿いに急角度に入る細かな調整刺離を施す。	不整形		

() は残存部分の法量である。

石 鏡

図版番号	登録番号 出土地名 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	視長 幅 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.46-34	S-09-0637 JC68・69 黒色粘質土層	(28.2) (19.4) 3.5 (1.3)		A-1 両平面共に基部中央に大剝離面が残る。A面右側はステップ状を呈し、他の側面にも混在する。	扁平な菱形	
PL.46-35	S-09-0948 LO62 黒褐色土層	32.0 21.8 5.5 3.2		A-1 基部の回りは浅い。全体に調整刻離を施した後に両側面沿いに細かな調整刻離を施す。両平面共に左側面、基部はステップ状を呈す。細かな調整もステップ状を呈す。	扁平な菱形	
PL.46-36	S-09-0948 七058 黒褐色土層	39.9 21.6 4.0 2.6		A-1 縦長で薄い。先端部四個に段を持ち、先端は細く鋭い。その下方は開き気味に下り、逆側部で円くおさまる。基部は内彎する。両面共刻離調整後段より下方の側面エッジに細かな刻離状刻離を施す。B面基部右寄りに大剝離面残存。	扁平な菱形	
PL.46-37	S-09-1327 IE70 黒色土層	(29.3) 21.0 3.9 (2.2)		A-1 縦長で薄い。側面は直線的にのび、基部の回りは浅い。全体に調整刻離。両面共揃った刻離面よりなり、中央に筋が通る。更に側面沿いに細かな調整刻離を施し、断面状を呈す。	扁平な菱形	
PL.46-38	S-09-1252 JA56 第9号周溝基-3区 (SH 128)	22.0 15.9 2.7 0.8		A-1 基部の回りは浅い。A面は主要刻離面で、B面は大剝離面。周辺に小さな調整刻離があらく施され、ステップ状を呈する刻離が混在する。	不整形	
PL.46-39	S-09-0463 LC61 土坑 (SK 579) 第3層	23.7 13.4 3.2 0.9		A-1 基部の回りはごく狭く、平基軸である。A面基部中央に大剝離面が残る。B面は上方に打点をもつ主要刻離面で、周辺に小さな調整刻離を施す。	扁平な菱形	
PL.46-40	S-09-0984 LO58 溝 (SF 430) 黒褐色土層	19.8 16.3 3.6 0.9		A-1 A面は左方に打点を持つ主要刻離面で、B面は右方に打点を持つ大剝離面である。周辺に小さな刻離を施す。	平行四辺形状	
PL.46-41	S-09-1131 MI.60 黒色土層	22.9 15.3 3.7 1.2		A-2 A面中央の右方に大剝離面が残る。B面は大剝離面で周辺に小さな刻離を施す。A面の刻離にはステップ状を呈するものが混在する。	扁平な菱形	
PL.46-42	S-09-1323 不明	30.5 (17.1) 4.8 (1.3)		A-1 側面は真直にのび、逆側は鋭く鋭い。基部は台形状に深く凹む。A面は右方に打点を持つ主要刻離面で周辺に小さな調整刻離を施す。B面基部中央に大剝離面が残る。先端部から基部にかけて、左側面からのステップ状を呈する大きな刻離面がある。周辺には小さな調整刻離が施される。A面の刻離に比べ急角度に入る。	先端部 菱形 基部 不整形	
PL.46-43	S-09-0682 JY58 整地層	28.6 19.8 3.3 1.3		A-1 A面は、大剝離面で周辺に調整刻離を施す。左側面の刻離と大剝離面とで筋をつくる。B面は主要刻離面で、周辺に刻離を施す。左側面上半には刻離が施されていない。	扁平な菱形	
PL.46-44	S-09-0833 KX54 黒褐色土層	25.0 19.3 3.2 1.2		A-1 両平面共に基部中央に大剝離面が残る。A面基部はステップ状を呈する。B面基部には混在する。	先端部 三角形 基部 扁平な杏仁形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中央断面	備 考
PL.46-45	S-09-1297 不明	30.2 20.7 4.0 1.7		A-1 両平面共に調整刻離は全体におよび、特にA面では整っている。両平面中央に筋が通る。左逆刺に比べ、右逆刺は鋭く長い。	扁平な菱形	
PL.46-46	S-09-0429 KZ	23.5 (11.0) 3.8 (0.6)		A-1 小型。先端は鈍い。基辺は半円に深く凹む。A面中央に筋が通る。両側面共にステップ状を呈する刻離が多い。B面中央は大きくステップ状刻離面が残っており、先端部から中央にかけて薄く、基部には厚みあり。	先端部 三角形 基部 平行四辺形状	
PL.46-47	S-09-1003 MV50 溝 (SF 084) 基下層・褐色砂層	24.2 13.2 4.4 1.2		A-1 A面中央に筋が通る。厚味は、先端部にある。両面とも基部中央に小さく大刻離面残存。	扁平な菱形	
PL.46-48	S-09-0100 KJ67 第3層・黒色砂質土層	19.0 14.1 4.0 0.7		A-1 小型。大きさに比べ厚味を持つ。刻離は全体におよび両平面共に筋が通る。	菱形	
PL.46-49	S-09-0368 KU65 第3層・黒色砂質土層	(22.1) (17.9) 3.9 (1.1)		A-1 全体に刻離はおよぶが筋をつくらない。B面中央に大刻離面残存。	扁平な菱形	
PL.46-50	S-09-1123 KG62 第3層・褐色砂質土層	(22.5) 17.9 3.7 (1.4)		A-1 逆刺は円く、基辺は全体に小さな刻離を施すが、よくらみを持つ。中央のみ小さく凹む。先端は鈍い。A面は主要刻離面で、B面は自然面である。側面には小さな刻離が施され、部分的に屈曲状を呈す。	先端部 扁平な菱形 基部 扁平な杏仁形	
PL.46-51	S-09-0088 KZ 第3層・暗褐色砂質土層	(22.6) 23.3 3.6 (1.6)		A-1 逆刺は横に張っており、鈍い。A面の刻離にはステップ状を呈するものが残存する。B面は大刻離面で側面に小さな調整刻離。	三角形状	
PL.46-52	S-09-0552 JW63 第4層・褐色粘土層	32.0 16.7 5.7 2.0		A-2 両平面共に中央に筋が通る。B面右側面、基辺はステップ状を呈する。A面の両側面には混在する。	扁平な菱形	
PL.46-53	S-09-0428 KZ 第3層・暗褐色砂質土層	(28.2) 15.9 5.2 (1.6)		A-1 幅に比べて厚味を持つ。両平面共に先端部中央に筋が通る。側面にはステップ状を呈する刻離が若干混在する。B面基部中央に小さく大刻離面残存。	菱形	
PL.46-54	S-09-0815 KT54 黒褐色土層	29.1 20.2 6.1 2.7		A-1 A面の基部は大刻離面で、調整刻離はほとんど施さず、浅く凹み、平基みである。左側辺下半はステップ状を呈し、基部中央に厚味を持つ。B面は右方に打点をもつ主要刻離面で側面に刻離を施す。基辺には小さな急角度に入る刻離を施す。	扇形	
PL.46-55	S-09-1185 LJ66 硬質黒褐色土層	(24.0) 22.4 2.9 (1.4)		A-1 厚味で幅のあるもの。基辺は内帯する。A面基部中央はステップ状を呈し、基部中央の左に小さく大刻離面が残る。B面の両側面は中央でステップ状を呈し、中央部に左方に打点をもつ主要刻離面が残る。両平面共に、側面には更に細かな刻離を施しており、A面左側辺下半は細かな屈曲状を呈する。	扁平な菱形	

()は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層	法 量 (mm)	現 長 幅 厚 重 量 (g)	特 徴	中央断面	備 考
PL-46-56	S-09-0671 JQ58 甃地層	(24.5) 25.4 4.7 (1.8)		A-1 薄味で幅のあるもの。逆刺は鋭い。側辺は基部で横に広がりながら外彎する。基部は内彎する。ステップ状を呈する刺離が混在するが、両面とも調整面よりなり、更に側辺沿いに細かな調整を施す。	扁平な菱形	
	S-09-0007 不明	22.3 18.3 4.2 1.3		A-1 先端は鈍い。基部はV字形状に浅く凹む。左右の逆刺にバランスがとれていない。全体に調整刺離がおよんでいる。	扁平な菱形	
	S-09-0011 HR66 第3層	26.0 12.6 6.2 2.4		A-1 先端は円い。厚味があり、棒状。基部は平基さみ。A面中央に筋が通る。両平面の両側辺共にステップ状を呈する。B面基部中央に、大刺離面が残る。	先端部 三角形状 基部 扇形	石鏃か 
	S-09-0023 KT・KU64・65 第3層下・第4層上	(27.2) 14.8 5.7 (2.2)		A-2 右逆刺に比べ左逆刺は鋭く長い。幅に比べやや厚味を持つ。A面中央に自然面が小さく残る。B面中央には縦長に主要刺離面が残る。若干ステップ状を呈する刺離が混在する。	先端部 扁平な菱形 基部 六角形	
	S-09-0026 MZ	(19.9) 16.3 3.8 (1.1)		A-1 側辺は先端部では直線的にのび、基部ではふくらみをもつ。両平面共に中央に筋が通る。基部は平円に凹み、逆刺は鋭い。	扁平な菱形	
	S-09-0034 MP62 灰褐色砂礫層	(18.0) (17.8) 5.4 (1.9)		A-2 基部の凹みは浅い。両面とも調整面よりなり、A面右側辺とB面基部はステップ状を呈する。	扁平な菱形	
	S-09-0035 KU66 第4層下面	(22.4) 15.9 5.3 (1.5)		A-1 やや細身。基部は内彎し、逆刺は鈍い。両面とも調整面よりなり、筋が通る。A面右側辺はステップ状を呈し、他の側辺にも混在する。	菱形	
	S-09-0052 KN66 第4層・茶褐色砂質土層	(28.2) 20.6 5.3 (2.6)		A-1 逆刺は丸く、基部は中央で内彎する。先端は突出する。A面中央に自然面。B面中央部左寄りに、主要刺離面が残る。両逆刺はあらく、凸凹が大きい。B面右側辺下には、刺離は施されず。	扁平な菱形	
	S-09-0071 KJ64 第3層・暗褐色砂質土層	(27.7) 16.3 5.4 (3.1)		A-1 縦長で、基部に最大幅を持つ。逆刺は鈍く、基部は浅く凹む。A面の中央から基部に左方に打点を持つ主要刺離面が残る、右側辺はステップ状を呈する。B面は全体に刺離がおよぶが、筋は通らず。	杏仁形	
	S-09-0117 KD67 第3層・茶褐色砂質土層	(26.9) 18.9 5.4 (2.5)		A-2 A面基部には左方に打点を持つ主要刺離面が残る。A面上半とB面に筋が通る。A面右側辺とB面基部はステップ状を呈する。	扁平な菱形	
	S-09-0129 不明	(29.3) (16.3) 3.5 (1.6)		A-1 先端は鈍く、丸みを持つ。逆刺は鋭く、基部は深く凹む。右逆刺は長い。A面先端部には筋が走り、両側辺は基部でステップ状を呈し、中央に主要刺離面が残る。基部の刺離はステップ状を呈する。B面は大刺離面と自然面と両面に刺離を施す。先端部に最大厚があり、基部は薄い。	先端部 扁平な菱形 基部 扁平な杏仁形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0162 KI.66 第3層	(30.2) 17.6 4.1 (1.9)		A-1 逆刺は基部で円くふくらみ、基部は中央で内彎する。逆刺は円い。全体に刺離がおよぶが明瞭な筋をつくらない。A面の両側面にはステップ状を呈する刺離が混在する。	扁平な菱形	
	S-09-0166 KH68 第3層・黒色砂質土層	22.3 17.1 4.3 1.7		A-2 逆刺は鈍く、基部の凹みは浅い。右方に厚く左方に薄い。A面は右下方に打点を持つ大刺離面で、周辺に小さな急角度に入る調整刺離。B面は左下方に打点を持つ主要刺離面で、調整刺離は施されず。	台形	片面加工 
	S-09-0170 KL65 第3層・褐色砂質土層	(27.8) (18.3) 3.9 (2.1)		A-2 A面中央に左上方に打点を持つ主要刺離面が残る。B面中央には右方に打点をもつ大刺離面が残る。両平面共に側面はステップ状を呈する。	扁平な杏仁形	
	S-09-0177 KX58 第3層	(23.5) 18.5 5.0 (2.4)		A-1 基部の凹みは浅い。両平面共に中央に大刺離面が残る。B面右側面はステップ状を呈し、両平面の左側面にも混在する。	扁平な菱形	
	S-09-0194 KP67	(19.2) 17.5 4.6 (1.4)		A-1 逆刺は鈍く、基部は台形状に凹む。A面は主要刺離面、B面は大刺離面である。基部側面と基部は、両平面より小さな刺離が施されるが、先端部は、右側面のみ急角度に入る刺離を施す。	先端部 平行四辺形 基部 六角形	
	S-09-0202 KT60 第3層・黒色砂質土層	(27.3) (14.6) 5.4 (2.0)		A-1 逆刺は左右不揃いで右逆刺が長く鋭い。A面中央に大刺離面が残る。右側面の刺離と明瞭な線を作る。B面中央には筋が通り、右側面はステップ状を呈する。	扁平な菱形	
	S-09-0216 MK63 黒褐色礫混合土層	(27.6) (14.8) 3.5 (1.2)		A-1 先端部は細身であるが、先端は鈍く、円味を持つ。A面基部中央に大刺離面が残る。A面側面はステップ状を呈し、B面両側面には混在する。先端部では両平面共に側面のみ急角度に入る。細かな刺離が施される。その部分のエッジは磨滅。	先端部 平行四辺形 基部 扁平な菱形	石鏡か 
	S-09-0224 Z 黒褐色礫混合土層	18.9 13.7 4.7 1.1		A-1 小型。厚みあり。A面中央に縦に長く大刺離面が残る。両側面、基部共にステップ状を呈する。B面は下方に打点を持つ主要刺離面で、急角度に入る小さな刺離が周辺に施され、ステップ状を呈する。	台形状六角形	
	S-09-0236 KV61 土坑 (SK 420) 第3層・黒色砂質土層	(24.4) (17.5) 3.2 (1.6)		A-1 逆刺は鋭く明瞭で、基部は内彎する。得手。両面とも大刺離面よりなり、周辺より調整刺離。	半弧状	
	S-09-0250 KT62 第2層・黒色砂質土層	(32.0) (24.2) 5.5 (2.6)		A-1 逆刺は鈍い。基部は浅く凹む。A面中央に筋が通る。基部の右逆刺部分に主要刺離面が小さく残る。B面基部中央から左逆刺にかけてと右逆刺の一部分に自然面が残る。右側面はステップ状を呈する。他の面にも混在する。	先端部 三角形 基部 扁平な菱形	
	S-09-0290 KH69 第3層・黒色砂質土層・Pc25	(30.6) 21.4 4.6 (2.6)		A-1 両側面は先端部で鋭をなし、先端は鋭い。中央で浅く凹む。逆刺は明瞭で、基部は内彎する。A面中央に筋が通る。B面は左半に大きく大刺離面が残る。右側面はステップ状を呈し、右寄りに大刺離面を鋭を持つ。左側面には、小さな刺離を施す。基部は両面共に刺離を施した後、更に細かな刺離が施される。	不規則四辺形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡

図版番号	登録番号 出土地名 遺構番号 層位	油 量 (mm) (g)	現 幅 厚 重 量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0350 MH57 溝 (SF 074) 青褐色砂層	(25.7) (14.8) 4.0 (1.3)		A-1 左側辺は縦方向に刺離欠損。全体に刺離はおよぶが、筋はつからない。B面左側辺には、ステップ状を呈する小さな刺離が2つあり、その部分の側辺は凹む。表面は磨滅。	不整四辺形	
	S-09-0355 表探	(20.2) (14.5) 4.6 (1.3)		A-1 A面中央に主要刺離面、B面中央に大刺離面が残る。A面左側辺はステップ状を呈し、主要刺離面と接をつくる。B面基辺もステップ状を呈する。	不整四辺形	
	S-09-0395 LB65 土坑 (SK 284) 第3層	(23.7) (15.9) 3.9 (1.3)		A-1 薄身。全体に刺離はおよぶが、明瞭な筋はつからない。両平面共にステップ状を呈する刺離が残る。	扁平な菱形	
	S-09-0403 KX62 第3層・Pit	20.1 17.0 4.7 1.5		A-1 先端は鈍く、円味を持つ。全体に刺離がおよび、両平面共に不明瞭であるが、筋が通る。両平面共にステップ状を呈する刺離が残る。右側辺の中央には、上方から刺離された面が残存。	不整五角形	
	S-09-0408 KZ 第3層	31.4 22.0 4.8 2.2		A-1 側辺の凹凸が大きい。基辺の凹みは浅い。左右の逆刺は、つり合っていない。A面中央に筋が通る。左側辺はステップ状を呈する。B面中央に大刺離面が小さく残る。	扇形	
	S-09-0410 Z 第3層・Pit	(23.2) (15.3) 3.7 (0.9)		A-1 側辺中央でごく狭く凹む。先端は鈍い。全体に刺離はおよぶが、筋はつからない。A面右側辺とB面左側辺はステップ状を呈する。	扁平な菱形	
	S-09-0411 Z 第3層・Pit	24.5 20.1 5.0 (2.2)		A-2 逆刺は鈍い。両側辺共に外彎状に円弧を描く。A面基部右寄りに大刺離面、右側辺にステップ状を呈する刺離が多く残る。B面は大刺離面で周辺に刺離を残すが、逆刺部にはほとんど施さず。右側辺上半と基辺はステップ状を呈する。	先端部 扁平な菱形 基部 扇形	
	S-09-0422 KZ	(30.9) (21.2) 4.7 (2.2)		A-1 逆刺は鋭く明瞭。A面全体に刺離がおよぶが、ほとんどステップ状を呈する。B面中央に大刺離面が残る。B面の刺離もほとんどステップ状を呈す。A面左側辺は上方より刺離欠損する。		
	S-09-0431 KZ	22.5 16.6 3.2 1.3		A-1 先端部は細く厚味がある。A面中央まで基辺の刺離がのびる。両側辺の刺離は小さく、急角度に入る。基辺には更に細かな刺離が残され、ステップ状を呈する。B面は全体に刺離がおよんでいるが、ステップ状を呈する刺離が多い。先端のエッジは磨滅。	先端部 菱形 基部 台形状	
	S-09-0445 KZ	(25.4) 18.0 5.2 (1.9)		A-1 先端部は細く厚味がある。基辺は平坦で逆刺部分が斜下方に突出する。右逆刺が大きい。B面基部中央に大刺離面が残る。両面共に側辺は、ステップ状を呈し、先端部では急角度に入る。	先端部 菱形 基部 扁平な菱形	
	S-09-0449 表探	(20.0) (15.4) 3.4 (0.9)		A-1 やや薄手。逆刺は鋭い。基辺は大きく内彎する。全体に刺離がおよぶが、A面右側辺はステップ状を呈する。	扁平な菱形	

() は残存部分の質量である。




図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層	法 量 (cm)	現 長 幅 厚 量 (g)	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0464 LD60 第3層	31.4 (13.8) 5.4 (1.5)		A-1 弧状で鋭い。逆刺は鋭く、基辺は台形状に深く凹む。A面基部中央にまで、基辺の刺離がおよんでいる。A面先端部に筋が通る。B面の右側辺下半はステップ状を呈し、基部中央に前刺離面が残る。先端部に筋は通らず、やや右寄りに稜をつくる。	先端部 不整四辺形 基部 六角形状	
	S-09-0485 MB59 溝 (SF 075) 腐黒色粘質土層	28.3 16.3 3.8 1.5		A-1 逆刺は鈍く、両側辺は形が整っていない。A面は右や下方に打点を打つ大刺離面と周辺を小さく調整刺離。右側辺下半はステップ状を呈する。B面は下方に打点を持つ主要刺離面と基部中央に打痕裂痕を残す。周辺を小さく刺離するが、基部右側辺には陥せず。	六角形	
	S-09-0514 不明	(23.8) 17.4 4.8 (1.6)		A-1 先端部は細く厚みがある。逆刺は鈍い。両平面共に刺離は全体におよぶが、A面両側辺、B面右側辺にはステップ状を呈する刺離が多い。	先端部 菱形 基部 扁平な菱形	
	S-09-0525 MZ	(29.6) (19.3) 5.1 (1.7)		A-1 側辺は先端で角を持ち、そこよりほぼ平行にのび、基部で屈曲して広がる。逆刺は大きく明瞭である。両平面共に中央に筋が通り、基部中央で両逆刺りのびる稜と一点に交わる。B面はほぼ平坦な面、A面は両側辺共中央でステップ状を呈し、厚みを残す。先端部は刺離が中央にのび薄くなる。	先端部 扁平な菱形 基部 扁平な菱形	
	S-09-0546 MC60 溝 (SF 075) 黒色砂質土層	(30.4) (19.1) 3.6 (1.6)		A-1 幅広で得身。側辺は先端部で段を持ち基辺にかけ直線。逆刺は外方へ突出する。基辺は内彎する。A面は両側辺共に幾重にもステップ状を呈する。B面の左半は大きな刺離面、基部右方に大刺離面があり、周辺に小さな刺離を残す。	先端部 扁平な菱形 基部 菱形	
	S-09-0549 MC60 溝 (SF 075) 第1層・耕土・束土層	(25.8) 15.5 5.0 (1.8)		A-1 A面中央に筋が通る。B面中央に大刺離面が残る。側辺にステップ状を呈する刺離が若干混在する。	先端部 扁平な菱形 基部 五角形状	
	S-09-0555 IV66 第3層・整地面	(29.1) (19.0) 4.0 (1.5)		A-1 逆刺は明瞭、基辺は三角形に凹む。全体に刺離がおよぶが筋は持たない。A面右側辺は、ステップ状を呈する。	扁平な菱形	
	S-09-0657 JC68 黒色砂質土層	(25.5) (25.1) 5.4 (2.6)		A-1 逆刺は明瞭。基辺は内彎する。得身の大型品。A面は逆刺の中央に稜が通り、基部中央で交わる。両面とも揃った調整面よりなり、B面にはステップ状を呈する刺離が混在する。	扁平な菱形	
	S-09-0667 MF50 黒褐色糖泥土層	(23.4) (14.4) 3.7 (0.9)		A-1 側辺は先端部で角をなし、中央部でごく浅く凹む。逆刺は鈍く、基辺は浅く凹む。刺離は全面におよぶ。A面右側辺中央と基辺はステップ状を呈する。	扁平な菱形	
	S-09-0683 JY58 整地層	(24.9) (17.0) 4.2 (1.3)		A-1 逆刺は明瞭であるが鈍い。右逆刺が長い。基辺は三角形に深く凹む。A面中央には筋が通り、基部中央で逆刺中央を通る稜と交わる。右側辺先端は上方から刺離欠損。先端の欠損部は若干磨滅する。	扁平な菱形	
	S-09-0702 JQ54 整地層	(37.1) 18.9 5.0 (2.8)		A-2 縦長の形態で、側辺は中央でわずかに凹み、基部でよくらむ。逆刺は鈍いが、明瞭で下方をむく。基辺は内彎する。両平面共に中央にやや不明瞭であるが、筋が通る。B面左側辺の中央は、ステップ状を呈する打ち欠きで、大きく凹む。	扁平な菱形	

()は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点名 遺構番号) 位	法 量 (mm)	現 長 幅 厚 量 (g)	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0703 KP54 整地層	(20.0) (14.1) 4.8 (1.6)		A-2 小型品。調整はあらく、形は整っていない。先端は鈍くやや平坦である。A面は大刺離面で、先端部に小さく、自然面を残す。B面は主要刺離面で、両面共同辺に小さく急角度に入る刺離を施す。	台形状	先端に凹陥部あり。 
	S-09-0727 LX54 整地層	(18.6) 22.2 5.1 (2.2)		A-1 逆刺は鈍い。基辺の凹みは浅い。幅があり、厚手の大型品。A面基部中央に大刺離面が残るが、側辺の刺離は整っている。B面は大きくステップ状刺離を施し、更に細かな刺離を施す。B面中央に大刺離面が残存。	扁平な六角形	
	S-09-0738 J166 床土層・整地面	(23.8) 17.0 4.8 (1.8)		A-1 基辺は浅く凹み、平蓋ぎみ。平面は二等辺三角形を呈する。両平面共に刺離は全体におよぶが、筋は作らず、A面左側辺はステップ状を呈し、B面右側辺にも残存する。	扁平な菱形	
	S-09-0753 KG67 炉跡 (SD 549)	19.2 (17.1) 4.8 (1.0)		A-1 小型品。基辺は浅く凹む。右逆刺は細く長い。平面は正三角形に近い。A面右側辺とB面両側辺はステップ状を呈し、B面基辺沿いは、細かく刺離されるがステップ状を呈する。B面中央に大刺離面がわずかに残存。	扁平な菱形	
	S-09-0788 表探	(28.6) 22.2 6.1 (2.8)		A-1 左逆刺は鈍く、平蓋の逆刺とかわらないが、基辺の凹みは右方に片寄る。右逆刺は明瞭である。A面の中央には筋が通る。基部はステップ状を呈し、基部中央に大刺離面が残る。B面にはステップ状を呈する刺離が残存する。全体に刺離面は大きい。	扁平な菱形	
	S-09-0789 表探	(27.8) 19.2 5.1 (2.5)		A-2 側辺は逆刺部で若干すぼまる。基辺は三角形状に凹み、二辺はやや外寄る。両面は全体に刺離がおよぶ。ステップ状を呈する刺離が残存する。	扁平な菱形	
	S-09-0807 ME50 溝 (SF 085) 灰褐色層土層	(32.0) (15.4) 4.2 (1.6)		A-1 先端部はやや細身で基部で広がる。逆刺は鈍いが明瞭。全体に刺離はおよぶ。A面左側辺はステップ状を呈し、B面左側辺には多く残存する。	扁平な菱形	
	S-09-0809 KX54 第6号住居址 (SA 006) Pit 25	(21.7) (19.3) 4.2 (1.7)		A-1 逆刺は鋭く、基辺は台形状に凹む。A面中央に筋が通る。B面右側辺はステップ状を呈し、A面基辺には残存する。B面基部中央に大刺離面が小さく残る。	扁平な菱形	
	S-09-0830 不明	(19.2) 16.0 2.9 (1.0)		A-1 小型品。A面は左方に打点を持つ主要刺離面で、周辺に急角度に入る小さな刺離を施す。基辺の凹みは浅く、右逆刺は平蓋と変らない。B面は大刺離面で右側辺と基辺にはA面同様の刺離を施し、左側辺の刺離は小さいが急角度に入らず。	扁平な六角形	
	S-09-0850 J162 茶褐色土層	(22.3) (15.8) 4.3 (1.2)		A-1 基辺は平坦状に凹み、逆刺は鋭い。両側辺共に鋸歯状を呈す。A面右側辺はステップ状を呈し、中央に大刺離面が細長く残る。B面中央に筋が通る。B面は側辺、基辺にステップ状を呈する刺離が多く残存する。	扁平な菱形	
	S-09-0888 KT58 Pit 55	(22.4) (17.4) 3.9 (1.4)		A-1 全体に調整刺離は粗い。基辺は浅く凹む。A面中央に大刺離面が残る。両面共に側辺にはステップ状を呈する刺離が多く残存する。	扁平な菱形	

()は残存部分の法量である。



図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0892 KP54 1号土坑	(27.8) 18.5 4.9 (2.0)		A-1 先端部は鋭形。基部に段をもち幅広くなる。先端は鈍く丸味を持つ。逆刺は鈍く、左右非対称。両面基部中央に大刺離面が残る、主軸はB面側に彎曲する。先端部は両平面共に中央に稜線があるが、A面には先端より刺離があり、先端に至らない。両平面共に側面にはステップ状を呈する刺離が混在する。	先端部 菱形 基部 台形状	石鏃か 
	S-09-0934 MZ	(29.7) (14.8) 4.0 (1.8)		A-1 薄手。幅広い大型品。側面は基部までほぼ平行で、基部で外下方へ下る。基部は浅く凹む。両面共に刺離は全体におよびA面中央に筋が通る。	扁平な菱形	
	S-09-0958 LO58 黒褐色土層	(24.6) (14.8) 3.8 (1.5)		A-1 幅状。側面は直線的。基部は平坦状に凹む。全体に刺離はおよぶが、筋はつならず。B面にステップ状を呈する刺離が多く混在する。	先端部 三角形 基部 扁平な菱形	
	S-09-0980 LZ 揚土・表探	(30.2) (18.3) 6.0 (2.7)		A-1 S-09-0444と同一形態。両面共両側面と基部より調整刺離。A面では中央に筋が通る。A面左側面はステップ状を呈し、基部中央にわずかに大刺離面が残る。B面は基部中央に打点をもつ主要刺離面である。	三角形	
	S-09-1127 KM64 第3層・褐色砂質土層	27.9 18.7 4.9 2.1		A-2 調整刺離は粗い。左右非対称。左方に厚く右方に薄い。基部の凹みは浅く、逆刺は鈍い。A面は主要刺離面で、左側面に急角度に入る小さな刺離、右側面に細かな刺離を施す。両側面にステップ状を呈する。B面は右方に打点を持つ大刺離面で右側面と基部に刺離を施すが左側面には施さず。A面右側面は元の刺離の線に近い。	先端部 三角形 基部 扁平な五角形	
	S-09-1129 ML61 黒色土層	(20.6) 13.6 3.5 (0.7)		A-1 両面共調整面よりなる。A面中央に筋が通る。B面右側面の中央はステップ状を呈する。基部は斜ぎみである。	扁平な菱形	
	S-09-1136 不明	(23.4) (17.9) 4.4 (1.8)		A-1 逆刺は鈍く、基部の凹みも浅い。側面は若干ふくらむ。A面基部はステップ状を呈し、厚みが残る。B面基部の刺離は急角度に入り、ステップ状を呈する。	扁平な菱形	
	S-09-1137 不明	(21.3) (13.1) 2.6 (0.7)		A-1 先端と右逆刺は鋭い。左逆刺は斜下方に大きく突出しており、左右の逆刺はアンバランス。A面基部中央に大刺離面が残る。左側面中央はステップ状を呈する。B面は大刺離面と周辺に小さな刺離を施す。ステップ状を呈する。	扁平な杏仁形	
	S-09-1144 MO62 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(34.1) 22.1 5.6 (4.1)		A-2 側面は基部でややすぼまり、逆刺は鈍い。A面の刺離は大きいが、全体に整っている。B面には両側面共にステップ状を呈し、中央に大刺離面を残す。更に側面沿いに細かな調整を施す。	扁平な菱形	
	S-09-1307 KG68 土坑 (SK 551) 第3層	(19.0) 20.0 (1.2)		A-2 基部は、台形に凹む。右逆刺に比べ左逆刺が大きい。側面は、曲線状に近い。A面基部中央はステップ状を呈する。B面は大刺離面と周辺に小さな刺離を施す。基部の左逆刺部分は折れ面で左右の逆刺の大ききの違いとなっている。	扁平な三角形	
	S-09-1312 不明	(18.6) 19.1 3.4 (1.0)		A-1 側面は、先端部で段をもち、その上方は緩く傾斜して先端に至る。先端は幅広く鋭い。基部では外下方へ片増して下る。基部は三角形状に凹む。逆刺は鋭く明瞭。両面共基部中央に大刺離面が残る。	扁平な三角形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 (mm) 厚 (g)	現 状 組 厚 重 泉	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1318 不明	(23.3) 19.6 3.3 (1.1)		A-1 基辺は半円状に凹む。逆刺は明瞭で大きい鈍い。両平面共に逆刺の中央に接が通り、基部中央で交わる。全体に調整がおよんでいる。A面にステップ状を呈する刻線が多い。	扁平な菱形	S-09-0444と同一形像。 
	S-09-1353 不明	(32.2) 19.5 6.3 (3.7)		A-1 逆刺は鋭く明瞭で、基辺は三角形状に凹む。両平面共に筋が通り、逆刺中央の稜と基部中央で交わる。側辺、基辺共にステップ状を呈する刻線が混在する。A面左側辺の中央は浅く凹み、ステップ状を呈している。	菱形	
	S-09-1365 不明	(26.3) (14.9) 3.9 (1.5)		A-1 A面は左方に打点を持つ主要刻線面とB面は大刻線面である。両平面共に周辺に急角度に入る小さな刻線を施す。基辺の作りはあらく、逆刺は不明瞭で基辺の凹みも浅い。A面右側辺にステップ状を呈する刻線が混在する。	六角形状	
PL.47-1	S-09-0369 KH65 黒色砂質土層・Fit21	(18.3) 15.8 3.2 (0.7)		B-1 A面基部に左下方に打点を持つ大刻線面が残る。右側辺、基辺に細かな調整が更に施される。B面は調整面よりなる。	扁平な菱形	
PL.47-2	S-09-0466 LC61 土坑 (SK 579)	(21.6) 17.2 4.0 (1.1)		B-1 A面基部右寄りに大刻線面が残る。両側辺共に刻線は中央にのび順をつくる。両側辺沿いはステップ状を呈する。右逆刺には調整刻線を施す。B面は右側辺、先端部左側辺は調整刻線。基部には右上方に打点を持つ大刻線面が残る。先端部左側辺はステップ状を呈し、基部は未調整。基辺は大刻線面に小さな刻線を施して整えている。	先端部 菱形 基部 三角形	
PL.47-3	S-09-0386 表探	18.6 10.4 3.3 0.6		B-1 側辺中央で段をもつ。基辺は斜基を呈する。A面の先端部中央に自然面が残存する。両側辺共にステップ状を呈す。基辺は大きく刻線した後に小さく調整刻線。B面には右方に打点を持つ大刻線面が右側に大きく残り、右側辺は未調整。	扇形	
PL.47-4	S-09-1095 JDZ 褐色礫混合土層	(20.0) 12.6 2.9 (0.9)		B-1 A面は左上方に打点をもつ大刻線面。B面は下方に打点を持つ主要刻線面よりなり、調整刻線は両面に共に周辺にとどまる。逆刺は鈍い。逆刺のエッジは磨滅する。	扁平な六角形	
PL.47-5	S-09-1421 表探	(19.9) (14.6) 2.9 (1.0)		B-1 両面に共に調整面よりなるが、不揃いで、B面基辺はステップ状を呈する。	扁平な杏仁形	
PL.47-6	S-09-0963 JQ64 溝 (SF 081) 黒色土層	(21.2) 16.0 3.3 (1.1)		B-1 基辺は斜基である。A面の中央左寄りに左方に打点を持つ大刻線面、B面基部中央に左上方に打点を持つ主要刻線面が残る。両面に共に右側辺はステップ状を呈し、左側辺には混在する。	台形状	
PL.47-7	S-09-1242 IX58 溝 (SF 080) 最上層・黒褐色砂質土層	21.5 19.8 4.1 1.5		B-1 幅広くうすい。側辺はやや外彎する。先端に薄く、基辺に厚い。横軸でB側面に彎曲。A面は下方に打点を持つ主要刻線面、B面は右方に打点を持つ大刻線面よりなる。調整刻線は周辺にとどまり、両側辺共に磨滅状を呈す。	扁平形	
PL.47-8	S-09-0635 KB63 第3層・灰黒色砂質土層	(24.3) 17.5 4.0 (1.6)		B-1 側辺は基辺近くで、若干すぼまり、逆刺は鈍い。両面とも調整面よりなる。A面は両側辺よりのび中央で切りあう刻線面よりなる。B面は右側辺下半を除きステップ状を呈する。全体に刻線は不揃いである。	扁平な菱形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.47-9	S-09-0055 MN61 黒褐色糖混合土層	(23.4) 11.4 4.8 (1.4)	B-2 比較的小型。厚みあり。A面は主軸方向に凸面で、中央に最大厚を持つ。中央に大刺離面が残る。基辺は中央に至る刺離を施した後、細かな調整刺離。B面は基辺左寄りに大刺離面が小さく残る。主軸方向にはほぼ平坦である。左側辺と基辺はステップ状を呈す。	先端部 菱形 基部 六角形		
PL.47-10	S-09-0436 JC63 第2層・黒褐色土層	25.7 10.8 4.3 1.3	B-2 全体にあらいつくり。A面は両側辺より数度の大きな刺離を加えた後に、周辺に小さな刺離を施す。基辺はステップ状を呈す。B面は右逆刺に打点を持つ主要刺離面よりなり、右側辺のみにあらく小さな刺離を施す。	三角形		
PL.47-11	S-09-0906 KD54 黒褐色土層	24.4 11.8 3.7 1.1	B-2 両面共調整刺離後、両側辺にさらに細かな調整を施す。右側辺の中央と左側辺は鋸歯状を呈す。右側辺の下方はステップ状を呈し、前調整面が残る。	扁平な菱形		
PL.47-12	S-09-0204 KT62 第2層・黒褐色砂質土層	(25.8) 13.3 3.6 (1.4)	B-2 A面中央に細長く大刺離面が残る、基辺は未調整。B面は調整面よりなる。	扁平な菱形		
PL.47-13	S-09-0396 表採	26.0 14.6 3.2 1.2	B-2 A面は左側辺より大きく刺離し、刺離面は右方へのびる。基底部中央に大刺離面残存。周辺には細かな調整刺離。B面も大きく刺離した後に周辺に細かな調整刺離。B面左下部に小さく大刺離面が残る、その部分の左側辺はステップ状を呈す。	先端部 扁平な菱形 基部 扁平な杏仁形		
PL.47-14	S-09-0840 M155 整地面	(24.8) 13.8 2.8 (1.0)	B-1 偏状。先端から左側辺の中ごろにかけて縦長に刺離欠損。周辺のエッジは磨減。A面基部には左上方に打点を持つ大刺離面が残る、基辺はほとんど調整されず。B面も基辺から中央にかけて、右方に打点を持つ大刺離面が残る。左側辺は長さのそろった調整。右側辺の調整はあらい。基辺は細かな調整刺離。	扁平な菱形		
PL.47-15	S-09-1091 IY67 溝 (SF 079) 黒色砂質土層	36.1 16.4 6.1 3.6	B-2 A面周辺より、B面両側辺より調整刺離。両面共基部中央に小さく大刺離面残存。A面基部周辺、B面右側辺はステップ状を呈す。	扁平な菱形		
PL.47-16	S-09-0477 MZ 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	31.3 13.6 3.6 1.6	B-2 長軸はB面へ彎曲する。A面先端部左側に左方に打点を持つ大刺離面が残る。左側辺の刺離は小さい。右側辺の刺離はやや大きく、大刺離面と左面に彎曲する線をつくる。B面は右やや下方に打点を持つ主要刺離面で周辺に小さな調整刺離。	不整三角形		
PL.47-17	S-09-0313 MJ62 黒褐色糖混合土層	27.4 15.2 3.9 1.6	B-1 逆刺は鈍く基辺近くでややすばまる。両面とも丁寧な調整刺離。A面基部中央に大刺離面を残す。B面左側辺上半はステップ状を呈す。更に両側辺のエッジに細かな調整を施し、鋸歯状を呈す。	扁平な菱形		
PL.47-18	S-09-0016 GU56 第2層・茶褐色粘質土層	(31.4) 16.1 3.2 1.6	B-1 偏状で得身。左逆刺はやや下方へ突出気味。両面とも調整面よりなる。押圧刺離が施され、更に両側辺のエッジに細かな調整刺離を施し鋸歯状を呈す。	扁平な菱形		
PL.47-19	S-09-0098 KI66 第3層・黒色砂質土層	(22.4) 14.0 3.4 (1.3)	B-1 逆刺は斜下方に突出するが先端は鈍い。両面共に、基部に大刺離面が残る。A面左側辺とB面両側辺はステップ状を呈す。B面側辺沿いに後に細かな刺離調整。基辺は両面共大刺離面に細かな調整刺離を施す。	扁平な菱形		

()は残存部分の法量である。

石 鏡

図版番号	遺 構 名	法 量 (mm) (g)	現 存 厚 度 重 量	特 徴	中 央 断 面	備 考
PL-47-20	S-09-0693 JY58 盤地層	(27.7) 14.8 4.9 (1.9)		B-1 両側辺より中央にのびる調整刻線後に、A面両側辺、B面周辺に細かな調整刻線。鋸歯状を呈する。A面中央に筋が通る。	扁平な菱形	
PL-47-21	S-09-0226 不明	(22.6) (21.9) 3.8 (1.8)		B-1 側辺は基部で外方へ開く。左側辺は下方に突出する。右方に厚く左方にうすい。A面中央には、右上方に打点を持つ主要刻線面が残る。B面基部中央に三角形に、下方左寄りに打点を持つ大刻線面が大きく残る。	先端部 扁平な菱形 基部 不整形	
PL-47-22	S-09-0491 MD61 溝 (SF 075) 炭泥黒色粘質土層	(31.4) 18.1 4.8 (2.0)		B-1 幅状。両面とも調整面よりなる。A面先端部右側辺の刻線は左側辺にまでのびている。基辺はステップ状を呈する。B面中央に筋が通る。先端は鈍い。	菱形	
PL-47-23	S-09-0006 不明	28.1 16.2 5.7 2.1		B-1 厚味のあるもの。両面とも調整面よりなる。A面中央に筋が通るが、右側辺からの刻線で先端部はうすくなっており、この部分に筋はない。周辺のエッジ、両面の被線は丸く磨滅。	扁平な菱形	
PL-47-24	S-09-0175 不明	30.0 (16.8) 4.3 (1.8)		B-1 側辺は中央でふくらみ、一旦、すばまった後に逆刺部分で広がる。先端部では側辺の傾斜は緩いが先端は鋭い。A面は中高で筋が走り、B面は平坦に近い。両面とも比較的丁寧な調整刻線。A面基辺はステップ状を呈する。B面基部中央に大刻線面が残る。	扇形	
PL-47-25	S-09-0057 KN66 黒(層)・茶褐色砂質土層	26.3 21.2 5.1 2.3		B-1 側辺は、先端部で角を持ち、中央でわずかに凹む。両面共三辺より調整刻線。B面基部中央に大刻線面残存。先端はA面のみ側辺沿いに急角度に入る細かな調整を施す。	扁平な菱形	
PL-47-26	S-09-0863 JQ66 褐色土層	33.4 14.5 5.8 (2.6)		B-2 先端は突出し鋭い。両面共三辺より調整刻線。A面基部はステップ状を呈し、中央に厚みを残す。B面基部中央に縦長に右上方に打点を持つ大刻線面が残る。その部分の側辺はステップ状を呈する。基辺は両面共細かい調整刻線が施され、*やや外磨気味。	先端部 菱形 基部 六角形状	
PL-47-27 PL-61-5	S-09-0344 KW66 第2層	(35.9) 14.5 3.9 (1.8)		B-2 幅状で得身。両面ともうすく丁寧な調整刻線。中央にのびる刻線を施した後に、側辺に細かな調整刻線を施す。B面左側辺に沿ってステップ状を呈する。	扁平な菱形	
PL-47-28	S-09-1236 IS66 溝 (SF 080) 第2層・炭泥黒色土層	(36.6) 12.1 5.6 (2.2)		B-2 幅状。中央で切り合う調整刻線を施した後に部分的に細かな調整刻線を施し、基部両側辺は鋸歯状を呈す。B面中央の左側はステップ状を呈し、厚みを残す。	扁平な菱形	
PL-47-29	S-09-913 JU64 溝 (SF 081) 炭泥黒色土層	(36.1) 11.8 5.2 (1.9)		B-2 幅状。A面は左方に打点を持つ主要刻線面。B面は右上方に打点を持つ大刻線面である。左側辺、先端部右側辺に両面より調整刻線。基部右側辺は未調整。基辺はB面より打ち欠かれるのみ。主軸はB面側に弯曲し、左に厚く、右にうすい。	先端部 板状 基部 不整四辺形	
PL-47-30	S-09-0848 JU54 溝 (SF 079) 上層	(34.6) 13.4 4.2 (2.3)		B-2 幅状。A面は、中央で切り合う刻線を施す。両側辺共に部分的にステップ状を呈する。B面基辺から中央にかけて細長く、上方に打点を持つ主要刻線面が残る。側辺の刻線は中央で切り合うまでのびない。基辺は、極めて細かい調整刻線。更に両側辺には小さな調整刻線が施され、鋸歯状を呈する。	扇形	

()は残存質量の法量である。

図版番号	登録番号 出土地名 遺構番号 層位	法量 (mm) 重量 (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL47-13	S-09-0427 LE60 第2層	34.4 18.9 7.2 4.6		B-2 幅広。全体に調整刻離はあらく、左右の形が整わない。右方に厚く、左方にうすくなる。A面中央に右上方に打点を持ち、B面中央には左方に打点を持つ大刻離面が大きく残る。	先端部 扁平な菱形 基部 五角形	
PL47-32 PL61-6	S-09-1238 IY60 (SF080) 最上層・黒褐色土層	(29.7) 17.3 3.4 (1.7)		B-1 得身。側面はやや外彎する。両面ともうすく丁寧な押し刻離を施す。更に両側面沿いに細かな調整刻離を施す、小さな副縁状を呈する。基部にも細かな調整刻離面が残る。	扁平な杏仁形	
PL47-33	S-09-0462 LC61 土坑 (SK579) 第3層	39.1 24.9 4.2 4.1		B-1 得身の大型品。側面はやや外彎する。全体に調整刻離はあらい。A面基部には、下方に打点もち、B面には右方に打点を持つ大刻離面が大きく残る。A面の両側面中央とB面先端部左側面はごく浅いステップ状を呈する。	先端部 扁平な菱形 基部 扁平な扇形	
	S-09-0019 L.A・LB64・65 第3層・茶褐色砂質土層	(22.3) (13.4) 2.7 (1.1)		B-1 両平面中央に縦長に大刻離面が残る。周辺からの調整刻離はあらい。B面基部にステップ状を呈す。	扁平な六角形	
	S-09-0030 KC68 第4層・褐色土層上面	(22.1) 16.5 4.8 (1.5)		B-1 左逆刺は斜下方にやや突出し、右側面は逆刺の部分で円くおさまる。両面共調整面よりなり、中央に筋が通る。A面両側面共にステップ状を呈する部分がある。	菱形	
	S-09-0047 LZ 掘土内	(28.9) 10.4 3.6 (1.4)		B-2 細身。A面、B面共に両側面の刻離は中央までのび中央に筋が通るが、A面基部では平坦になっている。基部は細かな刻離により、ステップ状を呈する。	扁平な菱形	
	S-09-0051 MP62 黒褐色礫混合土層	36.1 14.4 5.0 2.8		B-2 斜茎。両面ともうすい調整刻離。両面とも中央に鋭い筋が通る。両面とも右側面にはステップ状刻離面あり。A面両側面沿いの小さな調整刻離はステップ状を呈す。両側面ともエッジは鋭い。先端部両側面、B面基部の部分、基部に研磨を施す。	杏仁形	
	S-09-0077 KE65 第4層・黒色砂質土層	19.2 13.2 4.6 0.9		B-2 A面は大刻離面よりなり両側面に刻離を施す。B面は左側面のひとつの刻離面が全体を大きく占める。基部は折れ状の面よりなる。先端部に厚みがある。	先端部 菱形 基部 不整形	
	S-09-0078 KE65 第4層・黒色砂質土層	17.7 14.0 2.8 0.8		B-2 A面基部に右下方に打点を持つ大刻離面あり、周辺を調整刻離。B面は右下方に打点を持つ主要刻離面で先端部右側面を除き、調整刻離。両面共に先端部左側面の刻離は急角度に入り、先端部の断面は平行四辺形となる。	先端部 平行四辺形 基部 扁平な半円形	
	S-09-0116 KD67 第3層・茶褐色砂質土層	(23.4) (15.4) 4.1 (1.4)		B-1 両面とも三辺より調整刻離。基部中央に大刻離面残存。A面左側面とB面左側面はステップ状を呈する。右側面は縦方向に細長く刻離欠損。	扁平な菱形	
	S-09-0160 KJ67 第3層・褐色砂質土層	(27.5) 18.6 5.4 (2.6)		B-1 主軸はやや右に傾く。逆刺は円い。A面中央には左上方に打点を持つ大刻離面が残り、左側面中央はステップ状を呈する。B面中央に右方に打点を持つ大刻離面が残り、右側面上はステップ状を呈する。	先端部 菱形 基部 扁平な六角形	

()は残存部分の法法量である。

石 鏝






図原番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0196 MK58 黒色土層	(31.7) 20.9 5.2 (3.4)		B-1 両平面共に大きく調整刺離した後、A面の両側辺のみに細かな調整刺離を施すが、右側辺上半では刺離が急角度に入り、側辺が凹凸を呈す。A面基部とB面右側辺中央はステップ状を呈する。A面基部とB面右側辺中央はステップ状を呈する。両面共鋭縁の磨滅は著しい。	扇形	
	S-09-0231 表探	(22.4) 16.7 3.5 (1.0)		B-1 逆刺はあらい。両面、右側辺はステップ状を呈し、更に細かな急角度に入る調整刺離を施す。B面基部に左方に打点を持つ主要刺離面が残る。	不整形四辺形	
	S-09-0288 MQ63 溝 (SF 074)	(33.6) 16.7 4.9 (2.9)		B-2 細状。A面は、左側は大刺離面、右側は大きな打ち欠き面よりなり、先端部と基部にあらく刺離を施す。ともにステップ状を呈する。B面は大刺離面で、周辺に刺離を施す。全体に形が整っていない。	不整形	
	S-09-0293 MK59 第9号土器堆積 (SL 308)	(31.2) 23.4 6.3 (3.8)		B-1 細状。逆刺は円い。A面基部には大刺離面が残る、両側辺はステップ状を呈す。B面基部には主要刺離面が残る。基部は自然面よりなり(厚2.2~2.7mm)、未調整。	扁平な菱形	未製品か 
	S-09-0358 KQ61 第3層・黒色砂質土層	32.2 15.0 5.9 2.6		B-2 両面共揃った調整面よりなる。A面両側辺からの刺離は中央で切り合って鋭をつくる。B面中央の右側辺はステップ状を呈し、中央に厚みを残す。	扁平な菱形	
	S-09-0389 表探	(21.6) 19.9 4.7 (2.1)		B-1 基部は右下がりの斜基。断面はA面に凸で、左側辺はステップ状を呈す。B面は右上方に打点をもつ主要刺離面で、周辺に小さな刺離を部分的に施す。	三角形	
	S-09-0400 表探	32.1 14.4 5.9 2.7		B-2(未製品か) 細状で厚みあり。両面とも両側辺と基部より調整刺離。A面中央に筋が通り、中央左寄りに大刺離面残存。B面中央にも基部に打点をもつ主要刺離面残存。両面両側辺ともステップ状を呈す。両側辺のエッジは鋭い。	三角形	
	S-09-0418 表探	(23.1) (14.0) 3.6 1.9		B-2 両面共三辺より調整刺離。B面基部中央に大刺離面が残る。	菱形	
	S-09-0441 MZ 表探	(16.9) (16.7) 3.5 (1.3)		B-1 両面共両側より調整刺離。基部中央に大刺離面が残る。	扁平な杏仁形	
	S-09-0455 表探	(29.2) 21.2 5.5 (3.6)		B-1 A面中央にやや左下方に打点を持つ大刺離面が残る。左側辺と基部はステップ状を呈する。B面は大刺離面で両側辺に周辺から急角度に入る刺離を施す。基部は折れ面よりなる。先端磨滅。	先端部 五角形 基部 扁平な六角形	石鏝か 
	S-09-0456 表探	(25.9) (16.8) 4.0 (2.0)		B-1 両側辺の形は整わず。左側辺は直線的で、先端ですばまる。右側辺は、外彎する。基部は右下がりの斜基。中央で切り合う調整刺離。B面は更に細かな調整刺離を施す。	扁平な菱形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 土地 地構 遺構番号 層	法 量 (mm)	現 長 幅 厚 重 量 (g)	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0474 MB59 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(21.3)	16.2 4.7 (1.5)	B-1 A面は背縁をもつ大刺離面で両側辺に小さい急角度に入る刺離を施す。基辺にもわずかに刺離を施す。B面は下方に打点を持つ主要刺離面で、基辺のみ急角度に入る刺離がみられる。	三角形	片面削工 
	S-09-0507 MF61 黒褐色礫混入土層	30.0 17.1 4.0 2.6	B-2 先端は鈍い。中央に大刺離面。両側辺共にさらに細かい調整刺離を施すが、ほとんどがB面側である。基縁は折れ面よりなる。	先端部 扁平な菱形 基部 扁平な扇形	C-Eタイプの 破損品か 	
	S-09-0522 MZ 溝 (SF 075)	24.0 12.9 4.7 1.5	B-2 小型。全体につくりはあらい。下半はステップ状を呈する刺離により、上半は小さな調整刺離により、形を作っている。両面共先端部中央に大刺離面残存。	不整形		
	S-09-0589 KZ 表採	(21.2)	18.0 3.3 (1.8)	B-1 A面は左方に打点を持つ主要刺離面で、左側辺は小さな刺離が施され、ステップ状を呈する。右側辺は若干の細かい調整刺離が施される。B面は右方に打点を持つ大刺離面で、右側辺は折れ面であり、周辺に粗く調整を施す。基縁も折れ面よりなる。	不整三角形	未製品か 
	S-09-0602 JA67 黒褐色砂質土層	(30.6)	14.1 4.2 (1.9)	B-2 幅狭。A面、両側辺から中央にのびる調整刺離を施す。右側辺下半はステップ状を呈し、中央に大刺離面が小さく残る。左側辺沿いにさらに小さな刺離を加えるが、ステップ状を呈する。B面基部中央に大刺離面が小さく残る。	扁平な菱形	
	S-09-0688 MC50 整地層	(23.3)	14.8 4.3 (1.5)	B-1 逆刺は円く、基辺もややふくらみ円蓋ぎみとなる。A面基部中央に大刺離面が残る。B面は大刺離面で周辺に刺離を施している。先端部のみ、両平面共に削が通る。	先端部 菱形 基部 扁平な扇形	
	S-09-0729 KP54 第3層・P115	(23.7)	11.1 3.9 (1.1)	B-2 長軸が左へ彎曲する。両面とも周辺に調整刺離。基部中央に最大厚がある。A面はステップ状を呈する。B面中央に自然面が残る。	扇形	
	S-09-0791 表採	(26.5)	11.2 4.2 (1.4)	B-2 細身。両面共調整面よりなる。両平面共に中央に削が通る。B面左側辺と右側辺の一部はステップ状を呈する。	菱形	
	S-09-0798 LC58 第9号住居址 (SA 009) 埋没土層	(16.2)	14.3 3.2 (0.9)	B-1 右逆刺は円い。A面、右側辺は中央にのびる刺離を施した後、さらに刺離を施すが、これはステップ状を呈する。B面基部中央に大刺離面が残る。	扁平な菱形	
	S-09-0832 MN62 黒色砂質土層	22.0 12.4 3.2 0.9	B-1 幅狭。両面共に大刺離面よりなり、両側辺に小さな刺離を施す。基縁は折れ面であり、A面にのみ調整を施す。	先端部 扇形 基部 扁平な六角形		
	S-09-0914 JZ	(25.7)	16.7 5.3 (2.5)	B-2 B面基部は主要刺離面で、基縁と右側辺の下部には細かな刺離が若干施される。上半には両側辺から調整刺離。A面基部に大刺離面が残る。基縁は細かな刺離が施される。両側辺共にB面より刺離は小さく、ステップ状を呈す。先端は丸く磨滅する。	先端部 扁平な菱形 基部 扇形	石鏡か 

()は残存部分の法量である。

石 鏡




図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) 厚 (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0960 JU66 黒褐色土層	(25.7) 16.7 5.3 (2.5)		B-1 逆刺は円い。中央に厚みあり。基辺から中央に向けて大きく刺離を施す。B面基部中央に右下方に打点を持つ主要刺離面が残る。A面基部右側にも大刺離面残存。両平面共に左側辺はステップ状を呈する。両平面共に基部の刺離面の縁には横方向の研磨痕あり。	五角形状	
	S-09-0998 MZ 表探	30.9 11.0 4.6 1.7		B-2 細身。A面基部中央に右方に打点を持つ大刺離面、B面先端部中央にも大刺離面が残る。全体に調整刺離はあらく、B面基辺は未調整。	先端部 菱形 基部 五角形	
	S-09-1094 JDZ 褐色硬混合土層	(23.1) 26.7 4.0 (3.6)		B-2 等身。極めて幅広い大型品。A面中央に大刺離面が残る。B面は左方に打点を持つ大刺離面で、周辺に刺離を施す。更に細かな調整刺離を施す。	極めて扁平な 三角形	
	S-09-1121 ML58 黒褐色硬混合土層	29.6 (17.3) 5.1 (2.4)		B-2 先端部で側辺は大きく開き、先端は円く鈍い。A面両側辺、B面右側辺共にステップ状を呈する刺離が多い。側辺には更に細かな調整刺離が施される。	扁平な菱形	
	S-09-1306 KG68 土坑 (SK 551) 第3層	30.0 22.2 7.0 4.8		B-1 左側辺は中央でよくらみ、基部ですばまる。右側辺は、直線的に広がり、共に鋭い逆刺を持つ。A面中央に、右上方に打点を持つ大刺離面が残る。先端部に鋭く通る。基辺の調整はステップ状を呈する。B面は大きく刺離を施すが、左側辺下平の刺離はステップ状を呈し大刺離面を残す。基辺は折れ面よりなる。	先端部 三角形 基部 台形状	
	S-09-1338 ML57 黒色土層	25.2 15.8 5.0 1.9		B-2 A面中央に自然面が、続いて基部に大刺離面が残る。基辺は未調整で両側辺のみ調整刺離。B面基部には左上方に打点をもつ主要刺離面が大きく残り、基辺は折れ面である。先端部両側辺は調整刺離。	先端部 菱形 基部 扁平な杏仁形	
	S-09-1389 GT50 溝 (SF 334)	(40.1) (29.2) 7.9 (7.2)		B-1 両面とも丁寧な調整刺離。中央に筋が通り、揃った調整面よりなる。	扁平な菱形	
	S-09-1405 MI57 黒色砂質土層	23.6 17.2 3.4 1.4		B-2 右側辺は中央で、左側辺は基部でよくらむ。A面は右上方に打点を持つ主要刺離面で右側辺上平と左側辺に刺離を施し、基辺には細かな刺離を施す。B面は、左方に打点を持つ大刺離面で、両側辺を刺離し基辺に細かな刺離を施す。	先端部 菱形 基部 不整四辺形	
	S-09-1415 表探	(17.9) (14.9) 2.9 (0.9)		B-1 両面共同辺より調整刺離。両平面共に中央に大刺離面が残る。A面基辺の刺離のみ細かいステップ状を呈する。	扁平な菱形	
	S-09-1461 KK67 第3層・黒色砂質土層	(21.3) 14.3 3.7 (1.1)		B-1 側辺は、内彎し、基辺に向って広がる。逆刺は円い。B面左側辺の刺離は小さく、深く入る。先端部右側辺の刺離は大きく左に片寄る。	扁平な菱形	
	S-09-1462 KP62 第5層・茶褐色砂層	(25.7) 16.5 4.0 (1.5)		B-1 基辺は、右上がりの斜線である。A面全体に刺離後、右側辺に更に細かな刺離を施すが、ステップ状を呈する。B面は調整面よりなる。左側辺、基辺はステップ状を呈する。	扁平な三角形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法 泉 (mm) (g)	現 幅 厚 重 泉	特 徴	中央断面	備 考
PL.48-1	S-09-1324 KZ 第3層・暗褐色砂質土層	19.7 11.5 2.7 0.8		C-2 小型。先端は鋭く突出する。A面は左上方に打点を持つ大刻離面、B面は上方に打点をもつ主要刻離面である。小さな刻離を側面に施すが、基部は両平面共に左側面にのみ施す。先端部はA面両側面、B面右側面に調整刻離。	先端部 扁平な菱形 基部 ごく扁平な杏仁形	
PL.48-2	S-09-1277 HCZ 溝 (SF 328)	24.3 11.1 1.7 0.5		C-2 小型。先端は鋭く突出する。A面は左方に打点を持つ大刻離面、B面は下方に打点を持つ主要刻離面、両面共に側面に小さな刻離を施す。基部には自然面残存。	ごく扁平な杏仁形	
PL.48-3	S-09-0397 表採	23.1 9.7 3.5 0.8		C-2 小型。幅狭。両平面共に刻離は全体におよぶ。両面共にステップ状を呈す刻離が若干混在する。A面中央とB面先端部の刻離の縁が削減。	扁平な菱形	
PL.48-4	S-09-1223 IZ	(19.2) 13.0 2.7 (0.6)		C-2 小型。やや幅が広い。先端部に厚く基部に薄い。A面は右上方に打点を持つ主要刻離面、B面は上方に打点を持つ大刻離面である。両面とも先端部両側面に小さな刻離を施す。	先端部 菱形 基部 ごく扁平な半円形	
PL.48-5	S-09-0073 KZ 第3層・暗褐色砂質土層	22.1 11.8 3.3 0.9		C-2 小型。先端は鈍い。A面基部中央に右上方に打点を持つ主要刻離面が残る。基部には刻離は施されず、側面の刻離はステップ状を呈する。B面基部に右下方に大刻離面が残る。両側面の刻離はステップ状を呈する。基部は細かな刻離が施されるが、不整形。	先端部 扁平な菱形 基部 扁平な杏仁形	
PL.48-6	S-09-0082 K163 第3層・暗褐色砂質土層	21.6 11.5 3.2 (0.7)		C-2 小型。全体に調整刻離はあらく、A面中央右寄りに大刻離面残存。B面は左上方に打点をもつ主要刻離面で、先端部のみ刻離を施す。	先端部 菱形 基部 三角形	
PL.48-7	S-09-0982 XX54 第6号住居址 (SA 006) Pit12	18.2 10.6 2.7 0.6		C-2 小型。左方に厚味を持つ。A面は調整面よりなり、B面は調整後更に側面に細かな刻離を施す。B面先端部中央に大刻離面残存。	扁平な杏仁形	
PL.48-8	S-09-0933 LG58 黒褐色土層	20.5 11.8 2.7 0.6		C-2 小型。両平面共に中央に大刻離面を残す。B面の刻離は大部分ステップ状を呈する。先端は丸味を持つ。	扁平な杏仁形	
PL.48-9	S-09-0126 不明	22.5 10.5 2.6 0.7		C-1 小型。A面は全体に刻離をした後、側面に小さな刻離を施す。基部はステップ状を呈する。B面は主要刻離面で側面に小さな刻離を施す。	先端部 菱形 基部 扁平な扇形	
PL.48-10	S-09-0326 表採	20.1 11.7 3.3 0.8		C-1 小型。両平面共に刻離は整っている。B面先端部中央には筋が通る。	扁平な菱形	
PL.48-11	S-09-0212 KT60 第3層・黒色砂質土層	(30.0) 15.3 4.9 (2.2)		C-1 A面は全体に刻離がおよんでおり、中央はステップ状を呈する。B面中央には右方に打点を持つ主要刻離面が大きく残り、基部左半には刻離は施されず。	三角形状	

()は残存部分の法状である。

石 鏝

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.48-12	S-09-0192 KT60 第3層	27.5 13.9 3.5 1.5		C-1 先端部に厚く、基部に薄くなる。両平面共に周辺に小さな刺離を施し、中央に大刺離面残存。	先端部 菱形 基部 六角形	
PL.48-13	S-09-0647 JA54 敷地層	29.5 14.8 4.0 (1.8)		C-2 一方の端が欠損しており、上下は明確でない。両平面共に刺離は全体におよぶが、B面ではほとんどステップ状を呈し、A面右側面にも若干混在する。	扁平な菱形	
PL.48-14	S-09-0752 KP54 茶褐色土層	27.2 9.4 4.1 1.7		C-2 先端部に段をもつ。基部は左方がふくらみ非対称。両平面共に全体に刺離がおよんでいる。A面中央は両側面共にステップ状を呈する。両面基部左側面には、細かな刺離を更に施す。	扁平な菱形	基部に凹痕あり。 
PL.48-15	S-09-0217 不明	24.5 14.6 4.8 1.7		C-1 基部に厚く、先端に薄い。A面中央左寄りは大刺離面残存し、周辺に刺離を施す。両側面共に中央はステップ状を呈する。B面も周辺より調整刺離。中央には大きく左下方に打点をもつ主要刺離面が残し、右側面中央は刺離が急角度に入って、ステップ状を呈する。	扇形	
PL.48-16	S-09-0001 KZ 表探	(28.1) 14.4 3.2 (1.5)		C-2 両平面共に丁寧な調整刺離。B面左側面はステップ状を呈する。他の面には若干混在する。A面中央、B面基部部に大刺離面残存。	扁平な菱形	
PL.48-17	S-09-0486 MC59 溝 (SF 075) 腐混黒色粘質土層	27.7 13.5 3.3 1.1		C-1 先端部に厚く、基部に薄い。先端部は両平面より調整刺離。基部はA面側の方に細かな調整刺離を施す。A面基部中央に大刺離面が残し、B面基部は上方に打点を持つ主要刺離面残存。	先端部 菱形 基部 扁平な三角形状	
PL.48-18	S-09-0439 LE61 第2層	(26.3) 9.4 3.4 (0.8)		C-2 細身。基部にやや厚味を有する。刺離は全体におよぶ。B面にステップ状を呈する刺離が多く、A面にも混在する。B面基部中央に小さく大刺離面残存。	扁平な菱形	
PL.48-19	S-09-0398 表探	30.3 12.0 3.6 1.2		C-2 両平面共に刺離は全体におよび中央に鈍く稜を持つ。ステップ状を呈す刺離が両面共に混在する。	扁平な菱形	
PL.48-20	S-09-0497 MZ	(36.5) 17.0 4.8 (2.6)		C-1 先端のみ極めて細くなり突出する。両平面共に刺離は整っており、全体におよぶ。B面の中央には溝が通る。A面にステップ状を呈する刺離が混在する。両側面のエッジに細かな調整を施し、やや鋸歯状を呈する。	扁平な菱形	
PL.48-21	S-09-0092 LZ 表探	32.5 15.4 4.7 2.1		C-1 A面基部中央に凹段層の打ち欠き面あり。B面基部右側には大刺離面残存。全体に調整刺離後、更に側面に小さな刺離を施し、鋸歯状を呈する。先端部の中央に最大厚を持つ。	扁平な菱形	
PL.48-22	S-09-1270 LG54 Pit45	(30.5) 15.1 3.6 (1.7)		C-1 A面は右下方に打点を持つ主要刺離面で、側面には調整刺離を施すが、基部にはほとんど施さない。B面基部中央に大刺離面が残る。先端部中央に最大厚を有する。	先端部 三角形 基部 台形	

() は残存部分の法量である。












図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) 厚 (g)	現長 幅 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.48-23	S-09-0009 MQ63 黒褐色硬粘土層	(30.4) 13.6 3.9 (1.3)	32.9 14.1 3.2 1.9	C-2 側辺は内彎して先端に至り、先端は細く鋭い。A面の刺離は全体におよび、中央に筋が通る。基部右側辺はステップ状を呈する。B面は先端部に筋が通る。両面基部中央に大刺離面が残る。	扁平な菱形	
PL.48-24	S-09-0885 KP54 茶褐色土層	(35.0) 18.7 3.6 2.1	35.1 14.3 4.1 1.8	C-2 両平面共に丁寧な押圧刺離による調整を施す。ステップ状を呈する刺離が混在するが、刺離は全体におよぶ。A面基部中央に小さく大刺離面残存。A面左側辺、右側辺両面に更に細かな刺離を施し、細かい鋸歯状を呈する。	扁平な菱形	
PL.48-25	S-09-0154 MJ56 褐色砂層	(37.1) 16.8 4.3 (2.4)	31.4 21.2 5.2 (3.8)	C-2 先端は細く鋭い。両平面共に基部中央に大刺離面が残る。B面基部の刺離はステップ状を呈する。A面基部にも、多く混在する。	扁平な菱形	
PL.48-26	S-09-1258 IV60 溝 (SF 080) 第1層、灰褐色砂質土層	(31.4) 21.2 5.2 (3.8)	32.8 21.6 3.3 (2.2)	C-1(米穀品) A面は右方に打点を持つ主要刺離面で、B面は大刺離面。基部に厚く、先端に向かって薄くなる。調整刺離は粗い。ステップ状を呈する刺離が混在する。	不整形	
PL.48-27	S-09-0692 JY58 藍地層	(32.8) 21.6 3.3 (2.2)	31.4 21.2 5.2 (3.8)	C-2 得手で幅広。A面中央右寄りには大刺離面残存。中央には初段階の大きな打ち欠き面あり。B面は右上方に打点をもつ主要刺離面。両面共側辺に小さく、基部に大きく刺離を施す。両面共基部の打ち欠きはステップ状を呈し、A面両側辺にも混在する。更に両平面共に両側辺沿いに細かな刺離を施し、細かい鋸歯状を呈す。	ごく扁平な扇形	
PL.48-28	S-09-0929 LK58 黒褐色土層	(25.6) 18.1 3.8 (2.1)	40.4 21.8 6.1 4.3	C-1 A面の右側辺の刺離は整っているが、左側辺はステップ状を呈し、基部中央に大刺離面が残る。B面の左側辺はステップ状を呈し、基部中央に主要刺離面が残る。押圧刺離によると思われる。側辺には細かな刺離が、更に施され、細かい鋸歯状を呈する。	扁平な菱形	
PL.48-29	S-09-1198 IZ	(31.0) 14.9 3.9 (1.7)	37.9 17.4 4.8 2.7	C-1 先端は細く鋭く突出している。両平面共に先端部に筋が通る。A面の基部に主要刺離面が残る。基部は未調整。両側辺共にステップ状を呈する刺離が混在する。B面はA面に比べて平坦な面で、先端部から基部にかけて中央に大刺離面を残す。A面同様にステップ状を呈する刺離が混在する。	先端部 扁平な菱形 基部 台形状	
PL.48-30	S-09-1260 LO54 黒褐色土層	(31.0) 14.9 3.9 (1.7)	37.9 17.4 4.8 2.7	C-1 A面中央に大刺離面が残る。左側辺の刺離と稜を持つ。右側辺はステップ状を呈する。B面の基部中央と先端部左半に左下方に打点をもつ主要刺離面が残る。左側辺上半と右側辺はステップ状を呈する。最大厚は基部中央にあり。先端は鈍い。	先端部 扁平な菱形 基部 扇形	
PL.48-31	S-09-0189 KL63 第3層下部、均質褐色粘土層	(31.0) 14.9 3.9 (1.7)	40.4 21.8 6.1 4.3	C-1 先端は細く鋭く突出している。両平面共に先端部に筋が通る。A面の基部に主要刺離面が残る。基部は未調整。両側辺共にステップ状を呈する刺離が混在する。B面はA面に比べて平坦な面で、先端部から基部にかけて中央に大刺離面を残す。A面同様にステップ状を呈する刺離が混在する。	先端部 扁平な菱形 基部 台形状	
PL.48-32	S-09-0189 KL63 第3層下部、均質褐色粘土層	(31.0) 14.9 3.9 (1.7)	37.9 17.4 4.8 2.7	C-1 A面中央に大刺離面が残る。左側辺の刺離と稜を持つ。右側辺はステップ状を呈する。B面の基部中央と先端部左半に左下方に打点をもつ主要刺離面が残る。左側辺上半と右側辺はステップ状を呈する。最大厚は基部中央にあり。先端は鈍い。	先端部 扁平な菱形 基部 扇形	
PL.48-33	S-09-0910 JU64 溝 (SF 081) 黒色土層	(31.0) 14.9 3.9 (1.7)	37.9 17.4 4.8 2.7	C-1 A面中央に大刺離面が残る。左側辺の刺離と稜を持つ。右側辺はステップ状を呈する。B面は主要刺離面で周辺に小さく刺離を施す。	扇形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡


図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) 厚 (g)	現長 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.48-34	S-09-0315 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(29.4) 15.2 4.4 (2.0)		C-2 両平面共に刻線は全体におよぶ。A面基部にステップ状を呈する刻線が多く混在する。	扁平な菱形	
PL.48-35	S-09-0989 MZ 表探	(40.7) 19.8 4.5 (3.9)		C-2 両平面共に風化。両端部欠損しており、尖部の可能性あり。両面全体に刻線がおよぶが、錆はつくない。ステップ状を呈する刻線が若干混在する。両面両側辺沿いに細かな調整あり。	扁平な杏仁形	
PL.48-36	S-09-0517 MZ 溝 (SF 075)	39.9 22.4 6.8 4.8		C-1 A面基部はステップ状を呈する刻線が多く、中央に右方に打点を持つ主要刻線面が残る。B面は、ステップ状を呈する刻線が混在するが、全体に刻線がおよぶが中央に大刻線面残存。	扇形	
PL.48-37	S-09-0489 MP62 溝 (SF 074)	(38.5) 21.2 4.3 (3.2)		C-2 得手のもの。両面とも薄く丁寧な調整刻線。押圧刻線によると思われる。A面基部中央にわずかに大刻線面残存。両平面共にステップ状を呈する刻線が若干混在する。	ごく扁平な杏仁形	
PL.48-38	S-09-1106 不明	40.7 17.1 5.9 3.5		C-2 両平面共に刻線の大部分はステップ状を呈する。A面中央に小さく大刻線面が残る。厚みをもつ。	扁平な菱形	
PL.48-39	S-09-1381 HL56 褐色砂層	37.8 15.4 4.1 2.2		C-1 両面共に刻線が施され大刻線面を留めず。両側面からは更に細かい調整刻線が施される。B面左側はステップ状刻線面を呈し、他の部分にも混在。側面は不揃いの鋸歯状を呈する。錆は両面に通る。	扁平な菱形	
PL.48-40	S-09-0302 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(36.7) 17.1 4.7 (2.9)		C-1 両面共に刻線が施され、大刻線面を留めず、A面基部には更に細かい刻線が見られる。B面基部左側はステップ状を呈し、A面左側面にも混在。A面はB面よりもやや平坦な面を呈すが、錆は両面に通る。	菱形	
PL.48-41	S-09-0565 MK64 溝 (SF 075) 黒色土層	38.4 12.9 4.6 1.6		C-1 やや細い。先端はA面に反っている。A面は調整面よりなるが基部はステップ状を呈し中央に厚みを残すが、先端部は薄身である。B面は先端部のみ調整。B面基部には右方に打点をもつ主要刻線面が残存し、その周辺沿いに細かな調整を施す。	扁平な菱形	
PL.48-42	S-09-0134 KI65 第4層・褐色砂土層下部	46.2 22.1 5.0 4.9		C-1 A面基部に主要刻線面を留め、打点は左上方にある。B面には全体に大刻線面を留め、打点は右下方にある。A面先端部の刻線は中央までのびステップ状を呈する。B面右側面にはやや粗い刻線が施される。A面両側面、B面先端部左側面には更に細かい調整刻線が見られる。周辺のエッジは僅かに磨減。	先端部 不整四辺形 基部 扁平な扇形	
PL.48-43 PL.61-8	S-09-1133 MI56 溝 黒色砂質土層	(43.4) 20.9 5.1 (4.8)		C-1 A面基部中央に一部大刻線面を留める。B面基部中央には大刻線面を留め、打点は右上方にある。両側面、基部から刻線が施され刻線面は揃っている。両面左側面には更に細かい刻線が見られ、両側面は磨減部を呈する。両面にステップ状刻線が混在。錆はB面先端部に通る。	先端部 菱形 基部 台形状	
PL.48-44	S-09-0775 MF56 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(44.7) 17.4 6.8 (4.9)		C-2 両面中央に大刻線面を一部留める。周辺からはやや粗い刻線が施され、主にステップ状を呈する。A面先端部の両側面およびB面先端から基部にかけての両側面には更に細かい刻線が見られる。	扇形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地名 (道庁番号) 層位	法量 (mm) 原重 (g)	現長 幅 原重	特 徴	中央断面	備 考
PL-48-45	S-09-1301 MB50 溝 (SF 074) 褐色砂層	(43.0) 17.1 5.9 (4.3)		C-2 両面共に剝離が施されるが、中央にわずかに大剝離面残存。全体にステップ状剝離が混在。	菱形	
PL-48-46	S-09-0500 MF60 溝 (SF 075) 黒褐色燻混入土層	45.3 19.6 6.6 5.5		C-2 両側面は非対称である。左側面の先端部は浅く内磨し、逆刺が丸味をもつに対し、右側面の先端部は浅く外磨し、逆刺はやや角ばる。両面共に大剝離面を留めず。B面中央の剝離は大きなステップ状を呈し、ステップ状剝離は他の部分にも混在。両側面から剝離後、基面からの剝離が両側面に施される。	菱形	
PL-48-47	S-09-1374 LG62 黒褐色土層	52.8 19.2 6.4 5.9		C-2 先端部は細長い。B面中央に細長く大剝離面を留め、打点は左方にある。A面先端部中央には僅かに大剝離面を残し、周辺より調整剝離を施す。A面左側面、B面基部下半の剝離面はステップ状を呈し、他の部分にも混在。A面右側面、B面先端部両側面には更に細かい剝離も見られる。	先端部 菱形 基部 不整六角形	
Fig.21-5	S-09-0675 JU66 整地層	49.0 16.0 4.2 2.7		C-1 両側面は浅く内磨し、全体形はヒョウタン形を呈する。先端は細く鋭く突出する。両面共基部中央に大剝離面が残存。両面共左側面沿いに細かい剝離が施され、両側面は鋸歯状を呈する。両面にステップ状剝離が混在。	菱形	
	S-16-0033 KE65 第3層・暗褐色砂質土層	(23.4) 14.9 3.7 (1.6)		C-2 基部破片。一面のみ調整剝離を施す。他方の面は大剝離面のまま。	扁平な半円形	
	S-09-0048 KQ62-63 第4層・灰褐色土層	36.6 14.8 5.6 3.1		C-2 鏡身中央は厚味をもつ。B面は下方に打点のある主要剝離面を呈する。A面周辺からの剝離は中央までのびるが、鋭はつらず。B面は周辺から剝離が施され、主にステップ状を呈する。	先端部 扇形 基部 不整杏仁形	
	S-09-0056 KN66 第4層・茶褐色砂質土層	20.7 11.7 3.6 1.0		C-2 小型。右側面は左側面よりもやや外磨する。両面中央に大剝離面を留める。両側面から剝離後、基面からの剝離が施される。A面にステップ状剝離が混在し、B面基面にも見られる。鋭は通らず。	杏仁形	
	S-09-0103 KJ66 第3層・黒色砂質土層	(40.3) 19.2 7.7 (5.3)		C-2 両側面より粗い剝離が施され、大剝離面を留めず。先端部右側面に細かい剝離が見られる。A面基部、B面先端部の剝離はステップ状を呈する。	扇形	
	S-09-0105 KK68 第3層・黒色砂質土層	(19.2) 10.6 2.6 0.6		C-1 小型。両面中央に大剝離面を留む。B面は右下方に打点をもつ主要剝離面である。周辺には剝離が施される。両面基部右側の剝離はステップ状を呈す。鋭は両面とも通らず。	扁平な杏仁形	
	S-09-0112 ML57 黒色土層	(37.0) 19.6 7.2 (5.9)		C-2 全体に粗いつくりであるが、大剝離面は留めない。B面右側面からの剝離は大きく、左側面からの剝離は中央までのびずにステップ状を呈する。ステップ状剝離はA面にも混在。	五角形	
	S-09-0119 KE58 第3層・黒色砂質土層	(42.0) 19.8 7.2 (5.2)		C-2 鏡身中央で最大部を測り、基部はやや尖がり気味である。B面中央に一部大剝離面を留める。A面両側面、B面先端部、左側面および基部右側面には更に細かい剝離が施され、ステップ状を呈する。B面中央は大きなステップ状剝離をなし、他の部分にも混在する。基部部のエッジは磨滅。	菱形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡








図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 位置	法量 (mm) 重量 (g)	現長 幅 厚 重	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0131 MJ56 溝 (SF 074) 褐色砂層	29.0 11.1 5.1 1.7		C-2 小型。鏡身はやや細い。両面中央に大刺離面が一部残存。B面はA面よりもやや平坦。先端はA面側へ反っている。A面中央に大きなステップ状刺離が見られる。押圧刺離によると思われる。周辺からは細かい調整刺離が施される。先端および基端のエッジは磨滅。	扇形	
	S-09-0159 KJ63 第3層・褐色砂質土層	(32.2) 19.9 5.0 (2.7)		C-1 基端は自然面を留め平坦。平蓋の可能性あり。B面中央には下方に打点をもつ大刺離面残存。B面はA面よりも平坦な面をなす。A面先端部、B面基端はステップ状刺離を呈する。B面両側辺には更に細かい刺離も施される。	三角形状	
	S-09-0188 KJ69 第3層・褐色砂質土層	50.4 30.7 7.2 8.2		C-2 大型。幅広。先端部両側辺は左右非対称で、左側が狭く外彎するのに対し、右側は狭く内彎する。先端部は両側辺からの刺離で両面に傾が通る。基部は両面共両側辺に刺離が施されるが両面に大きく大刺離面を残す。A面は背後で中央にもつ大刺離面。B面は主要刺離面で打点は左上方にあたる。A面基端寄りにはステップ状刺離を呈し、他の部分にも混在。	先端部 変形 基部 扁平な三角形	石鏡の可能性あり。 
	S-09-0198 MJ60 黒色土層	34.5 20.4 5.8 3.3		C-1 A面基端部に主要刺離面を留め打点は左上方にあたる。B面基部に大刺離面を留め打点は下方にあたる。先端部は両側辺からの刺離により、両面共に後縁が直る。基部はB面側に粗く調整刺離され、A面右側辺にも一部見られる。B面基部はステップ状刺離を呈す。	先端部 変形 基部 杏仁形	
	S-09-0210 表探	23.8 10.3 2.5 0.7		C-2 小型。鏡身はやや細い。基端はやや尖がり鋭角である。B面には大刺離面が残存し、打点は左下方にあたる。A面には大きな刺離面が見られる。周辺からは細かい調整刺離が施され、更に両面共右側辺沿いに急角度に入る細かな調整あり。	扁平な四辺形	
	S-09-0232 表探	(25.1) 16.0 3.4 (1.4)		C-1 B面基部右に大刺離面を留め打点は左方にあたる。両面に押し圧刺離が施され、鍔は両面に通る。両面共にステップ状刺離を呈す。右側辺沿いに細かい調整があり、側辺は鋸歯状をなす。	扁平な変形	
	S-09-0234 KW60 土坑 (SK 421) 第3層	36.7 14.7 3.1 2.1		C-2 幅狭。A面は研削面であり、右側辺寄りになだらかな稜をなす。周辺からは細かい調整刺離が施される。B面は主要刺離面で、打点は下方にあたる。B面は平坦で未調整。	扁平なカマゴコ形	
	S-09-0283 MK59 第9号土器堆積 (SL 308)	(25.9) 16.0 4.6 (1.8)		C-1 B面上半部は主要刺離面で打点は下方にあたる。B面基部のみ調整刺離される。A面は両側辺、基端からの刺離により稜が通る。両面ともステップ状刺離を呈する。全体に粗いつくりである。	扇形	
	S-09-0287 KX60 第3層・褐色砂質土層	32.0 16.3 5.3 3.3		C-2 A面中央に大刺離面を留め打点は右下方にあたる。B面中央に主要刺離面を留め打点は左下方にあたる。鍔はA面側へ彎曲。周辺からは調整刺離が施される。先端に回転痕あり。基端は磨滅。	先端部 変形 基部 扁平な六角形	先端に回転痕あり(長3mm)。 
	S-09-0298 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(40.3) 12.9 5.2 (2.7)		C-2 鏡身は細長い。A面中央に大刺離面を一部留める。鍔はB面側へやや彎曲。A面は両側辺からの刺離後更に両側辺に細かい調整刺離を施す。B面はA面よりもやや粗い刺離。鍔は両面に通る。A面先端部右側辺のエッジは僅かに磨滅。	変形	
	S-09-0312 MH58 溝 (SF 074) 黒色土層	31.6 13.2 4.5 2.0		C-2 先端はやや厚縁がある。両面中央に大刺離面を留める。B面は主要刺離面で打点は右方にあたる。両側辺には更に細かい調整刺離も見られる。両面ともステップ状刺離が混在。基端および基端寄りの両面の稜は磨滅。	先端部 変形 基部 杏仁形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層	法 量 (mm) (g)	現 幅 厚 原 厚	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0319 MZ	(41.3) 16.9 7.8 (5.4)		C-2 厚味を有する。両面とも大刺離面を留めず。両面左半分およびB面先端部右側は大きなステップ状刺離を呈し、他の部分にも混在。全体に粗いつくり。	菱形	
	S-09-0328 KX66 第2層	(25.1) 14.4 4.3 1.6		C-2 両側面から刺離され、大刺離面を留めず。両面先端部左側面には、更に細かい刺離も見られる。基部は両面とも右側面に細かい刺離が施される。A面は主にステップ状刺離を呈し、B面にも混在。	杏仁形	
	S-09-0336 MH57 溝 (SF 074) 褐色砂層	36.1 15.6 4.5 2.5		C-2 B面は大刺離面を呈し、平坦。打点は左方にあたる。A面は基部に大刺離面を一部留めるが、両側面からの刺離により、筋をつくる。B面は先端部、両側面より刺離される。B面左側面には細かい調整刺離が見られる。先端および左の逆側のエッジは僅かに磨滅。	先端部 菱形 基部 三角形	
	S-09-0345 KW66 第3層	(21.0) 14.8 3.2 (1.2)		C-2 鎌中央よりやや上方で最大幅を測る。先端は突出すると思われる。A面は周辺からの刺離で筋が通る。B面は大刺離面を留め、平坦な面をなす。A面両側面、B面左側面には更に細かい調整刺離が施される。A面中央およびB面先端部はステップ状刺離を呈し、他の部分にも混在する。	三角形	
	S-09-0381 表探	(26.6) 14.1 3.8 (1.4)		C-2 A面は両側面からの刺離により筋が通る。B面は主要刺離面で打点は右上方にあたる。両面共周辺に細かい刺離が施される。A面にステップ状刺離が混在。軸はB面側へ彎曲。先端に厚みがあり、基部はうすい。両面先端部の尖は磨滅。	先端部 菱形 基部 扁平な三角形	
	S-09-0387 表探	21.9 10.3 3.1 0.7		C-1 小型。B面中央に大刺離面を留め、打点は左上方にあたる。全体に粗いつくりで筋は通らず。両側面から刺離後更に両側面には細かい調整刺離が施されるが、不揃いでステップ状を呈する。A面先端部左側面は右側面よりも強く傾斜し、先端は鋭く突出する。	不整四辺形	
	S-09-0392 KZ	(15.1) 10.3 3.3 (0.6)		C-1 小型。両面中央に大刺離面を一部残す。逆側から基部にかけては細かい刺離が見られる。B面両側面の刺離はステップ状を呈する。	菱形	
	S-09-0412 KZ	29.5 14.7 4.8 2.3		C-2 B面に大きく主要刺離面を留め打点は右方にあたる。A面では左側面から大きく刺離され、大刺離面が長く一部残存する。周辺から調整刺離が施され、刺離面は略揃っている。A面両側面およびB面の刺離はステップ状を呈する。基部は僅かに磨滅。	先端部 杏仁形 基部 六角形	
	S-09-0424 KLZ 表探	33.6 18.7 5.4 4.1		C-2 未製品。楕円形を呈し、先端は作り出していない。A面中央に大刺離面を留め、左方に打点あり。B面は主要刺離面で、打点は下方にあたる。周辺からの刺離は不揃いで、ステップ状刺離が混在する。	台形状	
	S-09-0432 KZ	33.1 12.6 5.5 2.1		C-2 細身。両面に大刺離面を留む。A面は右下方に打点がある。B面は主要刺離面を呈し、右上方に打点がある。周辺からは調整刺離が施され、刺離面は揃っている。A面基部両側面は大きなステップ状刺離を呈する。	先端部・基部 菱形 中央部 台形	
	S-09-0435 KZ	(26.3) 14.2 5.2 (2.2)		C-2 基部はやや尖がり気味である。両面中央に大刺離面を留める。周辺から刺離後、両側面には更にやや小さい刺離が施される。A面基部中央右の刺離はステップ状を呈し、他の部分にも混在。	先端部 台形状 基部 菱形	

()は残存部分の法量である。

石 鏃






図版番号	登録番号 出土地点 遺構番号 層位	法量 (mm)	現長 幅厚 重量 (g)	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0447 表探	(23.7) 15.8 3.6 (1.4)		C-2 全体に円形。先端は突出する。両面に調整刻離。B面基部中央に大刻離面残存。B面両側辺、A面右側辺には更に細かい刻離も見られ、両側辺は鋸歯状を呈する。A面中央はステップ状刻離を呈し、他の部分にも混在。	扁平な菱形	
	S-09-0450 表探	27.4 12.0 3.2 1.2		C-2 幅状。B面に大きく主要刻離面を留め打点とは下方にあたる。A面両側辺から刻離が施され更に周辺からは細かい調整刻離が施される。	扁平な扇形	
	S-09-0453 表探	(22.0) 13.2 2.8 (1.1)		C-2 小型。鏃身中央で最大幅を測る。両面共周辺から細かい刻離が施されるが両面中央に大きく大刻離面を留める。B面は主要刻離面で、打点とは下方にあたる。両面にステップ状刻離が混在。	扁平な杏仁形	S-09-1324と同一形態。 
	S-09-0468 LC62 第2層	32.4 13.5 4.7 2.1		C-2 未製品。先端およびA面に自然面を留める。B面は主要刻離面を留め、打点とは左方にあたる。両側辺沿いに調整刻離。両端は未調整。A面中央は自然面を刻離してから全体に周辺から細かい刻離が施される。A面先端部右側辺はステップ状刻離を呈す。B面中央は一部所帯。軸はA面側へ彎曲。	扁平な杏仁形	
	S-09-0476 MC59 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	53.5 26.5 8.5 10.6		C-2 大型。A面中央に大刻離面を一部留める。B面に大きく主要刻離面を留め、打点とは左下方にあたる。B面は両側辺からの刻離が中央までのびず、刻離面は主にステップ状を呈し、A面右半分は大きなステップ状をなす。	先端部 扇形 基部 台形状	
	S-09-0495 MZ	(31.6) 16.0 5.2 (2.5)		C-2 未製品か。先端部に厚みがあり基部は薄い。B面中央に大きく大刻離面を留める。B面の打点とは上方にあたる。A面は主要刻離面を呈し、打点とは上方にあたり、中央に打痕痕がある。A面両側辺、B面周辺に細かい刻離が施される。基部にステップ状刻離が混在。	先端部 五角形 基部 扁平な五角形	
	S-09-0496 MZ	29.5 13.6 4.3 (1.8)		C-2 鏃身中央よりやや先端寄りに最大幅がある。先端は鈍い。両面共に刻離が施され、大刻離面を留めず、両側辺には更に細かい調整刻離が施され、側辺は鋸歯状を呈する。両面の刻離は主にステップ状を呈する。先端および基部のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-0498 MZ	36.0 17.0 5.1 3.1		C-2 A面基部中央に一部大刻離面を留める。両面共にやや粗い刻離が施されるが、全体に形は整い、鋸も通る。A面基部右側辺には更に細かい刻離が施される。A面基部はステップ状刻離を呈し、他の部分にも混在。	菱形	
	S-09-0499 LE66 第8号住居址 (SA 008)	33.2 15.2 5.9 2.6		C-2 両面基部中央に大刻離面を留める。軸はB面側へ彎曲。周辺からは刻離が施され、両面先端部に鋸が通る。基部は薄い。	先端部 菱形 基部 杏仁形	
	S-09-0515 MZ	(30.6) 14.7 4.2 (2.1)		C-2 A面中央に大刻離面を留め、B面に大きく主要刻離面を留める。B面の打点とは上方にあたる。A面は両側辺からの刻離により、鋸が通る。周辺からは細かい調整刻離が施されるが、基部よりも先端の方が丁寧な作りである。両面にステップ状刻離が混在。	先端部 菱形 基部 三角形	
	S-09-0523 MZ	(31.3) (16.1) 2.9 (1.3)		C-1 薄い。両面中央に大刻離面を留め、B面は主要刻離面である。周辺からはやや細かい調整刻離が施され、ステップ状刻離が混在する。	先端部 菱形 基部 扁平な杏仁形	

() は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0527 MF61 溝 (SF 075) 黒色土層	(27.4) 18.0 4.2 (1.8)		C-1 A面基部中央およびB面基部付近に大刺蝿面を留める。両面とも周辺から丁寧に刺蝿が施され、刺蝿面は揃っている。基部は両面ともステップ状刺蝿を呈する。	扁平な菱形	
	S-09-0530 MZ	(18.0) (16.4) 4.3 (1.5)		C-1 両面中央に大刺蝿面を留める。両側辺から刺蝿が高され、両面右側辺には更に細かい刺蝿が施され、側辺は鋸歯状を呈す。A面はステップ状刺蝿を呈し、B面にも混在。筋は両面に略通る。両側辺エッジは僅かに磨滅。	菱形	
PL.53-1	S-09-0541 IT66 第2層・床土層	36.6 9.9 3.8 1.5		C-2 鏡身は細長い。先端は突出する。両面中央に大刺蝿面を留める。両側辺からは細かい調整刺蝿が施されて、丁寧に作りである。	杏仁形	先端に凹痕あり(長さ5mm)。
	S-09-0544 MZ	(36.2) 15.5 4.3 (2.5)		C-2 鏡身中央で最大厚を測り、基部は薄い。A面基部に大刺蝿面を留める。B面には主要刺蝿面を留め、打点は右下方に位置する。両側辺からの調整刺蝿。全体に粗いつくりで刺蝿面は不揃いである。両面共ステップ状刺蝿が混在。	先端部 三角形 基部 扁平な扇形	
	S-09-0550 MH64 溝 (SF 075) 黒色土層	(29.3) 12.0 5.3 (1.8)		C-2 小型。厚味を有する。両面中央に大刺蝿面を留める。両面先端部に筋が通る。B面先端部中央の縁は一部磨滅が施されている。刺蝿面はやや不揃いでステップ状刺蝿が混在。先端はB面側へ刺蝿欠損。	先端部 菱形 基部 六角形状	
	S-09-0560 IV62 黒褐色砂質土層	28.5 15.3 5.0 2.1		C-2 小型。B面中央に大刺蝿面を留め、B面は平坦。A面側に厚味をもつ。両面とも右側辺には更に細かい調整刺蝿が施される。A面基部右側の刺蝿はステップ状を呈し、他の部分にも混在。先端の磨滅は著しい。	扇形	
	S-09-0566 JC64・65 床土直下・黒褐色砂質土層	(28.4) 13.2 5.1 (2.5)		C-2 鏡身は細長い。両面中央に大刺蝿面を留める。周辺から刺蝿が施されるがやや不揃いである。基部および両面の縁は僅かに磨滅。	杏仁形	
	S-09-0572 JAG3 溝 (SF 075) 黒色砂質土層	31.6 10.6 5.1 1.7		C-2 小型。細身。厚味を有する。A面基部、B面基部中央に大刺蝿面を留める。A面先端部に筋が通る。基部は主にB面側へ調整刺蝿。A面中央、B面左側はステップ状刺蝿を呈し、他の部分にも混在。全体につくりは粗い。	先端部 扇形 基部 杏仁形	
PL.53-14	S-09-0576 ML62	(40.8) 13.3 7.2 (4.1)		C-2 鏡身は細長い。かなり厚味をもつ。B面先端部中央に自然面を留める。両側辺から刺蝿が施され、筋は両面に通る。両面基部はステップ状刺蝿を呈す。先端部エッジおよび両面の縁は磨滅。	菱形	先端に凹痕あり(長さ4mm)。
	S-09-0583 KJ67 第3層・黒色砂質土層	28.0 17.0 6.9 3.0		C-1 先端部はかなり厚味を有し、基部は薄い。石鏡の縁部欠損品。B面中央に一部大刺蝿面を留める。周辺からは調整刺蝿が施されるが、不揃いである。B面右側辺は大きなステップ状を呈し、他の部分にも混在。先端部に筋が通る。	先端部 菱形 基部 杏仁形	石鏡か
	S-09-0596 JC63 第3層・黒褐色土層	(32.4) 15.0 5.9 (3.2)		C-2 A面基部中央に大刺蝿面を留める。B面に主要刺蝿面を留め、打点は右下方にあたる。両面とも周辺から調整刺蝿を施すが先端および基部をつくり出さず。基部は厚みをもつ。	杏仁形	

()は残存部分の法量である。

石 鐵

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
S-09-0605 M157 溝 (SF 074) 黒褐色土層		48.9 21.6 8.1 8.8		C-2 大型。厚味を有する。B面中央に一部大剝離面を留める。周辺からは、粗い剝離が施される。両面にステップ状剝離が混在。	菱形	
S-09-0630 MS58 溝 (SF 078) 褐色砂層		(29.9) 18.1 5.9 (3.2)		C-1 両面共両側面、基部から剝離が施され、両面に筋が通る。A面右側面、B面左側面には更に細かい調整剝離が施される。B面右側面はステップ状剝離を呈し、他の部分にも混在。	菱形	
S-09-0653 JM58 整地層		40.0 (14.3) 5.7 (3.2)		C-2 B面基部に大剝離面を留む。A面には主要剝離面を大きく残し、打点は右方にあたる。B面は比較的平坦な面をなす。周辺から調整剝離を施すが、A面基部右側面には見られず、厚みがある打ち割り面残存。B面左側面はステップ状剝離を呈し、A面左側面にも混在する。先端部右側面および先端から基端にかけての左側面エッジおよび両面の縁は僅かに磨減。	先端部 菱形 基部 五角形	
S-09-0684 JY58 整地層		(29.9) (14.4) 4.3 1.9		C-1 両面共に剝離が施され、大剝離面を留めず。両側面には更に細かい調整剝離も見られる。A面基部右側、B面基部はステップ状剝離を呈し、他にも混在。筋は両面先端部に通る。両側面エッジは僅かに磨減。	菱形	
S-09-0694 JI58 整地層		30.0 14.0 5.0 2.0		C-2 A面中央に大剝離面を留め打点は左下方にあたる。B面左半分は大きなステップ状剝離を呈す。両側面に剝離が施され、先端部は筋が通る。更に両側面には細かい調整剝離が見られる。全体に丁寧なつくりである。A面右側面エッジは磨減。	先端部 菱形 基部 扇形	
S-09-0706 KP58 整地層		26.6 14.0 5.0 1.9		C-1 両面共に周辺から剝離が施され、大剝離面を留めず。剝離面は略ぼっており両面に筋が通る。B面左側面には更に細かい調整剝離が施される。A面左側面はステップ状剝離を呈し、他の部分にも混在。先端部のエッジは磨減。先端は鈍い。	菱形	
S-09-0707 KTS4 黒色砂質土層		(27.8) 13.1 4.8 (1.9)		C-2 両面とも両側面より調整剝離。A面右側面の小さな剝離はステップ状を呈す。B面先端部には上方に打点を持つ大剝離面残存。両側面とも厚折の小さいジグザグを呈す。	菱形	
S-09-0709 表探		(29.8) 12.9 4.1 (1.6)		C-2 鐵身はやや細い。B面中央に自然面を留む。A面基部中央に主要剝離面を留め、打点は左下方にあたる。両側面には更に細かい調整剝離が施される。両面左半分の剝離はステップ状を呈し、右側面にも混在。	扇形状	
S-09-0759 MD54 溝 (SF 074) 黒色土層		33.2 (22.2) 5.5 (3.8)		C-2 B面右半分に主要剝離面を留め、打点は左方にあたる。A面基部中央、B面左側の剝離はステップ状を呈す。A面、B面左側面には押圧剝離が施される。	扁平な扇形	
S-09-0768 KT54 落ち込み 黒褐色土層		(29.3) (24.2) 5.0 (3.9)		C-2 尖基の可能性あり。両面中央に大剝離面を残し、両面共平坦な面をなす。両側面より剝離が施されるが、剝離面はステップ状を呈し、両側面には更に細かい調整剝離が施される。	扁平な杏仁形	
S-09-0779 KL58		(33.9) 18.2 3.5 (3.1)		C-2 鐵身はやや長く、薄い。B面基部に大剝離面を留め打点は左上方にあたる。両側面からは剝離が施され、A面に筋が通る。B面はやや平坦な面をなす。両面とも剝離面は主にステップ状を呈する。両側面には更に細かい調整剝離が施され、鋸歯状を呈す。	扁平な扇形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) 厚 (g)	現長 幅 重量	特 徴	中央断面	備 考
S-09-0801 LC58 第9号住居址 (SA009) 埋没土層	(27.6) 13.9 5.5 (2.0)	C-2 小型。厚味を有する。先端部に最大厚を測り、基部は薄い。両面基部に大斜離面を留む。A面は主要斜離面であり、打点は右上方にある。両側面からは斜離が施され、先端部に筋が通る。基部はA面側へ細かく調整斜離している。両面にステップ状斜離が混在。	先端部 菱形 基部 不整菱形			
S-09-0853 JES5 溝 (SF079) 上層	(62.2) 17.2 7.7 (9.2)	C-2か 細長く先端で鋭いが、両側面は平行してのび、石槍形部。両面共同側面と基辺より調整斜離、比較的揃った斜離面よりなる。A面右側面、B面左側面はステップ状を呈する。A面中央の接線周辺、B面先端部、先端部の両側面のエッジには研磨が施される。両側面はシグザグ状を呈する。右側面～基辺のエッジには更に刃つばし状の細かく斜離がある。先端はA面へ反っている。	先端部 杏仁形 基部 扇形			
S-09-0874 MMS3 整地層	49.4 19.9 4.4 (3.7)	C-2 両面中央に大斜離面を留める。A面は主要斜離面を呈し、打点は左下方にあり、B面の打点は右下方にある。周辺からは調整斜離が施されており、ステップ状斜離が混在。周辺のエッジおよび両面の縁は僅かに磨滅。	扁平な杏仁形			
S-09-0983 LOS8 溝 (SF430) 黒褐色上層	(26.4) 13.3 6.9 (2.1)	C-2 A面中央に一部厚味を残すが、両面共に周辺から調整斜離が施され、大斜離面を留めず、筋は両面に通っている。A面中央およびB面左半分はステップ状斜離を呈し、他の部分にも混在。両面の縁は磨滅。	菱形			
S-09-0997 MZ 表探	(20.4) 11.8 4.5 (1.1)	C-2 小型。B面中央に大斜離面を留め、打点は左上方にあたる。周辺からは調整斜離が施され、A面に筋が通る。両面にステップ状斜離が混在。	扇形			
S-09-1000 MZ 表探	31.1 17.0 4.9 2.9	C-1 両面基部に大斜離面を留める。A面の打点は右上方にあたる。B面は主要斜離面を呈し、打点は左上方にあたる。両側面からは調整斜離が施され、先端部両面に筋が通る。基部は薄く、B面およびA面右半分には細かい斜離が施される。A面左側面はステップ状斜離を呈し、他の部分にも混在。全体に丁寧な作りである。	先端部 菱形 基部 五角形			
S-09-1120 KE67 第3層・黒色砂質土層	(24.8) 15.1 3.5 (1.5)	C-1 A面基部中央に大斜離面を留め、打点は右上方にあたる。B面中央に大きく大斜離面を留め、打点は右上方方向にあたる。B面は平坦な面をなす。周辺からの斜離によりA面に筋が通る。両側面には更に細かい調整斜離も見られる。先端はB面側へ斜離欠損。	扁平な扇形			
S-09-1141 NH56 第3層	24.9 11.3 3.7 1.1	C-2 小型。両面共に斜離が施され、大斜離面を留めず。A面両側面、B面左側面には更に細かい斜離も見られステップ状を呈する。基辺はB面側へ細かく調整斜離している。基辺右側のエッジは僅かに磨滅。	菱形			
S-09-1180 IT68 黒色土層	43.2 21.4 8.2 6.8	C-1 大型。A面基部中央、B面中央に一部大斜離面を留める。A面中央およびB面基部中央は大きなステップ状斜離を呈すが、全体に周辺からの斜離面は略ぼ揃っている。B面両側面には更に細かい斜離も見られる。B面左側面もステップ状斜離を呈す。	先端部 菱形 基部 扇形			
S-09-1193 JO64 黒褐色土層	48.0 24.5 6.7 7.0	C-1 大型。未製品か。先端に自然面残存。両面基部に大斜離面を留む。A面の打点は上方にあたる。B面は主要斜離面で打点は右上方にあたる。継身中央で最大厚を測り基部は薄い。先端部は両側面からの斜離により、A面に筋が通る。基部両側面には細かい斜離が見られるが基辺は未調整。	先端部 三角形 中央部 菱形 基部 扁平な杏仁形			
S-09-1229 LO54 黒褐色土層	(32.6) 17.3 5.4 (2.7)	C-2 B面先端部中央に大斜離面を留め、打点は左下方にあたる。周辺から斜離が施される。両面基部左半分はステップ状斜離を呈し、他の部分にも混在。筋はA面に通る。	先端部 三角形 基部 扇形			

()は残存部分の法量である。

石 鏝

図版番号	登録番号 出土地名 遺構番号 層位	法量 (mm) (g)	現長 部厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1244 NE62 暗褐色土層	(38.3) 15.0 6.9 (3.8)		C-2 両側部に大刺離面を留める。A面は主要刺離面を呈し、打点は左上方にあたる。B面の打点は右方にあたる。周辺からは刺離が施され、A面に筋が通る。B面先端部は右方から大きく刺離され、平坦面をなす。両面にステップ状刺離が混在する。基辺のエッジは僅かに磨滅。	五角形	
	S-09-1272 HC52 Pit 4	(31.7) 12.8 5.0 (2.1)		C-2 基部はやや尖がり気味である。両面共に刺離が施され、大刺離面を留めず。両側辺には更に細かい刺離が見られる。A面は磨った調整面よりなる。B面右半分の刺離はステップ状を呈し、他の部分にも混在する。筋は両面に通る。基部下端のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-1273 HC54 Pit 7	(25.3) 12.8 5.8 (1.9)		C-1 小型。鉄身中央部で最大厚を測り、先端部は厚みがあり、基部は薄い。先端部の両面に筋が通る。B面基部は大きく刺離され、A面側では細かく調整刺離が施される。B面右側辺には更に細かい刺離も見られる。A面左側辺はステップ状刺離を呈し、他の部分にも混在する。	菱形	
	S-09-1295 II・IJ 64 土塊 (SJ 183)	21.4 10.9 3.2 0.7		C-2 小型。先端は鋭く突出する。薄い。A面中央に大刺離面を留め、打点は左下方にあたる。周辺から刺離が施される。両面にステップ状刺離が混在。	杏仁形	
	S-09-1299 不明	45.0 17.8 8.2 5.8		C-2 鉄身は細長い。厚味を有する。両面共に大刺離を留めず。A面左側辺、B面先端部は大きなステップ状刺離を呈し、先端は薄いが中央に厚みを残す。他の部分にも混在。A面先端部右側および先端のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-1310 GW50 Pit 5	49.9 20.3 6.6 6.3		C-2 未製品か。大型。鉄身中央で最大幅を測る。A面に大きく大刺離面を留め打点は右方にあたる。B面右半分に主要刺離面を留め打点は左方にあたる。A面が平坦なのに対し、B面は厚味をもつ。B面左側辺からのみ刺離が施される。A面は周辺から細かく調整刺離が施される。両面にステップ状刺離が混在する。先端は磨滅。	台形状	
	S-09-1325 KP68 第5層・茶褐色砂質土層	(25.8) (16.6) 5.0 (2.4)		C-2 基部は尖がりきみで、基部は自然面を留む。両面共同側より刺離が施されるが、両面中央に大きく大刺離面を留める。刺離面は主にステップ状を呈する。基部両側辺エッジは僅かに磨滅。	六角形	
	S-09-1333 Z 第3層・黒色砂質土層	(25.4) 17.0 3.0 (1.8)		C-2 薄身。両面共同側辺に細かい刺離が施される。両面に大きく大刺離面を留め打点はA面左方、B面上方に位置する。基部両側辺および両面は一部研削が施される。	扁平な杏仁形	
	S-09-1395 KG68 土坑 (SK 410) 第3層・黒色砂質土層	21.2 11.2 4.2 1.2		C-2 小型。両面共に両側辺より刺離が施され、大刺離面を留めず。両面基部右側辺はステップ状刺離を呈し、他の部分にも混在する。先端は鈍い。	菱形	
	S-09-1423 MZ 溝 (SF 075)	(37.1) (22.9) 6.0 (5.7)		C-2 未製品か。両面共に両側辺より刺離が施され、基辺は未調整。A面左側辺、B面右側辺はステップ状刺離を呈し、他の部分にも混在する。A面基部右寄り、B面基部に大きく大刺離面を留める。B面は主要刺離面を呈し、打点は右上方に位置する。	扇形	
	S-09-1451 不明	(34.7) 16.7 7.0 (3.9)		C-2 両面共に両側辺より刺離を施すがA面先端部左寄り、B面先端部中央に大刺離面を留める。B面は主要刺離面を呈し、打点は左下方にあたる。筋はA面に発達する。A面右側辺には更に細かい調整刺離が見られる。両面の刺離は主にステップ状を呈する。	扇形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構番号 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1453 表探	26.0 15.3 4.7 1.6		C-2 小型。A面左側辺、B面右側辺、基部左側辺からの調整刻離が見られる。B面先端部左側には大きな刻離面があり、A面右側辺は折れ面である。未調整。両面基部に大刻離面を残し、B面の打点は右上方にあたる。A面の打点は左上方にあたる。両面の縁は僅かに磨滅。	先端部 菱形 基部 杏仁形	
	S-09-1457 JY64 Pit	(24.3) 16.1 3.9 (1.6)		C-1 小型。幅広く薄身。両面共に周辺より刻離が施される。B面中央に大刻離面残存。両面の刻離は主にステップ状を呈する。A面に暗線が通る。	扁平な杏仁形	
	S-09-1458 KE69 第3層・黒色砂質土層	(23.8) 10.7 3.7 (1.2)		C-2 小型。細身。両側辺より刻離を施し、先端部は筋が通る。両面基部に大刻離面を留める。B面は主要刻離面で、打点は左方にあたる。B面にステップ状刻離が混在。	先端部 菱形 基部 台形状	
	S-09-1463 KT58 茶褐色土層	25.6 10.5 2.9 0.8		C-2 小型。細身。鏡身中央で最大幅を測り、基部部はやや幅狭く、基部が直線的である。先端部は両面共右側辺に傾斜の急な細かい刻離が施され、基部はA面両側辺に細かい刻離が施され、B面は未調整。両面中央に大きく大刻離面を留める。A面は2つの刻離面よりなり、先端部に横方向の縁がある。B面は下方に打点をもつ主要刻離面よりなる。軸はB面側へ彎曲。A面先端部は大きなステップ状刻離を呈す。	先端部 扁平な平行四 辺形 基部 台形状	
PL-49-1	S-09-1135 不明	(29.7) 13.1 4.6 (1.8)		D-2 両端欠損。両面とも両側辺に調整刻離。両面とも中央に大刻離面残存。A面中央に右方向に打点をもつ主要刻離面残存。B面先端部右寄りに大刻離面、中央には大きな刻離面残存。両側辺とも細かなジグザグを呈する。	先端部 菱形 基部 六角形	
PL-49-2	S-09-0003 MZ 表探	29.5 15.5 4.3 (1.8)		D-1 両面ともうすい調整刻離を施す。A面中央に筋が通る。B面中央に大刻離面残存。A面左側辺、B面左側辺に細かな調整を施し、側辺の刃先に厚みをもたせる。両縁は磨滅。	扇形	
PL-49-3	S-09-0330 表探	31.4 13.6 3.6 1.5		D-2 両面ともうすい調整刻離を施す。A面の刻離面は揃っている。B面は両側辺沿いのみ刻離が施され、ステップ状を呈す。中央には大刻離面残存。両側辺のエッジはうすく鋭い。	扇形	
PL-49-4	S-09-0021 GN54・55 茶褐色粘土層	30.3 14.6 3.4 1.4		D-2 両面にくりかえし調整刻離。A面右側辺、B面基部右側辺はうすいステップ状刻離面を呈すが、刻離面は揃っている。	扁平な菱形	
PL-49-5	S-09-0380 KX62 Pit 第3層	29.3 11.8 4.4 1.2		D-2 両面とも両側辺より調整刻離。A面中央に右方向に打点をもつ主要刻離面が残る。B面基部両側辺ともステップ状刻離面を呈し、中央にわずかに大刻離面残存し、厚みを残す。先端部両面とも右側辺に小さな調整刻離があり両側辺エッジはわずかに厚みをもつ。	扇形	
PL-49-6	S-09-1145 表探	(21.8) 12.5 3.9 (1.1)		D-1 両端欠損。両面両側辺より調整刻離。A面中央に筋が通る。B面左側辺はうすいステップ状を呈す。先端部両側辺のエッジは鋭いが、基部のエッジは磨滅している。	扇形	
PL-49-7	S-09-1090 IX67 溝 (SF 079) 黒色砂質土層	(22.6) 10.1 2.4 (0.6)		D-1 細身で小型。両面とも大刻離面が残存し、両側辺沿いのみ調整刻離。A面右側辺はステップ状を呈し、B面両側辺には、それは混在する。	先端部 菱形 基部 扁平な六角形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡












図版番号	登録番号 出土地点 標名 (遺物番号) 層位	検量 (mm) 重量 (g)	現長 幅 厚	特 徴	中央断面	備 考
PL.49-8	S-09-0360 MZ	22.1 13.1 4.0 1.1		D-2 小型。A面、B面先端部は大刺離面よりなり両側辺沿いのみ調整刺離。B面基部は刺離してうすくつくれるが、ステップ状を呈し、中央部にフレイクの厚味を残す。A面は主要刺離面であり、右方向に打点あり。右側辺は細かなジグザグを呈す。	不整五角形	
PL.49-9	S-09-0750 JU66 整地層	21.2 10.9 2.8 0.6		D-1 小型。両面とも大刺離面より成り、A面左側は打ちきにより厚みをとり両側辺沿いには細かな調整あり。B面は主要刺離面であり、右下方に打点あり。B面先端部左側辺、基部両側辺に細かな調整を残す。	扁平な三角形	
PL.49-10	S-09-1373 JS64 溝 (SF 081) 黒褐色土層	(38.6) 16.4 5.2 (2.9)		D-2 比較的幅広い楕圓形。両端わずかに欠損。両面にくりかえし調整刺離を施し整形。B面中央部はステップ状を呈し、大刺離面残存。両側辺ともエッジはうすく鋭い。	両端部 菱形 中央部 五角形	
PL.49-11	S-09-0842 JU58 茶褐色土層	35.8 17.5 3.9 2.0		D-2 先端は突出する。基部によくらみをもつ。両面ともうすく丁寧な調整刺離。形は整っている。B面基部、A面の一部は押し刺離が残される。B面基部右側辺、A面中央はステップ状を呈し、B面中央に右方向に打点をもつ主要刺離面が残存。	扁平な菱形	
PL.49-12	S-09-0353 LB68 土坑 (SK 288) 第3層	(30.8) 13.9 3.7 (2.0)		D-2 長さの割合に幅広である。A面大半は調整刺離によりうすくつくれるが中央に大刺離面残存。B面は大半が左下方に打点をもつ大刺離面であり、周辺にのみ調整刺離。A面はステップ状刺離面が多い。	扁平な菱形	
PL.49-13 PL.61-9	S-09-0505 LE66 第6号土器堆積 (SL 305) 下部	36.3 12.7 2.9 1.3		D-2 幅狭でうすい形の整った楕圓形。両面両側辺より調整刺離を施す。A面中央には左方に打点をもつ大刺離面残存。B面中央に主要刺離面が残存、右方向に打点あり。A面両側辺、B面左側辺中央、左側辺はステップ状を呈す。	扁平	
PL.49-14	S-09-0046 MQ64 黒褐色礫混合土層	(35.5) 12.6 4.7 (1.9)		D-2 両端わずかに欠損。幅狭で厚い。両面にくりかえし調整刺離を施す。刺離面は比較的揃っている。両側辺とも細かなジグザグを呈す。	菱形	
PL.49-15	S-09-0181 KI65 第4層・下部黒色砂土層	31.0 13.4 3.6 1.4		D-2 両面両側辺より調整刺離、刺離面は不揃いである。A面先端部中央、B面中央に大刺離面残存。打点はA面では右下方、B面では右上方にある。A面右側辺、基部左側辺、B面基部両側辺はステップ状を呈する。先端部の両側辺とも鋭角状を呈し、その凸部のエッジには研削が残される。	扁平な扇形	
PL.49-16	S-09-0334 MK63 黒褐色礫混合土層	(33.9) 11.6 3.8 (1.4)		D-2 幅狭の楕圓形。両面にくりかえし調整刺離。刺離面は揃っている。A面基部両側辺ともステップ状を呈し、B面左側辺にもわずかに混在する。	菱形	
PL.49-17	S-09-0461 LC60 第3層	32.9 12.4 3.4 1.3		D-2 幅狭で楕圓形を呈す。両面、両側辺より調整刺離。両面とも中央に大刺離面残存。B面は主要刺離面であり右方向に打点あり。A面左側辺、B面左側辺はステップ状を呈す。	杏仁形	
PL.49-18	S-09-1199 IO64 砂礫混黒色土層	(30.5) 11.8 4.4 (1.3)		D-2 幅狭で楕圓形を呈す。両端欠損。A面両側辺、B面右側辺に調整刺離。両面共右側辺はステップ状を呈す。B面中央には一部自然面残存し、先端部左側辺には調整刺離は施されずフレイクの調整面のままである。A面先端部中央にも僅かに大刺離面残存。	杏仁形	

() は残存部分の検量である。




図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層	法 量 (mm) 厚 (g)	現長 幅 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.49-19	S-09-0538 IT64 第3層・黒色砂質土層	42.0 15.5 5.8 3.7		D-2 基部にくらみを有する。両面両側辺より調整刺離。A面両側辺、B面左側辺はステップ状を呈す。更に両面両側辺沿いに細かな調整が施され、右側辺沿いの細かな打ち欠きも同様ステップ状を呈す。A面中央に大刺離面残存。両側辺とも細かなジグザグな絞線を呈す。先端は鈍い。	杏仁形	
PL.49-20	S-09-0343 不明	(43.5) 15.3 5.1 (3.2)		D-2 柳葉形を呈す。先端欠損。両面調整刺離。両面、両側辺とも部分的にステップ状を呈す。	杏仁形	
PL.49-21	S-09-0173 MZ	46.6 13.3 5.1 3.2		D-2 典型的な柳葉形。両端は鋭い。両面にくりかえし調整刺離を施す。A面中央には初段階の調整面が残存。B面基部中央には大刺離面が残存するが両側辺とも揃った刺離面を呈し、右側辺はステップ状を呈す。長軸に於いてA面側にわずかに彎曲。	両端部 葉形 中央部 杏仁形	
PL.49-22	S-09-0171 N153 褐色粘質土層	(42.0) 13.8 3.9 (1.9)		D-2 基部にくらみをもつ。柳葉形。基部欠損。両面両側辺より調整刺離。基部中央には大刺離面残存。両面とも基部両側辺は、ステップ状を呈す。両側辺のエッジは鋭い。	先端部 葉形 基部 杏仁形	
PL.49-23	S-09-0251 不明	(39.8) 15.3 4.7 (2.4)		D-1 比較的幅狭。両側辺はくの字形に屈曲し、直線的にのびる。両面とも両側辺より調整刺離を施し、刺離面は揃っておりA面では並列している。両面とも中央に筋が通る。両側辺とも振幅の幅はごくわずかではあるがジグザグを呈し、エッジはうすく鋭い。基部両側辺のエッジは磨滅している。	菱形	
PL.49-24	S-09-0376 K166 第3層・黒色砂質土層・Pv2	38.0 13.7 4.9 2.1		D-2 比較的幅狭の基部にくらみをもつ柳葉形。両面にくりかえし調整刺離。B面中央には筋が通る。B面左側辺はステップ状を呈し、又先端部両側辺沿いに細かな調整が施されるがこれもステップ状を呈す。	扇形	
PL.49-25	S-09-0405 表採	34.0 12.3 4.7 2.0		D-2 柳葉形を呈す。両面とも両側辺より調整刺離。A面先端部中央に大刺離面残存。B面中央部には初段階の調整面残存。A面両側辺中央はステップ状を呈し対応する。B面右側辺にもわずかにみられる。両側辺ともジグザグを呈す。	杏仁形	
PL.49-26	S-09-0695 JQ58 整地層	(36.9) 14.4 5.1 (2.4)		D-2 比較的幅狭の柳葉形。両端わずかに欠損。両面とも調整刺離を施すが、A面は刺離面が不揃いである。A面は全体にステップ状刺離面が多く、A面両側辺沿い、B面両側辺中央の小さな調整刺離はステップ状を呈す。左側辺は小さなジグザグを呈し鋭いが、右側辺は両面にステップ状を呈し、エッジは厚みをもつ。	扇形	
PL.49-27	S-09-0911 JU62 黒褐色土層	34.1 13.5 3.1 1.8		D-2 基部にくらみをもつ柳葉形。両端わずかに欠損。両面にくりかえし調整刺離。B面中央部は両側辺ともステップ状を呈し、中央に大刺離面がわずかに残存。	扇形	
PL.49-28	S-09-0364 ML60 溝 (SF 074) 褐色砂層	(40.3) 18.8 4.0 (2.7)		D-2 幅広くうすい。先端欠損。左側辺は基部でわずかに内彎し、E-2タイプの形を呈す。A面中央には初段階のあらひ打ち欠き面が残存。B面は基部に打点をもつ主要刺離面よりなる。両面とも両側辺沿いに調整刺離を施すのみである。A面先端部両側辺とも押圧刺離によると思われるが、大半ステップ状を呈す。	扁平な扇形	
PL.49-29	S-09-1321 K169 第3層・黒色砂質土層	(37.4) 19.8 5.0 (3.5)		D-2 幅広くうすい。先端部欠損。両面ともうすい押圧刺離による調整刺離。両面中央に鋭い筋が通る。A面中央部右寄りに大刺離面残存。A面中央部、基部右側辺、B面先端部右側辺にはうすいステップ状刺離面がみられるが、刺離面は揃っている。	扁平な菱形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡








図版番号	登録番号 出土地名 (遺跡番号) 層位	法量 (mm) 重量 (g)	現長 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0031 KC68 第4層・褐色土層上面	(30.2) 12.5 4.3 (1.8)		D-2 細長い楕圆形、基部欠損。両面に調整刻線を施し比較的揃った刻線面よりなる。両面とも右側辺はステップ状を呈す。両側辺のエッジは鋭い。B面先端に一部分研磨痕あり。その下方に一部自然面残存。	杏仁形	
	S-09-0036 KN69 表探	(45.6) 16.2 6.6 (5.0)		D-2 楕身の大型。両面にくりかえし調整刻線。両面とも中央に筋が通る。刻線面は並列している。B面両側辺沿いの小さな調整刻線はステップ状を呈し、両側辺共に鋭く、ジグザグを呈す。	菱形	
	S-09-0040 KY60 第4層・上面	(44.6) 16.5 4.4 (3.1)		D-2 両側辺とも基部にくらみをもち、右側辺の逆刺部はやや内張り気味で、左側辺は円みをもつ。両面とも両側辺より調整刻線を施し、両面とも先端部中央に筋が通る。B面中央に右下方に打点をもつ主要刻線面残存。A面基部中央は深いステップ状を呈し、一部に自然面残存。長軸方向でB面側へ彎曲する。	先端部 菱形 基部 三角形	
	S-09-0044 MO62 黒褐色砂混合土層	(42.6) 15.1 5.6 (3.5)		D-2 両側辺ともくの字形に屈曲してのびる端整な形。両端欠損、両面とも両側辺より調整刻線を施す。A面先端部、B面中央部に大刻線面残存。A面は主要刻線面より左方に打点をもつ。B面大刻線面の右側には自然面残存。A面両側辺の調整刻線、B面両側辺沿いの細かな調整刻線は殆どステップ状を呈す。	菱形	表面は白色化する。 
	S-09-0085 KZ 第3層・暗褐色砂質土層	(29.4) 11.1 5.5 (1.9)		D-2 先端部欠損。細身で厚みあり。両面とも両側辺より調整刻線を施す。A面、B面とも基部左側辺の細かな調整刻線はステップ状を呈す。先端部はあらく、奥行きは狭く急傾斜にわたる調整刻線である。石鏡の可能性あり。基部のエッジは磨減がみられる。	杏仁形	石鏡か 
	S-09-0090 LZ 表探	(41.3) 22.6 8.1 (6.4)		D-2 未製品か。幅広で不整形。両面とも両側辺よりあるいは調整刻線を施して成形。B面基部には右上方に打点をもつ主要刻線面残存。B面先端に小さく自然面残存。両端のエッジに磨減あり。	先端部 菱形 基部 扁平な半円形	
	S-09-0096 KH69 第3層・黒色砂質土層	(30.5) 13.8 8.8 (3.1)		D-2 小型。厚みあり。両面ともうすい調整刻線を施す。A面両側辺、B面右側辺は並列的である。B面左側辺は深く大きいステップ状を呈し、厚みが残存。A面中央両側辺もうすいステップ状を呈す。両面とも中央に小さく大刻線面残存。左側辺は屈折の小さいジグザグを呈す。	不整杏仁形	
	S-09-0106 KLZ 表探	(32.8) 19.0 5.9 (2.9)		D-2か 大型の基部破片。両面にくりかえし調整刻線。両面中央に筋が通る。両面ともうすいステップ状刻線面が混在するが、揃った刻線面が並列している。両側辺とも屈折の小さなジグザグを呈し、エッジは鋭い。基部よりの両側辺のエッジは磨減。	菱形	
	S-09-0111 MK63 茶褐色砂質土層	45.7 13.3 5.3 3.4		D-2 楕状。先端部にくりかえし調整刻線。基部にはあらい刻線を施す。A面基部はフレイクの調整面より成り、B面は右下方に打点をもつ主要刻線面よりなる。A面先端部中央には初段階の刻線で筋が通り、両面両側辺沿いに細かな調整刻線を施す。先端部両側辺は細かなジグザグを呈す。基部は両面ともステップ状刻線面である。先端部はややA面側に反り気味である。	先端部 扇形 基部 台形状	
	S-09-0128 不明	(38.3) 12.5 4.5 (2.0)		D-2 比較的楕状。両面、両側辺より調整刻線。両面とも中央部ではステップ状を呈し、中央に大刻線面残存。	菱形	
	S-09-0133 KC68 第3層・黒色砂質土層	32.3 14.3 6.6 2.3		D-2 両面にくりかえし調整刻線を施すが、両面とも右側辺は深いステップ状を呈し、全体として不整形である。先端部右側辺は外彎気味。他は直線的にのびる。	菱形	

()は残存部分の法量である。







図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号)位	法量 (mm)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0135 KP66 第5層	(33.0) 15.5 5.0 (2.9)	D-2 両端欠損。両面にくりかえし調整刻離。両面とも中央に筋が通る。刻離面は揃っている。うすいステップ状刻離面も混在する。両側面とも小さいゾグザグを呈する。	変形		
	S-09-0167 KJ63 第3層・褐色砂質土層	(38.9) 12.3 4.7 (2.2)	D-2 幅状。両面にくりかえし調整刻離。A面中央に鈍い筋が通る。A面側面沿いの細かな調整はステップ状を呈す。左側面は柳葉形状を呈し、右側面はくの字形に屈曲する。先端より刃に最大幅があり、石鏡としては不整形である。	先端部 扇形 基部 変形		石鏡の可能性あり。
	S-09-0183 NI52 第4層・褐色粘質土層	(30.1) 11.6 4.1 (1.5)	D-2 幅状。両面とも両側面より調整刻離。両面とも基部中央に大刻離面残存。B面左側面はステップ状を呈す。両側面とも屈折の小さいゾグザグを呈する。	先端部 変形 基部 扇形		
	S-09-0185 MK58 黒色土層	27.6 13.8 4.2 1.3	D-2 小型。基部に最大幅あり。両面両側面より調整刻離。B面先端部はうすくつくられるが、B面基部中央に大刻離面残存。両面ともステップ状刻離面よりなる。	扇形		
	S-09-0190 KH65 第3層・黒色土層	(27.3) 18.2 3.9 (2.0)	D-2 S-09-0353と同一形態。幅広くうすい。両面に押圧刻離が施される。両側面のエッジはうすく鋭い。	扁平な変形		
	S-09-0191 KT60 第3層	(44.7) 14.5 5.5 (3.3)	D-2 先端部が長く直線的に外下方へのびる。基部に最大幅あり、整った形をしている。両面にくりかえし調整刻離が施され、刻離面は揃っている。両面に中央に筋が通る。B面中央に大刻離面残存。両面両側面ともうすいステップ状刻離面が多い。両側面とも逆側の部分までエッジに研磨が施され丸くなり、一部研磨がB面右側面にまで至る。	変形		
	S-09-0214 表採	(57.2) 18.7 6.6 (6.8)	D-2 未製品か。大型。両面とも両側面より調整刻離が施される。A面中央に大刻離面残存し、その右側に初段階の大きなステップ状刻離面あり。B面両端に小さく大刻離面残存。B面右側面、A面下半部はうすいステップ状刻離面を呈す。	先端部 扇形 基部 杏仁形		
	S-09-0225 不明	(28.3) 14.9 4.8 (2.0)	D-2 基端欠損。両面くりかえし調整刻離。両面とも中央に筋が通る。両面ともステップ状刻離面が多く混じり、B面左側面沿いの刻離は実行は短い深い。表面の磨減あり。	変形		
	S-09-0233 MM62 黒色土層	43.6 15.8 4.3 3.0	D-2 左側面は柳葉形を呈し、中央でふくらみを有し、右側面は先端より刃でわずかに狭りが入る。(先端より刃に一番ふくらみをもつ) 両端は鈍い。両面両側面より調整刻離が施され、両面とも右側面基部は刻離面が揃っているが、先端部左側面はステップ状を呈す。A面先端部中央、B面中央に大刻離面残存。基部両側面に研磨が施される。	先端部 三角形 基部 不整四辺形		
	S-09-0238 KY61 土坑 (SK 259) 第3層・黒色砂質土層	39.1 15.2 7.3 4.1	D-2 未製品か。両面にくりかえし調整刻離するが、両面両側面ともステップ状刻離面が多く厚みが残る。B面先端部中央に大刻離面残存。A面基部に自然面あり。	杏仁形		
	S-09-0240 KG65 第3層・黒色砂質土層	37.1 12.6 5.3 2.3	D-1 幅状。先端部は長く、基部に最大幅あり。両面にくりかえし調整刻離。両面とも中央に筋が通る。両側面の凸部両端、両平面の接線は全て磨減。	変形		

()は残存部分の法量である。

石 鏡


図版番号	登録番号 出土地 遺構番号 層	法 量 (mm)	現 幅 厚 重 量 (g)	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0248 MK58 第9号土器堆積 (SL 308) 黒色砂質土層	35.0 15.4 3.6 1.7		D-2 両端は鋭く、中央で膨大になる。得身である。長軸でB面側へ大きく彎曲する。A面先端部、基部左側辺、B面両端部及び右側辺にわずかに調整刻線を施す。A面基部右側、B面中央に大きく、大刻線面残存。B面は主要刻線面であり先端寄り左上方に打点あり。	扁平な扇形	
	S-09-0285 MK59 第9号土器堆積 (SL 308)	(33.8) 12.2 5.0 (1.7)		D-2 先端は細く鋭く、基部に最大幅あり。両面両側辺より調整刻線。A面中央に筋が通る。A面中央部に大刻線面残存。A面基部、B面右側辺下半部又はステップ状刻線面よりなる。	菱形	
	S-09-0297 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(35.9) 15.1 4.3 (2.7)		D-2 楕圓形を呈す。先端部欠損。両面ともうすい調整刻線が施される。ステップ状刻線面も混じる。両側辺ともカーブのゆるいジグザグを呈す。両側辺の逆斜部分及び基部のエッジは磨滅。	扇形	
	S-09-0301 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層	37.7 14.7 6.3 2.9		D-2 両面両側辺より調整刻線。両面とも中央部にわずかに大刻線面残存。A面中央部、B面右側辺中央部はステップ状を呈し、A面左側辺では特に深いステップ状刻線面である。基部に最大厚あり。B面中央に筋が通る。基部にわずかに自然面残存。	扇形	
	S-09-0314 MI58 溝 (SF 074) 黒色土層	(38.6) 18.1 4.6 (3.0)		D-2 中央部に最大幅があり、幅広いが先端は特に鋭い整った形態。両面ともうすい調整刻線。両面とも中央に不明瞭な筋が通る。A面右側辺、先端部左側辺沿いの調整、B面右側辺中央部、B面先端部左側辺沿いの細かな調整は殆どステップ状を呈す。両側辺とも細かなジグザグを呈し、エッジは鋭い。	菱形	
	S-09-0317 KU63 第3層	(22.3) 12.7 4.0 (1.2)		D-2 基部破片。両面とも調整刻線。A面左側辺の刻線面は長く、右側辺は短かく、ステップ状を呈す。A面右側辺、B面周縁の細かな打ち欠きも又ステップ状を呈す。	不整四辺形	
	S-09-0318 MI56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(29.6) 11.2 4.3 (1.5)		D-2 扁状。両面両側辺より調整刻線。両面共先端部中央に筋が通る。両側辺ともジグザグを呈す。	菱形	
	S-09-0321 KP60 第3層・褐色粘土層上層	(23.6) 16.7 3.1 (1.4)		D-1 基部欠損。両面とも周縁にのみ調整刻線を施す。中央部には大刻線面が大きく残存し、A面は主要刻線面であり、右下方に打点あり。A面は両側辺ともステップ状を呈す。右側辺は深く、先端部では内彎する。	扁平な扇形	
	S-09-0325 表探	(21.3) 14.7 3.2 (1.0)		D-2 幅広い小型。先端部B面へ折れ欠損。両面ともうすく調整刻線。A面両側辺、B面左側辺に細かな調整刻線を施す。両面とも左側辺は細かなステップ状刻線面を呈す。	扁平な菱形	
	S-09-0331 MK59 溝 (SF 074) 褐色砂層	(39.8) 12.8 6.0 (2.6)		D-1 扁状。両面両側辺より調整刻線。A面中央部、B面中央部右側辺はステップ状刻線面を呈し、A面では大刻線面残存。B面では深いステップ状を呈し、厚みが残る。右側辺はジグザグを呈す。B面両端部は中央に筋が通る。	扇形	
	S-09-0333 KP65 第2層	26.2 12.0 1.3 1.3		D-2 小型。両面両側辺より調整刻線。A面先端部、B面先端部左側辺はステップ状を呈し、フレイクの厚みが残る。A面基部、B面中央部には大刻線面残存。基部のエッジは磨滅。	五角形	

()は残存部分の法量である。












図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) 現 幅 厚 重 量 (g)	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0347 MJ59 溝 (SF 074) 褐色砂層	(28.3) 14.0 3.2 (1.5)	D-2 両端欠損。両面両側辺より調整刻離。両面とも中央に大刻離面残存。B面両側辺ともステップ状を呈す。	扁平な杏仁形	
	S-09-0354 表探	(28.9) 10.9 3.5 (1.1)	D-1 基端欠損。幅狭で先端は鋭い。両面にくりかえし調整刻離。	杏仁形	
	S-09-0367 MD62 溝 (SF 074) 褐色砂層	(27.8) 14.7 5.0 (1.6)	D-1 基端欠損。両側辺ともくの字形に凹曲し略直線的のびる。両側辺中央に最大幅、最大厚あり。右側辺の逆刺はやや円みをもつ。両面両側辺より調整刻離。両面とも右側辺はうすいステップ状を呈す。B面先端部左側には大刻離面残存。	菱形	
	S-09-0370 MK59 第9号土器堆積 (SL 308)	25.7 12.8 4.1 1.2	D-2 左側辺は先端部でよくらみ、右側辺は中央でよくらみをもち、全体として不整形である。両面両側辺より調整刻離。A面中央右側辺はステップ状を呈し、厚みが残る。B面中央部左寄りに大刻離面残存。	先端部 菱形 基部 扇形	
	S-09-0374 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(42.1) 13.1 5.1 (2.0)	D-2 基端欠損。幅狭の大型。先端部は細長くうすく鋭い。側辺は直線的のびる。両面にくりかえし調整刻離。B面基部は揃った刻離面より成るが、先端部は不揃いでステップ状も混じる。A面左側辺、基部右側辺はステップ状を呈する。タイプ不明S-09-1205と先端部の形態が類似。	先端部 菱形 基部 菱形	
	S-09-0393 LA64 土坑 (SK 270)	(27.4) 9.3 3.8 (0.9)	D-2 基端欠損。幅狭。両面にくりかえし調整刻離。A面先端部両側辺、B面左側辺中央部に比較深いステップ状刻離面あり。両面とも中央に溝が通る。両側辺とも逆刺から基端にかけてエッジが磨滅。	菱形	
	S-09-0417 MZ 表探	(35.6) 15.6 5.5 (3.0)	D-2 両側辺共先端部でよくらみをもつ。先端欠損。両面両側辺より調整刻離。両面とも基部右側辺はステップ状を呈す。左側辺は両面とも急傾斜面をなす。先端部両側辺はジグザグを呈す。	杏仁形	
	S-09-0419 MZ 表探	(28.6) 12.6 3.1 (1.2)	D-2 幅狭でうすい。先端欠損。両面とも両側辺より調整刻離。B面中央には大きく上方に打点をもつ主要刻離面残存。長軸でB面側へやや凹曲。	扁平な扇形	
	S-09-0433 KZ 表探	(31.2) 16.7 4.4 (2.2)	D-2 S-09-0898と同一形態。先端欠損。両面に調整刻離。B面先端部は大きなステップ状刻離面よりなる。両側辺、両端、両面の刻離面の縁は磨滅。先端部のエッジの磨滅が特に著しい。	杏仁形	
	S-09-0446 KZ 表探	(34.1) 16.4 4.6 (2.6)	D-2 柳葉形。先端、基部欠損、両面にうすい調整刻離。A面には揃った刻離面が並列的に並ぶが、B面では両側辺ともステップ状を呈し、中央に大刻離面残存。A面基部中央も深いステップ状刻離面を呈す。両側辺のエッジは鋭い。先端でA面側へやや反っている。	扇形	
	S-09-0451 表探	(27.8) 12.5 4.9 (1.5)	D-1 両端欠損。比較的幅狭で厚味あり。両面両側辺に調整刻離。A面基部両側辺、B面右側辺はステップ状を呈し、中央部に厚みが残る。	菱形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡







図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層	法 量 (mm)	現 長 幅 重 量 (g)	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0454 表採	(24.3) 13.4 3.7 (1.4)		D-1 両端欠損。比較的幅状。両面両側より調整刻離。左側辺は両面ともステップ状を呈し、不揃いである。	杏仁形	
	S-09-0484 KZ	(39.2) 13.3 6.2 (3.0)		D-1 先端部、基端欠損。細身で大型。厚味あり。両面に調整刻離。両面とも中央に筋が通る。A面はB面より中高である。両面とも剝離面は揃っており、並列的である。両側辺ともジグザグを呈す。逆刺より下方は直線的にのびるが、上方は目の大きな歯歯状を呈す。逆刺より下方のエッジは磨滅。	菱形	
	S-09-0494 KZ	(23.6) (18.0) 6.2 (2.4)		D 基部破片。両面両側面に調整刻離。A面中央に筋が通り、B面中央には大剝離面残存。両面右側辺はステップ状を呈す。	扇形	
	S-09-0508 MN62-MR62	(30.5) 20.1 6.3 (3.7)		D-2 楕円タイプ。先端部両側辺はふくらみをもってあり、逆刺は円く、基部は直線的にのびる。先端欠損。両面両側より調整刻離。両面両側ともステップ状を呈し、A面中央に大剝離面、B面中央に切段階の調整刻離面残存。両側辺ともエッジは鋭い。	杏仁形	
	S-09-0518 MS62 第9号土器堆積 (SL308)	(35.6) 12.7 4.8 (1.9)		D-2 幅状。先端欠損。両面に調整刻離。ステップ状剝離面も混じる。両側辺のエッジは鋭い。	菱形	
	S-09-0526 MZ 溝 (SF075)	(36.2) 13.1 5.6 (2.2)		D-2 幅状で厚味あり。逆刺は円味をもつが、両側辺は略直線的にのびる。両面に調整刻離。両面とも中央に筋が通る。両面ともステップ状剝離面があるが、比較的並列的である。	菱形	
	S-09-0529 MR62 溝 (SF074) 灰褐色砂層	(31.8) 17.6 6.2 (3.8)		D 未製品か。両面とも両側より調整刻離。側辺の打ち欠きは両面ともステップ状を呈す。左側辺はジグザグを呈す。	扇形	
	S-09-0533 MQ52-53 溝 (SF074) 青灰色砂層	(31.7) 13.4 6.2 (2.4)		D-2 整った楕圓形。基部欠損。両面に調整刻離。両面とも先端部中央に筋が通る。両面とも剝離面は揃っており、並列的である。両側辺ともやや不規則だが、小さいジグザグを呈す。エッジは鋭い。	先端部 菱形 中央部 杏仁形	
	S-09-0559 IR62 黒褐色置土層	(33.3) 13.9 3.7 (1.4)		D-2 端正な形態。薄身である。先端部両側辺ともややふくらみ味にのび逆刺より下方は直線的である。両面ともすべり調整刻離。押圧刻離によると思われる。剝離面は比較的揃っており、並列的である。両面中央に浅い筋が通る。両側辺のエッジはうすく鋭い。	扁平な菱形	
	S-09-0561 MH64 溝 (SF075)	(36.5) 18.8 6.4 (3.7)		D-2 楕円。先端は細く鋭く、両側辺中央部で円く彎曲した、端正な形態。基部欠損。両面とも両側より調整刻離。しかし大平がステップ状を呈し、中央部に厚みが残る。両側辺のエッジはうすく鋭い。わずかにジグザグを呈す。	菱形	
	S-09-0563 IV62 第1層埋込層-褐色置土層	(34.6) 10.1 6.4 (1.9)		D-1 幅状で厚味あり。両面に調整刻離。B面左側辺、A面中央部はステップ状を呈し、中央部には瘤状に厚みが残存。左側辺はジグザグを呈す。両側辺ともエッジは鋭い。	扇形	

()は残存部分の法量である。







図版番号	登録番号 出土地点 層名 (遺構番号) 位	法量 (mm) 厚 (g)	現長 幅 厚	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0664 JA64 整地層・褐色硬泥土層	33.3 15.5 4.3 1.9		D-2 幅広くうすい。比較的短整な形。先端は鋭い。両側辺中央よりよくらみをもち、基部両側辺は略直線的にのび基端は円い。両面にくりかえし調整刻離。A面の両側辺沿いの小さな調整、B面左側辺はステップ状を呈す。	菱形	
	S-09-0673 IX68 溝 (SF 079) 黒色砂質土層	(33.1) 15.0 3.4 (1.6)		D-2 薄身である。先端は突出し、右側辺は先端部よりよくらみ、左側辺は中央よりよくらみをもち、不揃いである。両面両側辺に調整刻離。A面右側辺、B面基部両側辺はステップ状を呈し、両面とも中央に大刻離面残存。B面は右上方に打点をもつ主要刻離面である。	三角形	
	S-09-0579 MJ57 黒色土層	29.3 11.8 5.1 2.0		D-2 小型。両面両側辺より調整刻離。A面先端部中央、B面中央に大刻離面あり。中央部は両面両側辺ともステップ状を呈す。先端(〜3mm)に石鏡として使用した回転痕あり。両側辺のエッジはジグザグを呈す。基端にわずかに自然面残存。	六角形	先端に回転痕あり(先端〜3mm)。 
	S-09-0600 MH64 黒色ガラス層	32.8 10.0 4.2 1.3		D-1 細身。両面両側辺に調整刻離。両面とも中央には大刻離面残存。A面は主要刻離面であり、左中央に打点をもち、中央部は打点の一部が残り、左側辺はジグザグを呈す。長軸でB面側へ彎曲。	台形	
	S-09-0627 表採	36.0 16.8 5.5 3.1		D-1 幅広。長軸方向で左側へ彎曲。B面全体はあらい刻離。A面はその後、両側辺に細かな急傾斜面を呈する調整刻離を跨す。両側辺ともエッジの角が大きくなる。B面には施されず。A面中央、B面基部には大刻離面残存。	台形状	
PL.53-8	S-09-0633 JB64 溝 (SF 079) 黒色砂質土層	33.2 10.5 4.8 1.5		D-2 細狭の棒葉形。先端は鈍い。両面両側辺より調整刻離。両面とも中央に筋が通る。A面左側辺のみその後細かな調整刻離。左側辺はジグザグを呈す。先端部は石鏡として使用した回転痕あり。先端部の形は変形している。	菱形	先端部に回転痕あり(〜12mm)。 
	S-09-0646 LX54 整地層	(32.4) 16.8 5.0 (2.5)		D-2 基部によくらみをもつ比較的幅広のもの。両端欠損。両面に押圧刻離による調整刻離が施される。刻離面は揃っており並列的。両側辺のエッジはうすく鋭い。	菱形	
	S-09-0651 JE54 整地層	(43.8) 15.5 5.5 (3.9)		D-2 大型。幅狭。両側辺の逆刺は角はとれているが、両側辺とも直線的にのびる短整な形。両端欠損。両面に調整刻離。両面とも中央に不明瞭な筋が通る。両面とも揃った刻離面が並列的に並ぶ。逆刺より下方の両側辺のエッジは丸く磨滅。	菱形	磨滅のあるサスカイト 
	S-09-0679 JY62 整地層	(34.4) 15.5 5.4 (2.6)		D-2 基部に最大幅あり。先端部欠損。両面に調整刻離。A面は全体にステップ状刻離面よりなり、B面中央両側辺ともステップ状を呈す。	菱形	
	S-09-0680 JY62 整地層	(34.0) 17.9 4.5 (3.0)		D-2 先端欠損。比較的幅広。両面にうすい調整刻離後A面両側辺、B面左側辺には細かな調整刻離。これは大半がステップ状を呈す。B面基部右側辺は比較的深いステップ状を呈し、中央には大刻離面残存。	杏仁形	
	S-09-0714 MF50 黒褐色硬泥土層	36.3 16.7 5.5 2.9		D-2 基部中央によくらみをもつ。両側辺とも凹凸あり。両面とも両側辺沿いに調整刻離。両面中央に大きく大刻離面残存。B面は基端に打点をもつ大刻離面、A面も基端に打点をもつ主要刻離面である。A面基部に打点残存。先端のエッジは磨滅。	先端部 五角形 基部 六角形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (通構番号)位 層	法 量 (mm)	規 長 幅 厚 重 量 (g)	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0720 MJ57 溝 (SF 074) 褐色砂層	(29.7)	18.2 3.6 (2.1)	D-1 薄身。両端欠損。両面両側辺よりうすい調整刻離。 A面中央に一部、B面に大きく大刻離面残存。B面は上 方に打点のある主要刻離面である。A面両側辺ともステ ップ状を呈する。両側辺はうすく鋭い。	扁平な盾形	
	S-09-0724 不明	(22.4)	13.7 3.6 (1.3)	D-2 小型。先端部欠損。左側辺は上方より縦方向に刻 離欠損。基部にふくらみあり。両面ともうすい調整刻離。	菱形	
	S-09-0726 KP58	(43.7)	19.3 5.8 (4.8)	D-2 大型。先端からA面を通り左側辺へぬけて縦方向 に刻離欠損。両面に調整刻離。A面右側辺、B面両側辺 ともステップ状を呈し、中央部に厚みを残す。基部は磨 減。	菱形	
	S-09-0741 J158 床土層・整地面	(32.6)	13.4 3.7 (1.8)	D-2 両面に調整刻離。両面とも中央に筋が通る。両面 ともステップ状刻離面も存在。先端部左側辺からB面に かけて研磨。両側辺ともエッジはうすく鋭い。	菱形	
	S-09-0742 JE54 床土層・整地面	(33.4)	12.2 5.3 (1.5)	D-2 幅状。基部両側辺はやや内彎気味に下る。両面両 側辺よりあらい調整刻離。A面基部両側辺、B面右側辺 はステップ状を呈す。中央部に厚みが残存。両側辺とも ジグザグを呈し、エッジは鋭い。先端のみ両側辺のエッジ に磨減あり。その部分のみ小さな調整刻離。中央部両 側辺はジグザグを呈す。	菱形	
	S-09-0781 表採	(32.4)	16.1 6.1 (2.8)	D-2 先端欠損。左側辺は柳葉形状を呈し、右側辺はく の字形に屈折し、先端部によくらみをもつ。両面に調整 刻離。A面右側辺、左側辺、B面左側辺はステップ状を 呈す。先端部右側辺のエッジにわずかに自然面残存。	菱形	
	S-09-0784 表採	(40.2)	16.2 4.8 (3.7)	D-2 基部にふくらみをもつ。柳身の大型。両面に調整 刻離。両面とも中央に筋が通る。両面とも刻離面は揃っ ており並列している。両側辺ともエッジは鋭い。	菱形	
	S-09-0797 LC58 第9号住居址 (SA 009) 壇状土層	(24.2)	15.8 4.6 (1.6)	D-1 小型。両側辺ともくの字形に屈曲し、先端部右側 辺は円味をもち、左側辺は直線的である。両面両側辺に 調整刻離。A面基部中央に自然面、B面基部には右方向 に打点をもつ主要刻離面残存。両面共左側辺はステップ 状を呈す。B面左側辺の刻離面で大半を占め、右側辺沿 いに小さな刻離のみみられるのみ。	盾形	
	S-09-0805 KP54 茶褐色土層	(39.7)	20.3 7.9 (6.0)	D-1 未製品か。先端欠損。A面左側辺、基部右側辺、 B面両側辺より調整刻離。A面右側には右下方に打点の ある大刻離面、B面中央には右方向に打点をもつ主要刻 離面が大きく残存。基部には自然面残存。両面とも左側 辺はステップ状を呈す。	五角形	
	S-09-0816 JY62 黒褐色土層	(40.6)	17.3 6.2 (4.2)	D-2 両面とも両側辺より調整刻離。A面にはくりかえ し筋す。A面先端部、B面基部中央に大刻離面残存。右 側辺寄りには最大厚あり。両側辺ともにジグザグを呈す。	不整菱形	
	S-09-0835 KZ 表採	(38.8)	14.5 5.3 (2.8)	D-2 先端部欠損。左側辺は中央でふくらみ、右側辺はく の字形に屈曲し、直線的にのびる。両面に調整刻離。 両面とも中央に筋が通る。B面、A面右側の刻離面は揃 っており、並列している。A面左側辺はステップ状を呈 す。	菱形	

()は残存部分の法量である。



図版番号	登録番号 出土地 遺構番号 層	法量 (mm)	規長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0855 JE66 褐色土層	(40.2) 15.3 4.0 (2.6)		D-1 先端部は長く、基部に急大幅あり。両端欠損。両面とも両側辺沿いに調整刻離。両面とも中央に大きく大刻離面残存。A面左側辺はステップ状を呈す。	先端部 菱形 基部 五角形	
	S-09-0862 JQ66 褐色土層	(41.3) 13.9 5.0 (2.6)		D-2 先端わずかに欠損。先端部が長い。両面に調整刻離。基部両側辺のエッジは磨滅。両側辺は屈曲のゆるいジグザグを呈す。両面とも先端部両側辺沿いの細かな調整刻離はステップ状を呈すものが多い。	先端部 扇形 基部 杏仁形	
	S-09-0881 KL59 灰褐色土層	(33.1) 14.4 4.7 (2.5)		D-2 柳葉形。両面に調整刻離。A面中央に筋が通る。B面基部中央に大刻離面残存。A面右側辺にはステップ状を呈し、B面両側辺ともうすいステップ状刻離面が多い。両側辺とも細かなジグザグを呈し、エッジは鋭い。	扇形	
	S-09-0883 KP54 茶褐色土層	(35.7) 16.3 4.8 (2.7)		D-2 柳葉形。両端欠損。両面に調整刻離。両面中央に筋が通り、揃った刻離面が並列している。しかしA面左側、B面右側にはうすいステップ状刻離面が多い。両側辺ともうすく鋭い。	菱形	
	S-09-0897 KT54 黒色土層	(33.6) 11.5 4.1 (1.4)		D-1 幅狭。基部にふくらみをもつ。先端部は長く両側辺とも直線的にのびる。両面に調整刻離。両面中央に筋が通る。B面基端に大刻離面残存。B面は比較的揃った刻離面が並列。A面にはステップ状刻離面が多い。左側辺はジグザグを呈す。	菱形	
	S-09-0901 表採	(46.2) 19.4 6.2 (5.7)		D-2 大型。左側辺のふくらみは小さく、右側辺は大きい。両端欠損。両面両側辺より調整刻離。A面先端部中央に筋が通る。A面中央部にわずかに大刻離面残存するが、比較的揃った刻離面が並ぶ。B面両側辺、A面基部両側辺ステップ状を呈す。先端部両側辺はジグザグを呈す。	先端部 扇形 基部 杏仁形	
	S-09-0902 表採	(40.0) 14.6 4.3 (2.6)		D-2 略柳葉形。両側辺とも中央でやや角ばり気味。端整な形型。両端欠損。両面に調整刻離。A面中央部はステップ状を呈し、中央に大刻離面残存。B面中央に大きく主要刻離面が残存し、打点は右下方にあり。B面は揃った刻離面が並列している。両側辺はジグザグを呈す。	先端部 菱形 基部 扇形	
	S-09-0949 LQ62 黒褐色土層	(30.6) 14.5 4.3 (1.8)		D-1 先端欠損。先端部側辺は略直線的にのび、基部側辺はわずかに内彎気味である。両面両側辺より調整刻離。B面先端部左側に主要刻離面残存。右方向に打点あり。両面とも右側辺はステップ状を呈す。B面右側中央は大きな打ち欠き面あり。長軸においてB面側へ彎曲。逆刺より下方の両側辺に回転研磨痕あり。	三角形	基部に回転研磨痕あり(長10mm)。 
	S-09-0969 LW62 黒褐色土層	(26.0) 11.5 4.2 (1.2)		D-2 両端欠損。幅狭。両面両側辺より細かな調整刻離。両面基部中央に大刻離面残存。	先端部 菱形 基部 扇形	
	S-09-0970 LW62 黒褐色土層	(26.2) 13.1 3.4 (1.6)		D-2 先端欠損。A面調整刻離。B面主要刻離面よりなり、右下方に打点あり。右側辺に小さな調整刻離を施す。A面左側辺、基部はステップ状刻離面を呈す。	扁平な扇形	
	S-09-0975 不明	(42.6) 18.7 5.5 (4.8)		D-2 先端部欠損。大型。左側辺は円く、右側辺は角をもつ。両面に調整刻離。中央に初段階の刻離面があり、両側辺沿いに小さな調整刻離。左側辺の両面はともにステップ状が多くジグザグを呈す。B面基部中央に大刻離面残存。	先端部 杏仁形 基部 菱形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡


図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) 重 量 (g)	現 幅 厚 量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0992 MZ 表探	(31.6) 18.8 4.4 (2.2)		D-1 大型。得身。基部破片。両面ともうすい調整刻離。押圧刻離による。両面とも揃った刻離面が並列。両側辺ともエッジはうすく鋭い。A面中央に不明瞭な筋あり。	扁平な扇形	
	S-09-0996 MZ 表探	(24.9) 11.6 5.1 (1.6)		D-2 基部欠損。両面に調整刻離。両面中央に筋が通る。ステップ状刻離面も混在するが、比較的揃った刻離面が並列。両側辺エッジは鋭い。	菱形	
	S-09-0999 MZ 表探	(24.6) 15.6 2.4 (1.1)		D-2 先端部破片。特に得身。先端の鋭さはない。両面ともうすい調整刻離。押圧刻離による。両側辺のエッジは鋭い。両面とも刻離面の接線には研削が施され、光状をもつ。	扁平	
	S-09-1093 JDZ 褐色礫混合土層	45.2 15.7 8.4 5.7		D-2 未製品か。両面両側辺より調整刻離。両面とも中央に大刻離面残存。B面は左下方に打点をもつ主要刻離面である。両面とも中央部は両側辺ともステップ状を呈す。両側辺はジグザグを呈す。	六角形	
	S-09-1100 JBZ 床土層	(42.0) 16.1 6.4 (3.2)		D-1 先端欠損。両面に調整刻離。A面先端部左側には深く大きいステップ状刻離面があり、断面形のバランスを失う。B面基部右側にも同様の刻離面があり楔が入り、有蓋式の如き状を呈する。他の部分は揃った刻離面が並列している。B面中央に大刻離面あり。A面先端部にはわずかに自然面残存。両側辺のエッジは鋭い。	先端部 菱形 基部 不整扇形	
	S-09-1103 MB50 茶褐色砂土層・豊地層	31.6 13.8 4.4 1.6		D-2 両面に調整刻離。A面中央部両側辺ともステップ状を呈し、厚みが残存。両側辺のエッジはうすく鋭い。	先端部 扁平な杏仁形 基部 菱形	A面に鉄分付着。 
	S-09-1105 JY58 茶褐色土層	(38.8) 16.2 6.3 (3.4)		D-2 楕圓形。両面両側辺より調整刻離。両面中央部両側辺ともステップ状刻離面が多く厚み残存。B面よりA面が中高である。B面は比較的揃った刻離面が並列している。	扇形	
	S-09-1116 MJ56 褐色砂層	(40.9) 16.2 5.4 (3.7)		D-2 大型。柳葉形。両面両側辺より調整刻離。A面中央に筋が通る。B面右側辺には小さな調整刻離は施されず。A面両側辺のそれはステップ状を呈す。	菱形	
	S-09-1125 KH63 第3層・褐色砂質土層	(37.6) 16.8 5.6 (2.9)		D-1 両端欠損。両面とも調整刻離。左側辺は両面ともステップ状を呈す。両側辺のエッジはうすく鋭い。	菱形	
	S-09-1128 MZ 第3層・褐色砂質土層	(19.5) (12.9) 5.0 (1.2)		D 基部破片 両面両側辺に調整刻離。A面中央部左側には大刻離面残存。基部より両側辺は磨滅。	中央部 不整四辺形 基部 菱形	
	S-09-1130 KF63 第3層・褐色砂質土層	(37.8) (15.4) 5.9 (2.6)		D-1 両面に調整刻離。右側辺は両面ともステップ状を呈すものが多い。左側辺は先端から基部にかけて縦方向に刻離欠損。	扁平な菱形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 原	法量 (mm) 重量 (g)	現長 幅 原 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1142 MO62 溝 (SF 074) 黒色砂層	(33.3) 16.8 4.1 (2.3)		D-1 基端欠損。両面に調整刻離。A面中央に筋が通り、B面中央には大刻離面残存。先端部両側は一部磨歯状を呈す。先端のエッジ磨滅。	扇形	
	S-09-1147 MO62 溝 (SF 074) 褐色砂層	(31.7) 26.0 6.0 (4.8)		D-2 基端欠損。幅広く、両側中央は凹くよらみをもつ。S-09-1352と同一形跡。両面、両側辺より調整刻離。両面中央に大刻離面残存。B面は左上方に打点をもつ主要刻離面である。A面左側辺、B面右側辺、A面先端部右側辺沿いの細かな調整刻離はステップ状を呈す。	扁平な扇形	
	S-09-1206 KP54 茶褐色土層	(42.6) 14.9 5.6 (3.0)		D-2 基端欠損。両側辺とも直線的のび、逆側は角ばらずならぬである。両面に調整刻離。A面中央に筋が通る。B面中央に主要刻離面残存。右下方に打点あり。両面とも揃った刻離面が並んでいる。両側辺とも厚折の小さいジグザグを呈し、エッジは鋭い。A面中央部両側辺ともステップ状を呈し、厚みが残存。	先端部 菱形 基部 扇形	
	S-09-1216 MP62 溝 (SF 074) 褐色砂層	(40.8) 19.4 6.3 (4.7)		D-2 未製品か。先端A面へ刻離欠損。両面両側辺に調整刻離。両面とも中央部はステップ状を呈す。両面中央に大刻離面残存。B面は右上方に打点をもつ主要刻離面である。両側辺ともエッジは鋭い。	扇形	
	S-09-1240 MX62 黒色砂質土層	(33.2) 12.8 5.6 (2.4)		D-2 短狭。厚みあり、基端は鈍い。先端から右側辺にかけて縦方向に刻離欠損。両面両側辺に調整刻離。中央に大刻離面残存。A面は基端に打点をもつ主要刻離面である。基部に打痕が残存。両側辺ともジグザグを呈す。	六角形	
	S-09-1267 HS59 土塊 (S J167)	(26.6) 14.0 4.7 (1.7)		D-2 両端欠損。左側辺は凹凸がありスムーズでない。両面とも調整刻離。左側辺は両面ともステップ状を呈し、うすく鋭いが、右側辺はうすく小さな刻離面よりなり、厚みを残す。A面中央に大刻離面残存。	菱形	
	S-09-1269 HS59 土塊 (S J167)	(27.9) 14.1 3.5 (1.5)		D-2 先端部は直線的のび、基部にふくらみをもつ。両面に調整刻離。うすいステップ状刻離面もあるが、揃った刻離面が並列している。A面基部中央、B面中央に大刻離面残存。B面は右方に打点をもつ主要刻離面である。両側辺ともエッジはうすく鋭い。	杏仁形	
	S-09-1281 不明	25.0 8.7 4.2 0.9		D-2 小型。細身。両面に調整刻離。両面とも基部をつくりだしており、先端部は両面とも左側辺は調整刻離している。両面とも右側辺は小さな調整刻離のみ。A面先端部右側、B面中央に大刻離面残存。B面は下方に打点をもつ主要刻離面である。長軸でB面へ彎曲。	先端部 扁平な扇形 基部 菱形	
	S-09-1286 HA50 溝 (SF 325)	(43.5) 14.5 7.9 (4.8)		D-2 未製品か。不整形。基端欠損。先端部に最大厚あり。両面両側辺に調整刻離。A面先端部はステップ状を呈し厚みが残り、両面とも基部中央に大刻離面残存。基部両側辺のエッジに磨滅あり。	三角形	
	S-09-1287 IV60 溝 (SF 080) 第17層直上	(30.1) 16.2 4.2 (1.8)		D-1 両端欠損。基部に最大幅あり。両面両側辺より調整刻離。両面とも先端部左側辺は並列刻離的だが、右側辺はステップ状を呈す。A面基部左側、B面基部中央に大刻離面残存。B面は左方向に打点をもつ主要刻離面である。両側辺はうすく鋭い。	不整四辺形	
	S-09-1316 K164 第3層・褐色砂質土層	(27.8) 12.3 3.3 (1.3)		D-2 基部にふくらみあり。両面に調整刻離。両面とも中央に不明瞭な筋が通り、揃った刻離面が並列している。基端に自然面あり。両側辺のエッジはうすく鋭い。	菱形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡

図版番号	登録番号 出土地 名 (遺物番号) 層位	法量 (mm) 厚 (g) 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1332 KD68 土埃 (S J212) 第3層・黒色砂質土層	(33.2) 19.4 6.0 (3.3)	D-2 幅広い。未製品か。両面両側辺よりあらい調整刻離。B面基部に大刻離面残存。A面基部は刻離。右側辺はステップ状を呈す。B面右側辺、基部左側辺のエッジに細かな調整刻離。先端部左側辺はあらい打ち欠きのままでエッジは整えず。	扇形	
	S-09-1347 MP63 溝 (SF 074) 濃褐色黒色有機土層	(33.0) 17.0 3.9 (2.1)	D-1 うすい菱形。両端欠損。両面にうすい調整刻離。しかし両面ともステップ状刻離面が多く表面は整っていない。先端部両側辺には凹凸あり。基部では直線的にのびる。	菱形	
	S-09-1369 KH62 灰褐色砂質土層	(29.0) 20.8 4.4 (3.0)	D-2 うすく幅広い。先端部に最大幅あり。基端欠損。両面両側辺に調整刻離。A面基部中央、B面中央に大きく大刻離面残存。B面は左逆刺に打点をもつ主要刻離面である。両面とも右側辺はステップ状を呈す。	扁平な杏仁形	S-09-1352と 同一形態。 
	S-09-1382 不明	(21.8) 10.0 3.4 (0.9)	D-2 小型柳葉形。先端部基端欠損。A面両側辺に調整刻離。中央に大刻離面残存。B面両側辺沿いに細かな調整刻離。中央には大きく主要刻離面残存。右上方に打点あり。両側辺は細かなジグザグを呈す。	扇形	
	S-09-1450 不明	(31.1) 16.0 3.3 (1.8)	D-1 先端部欠損。左側辺はくの字形に屈曲し、右側辺は不規則な調整刻離により不整形。B面ではステップ状を呈す。両面とも両側辺よりうすい調整刻離。B面右側辺もステップ状である。基部両側辺ともエッジは磨滅。	扁平な杏仁形	
	S-10-0163 JY62 埴地層	(29.3) 19.3 (5.6) (2.7)	D 基部破片。両面両側辺より調整刻離。両面とも比較均つた刻離面よりなる。B面右側辺沿いのみ細かな調整があり、ステップ状を呈す。右側辺のエッジはうすく鋭い。基端寄りの両側辺に打ち欠きを施し、その部分のみ凹凸があり、一見鋸歯状を呈す。	不整形四辺形	
PL.50-1 PL.61-11	S-09-0864 NG49 灰褐色砂質土層	(66.4) 12.3 7.3 (5.7)	E-2 大型。細身。厚みがあり基部で最大厚を測る。全体に丁寧な調整刻離が施され、大刻離面を留めず。刻離面は揃っている。側辺はジグザグを呈する。筋は両面共に通る。	菱形	
PL.50-2	S-09-0783 表探	(63.4) 16.8 7.8 (7.9)	E-2 大型。細身。厚みがあり基部で最大厚を測る。両面共に刻離は中央部までのび大刻離面を留めず。筋は両面共に明瞭である。ステップ状刻離面も混在するが、刻離面は揃っている。側辺のエッジは僅かに磨滅している。	菱形	
PL.50-3	S-09-1257 HN66 第1号住居址 (SA 001) 上部	(51.4) 12.0 9.6 (4.7)	E-2 大型。細身。厚みがある。基部で最大厚を測り、先端にゆくにつれ、薄くなる。両面共に大刻離面を留めず。筋が通る。側辺はやや大きなジグザグを呈する。A面基部両側辺、B面基部右側辺はステップ状を呈する。	菱形	
PL.50-4	S-09-0307 不明	(47.8) 12.7 6.1 (3.5)	E-2 大型。細身。厚みがある。丁寧なつくりで、両面中央に筋が通る。刻離面は揃っている。挟りの部分は左右で少しずれがみられる。側辺は小さいジグザグを呈する。先端部及び右側辺のエッジは磨滅している。	菱形	
PL.50-5	S-09-0221 不明	(47.6) 12.0 7.1 (3.3)	E-2 大型。細身。厚みがある。基部で最大厚を測り、先端にゆくにつれ薄くなる。両面共に大刻離面を留めず、中央に筋が通る。筋の挟りは、はっきりしている。側辺はジグザグを呈する。	菱形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.50-6	S-09-0536 JC63 第2層・黒褐色土層	(48.6) 12.1 5.3 (2.7)	E-2 大型。細身。全体に丁寧な刺離面が施され、刺離面は揃っている。両面共に筋が通る。両側辺沿いには細かい調整刺離が施され、鋸歯状を呈す。	菱形		
PL.50-7	S-09-0663 JE66 床土・整地層	(45.1) 12.9 6.2 (3.7)	E-2 大型。細身。両面とも調整刺離。先端部は略同じ厚さで、基部から基部にかけて薄くなる。A面には筋が通る。B面は比較的平坦である。軸はB面へ彎曲。両側辺は細かい調整刺離が施され、鋸歯状を呈す。	菱形		
PL.50-8	S-09-0858 JQ66 褐色土層	(48.4) 12.9 5.2 (3.3)	E-2 大型。細身。やや薄い。両面共同側辺より調整刺離。両面共に筋は通っている。両側辺はジグザグを呈する。四面ともステップ状の刺離面が混在する。	菱形 (A面扁平)		
PL.50-9	S-09-0686 JY58 整地層	(50.6) 12.4 6.2 (3.5)	E-2 大型。細身。厚みがある。基部上方で最大厚を測り、先端に至り薄くなる。先端は鋭い。全体に丁寧な調整刺離が施され、両面中央に筋が通る。両側辺からの細かい調整刺離も見られ、側辺は略一直線上にのび、エッジは鋭い。	菱形		
PL.50-10	S-09-0880 LCS8 茶褐色土層	(44.7) 13.0 8.3 (4.3)	E-2 大型。細身。厚みがある。基部で最大厚を測り、先端に至り薄くなる。茎の挟りは明瞭。両面共同調整刺離が施され、大刺離面を留めず。中央に筋が通る。四面ともステップ状刺離面が混在する。	菱形		
PL.50-11	S-09-0688 JY58 整地層	(42.4) 10.5 7.1 (3.2)	E-2 大型。細身。厚みがある。全体にやや大きい刺離が施され、中央部までのびる。A面中央部に大刺離面が残存。茎はB面側へ折れ欠損。	菱形		石鏡の可能性あり。
PL.50-12	S-09-0915 MM54 黒褐色土層	(46.4) 12.4 8.3 (4.0)	E-2 大型。細身。厚みがある。鏡身中央で最大厚を測り、両端に至り薄くなる。全体にやや大きい刺離が施され、中央部までのびるが、B面基部に自然面を残す。B面先端部左半分の刺離はステップ状を呈する。先端は少しA面側へ彎曲。全体の形は整わず。先端エッジは磨滅している。	菱形		石鏡の可能性あり。
PL.50-13	S-09-1275 不明	(41.2) 14.2 6.4 (4.1)	E-2 大型。細身。茎上部で最大厚を測る。B面中央に大刺離面が残存し、打点は右下方にある。A面には丁寧な調整刺離が施され、筋が通る。A面両側辺沿いに細かい刺離が一部施され、エッジは鋭い。	菱形		
PL.50-14	S-09-0936 MZ	(40.4) 10.5 6.6 (2.3)	E-2 細身。厚みがあり基部で最大厚を測り、先端へ至り薄くなる。茎は薄い。両面共同側辺より調整刺離が施され、大刺離面を留めず。挟りは右側が明瞭で、左側はなだらかである。両面ともに筋が通る。両側辺ともジグザグを呈す。	菱形		
PL.50-15	S-09-0049 MJ56 床土層	(38.0) 13.5 6.3 (3.3)	E-2 大型。細身。やや厚みがある。両面共に筋が通る。全体に調整刺離が施され、側辺寄りに細かい調整刺離も見られる。逆刺～茎部分のエッジは僅かに磨滅。	菱形		
PL.50-16	S-09-0660 JE66 整地層	(35.7) 11.7 6.3 (3.0)	E-2 大型。細身。厚みがある。両側辺は略平行、逆刺の部分で、やや角ばり、深い挟りが入る。厚みは茎まで略一定。全体に調整刺離が施される。両面共筋は明瞭である。先端部はA面側へ折れ欠損。	菱形		

()は残存部分の法量である。

石 鉄

図版番号	登録番号 出土地 遺構番号 層	登録番号 地点名 位	法量 (mm)	現長 幅 厚 重量 (g)	特 徴	中央断面	備 考
PL.50-17	S-09-0534 NA60 灰褐色砂層		(50.2) 13.1 6.2 (4.9)		E-2 大型。細身。やや厚みがある。両側辺は略平行、逆刺はなだらか。全体に調整刺離が施され、側辺からの小さい調整刺離もみられる。因面ともステップ状刺離面が混在する。両面共筋は明瞭である。側辺のエッジは鋭い。	菱形	
PL.50-18	S-09-0025 MH60 床土層		(48.8) 12.0 5.9 (4.5)		E-2 大型。細身。厚みがあり基部中央で最大厚を測る。逆刺はなだらか。全体に調整刺離が施され、筋は明瞭である。刺離面は揃っている。両側辺に小さい調整刺離が見られ、ステップ状を呈する。	菱形	
PL.50-19	S-09-0230 表探		(19.8) 10.3 3.1 (0.7)		E-2 やや幅広い小型。薄い。全体に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。刺離の大きさは不揃いである。筋は通らず全体的に表面は磨滅。	扁平な杏仁形	
PL.50-20	S-09-0158 KI63 第3層・褐色砂質土層		(23.5) 12.4 2.5 (0.7)		E-2 幅広い小型。薄い。全体に調整刺離が施され大刺離面を留めず。刺離面はやや大きく更に両側辺沿いに細かい調整刺離が施される。茎は尖がる。	扁平な扇形	
PL.50-21	S-09-0342 MF60 茶褐色砂質土層		(38.6) 12.8 5.5 (2.4)		E-2 やや細身。少し厚みがある。全体に調整刺離が施され、側辺からの小さい調整刺離が先端部および左側辺にみられる。軸はA面側へ少し彎曲している。B面中央の筋は明瞭でA面は平坦な面をなす。A面中央に大刺離面残存。茎部分の両側辺は僅かに磨滅。	三角形	
PL.50-22 PL.61-12	S-09-1200 不明		48.0 12.9 4.6 2.4		E-2 細身。やや薄い。逆刺はなだらか。形は整っている。全体に調整刺離が施され、両面中央の筋は明瞭である。逆刺から茎にかけての両側辺のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
PL.50-23	S-09-0414 MZ 表探		45.3 13.8 7.7 3.3		E-2 細身。厚みがあり基部中央で最大厚を測る。全体に調整刺離が施され、筋は両面共に通る。軸身左側辺はジグザグを呈し、右側辺は鋸歯状を呈す。両面基部の刺離はステップ状を呈する。先端は磨滅。	菱形	
PL.50-24	S-09-0810 KL54 茶褐色土層		(41.4) 19.6 6.0 (4.9)		E-2 大型。幅広い。逆刺は円味をもつ。先端はA面側へ折れ欠損。全体に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。B面は両側辺からの小さい刺離が見られ、ステップ状の並列刺離面を呈す。基部から茎にかけての両側辺及び両平面の最も僅かに磨滅。	杏仁形	
PL.50-25 PL.61-13	S-09-0042 KX・KY60-GI・LA60 茶褐色砂層上面		(46.0) 19.7 4.4 (3.9)		E-2 大型。やや幅広い。薄い。逆刺は円味をもつ。A面には中央までびる調整刺離が施される。筋はA面先端部に明瞭。両面基部中央に大刺離面残存。B面右側辺はステップ状を呈し、他の部分にも混在するが、刺離面は揃っている。	先端部 扇形 基部 扁平な六角形	
PL.50-26	S-09-0856 JI66 褐色土層		(50.2) 25.7 5.0 (6.0)		E-2 幅広い大型。薄身。逆刺は円味をもつ。全体にうすく丁寧な調整刺離が施されるが、筋はA面先端部のみ明瞭。両側辺には小さい調整刺離も見られる。逆刺部分のエッジは僅かに磨滅。	扁平な菱形	
PL.50-27	S-09-0972 LS68 黒褐色土層		(47.3) 19.6 5.3 (4.3)		E-2 大型。幅広い。薄い。逆刺は円味をもつ。先端はB面側へ折れ欠損。A面左半分に大刺離面が残存。両面共にやや大きく調整刺離した後、両側辺より小さい調整刺離を施す。B面基部右半分の刺離はステップ状を呈する。先端部両側辺のエッジは細かなジグザグを呈する。	扁平な杏仁形	

()は狭容部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構(遺構番号) 層位	法量 (mm) 重量 (g)	現長 幅 厚 量	特 徴	中央断面	備 考
PL.50-28	S-09-1149 表採	33.4 13.5 4.9 1.6		E-2 薄い。逆刺は円味をもつ。全体に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。筋は両面を通る。刺離面は揃っている。茎はA面両側から大きく刺離され、ステップ状を呈する。細かい調整刺離は施されず。茎の端部は僅かに磨滅。	扁平な菱形	
PL.50-29	S-09-0473 LC63 第3層	(28.6) 13.3 4.3 (1.5)		E-2 逆刺は円味をもつ。軸はB面へ彎曲。A面中央に大刺離面が残存するが、全体に調整刺離が施される。A面左側辺からの刺離はステップ状を呈する。B面基部左側辺および先端部右側辺沿いの刺離もステップ状を呈する。軸身右側辺はジグザグを呈する。	先端部 菱形 基部 台形状	
PL.50-30	S-09-0659 JE62 整地層	33.7 16.8 4.1 2.1		E-2 幅広い。逆刺は円味をもつ。両面中央に大刺離面あり、B面左下方に打点をもつ主要刺離面である。両面両側辺沿いに小さい調整刺離が施される。茎端部および逆刺部のエッジは僅かに磨滅。	三角形	
PL.50-31	S-09-0811 不明	(35.9) 18.3 5.5 (3.3)		E-2 幅広い。逆刺は円味をもつ。両面中央に大刺離面を留める。B面大刺離面の打点は下方にあり。全体に刺離は揃っているが、その大部分がステップ状を呈する。両面左側辺沿いの細かい調整刺離も見られ、ステップ状を呈する。筋はA面に通る。両側辺のエッジは磨滅され丸くなる。	先端部 菱形 基部 五角形	
PL.50-32	S-09-1254 IZ 礫混黒褐色土層	31.2 13.1 4.3 1.6		E-2 逆刺は円味をもつ。A面左半分は大刺離面を留め、上方に打点あり。B面は主要刺離面であり、打点は左下方にある。A面右側辺は調整刺離を施すがステップ状を呈す。更に両面とも両側辺より小さな調整あり。全体に両側辺からの刺離は揃っている。	先端部 菱形 基部 不整四辺形	
PL.50-33 PL.53-7	S-09-0845 JQ58 茶褐色土層	45.0 14.2 6.9 3.9		E-2 幅状。厚みがある。B面中央に大刺離面を留めるが、全体に調整刺離が施され、両面に筋が通る。A面基部から茎にかけての右側辺およびB面両側辺沿いの刺離はステップ状を呈する。先端部および茎部分は石鏡としてあり、回転痕が著しい。	菱形	先端および茎に 回転痕あり(先 端長1.1cm、茎 長1.3cm)。
PL.50-34	S-09-0291 NJ58 第3層	47.3 14.0 6.7 4.0		E-2 幅状。厚みがある。逆刺はなだらかで、挟りは浅い。全体に調整刺離が施され、B面中央に一部大刺離面を留めるのみ。刺離は略揃っており、ステップ状のものが混在する。両面に筋が通るが、A面では不明瞭。両側からの細かい調整刺離も見られ、全体にステップ状を呈す。先端部のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
PL.50-35	S-09-0258 不明	(41.5) 14.0 5.9 (3.0)		E-2 幅状。厚みがある。逆刺はなだらかで挟りは浅い。全体に刺離は不揃いであるが大刺離面を留めず。A面およびB面の先端部には筋が通る。B面基部分は大平な面をなす。B面左半分の刺離はステップ状を呈する。両側からの細かい調整刺離も見られ主にステップ状を呈す。両側のエッジおよび両面の縁線は磨滅。	先端部 菱形 基部 扇形	石鏡の可能性あり。
PL.50-36	S-09-1319 CT54 溝 (SF 334)	(52.7) 19.1 5.0 (4.5)		E-2 大型。やや幅広い。薄い。逆刺はやや円味をもつが、形が整っていない。全体に調整刺離され大刺離面を留めず。刺離面は揃っている。両側からの細かい調整刺離もみられ、ステップ状を呈する。両側のエッジはうすく鋭い。筋は両面共通する。茎部分のエッジおよび筋は磨滅。	菱形	
PL.50-37	S-09-0246 KT62 第2層・黒色砂質土層	(35.1) 12.6 5.0 (1.9)		E-2 幅状。逆刺はなだらかで、挟りは浅い。A面中央、B面基部に大刺離面を留む。全体に刺離は不揃いで両側からの細かい調整刺離もみられるが、筋がステップ状を呈する。筋はA面先端部およびB面に通る。両側のエッジは僅かに磨滅。	先端部 菱形 基部 五角形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡

図版番号	登録番号 出土遺構 遺構番号 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.50-38	S-09-0551 ME59 溝 (SF 075) 黒褐色礫混土層	(36.2) 13.2 4.3 (1.7)		E-2 短狭。背い。逆刺は僅かに円味をもち、袈りは明確。全体に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。刺離面は揃っておりステップ状のものが混在。両面共に筋が通る。逆刺から茎にかけてのエッジは僅かに磨削が施される。先端部両側辺は細かな調整刺離が施され、鋭歯状を呈す。	菱形	
PL.50-39	S-09-1393 ML59 第9号土器堆積 (SL 308) 黒色砂質土層	(35.4) 21.1 5.3 (2.5)		E-2 やや幅広。逆刺は円味をもつ。A面中央に大刺離面を留め、打点は右方にある。B面中央に大きく主要刺離面を留め、打点は左方にある。刺離面は揃うので主にA面側ではステップ状を呈する。筋は両面共に中央に通らず周辺からは細かい調整刺離が施される。逆刺から茎のエッジは研削により挫かれている。	不整五角形	
PL.50-40	S-09-0701 LX51 礫混黒褐色土層	(39.6) 14.4 5.1 (2.7)		E-2 逆刺はなだらかで袈りは浅い。B面中央に大刺離面を留めるが、全体に調整刺離が施され、揃っている。ステップ状の刺離面が混在。A面中央に筋が通る。逆刺から茎にかけてのエッジは僅かに磨削。	菱形 (B面やや平直)	
PL.50-41	S-09-0375 M166 溝 (SF 074) 褐色砂層	38.0 11.1 4.6 1.7		E-2 細身。やや厚みがある。大刺離面を留めず。全体に不揃いな調整刺離が施され、両面共縁身左側はステップ状を呈する。周辺には細かい調整刺離も見られる。筋は両面共に通る。先端のエッジは磨削。	菱形	
PL.50-42	S-09-0186 KL67 第3層・黒色砂質土層	37.5 15.0 6.2 (3.3)		E-2 やや幅広。厚みがある。逆刺はやや円味をもつ。先端部右側辺はステップ状刺離により浅い凹みをなす。刺離は両面共に中央部までのび、大刺離面を留めず。両面共にステップ状の刺離が混在。筋は両面に通る。周辺のエッジは僅かに磨削。茎部分のエッジには凹痕が著しい。	菱形	茎に凹痕(長4mm)あり。 
PL.50-43	S-09-0113 KK68 黒色砂質土層	(33.0) 17.1 5.8 (2.8)		E-2 幅広。やや厚みがある。袈りは浅い。A面中央に小さく、B面左方に大刺離面が一部残存。B面はやや平坦な面をなす。A面は中央まで刺離のびる。両面共に刺離面は主にステップ状を呈す。先端部に凹痕が著しい。	先端部 菱形 基部 不整五角形	先端部に凹痕 (長7mm)あり。 
PL.50-44	S-09-0378 MZ	39.0 14.6 4.2 1.2		E-2 背い。逆刺は円味をもつ。A面茎部、B面に大刺離面を留める。全体に調整刺離を施し、刺離面は揃っている。A面に筋が通る。両側辺のエッジはうすく鋭い。	扇形	
PL.50-45	S-09-0542 MY61 黒色砂質土層	33.0 11.5 5.3 1.6		E-2 短狭。厚みがある。全体に調整刺離が施され、両面共に筋が通る。刺離面は揃っており側辺はジグザグ状を呈する。両面とも左側辺沿いに細かな調整刺離を施すが、うすいステップ状を呈する。表面全体に磨削が著しい。	菱形	
PL.51-1	S-09-1249 IB62 礫混黒褐色土層	49.1 20.1 6.5 5.0		E-1 大型。幅広。厚みがある。両面基部中央に大刺離面を留めるが、全体に調整刺離が施され、両側辺は細かい刺離も一部見られる。筋は両面共に通る。右側辺は先端から逆刺まで磨削か。先端は研削が施された可能性あり。	先端部 平行四辺形 基部 六角形	
PL.51-2	S-09-0366 KH66 黒色砂質土層・Plt2	48.2 22.6 4.1 3.9		E-1 大型。幅広で背い。両面中央に大刺離面を留めるが、全体に調整刺離が施される。周辺からの細かい調整刺離により両側辺は鋭歯状を呈する。縁身B面の刺離面は全てステップ状を呈する。A面にも混在する。逆刺から茎にかけての左側エッジおよび基部部・茎右側は研削が施される。	扁平な杏仁形	
PL.51-3 PL.61-14	S-09-0872 不明	53.1 18.8 7.2 5.8		E-1 大型。幅広。厚みがある。全体に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。両側辺からの細かい刺離もみられる。ステップ状刺離面が混在。B面先端は刺離し背い。両面共B面先端を除いて、筋が通る。	菱形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構番号 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	留 考
PL.51-4	S-09-0869 JZ	(54.9) 22.4 7.1 (7.0)		E-1 大型。幅広。鏡身は長く、両側辺は先端から逆刺にかけて略直線的にのび、逆刺上方で少し外方へ開く。取柄がある。全体に丁寧な調整刻線が施され、大刻線面を留めず。刻線面は並列しており、両面中央に筋が通る。両側辺からは細かい調整刻線が施され、B面両側辺には極く細かい歯状刻線を施す。両面の刻線はステップ状のものが混在。逆刺のエッジは両側ともに磨滅。	扁平な菱形	
PL.51-5	S-09-0733 J154 床土・整地層	(57.3) 19.8 4.7 (5.1)		E-1 大型。幅広。鏡身は長く薄い。両面共に押圧刻線により調整刻線が施され、大刻線面を留めず。両側辺からは細かい調整刻線が施され、両側辺共歯状を呈する。両面共にステップ状の刻線が混在。鏡身中央の右側辺は浅く凹むが、全体に整った形をしている。筋は両面に通る。先端はA面側へ折れ欠損。	扁平な菱形	
PL.51-6 PL.61-15	S-09-0127 MJ56 溝 (SF 074) 褐色砂質土層	(63.6) 22.6 6.6 (7.9)		E-1 大型。幅広。鏡身は長く薄い。両面共に調整刻線が施され、大刻線面を留めず。両側辺からは細かい調整刻線も施され、両側辺は細かいジグザグを呈する。歯状の部分もある。両面共筋が通る。	菱形	
PL.51-7	S-09-0540 MY61 黒褐色砂質土層	(68.2) 22.6 5.1 (7.3)		E-1 大型。幅広。鏡身は長く薄い。両面共に入念な押圧刻線が施され、揃った刻線面よりなる。B面基部中央に大刻線面残存。両側辺には細かく揃った押圧刻線が施され、両側辺は殆んど直線的である。エッジはうすく鋭い。筋は両面共に通る。逆刺から基にかけてのエッジは揃っている。	扁平な菱形	
PL.51-8	S-09-1320 GP58 整地層	(44.5) 18.5 6.5 (6.5)		E-1 大型。幅広。鏡身は長く薄い。両側辺は逆刺上方で外方へ開く。両面共に調整刻線が施され、大刻線面を留めず。更に両側辺沿いに細かい調整刻線が施される。刻線面は主にステップ状を呈す。筋は両面共通。逆刺のエッジは磨滅。先端はB面側へ折れ欠損。	菱形	
PL.51-9	S-09-1233 MJ54 黒褐色土層	(51.0) 23.5 5.2 (4.7)		E-1 大型。幅広。薄い。両面共に押圧刻線が施され、大刻線面を留めず、揃った刻線面よりなる。両側辺沿いには細かい刻線も見られ、両側辺は歯状を呈する。筋は両面共通。基端部A面に自然面残存。逆刺のエッジは磨滅。先端はA面側へ折れ欠損。	扁平な菱形	
PL.51-10	S-09-0340 MJ59 溝 (SF 074) 黒色粘質土層	49.9 26.8 6.2 6.3		E-1 大型。幅広。薄い。右側の逆刺がやや円味をもつ。両面中央に大刻線面が残存するが、全体に調整刻線。中央部の刻線面は主にステップ状を呈する。右側エッジおよび左側逆刺から基にかけてのエッジは磨滅。	扁平な杏仁形	
PL.51-11	S-09-0372 ML64 黒褐色礫混合土層	(48.3) 29.8 5.8 (5.8)		E-1 大型。幅広。薄い。全体に調整刻線が施され、大刻線面を留めず。周辺からは細かい調整刻線が施され、刻線面は主にステップ状を呈するが、側辺のエッジは薄く鋭い。筋は両面先端に通る。先端および逆刺から基にかけての両側辺エッジ、両面の縁は僅かに磨滅。	扁平な菱形	
PL.51-12	S-09-0241 不明	39.5 27.5 5.4 3.4		E-1 大型。幅広。薄い。先端から逆刺にかけての両側辺は少し内彎。基の挟りは深く、逆刺は鋭角をなす。両面基部中央に大刻線面を留めるが、全体に調整刻線が施される。先端部の刻線は中央までのびており、両面とも筋が通る。周辺からは細かい調整刻線が施されており、エッジは鋭い。	先端部 菱形 基部 扁平な六角形	
PL.51-13	S-09-1097 LW50 茶褐色砂質土層	39.4 24.4 5.1 3.1		E-1 幅広。薄い。基の挟りは深い。逆刺先端はやや円味をもつ。全体に調整刻線が施され、周辺からの細かい刻線も見られる。大刻線面は留めない。筋は両面に通る。右側の逆刺および基のエッジは磨滅。	扁平な菱形	
PL.51-14	S-09-0118 KE66 第3層・黒色砂質土層	34.7 23.6 9.3 5.9		E-2 幅広。逆刺は円味をもつ。全体に調整刻線が施され、大刻線面を留めず。側辺のエッジは薄く鋭いが、中央に厚みがある。A面右側辺に細かい刻線が見られる。両面にステップ状の刻線が混在。	杏仁形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.51-15	S-09-1308 MB54 溝 (SF 074) 腐混黒色砂質土層	(34.4) 24.3 4.4 (2.8)		E-2 幅広い。逆刺は円味をもつ。A面中央に大刺離面が残存するが、全体に押圧刺離が施され刺離面は揃っている。刺離は主にステップ状を呈する。	扁平な杏仁形	
PL.51-16	S-09-0923 LW54 溝 (SF 077) 黒色土層	39.3 19.8 7.4 4.9		E-2 厚味がある。逆刺はやや円味をもち、挟りは左側では狭く、右側では明瞭。B面中央に大刺離面を留め、B面はやや平坦。全体に刺離調整が施され、両面先端部に筋は通る。刺離面は主にステップ状を呈す。	先端部 菱形 基部 五角形	
PL.51-17	S-09-0114 NN58 第3層・茶褐色砂質土層	39.3 20.1 5.1 2.7		E-1 薄い。両面共に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。A面右側辺、B面右側辺に細かい調整刺離が見られ、ステップ状を呈する。筋は両面共通している。両平面の縁および基の端部は僅かに磨滅。	菱形	
PL.51-18	S-09-0242 MJ58 黒色砂質土層	41.2 18.6 4.2 2.7		E-1 薄い。A面中央に大きく自然面が残存し、B面中央に大きく主要刺離面を留める。打点は右方にあり。周辺沿いにのみ調整刺離が施される。	扁平な六角形	
PL.51-19	S-09-0696 JQ58 整地層	41.7 17.6 7.1 4.1		E-1 厚味がある。A面中央に大刺離面を留める。鏡身の厚さは殆どかわらず、ごく先端でうすくなる。ステップ状の刺離が主である。筋は両面先端部に通る。先端から逆刺にかけてのエッジ、基の端部は僅かに磨滅している。	菱形	石鏡の可能性あり。 
PL.51-19	S-09-0896 JQ58 整地層	(51.1) 21.0 6.6 (4.5)		E-1 幅広い。厚味がある。逆刺はやや円味をもつ。A面中央に一部大刺離面を留め、B面中央に大きく主要刺離面を留める。A面先端部に筋が通る。両側辺からは細かい調整刺離が施され、両側辺共に磨滅状を呈す。刺離面は主にステップ状を呈す。先端はB面側へ小欠損。両側辺および基端部のエッジは僅かに磨滅。	先端部・基部 菱形 中央部 扇形	
PL.51-21	S-09-0935 MZ	(35.7) 18.7 5.3 (2.9)		E-1 A面基部中央に一部大刺離面が残存。全体に刺離面が揃わず、やや粗雑なつくり。A面右側辺寄りB面右側の刺離はステップ状を呈し他にも混在。B面に筋が通る。	先端部 菱形 基部 五角形	
PL.51-22	S-09-0332 KP65 第2層	(35.2) 16.3 7.5 (2.8)		E-1 厚味がある。全体に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。刺離面は揃っており、ステップ状を呈する。基部中央のA面左側辺、B面右側辺に細かい調整刺離が見られる。両面共先端部、基部に筋が通る。	先端部・基部 菱形 中央部 厚手の扇形	
PL.51-23	S-09-1237 JA56 第9層溝底部、4区 (SH 128) 黒褐色土層	35.5 16.4 7.4 3.0		E-1 全体に調整刺離が施され大刺離面を留めず。鏡身は両側辺共にステップ状を呈し、中央に厚みを残す。側辺はジグザグである。筋は両面に通る。基の両側辺エッジは僅かに磨滅。	菱形	
PL.51-24	S-09-0295 KX62 第2層	33.0 13.9 4.5 1.9		E-1 やや薄い。逆刺は円味をもつが、基の挟りが明確である。B面中央に大きく大刺離面を留めるが、全体に調整刺離が施される。A面先端部には細かい調整刺離が見られる。筋はA面に通る。逆刺から基にかけての両側辺エッジは磨滅。	先端部 菱形 基部 五角形	
PL.51-25	S-09-0383 MJ59 溝 (SF 074) 褐色砂層	33.3 15.9 3.8 1.6		E-1 薄い。左の逆刺がやや円味をもつ。両面中央に大刺離面を留めるが全体に丁寧な調整刺離が施される。両側辺には細かい刺離も見られる。A面右側の刺離はステップ状を呈し、他にも混在。筋はB面先端部に通る。	先端部 扁平な菱形 基部 台形状	

() は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.51-26	S-09-0168 KJ63 第3層・褐色砂質土層	(24.9) 16.5 5.5 (1.9)	48.1 16.5 5.5 (1.9)	E-1 幅広い小型。茎に厚味があり、先端にいくにつれてうすくなる。左の逆刺は先端が割離され、右とは非対称。A面右側に大刺離面を留めるが、全体に調整刺離が施され、銀身は両面共同側面からの細かい刺離も見られる。B面右側面の刺離はステップ状を呈し、他にも混在する。筋はA面に通る。	杏仁形	
PL.51-27	S-09-0413 MZ	(29.6) 18.2 5.7 (2.6)	29.6 18.2 5.7 (2.6)	E-2 幅広い小型。全体的に同じ厚さで、先端でうすくなる。左の逆刺は鈍角的に角入り、袈りは狭く、右の逆刺は円味をもち、袈りは明確である。A面中央一部、B面中央に大刺離面を留めるが、全体に調整刺離。B面の刺離はステップ状を呈し、A面ではステップ状が混在する。筋は両面先端部に通る。	先端部 菱形 基部 扇形	
PL.51-28	S-09-0163 ML59 黒褐色礫混合土層	(25.3) 15.5 4.4 (1.6)	25.3 15.5 4.4 (1.6)	E-1 薄い。A面中央及びB面右側に大刺離面を留める。全体に調整刺離が施され、A面両側面沿いに細かい調整刺離も見られるが、茎は両面共大きな刺離で袈りが入る。両面共左側の刺離はステップ状を呈し、他にも混在する。筋はB面に通る。	扁平な扇形	
PL.51-29	S-09-0737 J166 灰土・整地層	33.2 12.2 5.4 1.8	33.2 12.2 5.4 1.8	E-2 幅状。厚味がある。逆刺は鋭くカーブする。全体に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。両側面からの細かい刺離も見られる。両面に共ステップ状の刺離が混在する。筋は両面に通る。周辺のエッジおよび両平面の袈りは僅かに磨滅。先端はB面側へ僅かに破損。	菱形	
PL.51-30	S-09-0900 MJ50 黒色土層	35.3 14.8 4.8 2.2	35.3 14.8 4.8 2.2	E-2 やや薄い。逆刺は円味をもち、茎の袈りはやや浅い。全体に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。両側面には細かい調整刺離が見られる。B面の刺離は主にステップ状を呈し、A面ではステップ状の刺離が混在。筋は両面に通る。袈りから茎の側面にかけてエッジを揃っている。	菱形	
PL.51-31 PL.61-16	S-09-0690 MF56 黒褐色礫混土層	30.6 15.2 4.9 1.8	30.6 15.2 4.9 1.8	E-1 幅広い。やや薄い。逆刺は円味をもち、茎の袈りは明確。左よりも右の方がやや下方に位置する。全体に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。両側面には細かい調整刺離が見られ、A面ではステップ状を呈する。筋は両面に通る。	菱形	
PL.51-32 PL.53-2	S-09-0677 JU58 整地層	(37.5) 15.4 5.7 (3.0)	37.5 15.4 5.7 (3.0)	E-1 B面中央に大刺離面を留める。周辺から調整刺離が施されるが、銀身両側面はステップ状を呈する。筋は両面先端部に通る。先端に回転痕あり。茎の左側面エッジは僅かに磨滅。	先端部 菱形 基部 扇形	先端に回転痕を有す。(長5mm) 
PL.51-33	S-09-0124 KE66 第3層・黒色砂質土層	(37.7) 16.2 4.4 (2.4)	37.7 16.2 4.4 (2.4)	E-2 薄い。逆刺は円味をもつ。全体に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。A面左側面以外の側面には細かい調整刺離が見られる。筋はA面に通る。	扁平な扇形	
PL.51-34	S-09-0644 MB50 茶褐色砂礫土層	(38.8) 16.5 5.7 (3.1)	38.8 16.5 5.7 (3.1)	E-2 逆刺は円味をもつ。B面中央に一部大刺離面を留めるが、全体に調整刺離が施されてあり、刺離面は揃っている。筋はA面に通る。先端はA面側へ大きく刺離欠損。	菱形	
PL.51-35	S-09-0661 J158 整地層	(42.5) 18.5 8.3 (6.3)	42.5 18.5 8.3 (6.3)	E-2 幅広い。厚味がある。逆刺は円い。両面中央に大刺離面を留める。B面は平坦。周辺からの調整刺離は、全体に揃っているが、A面先端部両側面、B面右側面はステップ状を呈す。茎の基部には自然面残存。	先端部 扇形 基部 不整六角形	
PL.51-36	S-09-1248 IB62 礫混黒褐色土層	48.1 18.5 8.0 5.9	48.1 18.5 8.0 5.9	E-1 厚味がある。右の逆刺は円味をもち、茎の袈りは明確。両面に大刺離面を留める。A面は2つの調整面からなり、B面は左下に打点をもつ主要刺離面を呈する。周辺から調整刺離が施され刺離面は揃っている。筋はA面に通る。B面は平坦。両側面エッジはジグザグである。	扇形	

()は残存部分の法量である。

石 鏝

図原番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) 重量 (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
fig21-6	S-09-0222 不明	(47.0) 13.2 3.9 (2.3)		E-2 細身。鏝身に対し、茎が長い。逆刺は鋭いが挟りが小さい。A面には大きく2面の大刺離面を留め、B面には主要刺離面を残し、打点は下方右寄り。周辺沿いに細かい調整刺離が施され、刺離面は揃っている。先端部両側辺は鋸歯状を呈する。	三角形	
fig21-7	S-09-0553 IV63 第1層・雑土・灰土層	42.2 21.8 7.4 3.8		E-1 厚味がある。先端から逆刺にかけての両側辺は逆刺から茎にかけてと同じ位に内彎し、逆刺は突出している。B面中央に一部大刺離面を留め、全体にやや粗い刺離が施される。A面基部中央は大きなステップ状刺離を呈し、基部は得くなる。他の部分にもステップ状刺離は混在。鏝は両面に通る。先端部、逆刺、茎端部のエッジは磨滅。先端はA面側へ刺離欠損。	菱形	
fig21-8	S-09-0211 KK65 第4層・黒色砂質土層	33.2 19.3 4.1 (1.4)		E-1 先端部は細身である。薄い。先端から逆刺にかけての両側辺は逆刺から茎にかけてと同じ位に強く内彎し、逆刺は突出している。逆刺部は右より左の方が鋭い。両面両側辺より調整刺離。A面中央に大刺離面がわずかに残存。A面基部中央、B面先端部左側の刺離はステップ状を呈し、他の部分にも混在。鏝は両面に通る。逆刺から茎にかけてのエッジは僅かに磨滅。	菱形	
fig21-9	S-09-1152 ML56 沸 (SF 074) 褐色砂層	23.7 20.5 4.7 1.7		E-1 鏝身は特に短く、逆刺は突出している。両面中央に一部大刺離面を留める。周辺からはやや小さい調整刺離が施される。A面中央の刺離はやや大きなステップ状を呈し、他の部分にもステップ状刺離が混在。両端部のエッジは磨滅。	杏仁形	
	S-09-0014 LE・LF66-67 第3層・茶褐色砂質土層	(24.6) 11.9 4.0 (1.2)		E-2 小型。挟りは浅い。A面中央に大刺離面を留め、打点は左方にあり。B面中央に主要刺離面を留め打点は右方にある。比較的小さい削片を原材料としている。周辺から調整刺離を施している。	不整五角形	
	S-09-0018 KX・KY62-69	(32.7) 20.7 6.5 (3.4)		E-1 幅広。厚味を有す。鏝身は二等辺三角形を呈し、逆刺は鋭い。両面共に大刺離面は留めないが、B面左方より大きな刺離が施されステップ状を呈す。B面右方からの刺離もステップ状を呈す。A面に筋が通る。A面にもステップ状の刺離が混在。両側辺には細かい調整刺離も見られる。逆刺、茎の端部エッジおよび両面縁線は磨滅。	先端部 扇形 基部 不整四辺形	
	S-09-0027 ML62 灰土層	(44.3) 13.5 8.0 (5.2)		E-2 大型。細身。厚味がある。全体に刺離が施され、大刺離面を留めず。刺離面は両面共に並列しており、中央に筋が通る。側辺はジグザグを呈す。両側辺のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-0029 KC68 第4層・褐色土層・上面	34.8 11.1 6.5 2.1		E-2 細身。中央に厚味を有し、両端へうすくなる。全体に粗いつくりである。A面中央に大刺離面残存。左側辺はより大きく屈曲し、軸は右側へ彎曲。刺離面は揃っていないでA面右側辺はステップ状を呈する。鏝は両面に通る。先端エッジおよび茎左端エッジは僅かに磨滅。	菱形	石鏝の可能性あり。 
	S-09-0032 KC68 第4層・褐色土層・上面	(39.8) 18.6 8.2 (4.7)		E-1 鏝身は二等辺三角形を呈し、逆刺は鈍い。厚味がある。A面先端部中央およびB面中央に大刺離面を留めるが、全体に調整刺離が施されている。刺離面は揃っており、両面両側辺はステップ状を呈する。両側辺はジグザグである。鏝は両面先端部に通る。A面右側辺、両方の逆刺エッジ、茎のエッジは僅かに磨滅。	先端部 菱形 基部 杏仁形	
	S-09-0033 KR・KS66-67 第4層・灰褐色砂質土層	(26.9) 9.6 3.4 (0.9)		E-1 細身の小型。薄い。左側の逆刺はなだらかで、右側の逆刺は円味をもち、挟りが明確。B面中央に大刺離面を留めるが、全体に調整刺離が施される。鏝身両側辺からの細かい調整刺離も見られる。刺離面は主にステップ状を呈す。左側の挟り部を除く、周辺エッジは僅かに磨滅。鏝は両面に略通る。	杏仁形	
	S-09-0037 MP62 灰土層	(38.3) 13.0 6.7 (3.6)		E-2 大型。細身。厚味がある。両面共に大刺離面が施され、大刺離面を留めず。A面両側辺沿いに細かい調整刺離も見られる。両面共にステップ状のものが混在するが、刺離面は並列している。側辺はジグザグである。鏝は両面に通る。両側辺エッジは僅かに磨滅。	杏仁形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) 重量 (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0038 MN62 黒色砂礫有機層	(32.7) 16.2 3.6 (1.9)		E-2 幅広。薄い。逆刺は円味をもつ。両面中央に大きく大刺離面を留める。B面は主要刺離面で、打点は左方にある。薄い刺片を材料としている。周辺沿いに細かな調整刺離が施され、刺離面は揃っている。	扁平な六角形	
	S-09-0043 MN63 黒褐色礫混合土層	(42.4) 19.4 5.3 (3.7)		E-2 幅広。逆刺は円味をもつ。全体に刺離調整が施され、B面基部中央に大刺離面残存。四面にステップ状の刺離が混在。顔はA面に通る。逆刺と基両側面のエッジは僅かに磨減。	扇形	
	S-09-0050 MJ58 床土層	(31.3) 12.9 4.3 (1.7)		E-2 やや細身。薄い。逆刺はなだらかで袈りは浅い。A面中央に一部大刺離面を残し、B面中央には主要刺離面を留め打点は右方に位置する。周辺から調整刺離が施される。両面右側面はステップ状を呈し、他にも混在する。顔は両面先端部に通る。先端部および基両側面のエッジは僅かに磨減。	先端部 扁平な扇形 基部 五角形	
	S-09-0054 KN66・67 第2層・第3層	(46.4) 20.5 5.8 (5.7)		E-1 幅広の大型。薄い。両面中央に細長く大刺離面を留めるが、全体に刺離が施され、刺離面は揃っている。B面左側面のみ刺離が混在。側面が内湾きみになる。顔は両面先端部に通る。周辺のエッジおよび両平面の縁は磨減。	先端部 菱形 基部 五角形	
	S-09-0072 KH64 第3層・暗褐色砂質土層	(44.3) 18.9 8.5 (5.7)		E-1 逆刺は左右非対称で左側の袈りが明確である。両面両側面より調整刺離。両面先端部は顔が通るが、基部中央に大刺離面、B面中央には自然面が残存し、基部は特に厚みをもつ。B面はやや平坦な面を呈す。全体につくりは粗い。四面にステップ状刺離が混在。	先端部 菱形 基部 六角形	
	S-09-0076 IZ 表探	(35.2) 21.0 8.7 (5.8)		E-1 幅広。厚味がある。逆刺はやや円味をもつが、袈りは明確である。A面に一部大刺離面を留める。両側面からは調整刺離が施されるが主にステップ状を呈し、刺離面は揃っていない。やや粗いつくりである。顔は両面先端部に略通る。先端はA面側へ折れ欠損。基端部に自然面を留める。上端折れ部分に最大厚あり。	菱形	
	S-09-0079 K162 第3層・暗褐色砂質土層	24.2 14.9 3.5 (1.4)		E-2 幅広の小型。薄い。袈りは浅い。両面は大きく大刺離面が残存。B面は下方に打点をもつ主要刺離面である。かなり小さい刺片を材料としている。周辺沿いに細かな調整刺離を施す。軸はB面側へ彎曲。基のエッジは僅かに磨減。	扁平な六角形	
	S-09-0080 K163 第3層・暗褐色砂質土層	(41.0) 19.8 8.2 (5.0)		E-1 幅広。厚味を有す。逆刺は左右非対称である。右側の袈りはやや浅く、左側の袈りは明確である。全体に粗いつくりで刺離面はステップ状を呈す。右側面の刺離は両面共うまくいわず、著しいステップ状を呈す。A面左側のみ中央付近まで刺離がのび、揃った面を呈す。A面基部右寄り、B面中央に大刺離面残存。周辺のエッジは僅かに磨減。	先端部 菱形 基部 不整四辺形	
	S-09-0081 K163 第3層・暗褐色砂質土層	(36.2) 20.3 6.7 (4.9)		E-2 幅広。側面は緩くカーブし、逆刺は円味。基は短い。A面、B面基部中央は大刺離面、B面先端部は上方からの大きな刺離面よりなり得く、基部は厚みをもつ。周辺より小さな調整刺離。側面はジグザグを呈す。先端は鈍く、不整形。	先端部 不整六角形 基部 不整五角形	
	S-09-0083 K163 第3層・暗褐色砂質土層	(30.2) 13.4 3.2 (1.5)		E-2 薄い。逆刺はややなだらかで、袈りは浅い。両面に大きく大刺離面が残存。B面は主要刺離面を呈し、打点は右下方に位置する。A面およびB面両側面は調整刺離が施され、刺離面は揃っている。先端はB面側へ折れ欠損。	先端部 扇形 基部 台形状	
	S-09-0089 KZ 表探	(48.6) 19.7 5.6 (4.6)		E-1 大型。やや幅広。鏡身は長い。A面中央に自然面が残存するが、全体に調整刺離が施されており、刺離面は並列している。両側面には一部細かい調整刺離も見られる。顔は両面に通る。逆刺から基にかけてのエッジおよび両面の縁は僅かに磨減。	菱形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡

図版番号	登録番号 出土地点 遺物名称 (遺物番号) 層位	法量 (mm) 重量 (g)	現 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0093 MJ57 茶褐色砂質土層	(25.7) 15.6 5.0 (2.0)		E-2 やや厚味を有する。逆刺は円い。両面共に大刺離面を留めないが、やや粗いつくりである。両面共に左側の刺離はステップ状を呈し、他にもステップ状の刺離が混在。鋸は両面に略通る。左側辺は粗い鋸歯状を呈す。	変形	
	S-09-0097 K166 第3層・黒色砂質土層	24.0 14.0 3.2 1.2		E-2 幅広い小型。薄い。逆刺は円味をもつ。両面中央に大刺離面を留め、A面は左方に打点をもつ主要刺離面である。小さい刺片を材料としている。周辺から細かな調整刺離が施される。周辺のエッジおよび両面の縁は僅かに磨滅。	先端部 変形 基部 ごく扁平な六角形	
	S-09-0098 K167 第3層・黒色砂質土層	(40.3) 20.3 5.4 (3.8)		E-1 幅広い。鏡身の側辺は直線的にのび、左の逆刺はやや円味をもつが、茎の袈りは明確である。全体に丁寧な刺離が施され、大刺離面を留めず、両面中央に鋸が通る。両側面からは一部細かい調整刺離も施され、エッジはうすく鋭い。	変形	
	S-09-0101 K168 第3層・黒色砂質土層	32.2 20.6 4.4 2.6		E-1 幅広い。薄い。左の逆刺はやや円味をもつ。先端の角度は鈍い。全体に調整刺離面は揃っていないが、大刺離面は留めている。両面にステップ状の刺離が混在。鋸は両面に通る。周辺のエッジは僅かに磨滅。	扁平な変形	
	S-09-0107 第5層・茶褐色砂質土層	(33.7) 18.5 8.2 (4.7)		E-2 幅広い。厚味がある。逆刺は円味をもつ。両面中央に大刺離面を留める。B面はやや右寄りの下方に打点をもつ主要刺離面である。全体に粗いつくりで、A面中央の左側からの初段階の刺離は大きなステップ状を呈する。周辺からは調整刺離が施され、刺離面は揃っているが主にステップ状を呈す。鋸はA面に通る。先端および茎の端部はA面側へ折れ欠損。周辺のエッジは全体に僅かに磨滅。先端破損部および茎の両側辺は磨滅。	扇形	
	S-10-0119 KN66 第4層・茶褐色砂質土層	(40.2) 21.0 8.5 (6.6)		E-2 やや幅広い。厚味がある。側辺は緩くカーブし、逆刺は円い。袈りは浅い。両面をやや粗い刺離が施され、大刺離面が施され、大刺離面を留めず、B面左側辺はステップ状刺離を呈し、他の部分にも混在する。鋸は両面に通る。	変形	
	S-09-0120 KE69 第3層・黒色砂質土層	44.5 12.5 5.3 3.0		E-2 細身。やや厚味がある。逆刺はなだらからで袈りは極く浅い。全体に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。刺離は全体に揃っており、両面共ステップ状の刺離が混在。鋸は両面に通る。左側辺はジグザグを呈す。先端は円い。周辺のエッジは僅かに磨滅。	変形	
	S-09-0121 KE69 第3層・黒色砂質土層	30.3 7.7 4.1 1.1		E-2 細身の小型。B面中央に大きく大刺離面を留める。全体に粗いつくりである。刺離面は主にステップ状を呈し、不揃いである。A面右半分は刺離は大きいステップ状を呈す。基部部は自然面を留める。鋸はA面に通る。先端は右側に彎曲する。	不整五角形	
	S-09-0132 KD66 第3層・黒色砂質土層・下層	36.5 14.1 4.8 2.0		E-2 やや幅広い。厚味がある。逆刺は円味をもち、袈りは浅い。A面中央に一部大刺離面を留めるが、全体に刺離面は揃っている。両面左側辺の刺離はステップ状を呈し、他にも混在。鋸は両面に通る。側辺のエッジ及び両面の縁は磨滅。	変形	
	S-09-0136 MK61 黒褐色礫混合土層	(25.4) 19.1 4.5 (2.7)		E-2 幅広い。薄い。逆刺はやや角ばるが、左よりも右の方が下方に位置する。A面右半分は大刺離面を留める。両側面からの刺離は粗いがA面両側辺には更に細かい調整刺離が施される。全体として不整形。周辺のエッジは磨滅。	扁平な杏仁形	
	S-09-0153 MH56 黒褐色礫土層	(36.5) 11.1 6.4 (3.4)		E-2 大型。細身。厚味がある。全体に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。両面の両側辺より細かい調整刺離が施されており、鋸は両面に通る。周辺エッジおよび両平面の縁は磨滅。	変形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) 厚 (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0157 KH68 第3層・褐色砂質土層	(34.4)	21.0 5.6 (4.3)	E-2 幅広い。逆刺は円味をもつ。B面中央に自然面を留める。全体にやや粗いつくりで、刺離面は主にステップ状を呈する。A面は調整面よりなり、鋸はA面に通る。逆刺のエッジは磨滅。先端から右側にかけて縦方向に刺離欠損。	不整五角形	
	S-09-0161 KJ64 第3層・褐色砂質土層	(41.3)	23.0 4.9 (3.7)	E-1 大型。幅広い。薄い。B面中央に細長く大刺離面を留めるが、全体に押圧刺離が施され、刺離は中央まで伸びる。B面両側辺には一部細かい調整刺離も施されている。A面右側辺は主にステップ状を呈する。A面先端部左側辺、基部右側辺の刺離は不揃いである。鋸は両面に通る。先端部エッジは僅かに磨滅。	扁平な菱形	
	S-09-0169 KL65 第3層・褐色砂質土層	37.5	22.5 5.8 5.4	E-1 幅広い。やや厚味がある。左の逆刺は円味をもつ側辺の袈りがやや浅いのに対し、右の逆刺は鋭角の角ばり袈りは明瞭である。両面中央に大刺離面を留め、両面は右下方に打点をものも主要刺離面を呈す。両面から調整刺離が施されるが、刺離は不揃いでステップ状を呈する。周辺のエッジは僅かに磨滅。	先端部 不整四辺形 基部 扁平な杏仁形	
	S-09-0172 NI53 褐色粘質土層	(30.8)	11.3 4.4 (1.2)	E-2 小型。やや細身。厚味を有する。茎は長い。全体に調整刺離が施され、刺離は中央まで伸びている。刺離面は揃っており、両面にステップ状刺離が混在。両面基部中央に大刺離面残存。鋸は両面に通る。	菱形	
	S-09-0176 KX58 第3層	(28.6)	21.4 4.4 (3.0)	E-1 大型。幅広い。薄い。鏡身は二等辺三角形。全体に調整刺離が施されており、大刺離面を留めず。B面は略平らと思われる。B面先端部寄り右面に確の結晶が見られる。刺離面は主にB面側において、ステップ状を呈する。鋸は通らず。両面中央突部に研磨が施されており、先端はA面側へ折れ欠損。基部両側辺のエッジは僅かに磨滅。	扁平な杏仁形	
	S-09-0179 MZ	29.7	12.6 5.0 2.0	E-2 厚味がある。逆刺はなだらかで袈りは浅い。A面中央に一部、B面中央に大刺離面を留める。B面は略平らな面を呈す。周辺に調整刺離が施され、刺離面は揃っている。両側辺はジグザグ。周辺のエッジおよび両面の縁は磨滅。先端および基部の磨滅は著しい。	先端部 菱形 基部 不整五角形	石鏡の可能性あり。 
	S-09-0180 MZ	(28.6)	15.4 5.0 (1.9)	E-2 幅広い小型。厚味がある。逆刺は角ばりが袈りはやや浅い。両面基部中央に大刺離面を留め、周辺より調整刺離を施している。全体にやや粗いつくりで、A面左側辺はステップ状を呈する。A面右側辺に細かい調整刺離が施される。鋸はA面先端部に通る。周辺エッジは僅かに磨滅。	三角形	
	S-09-0187 MI56 黒色砂質土層	(42.9)	17.1 6.4 (3.8)	E-2 厚味がある。逆刺は円味をもつ。全体に調整刺離が施されており、大刺離面を留めず。中央に鋸が通り、刺離面は並列している。側辺はジグザグを呈す。B面左側にステップ状の刺離が見られる。逆刺から茎にかけてのエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-0197 KT60 第2層・黒褐色砂質土層	38.6	21.3 6.0 3.7	E-2 幅広い。薄い。逆刺はやや角ばるが、袈りは浅い。A面中央に小さく、B面中央にやや大きく、大刺離面を留め、周辺から調整刺離が施される。全体に刺離は揃って粗いつくりである。刺離は主にステップ状を呈す。	先端部 扁平な五角形 基部 菱形	
	S-09-0199 MH57 黒色砂質土層	(37.9)	10.6 5.1 (2.0)	E-2 細身。両面中央に大刺離面を留め、周辺から調整刺離を施している。全体に粗いつくりで、ステップ状の刺離が混在、全体として不整形。左右対称の形でない。	扇形	石鏡の可能性あり。 
	S-09-0203 KT62 第2層・黒褐色砂質土層	(32.6)	14.8 5.2 (3.0)	E-2 幅広い。厚味を有す。逆刺は円味をもつ。両面中央に大刺離面を留める。周辺からは調整刺離が施され、刺離面は略揃っている。B面はステップ状の刺離が混在。基部両側辺はジグザグである。先端に回縁痕あり。	杏仁形	先端に回縁痕あり (長13mm)。 

()は残存部分の法量である。

石 鏝

図版番号	登録番号 出土地名 遺構番号 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0341 KX60-70	(32.4) 14.8 6.5 (3.3)		E-2 基部に厚味がある。A面基部中央に一部大剣離面を留める。全体に調整剣離が施されるが、主にステップ状を呈する。鋸は両面に通る。B面には中央の突起に研層が施される。先端部両側辺のエッジは磨滅して丸い。	菱形	
	S-09-0348 MJ58 溝 (SF 074) 褐色砂層	(40.2) 19.5 7.7 (6.1)		E-2 幅広。厚味がある。全体にやや粗い調整剣離が施されており、大剣離面を留めず。A面基部左側辺、B面基部両側辺はステップ状を呈し、他にも最在。鋸は両面に通る。先端部エッジは僅かに磨滅。先端はB面側へ折れ欠損。未製品か。	菱形	
	S-09-0356 MN61 黒色砂土層	(43.3) 20.3 6.3 (4.0)		E-1 逆刺部は幅広で、先端は鋭く、基部も細くつくれる。厚味がある。B面基部中央に大剣離面を留めるが、全体に調整剣離が施される。A面右側辺に細かい調整剣離が施されており、ステップ状を呈する。B面基部は主にステップ状剣離を呈し、他にも最在。逆刺からの茎にかけてのエッジは僅かに磨滅。	先端部 菱形 基部 五角形状	
PL.49-37	S-09-0382 MK59 溝 (SF 074) 褐色砂層	35.6 14.5 4.7 1.8		E-2 基部中央で最大厚を測り、先端および基端に向けて薄くなる。鍔身両側辺は直線的にのび、逆刺は円味をもつ。両面とも、両側辺から調整剣離が施されており、剣離面はステップ状を呈す。逆刺から基部辺の磨滅は著しく、エッジは丸くなり、鍔身のエッジも磨滅。	菱形	
	S-09-0385 ML60 溝 (SF 074) 褐色砂層	(23.4) 18.0 5.5 (2.2)		E-2 鍔身は短かく、基部に厚味がある。先端部から逆刺にかけての両側辺はやや内彎する。先端は鈍く、鍔身は不整形。左の逆刺は角ばり、右の逆刺は円味をもつ。両面ともに両側辺から調整剣離が施されており、剣離面はステップ状を呈す。逆刺から基部辺の磨滅は著しく、エッジは丸くなり、鍔身のエッジも磨滅。	不整四辺形	
	S-09-0391 LA64 土坑 (SK 270)	(25.0) 18.9 4.9 (2.4)		E-2 幅広。扁平。逆刺は円味をもつ。両面共に両側辺から調整剣離が施され中央までのびており、剣離面はステップ状を呈するが、並列している。両面共に大剣離面を留めない。鋸は両面に通る。	扁平な菱形	
	S-09-0399 表探	(32.4) 14.9 4.4 (2.5)		E-2 やや厚い。A面左半分、B面に大きく大剣離面を留めB面は左下方に打点をもつ。両面共に側辺から調整剣離が施されるが中央までのびず、不揃いである。全体につくりは粗い。	両端部 菱形 基部 台形状	石鏝の可能性あり。 
	S-09-0406 表探	(32.2) 13.5 6.8 (3.3)		E-2 やや細身。厚味を有する。両面共に調整剣離が施されており、大剣離面を留めず。鋸は両面に通る。A面両側辺沿いに細かい調整剣離も施され、剣離面はステップ状を呈する。両面共に中央部にはステップ状剣離が最在。逆刺から茎にかけてのエッジは磨滅。	菱形	
	S-09-0409 KP65 第2層・暗褐色土層	(37.2) 23.8 3.9 (2.8)		E-1 幅広。扁平。先端から逆刺にかけての両側辺はやや内彎し、逆刺部は鋭く、茎の折りは明確。A面基部中央に主要剣離面を留め、打点は上方にある。B面基部に大剣離面を留め打点は下方にある。両面両側辺から剣離が施され、A面では主にステップ状を呈する。先端部両側辺には細かい調整剣離も見られる。鋸はB面先端部に通る。先端部、逆刺、茎の両側辺エッジは僅かに磨滅。	先端部 扁平な扇形 基部 台形状	
	S-09-0415 MZ 表探	(34.0) 14.3 6.7 (2.7)		E-1 やや幅広。厚味がある。A面基部中央に一部大剣離面を留め、右方に打点をもつ。全体に調整剣離が施され、剣離面は揃っている。B面左側辺基部から茎にかけての剣離面はステップ状を呈す。鋸は両面に通る。	菱形	
	S-09-0416 MZ 表探	(31.3) 17.0 5.6 (2.6)		E-1 厚味がある。先端から左の逆刺にかけて、やや内彎し、逆刺は円味をもつ。先端から右の逆刺にかけて、やや外彎し、逆刺は角ばる。全体に調整剣離が施され、大剣離面を留めず。両面とも左半分の剣離が主にステップ状を呈する。鋸は両面に通る。	菱形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地 遺構 (遺構番号) 層	法量 (mm) (g)	現量 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0420 MZ 表採	47.8 16.3 9.2 5.4		E-2 幅狭。鏡身は長く、左側は緩くふくらみ、右側はくの字形を呈す。厚味がある。A面基部中央に大刺離面、B面中央に主要刺離面を留め、打点は左方にあるが、この部分の側面は調整刺離がうまくいらず、厚味を残す。両面共に両側面から調整刺離が施され、先端部は鋭が通る。両面共に刺離面はステップ状を呈する。	菱形	石鏡の可能性あり。 
	S-09-0426 MZ	(35.0) 16.2 4.8 (2.7)		E-2 両面共に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。基部両側面には細かい調整刺離が施される。両面共ステップ状刺離が混在。鋭は通る。基部を除く周辺のエッジおよび両面突部に研削が施される。	菱形	
	S-09-0440 MZ 表採	(47.2) (24.6) 6.6 (7.5)		E-1 大型。幅広。やや厚味がある。先端から逆刺にかけての左側面は内彎。両面に刺離が施され、B面基部中央に大刺離面残存。B面の刺離面は略揃っており、A面の刺離面は粗く不揃いで、大きなステップ状刺離を呈する。鋭はB面先端部に通る。周辺のエッジおよび両面の稜は磨滅。	先端部 扁形 基部 杏仁形	
	S-09-0443 KZ 表採	(45.0) 19.9 6.9 (4.7)		E-1 大型。幅狭。厚味を有する。先端部は直線的のび、逆刺上方やや内彎。逆刺は少し凹味をもち、茎の挟りは明瞭。両面共に丁寧な調整刺離が施され、大刺離面を留めず。両側面からは細かい調整刺離が施され、ステップ状を呈す。B面の刺離面は主にステップ状である。鋭は両面共に通る。周辺のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-0448 ME60 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(21.1) 18.1 4.5 (2.1)		E-2 薄い。逆刺は凹味をもつ。B面中央に大刺離面を留め、両側面よりうすい調整刺離を施し、更に細かい調整を施す。両面共ステップ状刺離が混在。A面に鋭が通る。両側面のエッジおよび両面の稜は僅かに磨滅。	扁平な杏仁形	
	S-09-0470 ME60 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(30.1) 13.6 5.4 (1.7)		E-2 小型。厚味を有する。逆刺は角ばるが、挟りは浅い。両面中央に大刺離面を留める。全体に調整刺離が施され、刺離面は略揃っている。更に細かい刺離が両側面に施される。両面右側面の刺離面はステップ状を呈する。鋭は両面先端部に通る。	先端部 菱形 基部 六角形	
PL.53-10	S-09-0480 LE63 第3層	36.3 19.2 6.4 4.1		E-2 幅広。厚味を有する。逆刺は左右非対称で、左側より右側の方が上方に位置する。左側の逆刺は角ばり右側の逆刺は凹味をもつ。茎の挟りは浅い。B面中央に大刺離面を大きく留める。A面中央に主要刺離面を一部留め、左下方に打点をもつ。両側面からは調整刺離が施されているが不揃いで、主にステップ状刺離を呈する。先端部側面(長7mm)、茎側面(長6mm)は磨滅しており、両端縁の可能性あり。	不整五角形	両端縁の可能性あり。 
	S-09-0481 LG60-66	(39.5) 20.4 4.8 (4.1)		E-1 大型。やや幅広。やや薄い。逆刺は左右非対称で、左側はやや角ばるが、茎の挟りは浅く、右側は角ばっており、茎の挟りは明瞭である。全体に調整刺離が施されており刺離面は並列し、大刺離面は留めない。両面左側面には更に細かい調整刺離が施される。A面およびB面左半分の刺離は主にステップ状を呈する。	扁平な菱形	
	S-09-0483 LE67 第2層	(23.4) 12.3 5.7 (1.8)		E-1 やや細身の小型。厚味がある。逆刺はやや角ばり茎の挟りは明瞭。両側面から調整刺離が施され、大刺離面を留めず。B面両側面には更に細かい調整刺離が施される。刺離面は主にステップ状を呈する。先端部から茎にかけての両側面エッジは磨滅。先端はA面側へ、基部はB面側へ折れ欠損。	杏仁形	
	S-09-0487 MZ62 溝 (SF 074) 表採	40.3 14.8 5.6 2.8		E-2 やや細身。逆刺はなだらかで、茎の挟りは浅い。両面に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。両側面は磨滅状を呈す。両面の刺離は主にステップ状を呈する。鋭は両面に通る。逆刺から基部にかけてのエッジは磨滅している。稜はA面側へ彎曲。	菱形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) 重量 (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0490 LE68 溝 (SF096)	34.4 15.8 4.6 2.0		E-2 幅広い。薄い。逆刺は円味をもつ。袈りは明確。A面に大刺離面を留め右方に打点をもつ。B面に大きく主要刺離面を留め、左下方に打点をもつ。両側より調整刺離が施され、縁身部の刺離面は略揃っており、袈り部分の刺離はやや粗い。周辺のエッジは僅かに磨滅。軸はA面側へ特出。	扁平な五角形	
	S-09-0506 MH64 黒褐色磨混土層	(34.4) 15.4 6.7 (4.0)		E-2 大型。細身。厚味がある。逆刺はやや円味をもつ。両面共に調整刺離が施され、B面先端部中央に大刺離面残存。両側辺沿いに更に細かい調整刺離が施され刺離面は並列し、鏡は両面に通る。両面共にステップ状刺離が混在。両端ともA面側へ折れ欠損。	菱形	
	S-09-0513 不明	42.7 14.5 6.0 3.1		E-2 細状。茎の上方部で最大厚を有する。A面中央に自然面を残し、B面中央部では左下方に打点をもつ主要刺離面を留め。逆刺はなだらかで、袈りはやや浅い。両側から調整刺離が施されており、刺離面は揃っている。B面縁身右側辺はステップ状を呈する。縁身中央右側辺、茎の左側辺エッジは僅かに磨滅。	両端部 菱形 基部 扁平な六角形	
	S-09-0532 NA61 黒色砂質土層	(45.0) 13.4 4.2 (2.3)		E-2 大型。細身。薄い。A面基部中央に一部自然面を留めるが、全体に調整刺離が施され、刺離面は並列。B面両側辺沿いに更に細かい調整刺離が施されており、両側辺は鋭角状を呈する。両面共ステップ状刺離が混在。鏡は両面に通る。周辺のエッジは磨滅しており、先端および基部に明瞭である。	菱形	
	S-09-0537 JC63 第2層・黒褐色土層	(34.8) 15.9 5.2 (2.9)		E-2 やや厚味を有する。逆刺は円味をもつ。B面はやや平坦な面をなす。全体に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。両面左側辺には更に細かい調整刺離が施される。両面とも刺離面は主にステップ状を呈する。鏡は両面に通る。逆刺から茎にかけての両側辺エッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-0543 MZ	29.8 21.3 4.5 (3.0)		E-1 幅広い。薄い。逆刺は角ばり、袈りは明瞭。両面中央に大刺離面を留める。両側辺からは細かい調整刺離が施され、刺離面は揃っている。両面の刺離は主にステップ状を呈する。周辺のエッジは僅かに磨滅。	先端部 菱形 基部 扁平な六角形	
PL.53-9	S-09-0545 MZ	(37.2) 17.8 4.4 (2.8)		E-1 幅広い。両面に大きく大刺離面を留める。打点はA面では左下方、B面では下方にあり、B面は主要刺離面を呈す。周辺沿いに調整刺離が施される。A面左側辺寄りには厚味を有し、右側辺では薄い。逆刺部および基部は僅かに磨滅。先端に回転痕あり。先端はB面側へ刺離欠損。	不整四辺形状	先端部に回転痕あり(長0.6cm)。 
	S-09-0554 IV62 第3層・整地層	(41.2) 14.7 7.2 (4.2)		E-2 細状。厚味がある。B面中央に大刺離面を留める。両側辺から小さな調整刺離。刺離面は主にステップ状を呈する。更に両側辺からは細かい調整刺離が施される。A面はステップ状を呈する。	先端部 不整な菱形 基部 扇形	
	S-09-0557 IK66 床土層下部	(49.2) 19.8 7.8 (6.2)		E-1 大型。やや幅広い。基部に厚味がある。左の逆刺は角ばり、右の逆刺はやや円味をもつ。B面中央に一部大刺離面を留める。両側辺から刺離が施されており、刺離面は不揃いでステップ状を呈する。鏡は両面に通る。周辺のエッジは僅かに磨滅。茎のエッジは僅かに磨滅。茎のエッジの磨滅は明瞭。先端はA面側へ刺離欠損。	菱形	
	S-09-0558 IV62 黒褐色砂質土層	47.5 18.2 9.2 6.6		E-2 やや幅広い。厚味がある。逆刺はなだらかで、袈りは浅い。A面先端部に自然面を留める。両側より粗く刺離後、更に両側辺に細かい調整刺離が施される。A面左半分の刺離は大きなステップ状を呈する。他にもステップ状刺離は混在。両面に略揃は通る。周辺のエッジは僅かに磨滅。	先端部 扇形 基部 菱形	
	S-09-0562 JA64 床土層下部・褐色磨混土層	(42.4) 19.2 5.8 (4.4)		E-2 やや幅広い。やや厚味がある。逆刺は円味をもち袈りは明瞭。全体に調整刺離が施され、刺離面は揃っており、大刺離面を留めず。B面両側辺からは更に細かい調整刺離が施され、両面ステップ状を呈す。鏡は両面に通る。逆刺から茎にかけての両側辺エッジは横方向に揃っている。	菱形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地名 遺構番号 層位	法量 (mm) 重量 (g)	現長 幅 厚 量	特 徴	中央断面	備 考
PL.53-4	S-09-0569 JA63 黒色砂質土層	(45.2) 23.9 8.0 (7.6)	E-1 大型。幅広い。先端部に厚味がある。逆刺は非対称で、右の逆刺は鋭く突出する。基部部に自然面を留める。両側辺より粗く刺離した後、更にA面両側辺を細かく調整刺離を施す。両面基部左半分は大きなステップ状刺離を呈し、他にも存在。B面基部中央に小さく大刺離面残存。箱は両面に通る。逆刺から茎にかけての両側辺エッジは挫いている。	菱形		
PL.53-3	S-09-0571 JD62 褐色礫混土層	42.9 17.2 4.4 2.9	E-2 やや幅広い。薄い。左右の逆刺は非対称で、左の逆刺は角ばり、右の逆刺は円味をもつ。全体に調整刺離が施される。A面先端部両側辺、B面左側辺には更に細かい調整刺離が施されステップ状を呈する。両面基部中央の刺離はやや大きなステップ状を呈す。箱は両面先端部に略通る。両辺のエッジは僅かに磨滅。先端の磨滅は著しい。	扁平な杏仁形		
S-09-0578 KZ 表採	(31.8) 16.5 6.4 (3.0)	E-2 幅広い。厚味がある。逆刺は円味をもち、袈りは浅い。両側辺から調整刺離が施されており、A面基部右側辺、B面左側辺には更に細かい刺離が施される。A面およびB面右半分の刺離はやや大きなステップ状を呈する。箱は両面に通る。先端部、B面へ刺離欠損後、破損面に調整刺離を施し、再加工している。茎に回転痕あり。	菱形	茎に回転痕あり (長0.7cm)		
S-09-0587 KP3 第2層・暗褐色土層	38.2 16.8 8.0 4.8	E-2 やや幅広い。厚味がある。逆刺は左右非対称で、左よりも右の方が下方に位置する。左の逆刺はややなかみで、右の逆刺は角ばり袈りは浅い。両側より刺離が施されるがB面左半分に大刺離面を留める。B面側辺は大きなステップ状刺離を呈し、他にもステップ状刺離は混在。箱は両面に通る。先端部のエッジは僅かに磨滅。	菱形			
S-09-0614 MM62 溝 (SF 074) 黒褐色礫混土層	(37.0) 12.2 6.4 (3.1)	E-2 細身。厚味がある。全体に調整刺離が施されB面先端部中央に僅かに大刺離面残存。両側辺からは更に細かい調整刺離が施され、刺離面は並列しており、箱は両面に通る。両辺のエッジは僅かに磨滅。先端はA面側へ折れ欠損。	菱形			
S-09-0624 KN66 第4層・茶褐色砂質土層	51.8 14.2 9.0 5.9	E-2 細身。厚味がある。茎は長く、全体として不整形。両側辺から調整刺離が施され、大刺離面を留めず。刺離面はやや不揃いで主にステップ状を呈する。箱は両面に通る。基部部のエッジは磨滅。	両端部 菱形 中央部 厚手の杏仁形	石鏡の可能性あり。		
S-09-0650 JE66 整地層	(40.5) 23.7 5.2 (4.8)	E-1 大型。幅広い。薄身。逆刺は円味をもつ。A面基部に一部大刺離面を留める。両側辺から調整刺離が施され、A面両側辺には更に細かい調整刺離も施される。刺離面は主にステップ状を呈す。左側辺はジグザグをなす。箱は両面に通る。両面先端左側辺に鋭角刺離を施して厚みをもたせる。先端部および袈り部分のエッジは僅かに磨滅。	扁平な菱形			
S-09-0652 JE62 整地層	(27.2) 12.3 4.4 (1.3)	E-2 小型。基部に厚味がある。両側辺から刺離が施され、大刺離面は略揃っている。刺離面は略揃っている。両面共に右側辺はステップ状刺離を呈す。箱は両面に通る。先端には自然面を留め鈍い。	菱形			
S-09-0656 JE62 塚土層	(35.1) 17.6 7.1 (4.0)	E-1 大型。やや幅広い。厚味がある。逆刺は左右非対称で、左側は右側よりも下方に位置する。左の逆刺は鋭角的に角ばり袈りは明確。右の逆刺は鈍角的に角ばりは不明瞭。両側辺から刺離が施され大刺離面は留めない。刺離面は不揃いで、全体に粗いつくりである。A面左側辺はステップ状刺離を呈し、他にも混在。箱はA面に略通る。左の逆刺から基部部にかけてのエッジは磨滅。先端はA面側へ折れ欠損。	扇形			
S-09-0662 JI58 整地層	(37.2) 18.6 8.0 (5.3)	E-2 やや幅広い。厚味がある。逆刺は左よりも右の方がやや上方に位置する。先端に自然面を留める。B面中央に主要刺離面を留め、打点は左下方にある。両側辺より調整刺離が施され、A面は箱が通り、刺離面は揃っているが、全体に形は整っていない。A面基部右側辺の刺離はステップ状を呈する。茎欠損後、折れ面からの調整刺離が施される。石鏡の可能性あり。	扇形	石鏡の可能性あり。		

()は残存部分の法量である。

石 鏡

図版番号	登録番号 出土遺構 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
S-09-0670 JQ66	黒色砂質土層	(54.0) 17.4 7.5 (6.6)	E-2 細状。縦身も茎も長い。厚みがある。全体に丁寧な調整刺線が施され、大刺線面を留めず。A面縁身右側、B面先端部左側の刺線面はステップ状を呈し、他にも混在。筋はA面に通る。	扇形		
S-09-0674 JQ62	整地層	(31.4) 9.7 7.6 (2.2)	E-2 細身の小型。厚みがある。両側辺から刺線が施され、大刺線面を留めず。A面先端部の両側辺には更に細かい調整刺線が施される。筋は両面に通る。A面右側辺は僅かに磨滅。	厚手の杏仁形	石鏡の可能性あり。 	
S-09-0676 JU62	整地層	(34.4) 19.9 6.3 (4.7)	E-1 大型。やや幅広く、厚みがある。両側辺から刺線を施した後、更に細かい調整を施す。A面左側辺からの刺線面はステップ状を呈し他にも混在。B面は平坦な面をなす。筋は両面先端部に通る。	先端部 菱形 基部 扇形		
S-09-0678 JY62	整地層	(38.9) 21.4 6.2 (4.0)	E-1 細広。縦身は長く、やや厚みがあり、基部中央で最大厚を測る。両側辺から中央までのびる刺線を施した後、更に細かい調整を施す。両側辺および、B面中央の刺線はステップ状を呈す。筋は両面に通る。周辺のエッジおよび両面の縁は僅かに磨滅。	菱形		
S-09-0687 JY58	整地層	(36.2) (14.4) 5.4 (3.1)	E-2 細広。やや厚みがある。逆刺は円く、袈りは浅い。両面共に調整刺線が施され、更に細かい調整も施される。左側辺は磨滅。右側辺は先端から縦方向に刺線欠損し、先端はB面側へ刺線欠損。	杏仁形		
S-09-0697 M163 溝 (SF 075) 黒色粘質土層		(27.4) 11.4 3.3 (1.0)	E-2 細状の小型。やや厚い。左の逆刺はなだらかで、右側は角ばる。両面中央に大刺線面を留める。周辺からはやや細かく調整が施され、A面はステップ状刺線面を呈する。筋はA面に通る。B面は平坦。	三角形状		
S-09-0699 MF62	黒褐色磨混合土層	(47.8) 12.6 7.6 (4.8)	E-2 細身。厚みがある。左の逆刺はなだらかで、右の逆刺はやや円みをもつ。B面中央に細長く大刺線面を留めるが、両側辺より調整刺線を施す。A面右側辺、B面両側辺はステップ状刺線面を呈す。筋は両面両端部に通る。	両端部 菱形 基部 六角形	石鏡の可能性あり。 	
S-09-0700 ME65	整地層	(39.8) 14.0 7.8 (4.4)	E-2 大型。細身。厚みがある。逆刺はなだらかで袈りが無いため、尖基かと思われる。両面共に側辺から刺線調整され、大刺線面を留めず。刺線面は略揃っており、両側辺には更に細かい調整も見られる。両面の右側辺中央の刺線面はステップ状を呈し、他にもステップ状刺線は混在。両側辺エッジおよび両面の縁は磨滅。先端はB面側へ折れ欠損。	菱形		
S-09-0705 KP58	整地層	(21.8) 12.3 4.3 (1.1)	E-1 小型。基部に厚みがある。両面基部中央に一部大刺線面を留める。B面右側辺より大きく刺線されるが、全体にやや丁寧な調整刺線が施される。B面基部両側辺には細かい調整も見られる。両面共に右側辺の刺線面はステップ状を呈し、他にもステップ状の刺線が混在。筋はA面に通る。	先端部 扇形 基部 菱形		
S-09-0708 LC54	黒色砂質土層	35.0 13.8 4.1 (1.8)	E-2 やや細状。逆刺は円い。A面中央に大刺線面を留めるが全体に調整刺線が施される。A面右側辺はステップ状刺線面を呈する。筋はA面先端部、B面に通る。	先端部 菱形 基部 台形状		
S-09-0715 KL64	第3層・黒褐色粘質土層	(28.4) 15.7 4.7 (2.3)	E-2 幅広いやや小型。逆刺は円みをもつ。やや厚みがある。A面先端部には大刺線面、B面中央に大きく主要刺線面を留め、打点は右下方にある。両側辺からは細かい調整刺線が施され、刺線面は揃っている。A面基部は下方から刺線され、大きなステップ状を呈し、他にもステップ状刺線面混在。筋はA面先端部に通る。先端および逆刺のエッジは僅かに磨滅。先端はB面側へ折れ欠損。	不整四辺形		

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0732 MF54 整地層	(29.6) 20.5 6.6 (3.5)		E-2 幅広い、鎌身は短く、厚みがある。端部の両側辺は左右非対称である。折れ欠損後の再加工による変形である。鎌身側辺は強くカブして下がるが、先端部左側辺は直線的に傾斜する。左逆刺は円みをもち、先端部は明確。右逆刺は角ばり直線的に茎に至る。A面に一部大刺離面を留める。両側辺からの調整刺離は不揃いで、つくりはややあり。両面先端部左側辺に細かい調整が見られる。錆はB面先端部、A面に通る。	先端部 菱形 基部 扇形	
	S-09-0744 JE54 整地層	(23.8) (22.2) 4.4 (2.4)		E-1 幅広い、ごく薄い。両面共大刺離面を留めず。鎌身は両面とも両側辺より押圧刺離が施され、A面は中央に筋が通るがB面はステップ状を呈す。茎の両側辺エッジは僅かに磨滅。先端はB面側へ刺離欠損。	扁平な扇形	
	S-09-0758 MC32 礫混黒褐色土層	44.1 26.0 9.6 6.8		E-2 幅広い、厚みがあり、基部中央で最大厚を測る。先端部は薄い。鎌身は左右非対称である。左側辺は外湾し、逆刺で円みをもつ。右側辺は略直線的にのび、逆刺で角ばり、挟りは浅い。鎌身と茎は略同じ長さである。全体に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。両面共ステップ状刺離が遺在。先端部左半分は大きなステップ状刺離面を呈し、更に細かい調整が施される。逆刺から茎にかけてのエッジおよび両面の縁は僅かに磨滅。	扇形	鉄分付着 
	S-09-0785 表探	(42.1) 24.4 6.0 (5.5)		E-1 幅広い、鎌身は長く、やや厚みがある。逆刺は左右非対称で右側はやや円みをもち左側は鋭い。両面中央に一部大刺離面を留めるが、全体に調整刺離が施され、A面では略刺離面が揃っている。B面基部左側辺からの刺離は大きなステップ状を呈し他にもステップ状刺離面は遺在。錆は両面に通る。先端、逆刺に磨滅が見られる。	菱形	
	S-09-0787 表探	(32.2) 26.7 6.3 (4.7)		E-1 大型、幅広い、やや薄い。A面中央に一部大刺離面を留めるが、全体に調整刺離が施される。両面共ステップ状刺離面が多い。B面両側辺には更に細かい調整が施される。逆刺から茎にかけてのエッジは僅かに磨滅。	扁平な杏仁形	
	S-09-0790 表探	(37.4) 16.4 6.0 (3.3)		E-2 やや幅広い、厚みがある。全体に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。両面先端部右側辺には更に細かい調整が施される。A面左側にステップ状刺離が著しくB面にも見られる。B面はやや平坦な面をなす。錆はA面に通る。逆刺から茎にかけてのエッジは磨滅。	扇形	
	S-09-0792 表探	(30.0) 12.6 6.3 (3.0)		E-2 大型、細身、厚みがある。全体に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。両側辺からは更に細かい調整が施され、両側辺はごく細かい鋸歯状を呈す。錆は両面に通る。両面両側辺の刺離はステップ状をなす。先端はA面側へ折れ欠損。	菱形	
	S-09-0795 表探	36.1 (16.9) 5.5 (2.9)		E-1 幅広い、厚みがある。全体に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。A面右側辺沿いに更に細かい調整が見られる。錆は両面に通る。先端から左側辺にかけて縦方向に欠損後、先端のエッジは磨滅。周辺のエッジは磨滅。	菱形	
	S-09-0808 JY62 黒褐色土層	(29.0) 17.9 6.1 (3.0)		E-2 基部破片。基部両側辺は平行であり、両側辺にわずかに挟りがつくれ、うすく、幅広い茎をつくる。端部に自然面あり。両面ともうすい刺離調整。A面左側辺はステップ状を呈す。両面共茎の右側辺のエッジにごく細かい調整があり、ステップ状を呈す。	基部 扇形 基部 杏仁形	石拍Cタイプの可能性あり。 
	S-09-0817 ML54 土器堆積 (SL321)	(36.8) 20.7 6.2 (4.0)		E-1 大型、やや幅広い、やや厚みがある。全体に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。両側辺には更に細かい調整が施される。B面の刺離面は大きなステップ状を呈す。錆は両面に通る。逆刺から茎にかけてのエッジは揃っている。両側辺のエッジは僅かに磨滅。	菱形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡

区原番号	登録番号 出土地名 遺(遺構番号) 層位	法量 (mm) 重量 (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0820 KP54 黒色砂質土層	(55.6) 22.6 6.1 (6.9)		E-1 大型。やや幅広く。やや厚みがある。縁身は長い。右逆刺は円く、左逆刺は角をなす。全体に突入念調整刺離れが施され大刺離面を留めず。B面基部両側の刺離はステップ状を呈す。筋は両面に通る。先端および左逆刺のエッジは僅かに磨減。蓋はA面側へ刺離欠損。	菱形	
	S-09-0821 NA46 溝 (SF 085) 灰褐色砂礫土層	(39.4) 16.7 6.0 (3.6)		E-2 やや幅広く。厚みがある。逆刺は左右非対称で左側は円みをもち、右側は角より鋭い。両面とも両側面から調整刺離れが施され、大刺離面を留めず。A面右側面に小さい調整が施されステップ状を呈する。筋は両面に通る。蓋周辺のエッジは一部は磨けているが、丸く磨減している。	菱形	
	S-09-0824 MO54 表採	(29.6) 8.9 3.2 (0.9)		E-2 細身。蓋部にやや厚みがある。逆刺は左右非対称で左側はやや角より、右側はなだらかである。両面とも調整刺離れが施され、大刺離面を留めず。先端部は両面とも右側面に、蓋部はA面両側面に小さい調整が施され、ステップ状刺離面を呈し、それは急傾斜面をなし、側面沿いに厚みをもつ。	先端部 平行四辺形 基部 扁平な台形 基部 菱形	
	S-09-0837 MH56 黒色砂質土層	(29.4) 19.9 4.6 (2.7)		E-2 幅広く。やや厚い。逆刺は円みをもつ。全体に調整刺離れが施され、大刺離面を留めず。両面先端部右側面に細かい調整も施され、ステップ状を呈する。B面基部中央には大きなステップ状刺離面が見られる。筋は両面に通る。	扁平な菱形	
	S-09-0852 JE58 溝 (SF 079) 上層	(33.8) 18.0 7.3 (4.2)		E-2 幅広く。厚みがある。左側面は円く外彎するのに対し、右側面はくの字形に屈曲し、下半は円みをもつ。蓋は左側に傾く。両面中央に大刺離面を留める。両側面から調整が施されるが、つくりは粗くステップ状刺離れが混在し、刺離面は不揃いである。	先端部 菱形 基部 不整五角形	
	S-09-0859 MV54 茶褐色砂礫土層	(59.3) 20.1 6.9 (6.9)		E-2 大型。やや幅広く縁身は長い。やや厚みがある。両面共に調整刺離れが施され、大刺離面を留めず。両側面からは更に細かい調整が施される。ステップ状刺離れは混在。両側面とも細かいジグザグで、エッジは鋭い。筋は両面に通る。先端はB面側へ刺離欠損。	菱形	
	S-09-0860 NA46 溝 (SF 085) 灰褐色砂礫土層	(36.8) 13.2 7.0 (3.2)		E-2 幅状。厚みがある。平面形が左右非対称で、左側面はわずかに彎曲し、右側面はくの字形に屈曲する。ごく浅い袈刈である。両面中央に一部大刺離面を留む。B面は主要刺離面で左方に打点をもつ。両側面より調整刺離。右側面は厚みが十分に取れずにA面では大きなステップ状刺離面を呈す。B面右側面には細かい調整が施される。	不整五角形	石鏡の可能性あり。
PL.53-13	S-09-0865 MT50 黒褐色土層	40.0 19.3 6.4 4.1		E-2 幅広く。やや厚みがある。逆刺から蓋にかけての両側面は左右非対称である。左側はなだらかで袈刈が浅いのに対し、右側はやや円みをもち、袈刈は左より明瞭である。A面中央に大刺離面を留めるが、全体に調整刺離れが施される。A面基部右、B面基部の刺離面はステップ状を呈する。筋は両面に通る。先端は僅かに磨減。	菱形	基端部に凹痕あり(長5mm)。鉄分付着。
	S-09-0871 不明	41.9 16.1 4.4 2.9		E-2 先端部にやや厚みがある。逆刺は円みをもち、袈刈は明瞭。両面中央に大刺離面を留めるが全体に丁寧な刺離れが施され、両側面には更に細かい調整が施される。両面に筋が通る。蓋部から蓋にかけての両側面エッジは僅かに磨減。	菱形	
	S-09-0877 NC50 溝 (SF 085) 廣植土層	(39.2) 19.3 7.4 (5.0)		E-2 幅広く。厚みがある。逆刺は円みをもち、左側の袈刈はやや浅く、右側の袈刈は明瞭。両側面より調整刺離れが施されており、A面基部中央に大刺離面を留め、打点は左方にある。その上方に大きく切段状の刺離面を呈す。B面基部左側は大きなステップ状刺離面を呈す。筋は両面に略通る。周辺のエッジおよび両面の蓋は僅かに磨減。	不整四辺形	
	S-09-0878 NC50 溝 (SF 085) 廣植土層	(52.0) 19.3 6.3 (6.2)		E-2 大型。やや幅広く縁身は長い。やや厚みがある。B面基部中央に一部自然面を留めるが、全体に調整刺離れが施され、刺離面は略揃っている。筋は両面先端部に通る。先端部両側面および逆刺から蓋にかけてのエッジは僅かに磨減。	先端部 菱形 基部 杏仁形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	規長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0879 KP58 茶褐色土層	(37.5) 17.3 6.3 (3.7)		E-2 厚みがある。逆刺は円みをもち、袈りは明瞭。周辺から調整刺離が施されるが、両面中央に一部大刺離面を留める。先端部A面両側、B面左側面に細かい調整刺離が施され、ステップ状を呈する。A面基部およびB面先端部の刺離面もステップ状を呈する。筋は両面先端部に通る。茎両側、両面の壁は磨滅。	先端部 菱形 基部 杏仁形	
	S-09-0886 KP58 Fit 4	(30.4) 11.9 5.2 (1.6)		E-2 細身。厚みがある。逆刺は円みをもつ。全体に調整刺離が施され大刺離面を留めず。A面では刺離面は並列しており、B面左側面の刺離面はステップ状を呈する。筋は両面に通る。茎端部はB面側へ刺離欠損。	菱形	先端部に凹痕あり(径5mm)。 
	S-09-0891 KP54 1号土壌	(30.2) 11.9 5.7 (1.8)		E-2 やや厚身。厚みがある。逆刺は左よりも右の方がやや上方に位置し、左が角ばるのに対し、右は円みをもち。両面とも調整刺離が施され、大刺離面を留めず。両面先端部右側面には更に細かい調整刺離が施される。筋は両面に通る。先端部両側は僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-0894 KP54 黒色砂質土層	(38.0) 23.7 5.0 (5.1)		E-1 大型。幅広。薄い。両面中央に大刺離面を大きく留めるが、両側面からは細かい丁寧な調整刺離が施され、両側面は鋭曲状を呈する。逆刺のエッジは僅かに磨滅。茎の両側の基部は団み、茎は先細りの三角形状であろう。	扁平な杏仁形	
	S-09-0896 KT54 黒色土層	(39.6) 18.3 4.9 (3.5)		E-2 幅広。逆刺は円みをもち、袈りは狭い。両面中央に大刺離面を留める。A面は主要刺離面よりなり、打点は右下方にある。周辺からは調整刺離が施されるが不揃いで、A面基部左、B面基部右側はステップ状刺離面を呈する。茎両側エッジは僅かに磨滅。	両端部 菱形 基部 不整六角形	
	S-09-0899 MJ50 黒色土層	(25.4) 15.4 4.9 (1.7)		E-2 部広の小型。厚みがある。逆刺は円みをもつ。両面共調整刺離が施され、大刺離面を留めず。刺離面は揃っており、B面基部左ではステップ状を呈する。筋は両面に通る。先端、茎端部はA面側へ刺離欠損。	菱形	
	S-09-0904 JY62 黒褐色土層	(28.5) 17.2 4.6 (2.3)		E-2 幅広。やや薄い。A面中央から左上方にかけて、大刺離面を留め、打点は左下方にある。B面中央に一部主要刺離面を留め、打点は右下方にある。両面両側面より調整刺離。刺離面は主にステップ状を呈す。逆刺から茎にかけての両側エッジは磨滅。	扁平な杏仁形	
	S-09-0919 NE46 溝・束側 (SF085) 砂混茶褐色土層	(28.4) 14.9 3.9 (1.6)		E-2 幅広の小型。B面は中央に大きく大刺離面を留め平坦な面をなす。打点は右下方にある。両側面からは調整刺離が施され、B面先端、A面に筋が通る。A面先端部両側面には更に細かい調整刺離も施される。	先端部 菱形 基部 扁平な五角形	
	S-09-0921 LZ	(42.9) 18.8 5.7 (4.0)		E-1 大型。やや幅狭で鏡身は長い。厚みがある。両面共に側面より調整刺離が施され、大刺離面を留めず。両面両側面沿いに細かい刺離調整も見られる。B面基部中央の刺離面はステップ状を呈し、他の部分にも混在。筋は両面に通る。	菱形	
	S-09-0922 LZ	(27.7) 13.2 5.2 (1.6)		E-2 やや幅広の小型。厚みがある。逆刺はやや角ばるが、左側の袈りは狭く、右側の袈りは明瞭である。両面共に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。A面左側、B面右側面に細かい調整刺離が施される。筋は両面に通る。	扇形	
	S-09-0924 LG62 黒褐色土層	26.8 18.3 5.3 2.2		E-2 幅広の小型。先端部にやや厚みがある。左側面はくの字形に凹曲し、右側面は円く彎曲する。袈りは狭い。両面中央に大刺離面を留める。側面からは調整刺離が施され、A面基部左側、B面左側、先端部右側面の刺離はステップ状を呈する。周辺のエッジおよび両面の壁は磨滅。	先端部 杏仁形 基部 扇形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡

図版番号	登録番号 出土地 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央部面	備 考
	S-09-0961 JS64 溝 (SF 081) 黒褐色土層	(30.6) 13.8 3.2 (1.3)		E-2 小型。薄い。両面に大きく大刺離面を残し、周辺から調整刺離を施す。刺離面は略揃っている。	扁平な扇形	
	S-09-0977 KE58	(52.8) 23.1 9.5 (9.0)		E-1 大型。幅広く縁が長い。厚みがある。逆刺は凹みをもち、袈りは明確。両面共に大刺離面を留めず。両側面からの刺離はあらく、両面右側の刺離はステップ状を呈し、他の部分にもステップ状が混在。鏡は両面に略通る。周辺のエッジは僅かに磨滅。茎周辺の磨滅は著しい。	菱形	
PL.53-6	S-09-0994 MZ 表採	44.5 17.1 7.4 5.2		E-2 やや幅広く、厚みがある。両面共に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。A面右側面、B面左側面の先端部には更に細かい調整が施され、ステップ状を呈する。両面基部左および他にもステップ状刺離あり。鏡は両面に通る。両面の袈および周辺のエッジは磨滅。両端に回転痕あり。	菱形	両端に回転痕を有す(先端長3mm、茎長7mm)。 
	S-09-1001 MZ 表採	(35.4) 20.4 4.5 (2.9)		E-1 やや幅広く、薄い。逆刺は左右非対称で、左よりも右の方が上方に位置し、左の方が鋭角的であるのに対し、右の方はやや鈍角である。両面ともに、側面からの調整刺離により大刺離面を留めず。A面先端部右側面には更に細かい調整が施される。A面右側面、B面左の袈り部分は大きなステップ状刺離を呈す。周辺のエッジおよび両面の袈は磨滅。	扁平な杏仁形	
	S-09-1081 MH62 溝 (SF 077) 黒色粘質土層	49.3 16.3 10.0 5.9		E-2 楕円。厚みがある。A面中央に一部大刺離面を留める。両側面からは粗い刺離が施される。A面基部はステップ状刺離面を呈し、中央部に厚みが残存。B面基部にもステップ状刺離が見られる。鏡はA面に通る。逆刺から茎にかけての両側面エッジは磨滅。	扇形	石鏡の可能性あり。 
	S-09-1109 GZ	(42.9) 22.1 5.3 (4.7)		E-2 大型。幅広く、薄い。逆刺は凹みをもつ。B面先端部左側到大刺離面を留めるが両側面より調整刺離が施される。刺離面は並列しており、中央に鏡が通る。両面左側面には更に細かい調整が施される。周辺エッジは僅かに磨滅。	扁平な菱形	
	S-09-1132 KL64 第3層・褐色砂質土層	(30.0) 13.2 4.8 (1.9)		E-2 幅広く小型。厚みがある。B面基部中央に大刺離面を留め、やや平らな面をなす。両側面から調整刺離が施され、B面先端部、A面に鏡が通る。刺離面は略揃っており、ステップ状刺離が混在する。	先端部 菱形 基部 扇形	
	S-09-1134 HM61 黒色土層	(40.2) 15.4 6.0 (3.6)		E-2 大型。楕円。両面とも両側面より調整刺離。A面両側面ともステップ状を呈す。両面中央に鏡が通る。	菱形	
	S-09-1143 MQ62 溝 (SF 074) 褐色砂層	40.6 18.9 5.6 3.3		E-1 厚みがある。右逆刺及びその上方1個所は鋭く突出している。B面中央に一部大刺離面を留めるが、全体に調整刺離が施され、鏡はA面、B面先端部に通る。両面とも先端部左側面には更に細かい調整が施され、ステップ状を呈す。B面基部右の刺離面は大きなステップ状を呈する。	菱形	
	S-09-1153 MI56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(34.6) 23.8 5.2 (4.1)		E-1 幅広く、薄い。A面中央、B面基部左側到大刺離面を留める。両側面から調整刺離が施される。A面先端部両側面には更に細かい調整が施される。両面基部中央の刺離はステップ状を呈す。鏡は両面先端部に通る。先端はA面側へ刺離欠損。	先端部 扁平な菱形 基部 扁平な杏仁形	
	S-09-1160 KG67 Pit 25	(34.9) 22.4 3.4 (2.5)		E-2 幅広く、薄い。逆刺は凹みをもつ。両面中央に大刺離面を留める。A面は主要刺離面で、打点は左下方にあり、周辺から刺離が施され、刺離面は揃っている。B面先端部右側面、基部左側面はステップ状刺離面を呈し、他の部分にも混在する。	扁平な杏仁形	

() は残存部分の法量である。

図版番号	釜鏡番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
S-09-1181 IS68 溝 (SZ 318) 第2層・黒色土層	(39.9) 15.5 4.9 (2.9)	E-2 B面中央に主要刺離面を留め、打点は左下方にある。周辺から刺離が施され、A面基部右側辺はやや大きなステップ状を呈す。B面両側辺にも細かいステップ状刺離面あり、先端部には細かい調整刺離が施される。竊はA面に通る。軸はA面側へやや彎曲。	扇形状			
S-09-1182 IF60 礫混黒褐色土層	(42.3) 16.7 7.6 (4.9)	E-2 厚みがある。A面中央に一部大刺離面を留めるが、全体に調整刺離が施される。A面基部下半の刺離面は主にステップ状を呈する。竊は両面先端部に通る。周辺のエッジおよび両面の縁は僅かに磨減。	先端部 菱形 基部 杏仁形			
S-09-1195 IJ58 礫混黒褐色土層	(38.1) 13.8 4.8 (2.7)	E-2 やや扁平。全体に調整刺離が施され、B面中央にわずかに大刺離面残存。A面先端部両側辺、B面先端部左側辺には更に細かい調整が施される。A面基部左半分、B面基部の刺離面はステップ状を呈する。竊は両面に通り、刺離面は並列している。基両側辺のエッジは磨減。先端はB面側へ刺離欠損。	菱形			
S-09-1215 LOS4 黒褐色土層	(38.0) 14.0 6.8 (3.9)	E-2 大型。扁平。厚みがある。両面共に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。両面基左側辺には細かい調整が見られる。B面基部の刺離面はステップ状を呈し、他の部分にも混在。両側辺はジグザグである。竊は両面に通る。基両側辺のエッジは磨減。基端はB面側へ折れ欠損。	菱形			
S-09-1218 KP62 第2層	(33.3) 22.9 9.6 (7.2)	E-2 幅広い。厚みがある。逆刺は左右非対称で左側より右側の逆刺の方が強く屈曲し、突出している。左側辺は挟りはつくれず。両面中央に大刺離面を一部留め、周辺からは調整刺離が施される。A面左側辺、B面右側辺には細かい調整も施される。A面基部およびB面右半分左側の挟り部分の刺離はステップ状を呈す。竊は両面に略通る。先端部両側辺のエッジは僅かに磨減。未製品か。	杏仁形			
S-09-1225 MQ56 溝 (SF 078) 暗褐色小礫混砂層	(27.5) 19.7 5.1 (2.9)	E-2 幅広い。薄い。逆刺は凹みをもつ。両面共に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。A面左側辺には更に細かい調整が施される。A面基部中央、B面基部左はステップ状刺離面を呈し、他にもステップ状刺離面は混在する。竊はA面に通る。	扁平な杏仁形			
S-09-1232 IV60 溝 (SF 80) 第2層	46.2 20.6 6.2 4.6	E-1 大型。幅広い。やや厚みがある。両面共に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。両側辺からは更に細かい調整が施され、鋸歯状を呈す。両面右側辺はステップ状刺離面を呈する。竊はA面に通る。逆刺のエッジは僅かに磨減。	扇形			
S-09-1243 IJ68 礫混黒褐色土層	(36.4) 16.0 7.4 (3.3)	E-2 厚みがある。基部中央で最大厚を測り両端にかけて薄い。逆刺は左右非対称で、右側はなだらかであるのに対し、左側は角ばる。両面共に両側辺から調整刺離され大刺離面を留めず。A面右側の刺離は大きく、左側の刺離は小さい。A面は略平坦面をなす。B面は両側から大きく刺離を施され中高である。A面右側および基部左側、B面にステップ状刺離面が混在。	扇形			
S-09-1246 IB62 礫混黒褐色土層	(33.7) 16.7 5.6 (2.7)	E-1 やや幅広い。厚みがある。逆刺は左右非対称で、左側がやや角ばるのに対し、右側は凹みをもつ。A面中央に主要刺離面を留め、打点は右方にある。B面右側に大刺離面を留め、打点は左上方にある。周辺からは調整刺離が施され、刺離面は略揃っている。B面基部右側辺のみ、殆ど調整刺離が施されず。A面基部、B面基部の刺離面はステップ状を呈し、他の部分にも混在する。竊はA面先端部に通る。逆刺から基にかけてのエッジは磨減。	先端 扇形 基部 不整五角形			
S-09-1251 IF66 礫混黒褐色土層	(47.2) 14.2 8.2 (6.5)	E-2 大型。扁平。厚みがある。平面で軸は右側へやや彎曲。両面中央に一部大刺離面を留めるが、両側より調整刺離が施され、先端部に竊が通る。両側辺はジグザグを呈す。A面基部左側にステップ状刺離面が見られ、他の部分にも扱いステップ状刺離が混在。両側辺、基辺のエッジおよび両面の縁は僅かに磨減。	両端部 菱形 基部 杏仁形			

()は残存部分の法量である。

石 鏡

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm)	現幅 厚 重量 (g)	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1262 IX58 溝 (SF 079) 第3層・礫混色褐色土層	(52.4) 23.6 6.3 (5.4)		E-1 大型。幅広で縁身は長い。逆刺は鋭角的で、左側がやや内なるのに対し、右側は円みをもつ。先端は鋭い。両面中央に一部大刺離面を留める。A面は主要刺離面で、打点は左下方にある。両面共小さい刺離が見られ、先端部のA面側面、B面側面には更に細かい調整が施される。大半の刺離面はステップ状を呈する。鋸は両面先端部に通る。逆刺のエッジは磨滅。軸はB面側へやや彎曲。	先端部 扁平な菱形 基部 杏仁形	
	S-09-1263 L054 黒色土層	(48.4) 20.0 6.2 (4.2)		E-1 大型。幅狭で縁身は長い。茎の扱りは明確である。両面共に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。A面側面は刺離面はステップ状を呈し、他の部分にも混在する。鋸は両面に通る。逆刺から茎にかけてのエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-1265 JA54 溝・第2溝 (SF 080) 暗褐色土混砂層	52.2 23.6 4.2 5.4		E-2 大型。幅広。得い。B面に主要刺離面がそのまま残存し、打点は下方にある。A面には刺片を作る前の調整面を留める。両面共先端から逆刺にかけての左側面、逆刺から茎にかけて、細かい調整刺離が施され、錯向刺離を呈す。A面基部側面にも細かい刺離が見られ、先端および左側面の中央エッジは僅かに磨滅。	極く扁平な扇形	
	S-09-1276 KZ	(37.9) 14.1 4.5 (2.8)		E-2 細身。得い。B面中央に大刺離面を留め、やや平坦な面をなす。側面より押圧刺離状のうすい刺離が施される。両面共にステップ状刺離面が混在。鋸はA面に通る。基部から茎にかけてのエッジは僅かに磨滅。	扇形	
PL.53-5	S-09-1278 HW60 土塊 (SJ176)	(45.1) 21.2 6.9 (5.1)		E-1 大型。幅広。厚みがある。逆刺は円みをもつ。両面共に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。B面側面およびA面側面の一部には小さい調整が施される。B面の刺離面はステップ状を呈し、A面にも混在。鋸はA面に通る。茎基部に回転痕あり。	扇形	茎に回転痕あり (長5mm)。
	S-09-1279 ID62 礫混黒褐色土層	(38.5) 17.9 5.2 (3.6)		E-2 やや幅広。やや厚みがある。両面共に調整刺離が施され大刺離面を留めず。側面からは更に細かい調整が施される。A面左側先端及びB面先端側面沿いに急傾斜する刺離があり、先端は厚みをもつ。鋸は両面に通る。先端および基側面のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-1280 ID62 礫混黒褐色土層	(35.7) 13.5 4.5 (2.2)		E-2 細身。逆刺の位置は左よりも右の方が上方にあり、茎は特に長い。扱りはごく浅く、茎も細くである。B面基部に大刺離面を留める。全体に調整刺離が施され、側面には更に細かい調整が見られる。両面共ステップ状刺離面が混在する。鋸はA面に通る。側面のエッジは僅かに磨滅。	扇形	
	S-09-1288 HZ 表層	(22.3) 14.6 4.7 (1.5)		E-2 幅広の小型。厚みがある。逆刺は円みをもつ。両面共調整刺離され大刺離面を留めず。B面基部の刺離面は大きなステップ状を呈し、他にも混在。側面には更に細かい調整も見られる。鋸はB面先端部、A面に通る。逆刺のエッジは磨滅。	菱形	
	S-09-1289 MB50 溝 (SF 074) 褐色砂層	(43.1) 29.4 4.2 (4.3)		E-1 大型。幅広。得い。両面共に押圧刺離が施され大刺離面を留めず。刺離面は主にステップ状を呈する。鋸は両面に通る。逆刺~基部側面のエッジは僅かに磨滅。	扁平な菱形	
	S-09-1292 ID58 黒色砂質土層	(37.4) 20.4 5.9 (3.9)		E-1 厚みがある。逆刺は左右非対称で右側はやや円みをもち、左側よりも下方に位置するのに対し、左側はくの字形に屈曲する。茎はやや左に傾く。B面中央に初段の刺離面を残存。両面共に側面より刺離が施されるが刺離面が不揃いでA面基部では主にステップ状を呈す。ステップ状刺離面は他の部分にも混在。鋸はA面およびB面先端部に通る。	先端部 菱形 基部 台形状	
	S-09-1302 HY56 土塊 (SJ177)	(47.0) 18.2 4.3 (3.3)		E-2 大型。やや幅広。得い。両面共に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。A面の刺離面は並列しており鋸は両面に通る。両面基部の刺離面はステップ状を呈し、他の部分にも混在する。先端は丸く磨滅。	扁平な菱形	先端に回転痕あり (長2mm)。

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地名 (遺物番号) 層位	法 量 (mm) 幅 厚 量 (g)	現 長 厚 量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1340 IU62-JAライン	(31.4) 19.2 5.2 (2.6)		E-2 幅広い。やや厚みがある。逆刺は円みをもつ。B面中央に主要刺離面を留め、打点は左上方にある。両側面からは調整刺離が施され、刺離面は略揃っている。両面基部はステップ状刺離面を呈する。	菱形	
	S-09-1342 JDZ 褐色硬混合土層	(28.7) (19.0) 5.5 (2.3)		E-2 幅広い。やや厚みがある。逆刺は角ばっている。両面共調整刺離が施され、大刺離面を留めず。両面にステップ状刺離面が混在する。鋸は両面に通ると思われる。両側面のエッジは磨滅。	菱形	
	S-09-1345 JW62 溝 (SF 081) 黒褐色土層	(50.0) 21.8 5.1 (6.3)		E-2 未製品。幅広い。薄い。逆刺は円みをもつ。両面に大きく大刺離面を留める。A面の打点は右方にある。B面側は主要刺離面で、打点は左方にある。A面右側面、基部左側面、B面両側面共に調整刺離が施されるが、刺離面は揃っていない。A面右側面は大きなステップ状を呈し、他にもステップ状刺離面は混在。A面先端部のエッジは磨滅しており、先端ではエッジから面にかけての磨滅も見られる。	先端部 半円形状 基部 台形状	
	S-09-1357 JI66 整地層	(31.0) 20.9 4.3 (2.5)		E-1 幅広い。薄い。B面は大刺離面がそのまま残存凹面を呈し、打点は下方にある。A面中央には大刺離面の一部を留める。B面は殆ど刺離が施されず、先端部と折り部分の両側面のみ細かい刺離が施される。A面では鋸が通る。A面左側面には更に細かい調整も見られる。A面基部中央左の刺離面は大きなステップ状を呈し、他の部分にも混在。先端から逆刺にかけての両側面および基のエッジは僅かに磨滅。	三角形	
	S-09-1364 不明	(17.4). 17.1 4.8 (1.6)		E-2 厚みがある。逆刺は左右非対称で、左側はやや円みをもつものに対し、右側は鋭く突出する。B面中央に大刺離面を留める。両側面からは調整刺離が施されるが、刺離面は揃っていない。先端欠損、両面へ刺離させ、再加工。逆刺一基両側面は磨滅。	不整六角形状	
	S-09-1375 JA56 第9号遺溝墓・1区 (SH 128) 黒褐色土層	(36.4) 19.5 6.5 (2.9)		E-1 幅広い。厚みがある。逆刺は左右非対称で、左側が円みをもつものに対し、右側は角ばる。両側面からの刺離により形は整っているが、刺離面はやや揃っていない。A面左側、B面右側の刺離面はステップ状を呈し、他の部分にも混在する。鋸は両面に通る。逆刺から基にかけてのエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-1377 IT62 溝 (SF 080)	(28.5) 19.7 4.2 (2.1)		E-2 幅広い。薄い。逆刺は左側ではやや角ばり、右側ではやや円みをもつ。B面中央に大刺離面の一部を留める。両面共に両側面からの刺離が施されるが、刺離面は揃っていない。主にステップ状を呈する。	扁平な杏仁形	
	S-09-1378 HCZ 表探	(29.8) 24.0 6.0 (4.1)		E-1 大型。幅広い。薄い。両面とも両側面からの調整刺離により、大刺離面を留めず。両面ともステップ状刺離面を呈す。鋸は両面先端部に通る。折りおよび基のエッジは僅かに磨滅。	扁平な杏仁形	
	S-09-1379 HZ	(33.1) 22.2 4.4 (3.2)		E-1 幅広い。薄い。両面共に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。両側面からは更に細かい調整が施される。A面基部左側面は大きなステップ状刺離面を呈し、他の部分にもステップ状刺離面は混在する。鋸は両面に略通る。	扁平な杏仁形	
	S-09-1383 IZ 溝 (SF 101) 黒褐色砂質土層	(30.9) 18.0 6.4 (3.0)		E-1 幅広い。小型。厚みがある。B面基部右半分は大刺離面を留めるが、全体に調整刺離が施される。両面両側面には更に細かい揃っていない調整が施され、ステップ状を呈する。他の部分にもステップ状刺離面は混在。鋸はA面に通る。両側のエッジは僅かに磨滅。	菱形	

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1394 MK58 第9号土器堆積 (SL 308) 黒色砂質土層	(34.2) 14.4 4.3 (2.2)		E-2 偏状。やや厚みがある。逆刺は凹みをもつ。B面中央に大刺離面を留め平坦な面をなし、打点は右下方にある。両側辺から調整刺離が施され、刺離面は略楕状である。筋はA面に通る。逆刺のエッジは僅かに磨滅。	扇形	
	S-09-1416 LA63 第2層	(21.3) 12.7 3.7 (1.1)		E-2 基部破片。A面は刺片を割く以前の調整面、B面は基部部に打点をもつ主要刺離面よりなる。下半部両面に調整刺離を施し蓋をつくりだす。上半部はB面側辺にのみわずかに調整が施され、A面は未調整。	扇形	
	S-09-1443 JZ	(17.7) 16.2 4.5 (1.6)		E-2 基部破片。A面左側辺、B面両側辺より調整刺離。A面右側には大刺離面が残存し、エッジにわずかに調整あり。B面中央にはわずかに大刺離面が残存す。	杏仁形	
	S-09-1454 MZ	26.4 14.2 3.2 1.3		E-2 幅広の小型。背い。両面共大刺離面よりなり、A面下半分の刺離の打点は右方にある。B面は主要刺離面をなし、打点は左方にある。両側辺には細かい調整が施されるが、挟り部分はB面側のみである。軸はA面側へ彎曲。先端は丸く磨滅。	扁平な六角形	
	S-09-1465 不明	(42.3) 16.8 5.5 (4.0)		E-2 偏状。厚みがある。軸身は長い。両面共に調整刺離が施され、大刺離面を留めず。ステップ状刺離面が残存するが、刺離面は揃っており、筋は両面に通る。先端から逆刺にかけての両側辺エッジは僅かに磨滅。逆刺のエッジの磨滅は著しい。	菱形	
fig.21-1	S-09-0516 NO58 第3層	(31.2) (10.2) 3.8 (1.0)		Z 先端部。両面とも細かく丁寧な調整刺離を施し、細身で鋭い先端部をつくる。中央に筋が通り、両側辺とも鋸歯状を呈す。	菱形	
fig.21-2	S-09-1205 IJ58 礫混黒褐色土層	(29.2) (11.7) 4.7 (1.3)		Z 先端部。両面とも丁寧な調整刺離が施され、細身で鋭い先端部をつくる。中央には筋が通る。	菱形	
fig.21-3	S-16-0021 LW54 溝 (SF 077) 黒色土層	(30.3) 14.6 3.4 (1.4)		Z 中央部。細身である。両側辺は略平行である。両面ともに丁寧な調整刺離を施し、中央に筋が通る。両側辺は細かな調整により鋸歯状を呈す。	菱形	
	S-09-0020 KV・KW 62・63	(21.9) 13.3 3.6 (1.1)		Z 先端部。両面にくりかえし調整刺離。一面にのみ筋が通る。	扇形	
	S-09-0074 KZ 第3層・暗褐色砂質土層	(27.8) 18.3 3.1 (2.1)		Z (DかE) 基部。幅広でうすい。両面とも中央に大刺離面よりなり、ごくうすい板状の刺片の両面、両側辺に細かな調整刺離が施される。	ごく扁平な六角形	
	S-09-0086 KZ 第3層・暗褐色砂質土層	(22.5) 14.5 3.6 (1.2)		Z 先端部。両面とも調整刺離が施される。B面中央に大刺離面残存。	扁平な杏仁形	

()は残存部分の法量である。











図版番号	登録番号 出土地点名 (遺精番号) 層位	法量 (mm) 重量 (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0091 LZ 表採	(22.3) 16.2 3.7 (1.6)		Z 基部。両面とも両側辺に調整刺離を施す。両面中央に大刺離面残存。一方の面は左側辺中央に打点がある。	扁平な三角形	
	S-09-0130 不明	(27.4) 13.7 4.3 (1.4)		Z 先端部。両面とも調整刺離。	菱形	
	S-09-0156 KH68 第3層・褐色砂質土層	(22.3) 14.5 7.1 (3.7)		Z 中央部。両面とも両側辺から調整刺離。A面中央に大刺離面が残存し、右側はステップ状を呈す。	台形	
	S-09-0193 MJ58 黒色土層	40.5 (16.7) 4.4 (2.5)		Z 基部一部欠損。両面ともに調整刺離によりうすくつくれたり(厚 3.7mm) 両側辺に細かな調整が施され、鋭角状を呈す。先端は両側が内彎しており鋭く突出する。	扁平な菱形	
	S-09-0195 KT60 第3層	(17.9) (19.2) (3.7) (1.0)		Z (Eの菱形か)先端部欠損。基端は調整刺離を施して、平坦につくる。大型。両面の基部破片か。両面とも調整刺離が施されるが、大刺離面残存。B面は大刺離面が殆どを占める。右側辺のエッジに研磨及び磨滅痕あり。	三角形	右側辺エッジに研磨痕(磨滅)あり。 
	S-09-0205 KT62 第2層・黒褐色砂質土層	(16.8) (15.8) (3.5) (0.9)		Z 先端部。両面とも調整刺離。A面中央部縁線上にわずかだが研磨が施される。	菱形	
	S-09-0208 ML61 黒色土層	(21.5) (11.9) 5.4 (1.1)		Z 先端部。細身である。両面とも調整刺離。中央に筋が通る。B面右側辺はステップ状を呈す。	菱形	
	S-09-0243 表採	(19.9) 13.5 3.6 (1.2)		Z 基部欠損。両面とも二度の調整刺離を施す。側辺沿いの細かな調整刺離はステップ状を呈し、B面中央に大刺離面残存。	杏仁形	
	S-09-0252 不明	(20.3) (12.0) 2.8 (0.7)		Z 先端部。先端から右側辺へかけて縦方向に刺離欠損。両側辺より調整刺離が施されるが、両面とも中央に大刺離面残存。B面右側辺はステップ状を呈す。	扁平な台形状	
	S-09-0281 MO61 溝 (SF 074) 黒褐色礫質砂質土層	(29.1) 12.9 5.1 (1.8)		Z 基端欠損。両面とも調整刺離。両面には筋が通る。	菱形	
	S-09-0282 MO61 黒褐色礫混土層	(29.2) 19.8 2.4 (1.7)		Z 先端部。幅広で薄い。両面とも大刺離面が大きく残存。両側辺沿いのみ調整刺離を施す。板状のうすい刺離片を利用。	扁平	

()は残存部分の法量である。

石 鏝

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0606 IU・IT55 黒褐色砂質土層	(25.1) (15.2) 5.0 (1.3)		Z(DかE) 茎端部。両面とも比較的揃った調整刻離。 A面両側辺のエッジの細かな調整はステップ状を呈す。	菱形	
	S-09-0608 MK57 溝 (SF 074) 黒色土層	(22.8) 15.9 3.8 (1.6)		Z 中央部。うすく傾伏。両面とも丁寧な調整刻離。右側辺は鋸歯状を呈する。	扁平な杏仁形	
	S-09-0617 KH66 第3層・黒色砂質土層	(22.6) (12.7) 6.3 (1.9)		Z 先端部。厚く細身である。両面とも調整刻離。A面両側辺、B面先端部はステップ状刻離面も混在し不揃いである。	菱形	石鏝の可能性あり。 
	S-09-0665 MB54 黒褐色礫混土層	(25.4) 14.5 4.0 (1.6)		Z 中央部。両面とも両側辺より調整刻離。B面中央に大刻離面残存。打点はB面右側辺下方にある。A面両側辺、B面右側辺はステップ状を呈す。	三角形	
	S-09-0723 不明	(23.8) 15.2 3.0 (1.0)		Z 先端部。B面中央に主要刻離面があり、右上方に打点あり。右側辺は一部鋸歯状を呈す。	扁平な杏仁形	
	S-09-0793 表探	(29.7) (14.7) 5.3 (1.7)		Z 先端部。両面とも丁寧な調整刻離。A面中央には筋が通る。A面右側辺B面右側辺の小さな刻離はステップ状を呈す。先端の表面に磨滅がみられる。	扇形	
	S-09-0794 表探	(27.9) 16.7 (6.5) (2.6)		Z 先端部。両面とも丁寧な調整刻離。A面左側辺、B面右側辺はうすいが、ステップ状刻離面を呈す。	杏仁形	
	S-09-0812 LC58 茶褐色土層	(28.2) (15.4) 4.3 (1.8)		Z(A未製品か) 両端欠損。上半部は細身で、下半部は外下方へ広がっている。両面とも両側辺より調整刻離。A面下半部、B面中央に大刻離面残存。	六角形	
	S-09-0937 JQ62	(30.5) 11.6 4.0 (1.5)		Z 両端欠損。細身である。両面とも丁寧な調整刻離。A面左側辺、B面右側辺は殆どがステップ状を呈す。先端から右側辺にかけて縦方向に刻離欠損。	杏仁形	
	S-09-0952 LJ58 黒褐色土層	(27.9) 17.1 4.7 (2.3)		Z 先端部破片。両面とも丁寧な調整刻離。A面下半部、B面には大刻離面残存。A面は調整面、B面は主要刻離面である。B面右上方に打点あり。長軸においてB面側へ彎曲している。	扁平な五角形	
	S-09-0966 JC64 黒褐色土層	(35.0) (19.3) 7.4 (3.9)		Z 両端欠損。大型。両面とも両側辺より調整刻離。比較的大きな刻離面よりなり、両面両側辺ともステップ状刻離面が混在している。	菱形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0987 JS60 褐色土層・Pit26	(26.8) (18.2) (5.3) (1.9)		Z 先端部。大型。両面とも調整刻離により成形。比較的大きく揃った刻離面よりなる。	杏仁形	
	S-09-0988 MZ 表採	(41.1) 17.0 4.8 (4.4)		Z (Eカ) 大型。両端欠損。両面とも両側面より調整刻離。両面とも中央に大刻離面が残存し、B面は主要刻離面であり、B面右方中央に打点あり。	扁平な扇形	
	S-09-0991 MZ 表採	(30.8) 12.3 3.4 (1.4)		Z 先端欠損。A面基部、B面中央部に大刻離面残存。B面は主要刻離面であり、打点は上方にある。A面左側面の調整刻離はステップ状を呈し、不整形である。A面上半部は両側面とも押圧刻離が施される。	扁平な三角形	
	S-09-1080 JY62 整地層	(35.3) (20.3) 8.1 (5.6)		Z (Dカ) 基部破片。両面とも調整刻離。A面右側面、B面基端はステップ状を呈す。	不整形四角形	
	S-09-1117 KF69 第3層・黒色砂質土層	(31.2) 16.5 6.7 (2.8)		Z 先端部。両面とも中央に筋が通る。A面左側面の小さな調整はステップ状を呈す。先端よりB面へ斜方向に刻離欠損。両側面、筋は磨滅している。	菱形	
	S-09-1122 KG62 第3層・褐色砂質土層	(34.2) 12.9 5.6 (2.6)		Z 基部欠損。細身である。先端は円い。両面とも調整刻離が施されるが、刻離面は揃っていない。A面両側面下半部はステップ状を呈す。	菱形	鉄分付着 
	S-09-1124 KH62 第3層・褐色砂質土層	(34.3) (15.7) 5.6 (2.4)		Z 基部欠損。先端は細身で両側面は直線的にのびる。両面とも両側面より調整刻離が施される。A面両側面下半はステップ状を呈し、下半中央には大刻離面残存。先端のエッジ、稜線に磨滅がみられる。	三角形	石鏃の可能性あり。 
	S-09-1128 KL66 第3層	(20.6) (23.3) 6.5 (2.8)		Z 先端部破片。B面中央に大刻離面残存。A面右側面はステップ状を呈す。A面両側面、B面左側面に細かな調整が施されるがそれらもステップ状を呈す。	杏仁形	
	S-09-1155 M156 溝 (SF074) 褐色砂層	(32.6) 15.6 4.7 (2.3)		Z 両端欠損。うすく細身である。両面とも調整刻離。A面両側面、B面左側面はステップ状を呈す。基部両側面は研磨されて丸くなっている。	扁平な菱形	表面は灰白色を呈す。 
	S-09-1158 KZ 表採	(33.0) (21.3) 5.1 (3.2)		Z 先端部。両面とも大刻離面よりなり、A面は調整面、B面は下方に打点をもつ主要刻離面である。両面とも側面沿いにのみ小さな刻離がみられる。両側面ともエッジは磨滅。	不整形台形	不定形刃器の可能性あり。 
	S-09-1202 不明	(24.6) 17.4 3.4 (1.5)		Z (Eカ) 両端欠損。両面とも調整刻離。B面は両側面ともステップ状を呈し、中央には大刻離面残存。A面中央にはわずかながら研磨痕あり。	扁平な扇形	

()は残存部分の法量である。

石 鏝

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1220 ML60 溝 (SF 074) 褐色砂層	(47.7) (21.0) 7.8 (5.4)		Z 先端部。大型。両面とも調整刺離後A面右側辺、B面両側辺に細かな調整を施す。B面下半部左側には大刺離面残存。	菱形	尖頭器か 
	S-09-1283 不明	(24.5) 12.0 4.7 (1.6)		Z 両端欠損。両面とも調整刺離。B面先端より基部にかけて大きく刺離欠損。	不明	
	S-09-1285 GT54 整地層	(33.8) 12.4 4.5 (2.4)		Z 両端欠損。両面とも調整刺離を施す。中央に筋が通る。両側辺は略平行している。全表面の磨滅が著しい。	菱形	石小刀の可能性あり。 
	S-09-1296 不明	(37.9) 13.9 4.7 (3.0)		Z(E-2か) 両端欠損。細身で基部下半に最大厚があり、先端にいっにつれてうすくなる。側辺は直線的にやや開き気味に下り、基部でなだらかな逆刺を形成する。両面とも調整刺離。両面とも中央に筋が通る。A面先端部右側辺、B面両側辺はステップ状を呈す。	菱形	
	S-09-1331 不明	(14.9) 12.6 2.0 (0.4)		Z(Cか) 先端部。A面刺離成形後両面とも両側辺に細かな調整を施して整形。B面下半は大刺離面よりなる。	ごく扁平な半円形	
	S-09-1335 IZ 表探	23.6 12.7 3.0 (0.9)		Z 先端部。両面とも調整刺離により、うすくなる。A面左側辺のエッジに細かな調整あり。	扁平な扇形	
	S-09-1336 表探	(19.3) (15.2) 4.5 (1.5)		Z 先端部。A面両側辺より調整刺離。中央に筋が通る。B面の調整刺離は中央に至らず、大刺離面残存。A面左側辺ステップ状を呈す。	不整形四辺形	
	S-09-1337 ME59 黒褐色礫混土層	(31.8) (21.1) 2.8 (1.8)		Z 先端部。A面左側辺に押任刺離を施し、B面先端から左側辺にかけて調整刺離を施す。A面下半中央、B面中央に大きく、大刺離面残存。A面右側は大きな調整のみで、両面とも右側辺にはごくわずかの刺離が施される。	扁平な不整形三角形	
	S-09-1339 ML57 黒色土層	(16.0) 12.0 4.0 (0.8)		Z(C小型か) 先端部。両面とも両側辺より調整刺離。A面中央に大刺離面残存。A面右側辺はステップ状を呈す。B面の刺離面は不揃いである。両側辺のエッジは磨滅。	五角形	
	S-09-1349 ML58 黒褐色礫混土層	(16.3) (14.6) 2.9 (0.7)		Z 先端部。両面とも丁寧な調整刺離によりうすく仕上げられる。両側辺は扇状を呈す。A面左側辺はステップ状刺離よりなる。	扁平な杏仁形	
	S-09-1360 不明	(22.0) 11.5 3.2 (1.0)		Z 中央部。両面とも両側辺沿いのみ調整刺離が施され、中央に大刺離面残存。A面は左方に打点のある主要刺離面である。両側辺はジグザグを呈す。下半部左側辺は瘤状に張り出している。	扁平な六角形	石鏝か 

()は残存部分の法量である。











図原番号	登録番号 出土地名 遺構番号 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1361 MK60 黒褐色礫混土層	(15.1) 14.4 5.8 (1.5)		Z 先端部。両面とも調整刻離。B面中央A面左寄りに筋が通る。両面ともステップ状刻離が混在する。	菱形	
	S-09-1366 MI56 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(35.0) 21.1 6.2 (4.5)		Z 先端部。大型。両面とも調整刻離により成形後、A面左側辺、B面両側辺に小さな調整を施す。両面とも左側辺はステップ状を呈す。左側辺はジグザグである。	杏仁形	
	S-09-1386 ML54 土器堆積 (SL 321)	(32.2) 15.5 5.6 (3.3)		Z 中央部破片。両側辺は平行である。両面とも調整刻離。刻離面は並列しており、中央に筋が通る。	菱形	
	S-09-1413 MN60 溝 (SF 074) 褐色砂層	(24.4) 10.9 3.0 (1.0)		Z 基端欠損。磨製石剣のうすい破片を利用している。A面右側辺、B面両側辺に調整刻離を施すが、三辺ともステップ状を呈す。A面左側辺エッジに小さな調整を施す。A面左側の大刻離面は下方に打点があり、B面は主要刻離面で左方に打点あり。	扁平な三角形	
	S-09-1452 不明	(14.0) (18.0) 4.1 (1.4)		Z 中央部。両面とも両側辺より調整刻離。両面とも中央に大刻離面残存。	杏仁形	
	S-09-1460 KX66 第2層	(30.7) (12.2) 4.8 (2.0)		Z 中央部。粗身。両側辺はやや固き気味に直線的に下る。両面とも丁寧な調整刻離が施され、中央に筋が通る。比較的揃った刻離面である。	菱形	
PL-52-1	S-09-1138 KV62 第3層・黒色砂質土層	(40.5) (23.2) 6.0 (4.6)		未製品(A-1) 先端欠損。右側辺は直線的にのび、左側辺はふくらみをもつ。基辺は逆刺で突出し中央部は凹む。両面とも両側より調整刻離。A面左側辺、基辺、B面左側辺はステップ状を呈す。B面中央に大きく自然面残存。A面基部左側には大刻離面残存。両側辺のエッジは鋭い。	三角形	
PL-52-2	S-09-0631 MW61 灰黒色砂粘質土層	37.8 21.6 5.5 4.2		未製品(A-2) 不整形。両面両側辺に粗い調整刻離。A面中央〜基部には大刻離面が大きく残り、先端には自然面が残存。B面は先端に打点をもつ主要刻離面よりなる。基辺は一度の打も欠きで凹部をつくる。エッジは刃こぼれか。長軸でB面へ彎曲。	台形状	
PL-52-3	S-09-0479 LE63 第3層・Pit 3	30.8 19.9 3.4 2.0		未製品(A-1) A面は左側辺に打点をもつ主要刻離面よりなり、左側辺、基辺に細かな調整刻離を施すのみ。B面左より到大刻離面残存。右側辺からうすく大きい調整刻離が施され、その後両側辺にA面と同じ調整刻離。両側辺中央部・基辺のエッジは磨滅して鈍い。	扁平な台形状	
PL-52-4	S-09-0084 KJ63 第3層・増褐色砂質土層	(33.9) 21.7 4.0 (3.0)		未製品(A-1) A面は両側辺より調整刻離後、側辺沿いに細かな調整刻離。基辺からもステップ状の打も欠きあり。基部中央に大刻離面残存。先端部中央に磨面あり。B面は右側逆刺に打点をもつ主要刻離面よりなり、両側辺に細かな調整刻離。	三角形	
PL-52-5	S-09-1456 不明	33.0 23.3 8.5 4.5		未製品(A-1) 両面とも両側辺、基辺より調整刻離。両面とも中央に大刻離面残存。A面は三辺ともステップ状を呈し、右側辺では特に深い。B面先端部でも深いステップ状を呈し、厚みが残る。側辺のエッジは鋭い。	六角形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡


図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 厚 重 量	特 徴	中央断面	備 考
PL.52-6	S-09-0008 MX57		35.8 21.6 5.9 3.8	未製品(A-1) 両面とも粗い調整刻離。両面とも右側はステップ状を呈す。B面右側、基部にのみ細かな調整を施す。右側はステップ状を呈し、先端より略直線的に下り、基部で段をもつ形態を呈す。左側はよくみをもって下る。B面先端部に風化面残存。右側はエッジは逆斜より縦方向に刺離欠損。	菱形	
PL.52-7	S-09-0971 LS68 黒褐色土層		50.3 25.2 8.7 7.3	未製品 不整形。鎌身左側は平基状を呈し、右側は逆斜が円く円基状を呈す。両面両側より調整刻離を施して成形。A面先端部中央に筋が通る。両面とも基部に大刺離面残存。B面は左側部分に打点をもつ主要刺離面である。両面とも右側はステップ状を呈し、A面では深い。A面基部にわずかに細かな調整がみられ、両側沿いにはみられない。	先端部 菱形 基部 台形状	
PL.52-8 PL.61-17	S-09-0985 LO58 溝 (SF 430) 黒色土層		(50.4) (23.3) 6.2 (7.1)	未製品(E-1か) 右逆斜~歪欠損。両面両側より調整刻離を施して成形。両面とも先端部の刺離は中央まで至り、A面では筋が通る。両面とも基部に大刺離面残存。A面は上方に打点をもつ主要刺離面である。A面左側、右側沿いの刺離、B面左側はステップ状を呈し、先端部右側には一部厚み残存。	先端部 扇形 基部 扁平	
PL.52-9 PL.61-18	S-09-1261 LO54 黒褐色土層		(42.0) 24.3 7.3 (6.9)	未製品(E-1) B面右側、歪左側、A面鎌身の両側面に調整刻離。B面鎌身左側には右中央に打点をもつ主要刺離面残存。A面基部には大きく上方に打点をもつ大刺離面残存。両面両側ともステップ状刺離面が多く、基部左側には大きく自然面が残存し、Eタイプを作る途上にある。	先端部 扇形 基部 三角形	
PL.52-10	S-09-0255 KG70 第3層・黒色砂質土層		40.0 23.9 6.4 5.2	未製品(B-1) 両面両側より調整刻離。先端部では中央まで至り、両面とも基部に大刺離面残存。B面は右上方に打点をもつ主要刺離面である。側沿いに細かな調整を施す。基部は折れ面のままで、先端には、自然面残存。両側はジグザグを呈す。	先端部 菱形 基部 三角形	
PL.52-11	S-09-1389 CT50 溝 (SF 334)		40.1 29.2 7.9 7.2	未製品(B-1) 両面両側より調整刻離。先端部は両面とも中央に筋が通る。A面両側ともステップ状刺離面が多い。A面基部には下方に打点をもつ大刺離面残存。B面基部右側には大刺離面、左側には初段階の調整面が大きく残存。両側ともあらいジグザグを呈すが、中央部の側は敲打されたかのように白くなり、鈍い。	先端部 菱形 基部 扁平な三角形	
PL.52-12	S-09-1038 MH61 黒褐色硬泥土層		49.7 25.6 9.3 11.2	未製品(B-1) 両面とも両側、基部より調整刻離。両面中央には大刺離面残存。B面は右方向に打点をもつ。両面ともステップ状刺離面が大半で厚みが残る。	扇形	
PL.52-13	S-09-1427 ML55 溝 (SF 075) 黒色土層		46.8 30.5 7.7 12.3	未製品 平面形は楕円形を呈す。両面とも両側より調整刻離。両面中央には大刺離面残存。両面ともステップ状刺離面が多い。両側はジグザグを呈す。	先端部 扁平な三角形 基部 扁平な六角形	
PL.52-14	S-09-1435 JE54 床土・整地層		52.9 29.5 10.3 16.6	未製品 両面とも両側より調整刻離。A面左側はステップ状を呈すが、中央に筋が通る。B面両側ともステップ状を呈し、左側の方が深く真行はない。中央には右側からの初段階の刺離面、先端には自然面が残存。両側はジグザグを呈す。	不整四辺形	
PL.52-15	S-09-1271 HI52 Pr 23		(51.4) 20.0 7.7 (7.7)	未製品(B-2か) 先端欠損。両面とも両側より調整刻離。A面両側ともうすいステップ状を呈し、基部中央に左側中央に打点をもつ主要刺離面残存。B面右側、先端部左側はステップ状を呈し、中央部左側には左下方に打点をもつ、深い凹面を呈する大刺離面残存。基部中央にも一部残存。長軸で大きくB面へ彎曲する。両側はエッジは鋭い。	扇形	
PL.52-16	S-09-1019 KN68 第4層・黒色砂質土層		60.7 26.1 9.6 12.7	未製品(C-2か) 両面両側より調整刻離を施して成形。更にA面両側中央、B面先端部右側、左側面に細かな調整あり。A面両側ともステップ状刺離面が多く、中央部に大刺離面残存。B面基部中央にもわずかに大刺離面残存。基部にはB面に打ち欠きみられるが、一部自然面残存。	菱形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構番号 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.52-17	S-09-1387 KM65 第3層・褐色砂質土層	54.9 26.2 7.9 10.8		未製品 幅広い柳葉形状を呈する。両面、両側辺より調整刻離。A面では中央に筋が通り、両側辺ともステップ状を呈す。B面左側辺には奥行の深くすい調整刻離もみられるが、両側辺ともステップ状が多い。B面先端部中央に大刻離面残存。左側辺中央部に厚みが残る部分があるが、両側辺ともジグザグを呈し、エッジは鋭い。長軸においてわずかにA面へ彎曲。	扇形	短型尖頭器の可能性あり。 
PL.52-18	S-10-0408 MB54 黒褐色礫質土層	31.4 22.0 4.8 2.2		未製品 両面ともあらく大きな刻離面よりなるが、何度もちりかえて調整刻離を施す。A面左側辺、B面両側辺ともステップ状刻離面が大平である。A面基部には上方に打点をもつ主要刻離面、B面基部には自然面残存。基部は主要刻離面の先端にあたり丸くなりB面に至る。基部左側は細かな調整がみられる。	菱形	
PL.52-19	S-10-0084 IX66 溝 (SF 079) 灰黒色粘土層	33.9 (21.7) 4.0 (3.0)		未製品 (B-1か) A面両側辺基部よりあるいは調整後両側辺沿いに細かな調整刻離。ともにステップ状を呈す。中央に大刻離面残存。B面中央部は大きな初段階の調整面よりなるが、両側辺、基部沿いに細かな調整があり、両側辺はステップ状を呈し、中央まで至らず。側辺の一部のエッジは敲打されたかの様に白くなり、鈍い。A面先端に自然面残存。	扁平な六角形	
PL.52-20	S-09-1023 ML60 黒色砂質土層	54.5 29.9 9.6 16.2		未製品 (C-2か) 不整形。左側辺は凹くよりくら。A面左側辺基部、B面右側辺基部より調整刻離。両面ともステップ状を呈す。A面右側辺、B面左側辺は側辺沿いにわずかに調整刻離。A面右側には左下方に打点をもつ主要刻離面、B面中央には右下方に打点をもつ大刻離面残存。左側に厚みがある剥片を使用。先端部左側辺は剥片の先端にあたる。	五角形	
PL.52-21	S-09-1060 JE62 床土・整地層	57.0 23.3 11.8 12.8		未製品 両面ともあらい調整刻離。A面両側辺に調整刻離。共にステップ状を呈し、中央には初段階の刻離面、先端部中央には大刻離面残存。B面先端部には大きく大刻離面残存。右側辺、基部の打ち欠きは深いステップ状を呈し、中央部に厚みを残す。先端に自然面残存。先端のエッジ磨削。	先端部 扇形 基部 表形	
PL.52-22	S-09-1294 GT50 溝 (SF 083) Pit	56.7 31.4 7.4 14.5		未製品 平面形は卵形。A面両側辺より調整刻離。左側辺はステップ状を呈す。A面基部には初段階の刻離面が大きく残り、先端には大刻離面残存。B面両側辺、基部より粗い調整。ともにステップ状を呈し、中央には右下方に打点をもつ主要刻離面、基部に一部自然面残存。	扁平な扇形	
	S-09-0012 MU63 第2層・床土層	39.5 28.0 9.1 9.4		未製品 (B-1) 両面とも両側辺、基部よりあるいは調整刻離。はじめに大きく打ち欠いた後、三辺沿いに更に調整を施す。両面ともステップ状を呈し、刻離面は不揃いである。A面基部に一部、B面中央に大きく大刻離面残存。両側辺はジグザグを呈すが、エッジは細かなステップ状を呈し、くずれたかの様に打ち欠かれる。	五角形	
	S-09-0015 MQ63 第6層・褐色砂礫層	52.2 18.0 9.4 7.8		未製品 不整形。左側辺は柳葉形状になだらかに下り、先端部によくらみをもち、右側辺は中央でくの字形に屈曲する。両面両側辺より調整刻離。A面両側辺ともステップ状を呈し、中央部に大刻離面残存。B面両側辺ともステップ状を呈し、ともに刻離面は不揃いである。B面先端のみ右側辺に押圧刻離あり。両側辺ともジグザグを呈す。先端は丸みをもち、先端のエッジは磨削。	扇形	石鏡か 
	S-09-0017 GQ61 第2層・黄色土層	31.3 15.5 5.8 3.3		未製品か 両面両側辺に調整刻離。両面基部中央に大刻離面残存。両面とも下方に打点あり。両面とも左側辺はステップ状を呈す。両側辺はジグザグを呈し、エッジは鋭い。基部には折れ面残存。	先端部 菱形 基部 六角形	
	S-09-0039 MP62 砂礫混黒色有機層	45.4 16.7 10.7 8.4		未製品 細身。両面両側辺より調整刻離。刻離面は不揃いである。A面基部中央に自然面、その上に初段階の調整面が残存し、厚味を残す。両面両側辺とも深いステップ状刻離面を呈す。両側辺ともジグザグになるが、ステップ状にくずれた様に打ち欠かれる。	菱形	

() は残存部分の法量である。

石 鏡





図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現物長 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0045 MQ62 黒褐色礫混泥土層	44.5 16.1 7.9 5.3		未製品か(D-2) 両面両側より調整刻離。A面中央には大刻離面、B面中央部左側には自然面、その右側には初段階の調整面残存。基端部には大刻離面、基端は折れ面残存。両側ともジグザグを呈する。	中央部 五角形 基端 菱形	
	S-09-0102 KJ68 第3層・黒色砂質土層	46.5 19.7 7.5 6.3		未製品(D-2) 両面両側より調整刻離。A面は中央まで刻離面が至るが、B面は中央に右方向に打点をもつ主要刻離面残存。A面左側はステップ状を呈し、先端部右側にも大きなステップ状を呈し、右側は凹凸あり。A面先端部、基端に自然面残存。	扇形	
	S-09-0110 MJ57 黒色土層	(43.7) 22.4 6.7 (7.2)		未製品 先端欠損。両面とも両側面に調整刻離。A面は丁字。A面両側面、B面右側面はステップ状を呈し、A面中央には基端に打点をもつ主要刻離面、B面先端部には大刻離面が大きく残存。基端には自然面残存。	扁平な五角形	
	S-09-0135 KP66 第5層	(42.4) 26.6 8.9 (11.3)		未製品 先端部欠損。左側面は略直線的のび、右側面はくの字形に屈曲。基端には平坦な自然面残存。両面両側面より調整刻離。両面ともステップ状が多い。A面基端中央、B面中央部に大刻離面残存。	扇形	
	S-09-0164 KH62 第3層・褐色砂質土層	24.0 19.7 4.0 1.9		未製品(B-1) 両面とも両側面、基端より調整刻離。A面基端中央に大刻離面、B面中央に大きく左側面中央に打点をもつ主要刻離面残存。A面右側面はステップ状の不揃いの刻離面よりなり、基端右側は未調整である。右側に厚みをもつ刻片を使用。	扁平な三角形	
	S-09-0178 MFZ 第3層・茶褐色砂質土層	(29.2) 25.6 6.3 (6.6)		未製品 基部破片。B面両側面より調整刻離を施して成形後、側面沿いに細かな調整刻離。A面両側面にも細かな調整刻離。A面は背稜をもつ大刻離面が大きく残存。B面左側面、基端部右側面、A面両側面はステップ状を呈す。基端は折れ面より成る。	扁平な六角形	
	S-09-0182 KH64 第3層・褐色砂質土層	50.4 20.5 6.8 7.7		未製品 両面両側面沿いに調整刻離。A面は右方向に打点をもつ大刻離面、B面は左方向に打点をもつ主要刻離面である。両面とも同一方向より打撃を加えた刻片を使用。両側面ともジグザグを呈する。	六角形	
	S-09-0184 MK58 黒色土層	44.2 24.9 7.2 7.8		未製品(A-1) 両面共両側面、基端より調整刻離。両面とも中央に大刻離面残存。A面は主要刻離面である。B面右側には折れ面がカーブをなして残存し、その先端に調整刻離を施す。両面ともステップ状刻離面が多い。	扁平な半円形	
	S-09-0200 KT60 第3層・黒色砂質土層	(33.5) 21.4 4.6 (3.9)		未製品 先端欠損。A面は右側面中央に打点をもつ主要刻離面であり、B面は先端に打点をもつ大刻離面である。両面両側面沿いに調整刻離。B面両側面ともステップ状を呈す。基端は折れ面よりなるが、わずかに調整がみられる。	扁平な半円形	
	S-09-0201 KT60 第2層・黒褐色砂質土層	42.7 19.5 7.7 6.0		未製品(D-1) 両面ともに調整刻離。両面ともステップ状刻離面が多く、刻離面も大小種々あり、不揃いである。A面の方が中高である。周辺のエッジには磨減あり。	扇形	
	S-09-0209 MI57 褐色砂層	37.8 27.0 9.8 9.6		未製品(C-2) 両面とも周辺よりあらく調整刻離を施して成形。ステップ状刻離面も混在。基部左側面のエッジは敲打された様に白くなり、鈍い。	菱形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm)	縦 幅 厚 重 量	特 徴	中央断面	図 考
S-09-0244 KH65 第3層・黒色土層		35.1	35.1	朱製品(B-1) A面は大割離面、B面は、左側面中央に打点をもつ主要割離面である。両面両側辺より調整割離。A面右側辺はステップ状を呈す。基辺は斜片の末端にあり、B面にわずかに調整あり。両側辺のエッジはうす銳いが、基部右側辺に打面が残存し厚い。	先端部 扁平な菱形 基部 扁平な台形状	
		27.2				
		5.4				
		5.1				
S-09-0256 KH69 第3層・黒色砂質土層		59.1	59.1	朱製品(E-2) 両面両側辺よりあらい調整割離により成形。両面とも基部中央に大割離面残存。先端には自然面残存。兼身A面右側辺は深いステップ状を呈し、B面右側辺もステップ状割離面が多い。基の両側辺は兼身に比較して揃った割離面よりなる。	扇形	
		23.2				
		11.8				
		13.2				
S-09-0280 KM70 第3層・黒色砂質土層・Pz25		44.5	(21.4)	朱製品か(B-2) 基部一部欠損。A面右側辺、基辺にうすい調整割離。A面左側辺、B面両側辺沿いに細かな調整割離。A面左側、B面中央に大きく大割離面残存。B面は左下方に打点をもつ主要割離面である。先端部はA面側へわずかに反る。先端は円く鋭さはない。	扁平な扇形	
		4.9				
		(4.1)				
S-09-0286 MM63 黒褐色砂混入土層		46.0	46.0	朱製品(B-2) 幅狭。A面、B面先端部両側辺より調整割離。A面先端部に一部分、B面基部に大割離面残存。B面は上方に打点をもつ。B面基部左側辺、基辺に調整はみられず。A面先端部両側辺、B面両側辺沿いはステップ状を呈す。長軸で左側へ彎曲する。	先端部 菱形 基部 三角形	
		16.0				
		6.5				
		4.3				
S-09-0299 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層		(36.4)	(21.9)	朱製品 不整形。先端部欠損。両面とも周辺よりあらい調整割離。両面ともステップ状割離面が混在。A面両側辺沿い、B面左側辺沿いの細かな調整はステップ状を呈す。両側辺ともジグザグを呈すが、エッジはステップ状のため、くずれた様な感じである。	扇形	
		8.2				
		(7.1)				
S-09-0305 MJ59 溝 (SF 074) 黄褐色砂質土層		40.4	40.4	朱製品(B-2) 両面とも周辺より調整割離を施して成形後、両側辺、基辺に調整割離。両側辺、基辺沿いの調整割離はステップ状を呈し、周辺のエッジは鋭さに欠ける。先端は円みをもつ。	杏仁形	
		21.1				
		7.8				
		7.6				
S-09-0308 MI56 溝 (SF 074) 褐色砂層		46.0	46.0	朱製品 不整形。A面両側辺よりあらい調整割離。左側辺は深いステップ状を呈し、先端部右側に大割離面残存。B面は基辺に打点をもつ主要割離面よりなり、両側辺に粗い調整割離。左側辺、基部右側辺はステップ状を呈す。A面は中高である。基辺は打ち割り面より成り、B面へ大きく割離。	扇形	
		20.1				
		8.0				
		6.6				
S-09-0309 MI56 溝 (SF 074) 褐色砂層		59.8	59.8	朱製品(D-1) 先端部が非常に長く、左右側辺で逆削の位置は不揃い。A面両側辺より調整割離。中央部に自然面が大きく残存。B面は両側辺よりあらい割離を施して成形、比較的平坦面をなす。	先端部 扇形 基部 台形	
		21.9				
		7.0				
		8.4				
S-09-0320 MZ		39.3	39.3	朱製品(B-2) 幅狭。不整形。先端欠損。S-09-0286と同形態。両面両側辺、基辺より調整割離。A面両側辺沿いの調整割離はステップ状を呈す。B面中央には大割離面残存。	先端部 菱形 基部 扇形	
		24.9				
		8.3				
		5.1				
S-09-0352 MK59 溝 (SF 074) 褐色砂層		(33.4)	17.8	朱製品(B-1) A面は右方に打点をもつ主要割離面で、右側辺と基辺に広く調整を施す。左側辺の大半は調整は施されず。B面は右上方に打点をもつ大割離面よりなり、先端部の右側辺を除き粗く調整割離。左側辺下部はステップ状を呈す。先端は円くなると思われる。	不整形	
		5.7				
		(2.5)				
S-09-0357 MN67		(37.1)	16.0	朱製品 基部欠損。幅狭。A面両側辺、B面左側辺より調整割離。A面左側辺はステップ状の不揃いの割離面を呈し、右側辺、B面左側辺もステップ状を呈す。B面左側は左方向に打点をもつ主要割離面よりなり、右側辺は自然面が残存。先端はB面側へ反る。	不整四辺形	
		6.8				
		(3.6)				

()は残存部分の法量である。

石 鏡

図版番号	登録番号 出土地点 遺構番号 層位	法量 (mm) 重量 (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0401 LB65 土器堆積 (SL 441) 第3層	38.4 18.4 5.7 3.6		未製品(D) 両面両側面よりあらい調整刻離。A面は右上方に打点をもつ大刻離面、B面は左側面下方に打点をもつ主要刻離面が残存。基部右側面にはその打面が残存し、左側面にも、厚い打ち削り面残存。A面右側面、B面右側面ともステップ状を呈す。両面基部左側面は調整刻離が施されず。両側面ともジグザグを呈す。側面のエッジの突出部に磨滅あり。	杏仁形	
	S-09-0423 KZ 表探	(24.2) 21.2 4.1 (1.9)		未製品か(B-1) 基部、両面両側面より調整刻離。両面とも基部には大刻離面残存。B面は右側面中央に打点をもつ主要刻離面であり、基部は削片の先端にあたり、調整なし。両側面は小さなジグザグを呈し、エッジはうすく鋭い。	扁平な扇形	
	S-09-0424 KLZ 表探	36.7 20.3 6.9 5.7		未製品(D) 不整形。左側面はよくらみをもちなだらかに下り、右側面はくの字形に屈曲する。A面周面より調整刻離。三辺ともステップ状を呈し、厚みが残る。B面は大刻離面より成り、左側面沿いにのみ調整刻離。ステップ状を呈す。	三角形	
	S-09-0434 KZ	38.3 21.8 5.6 3.8		未製品か(B-2) A面両側面、B面左側面に調整刻離。B面右側面は細かな調整のみ。A面両側面ともステップ状を呈し、基部中央に厚み残存。B面は下方に打点をもつ主要刻離面よりなる。A面基部にも調整。両側面はうすく鋭い。基部は斜基を呈す。	扁平な三角形	
	S-09-0442 MZ 表探	24.8 12.7 2.9 1.0		未製品(B-2) 小型。A面は基部に打点をもつ主要刻離面、B面は左下方に打点をもつ大刻離面である。A面両側面、B面右側面基部より調整刻離。A面右側面はステップ状を呈す。基部には自然面残存。先端は円く鋭い。	扁平な台形	
	S-09-0458 KP69 第2層	(31.7) 36.7 6.6 (5.9)		未製品(A-1) 基部、両面とも両側面、基部よりあらい調整刻離。A面右側面、B面両側面ともステップ状を呈す。右側面のエッジは敲打された縁に白くなり、鈍い。	扁平な三角形	
	S-09-0459 KW61 土坑 (SK 289) 第3層	29.2 18.2 3.5 2.1		未製品(B-2) 先端は円みを持つ。A面の先端部は、左下方に打点を持つ大刻離面であり、基部は右側面からの大きな刻離面である。B面は左側面に沿って細長く大刻離面が残存し、面の大部分は、先端に打点をもつ刻離面である。A面の周辺沿い、B面右側面基部、基部沿いにごく小さな調整刻離が施される。	先端部 ごく扁平な扇形 基部 ごく扁平な台形	
	S-09-0462 LC61 土坑 (SK 579) 第3層	21.7 17.7 5.9 2.0		未製品(A-1) A面両側面、基部よりあらい調整刻離。三辺とも傾斜面の急な調整である。基部には一部自然面残存。両面とも大刻離面よりなり、B面に調整刻離は施されず。全面縁は磨滅あり。	台形	
	S-09-0471 LD65 第2層	39.2 19.0 8.0 5.1		未製品か(B-1) A面左側面、基部右側面、B面両側面基部よりあらい調整刻離。A面右側面には、削片の折れ面が残存。先端部左側、B面先端部に大刻離面残存。A面両側面、B面両側面、基部はステップ状を呈す。B面先端右側面には細かな調整あり。両側面のエッジは鋭い。底面のエッジに磨滅あり。	先端部 不整形扇形 基部 杏仁形	
	S-09-0502 MN56 整地層	54.0 (26.2) 6.1 (8.1)		未製品か(C-1) 基部左側欠損。大型。うすく傾斜。両面ともうすい調整刻離。B面基部は大きなステップ状刻離面よりなりうすくなる。A面右側面、先端部左側面、B面右側面にはエッジに細かな調整を施す。両側面ともエッジは厚みがあるが鋭い。	先端部 扁平な杏仁形 基部 不整形扇形	
	S-09-0503 LE68 第19号伊跡 (SD 065)	(51.9) 27.7 11.0 (14.0)		未製品(C-2) 両面とも両側面より調整刻離を施して成形。大きな刻離面よりなる。A面基部周辺に細かな調整刻離。B面基部に一部自然面残存。両面両側面ともステップ状刻離面が多い。	先端部 扇形 基部 不整形四辺形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (透視番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0519 表探	(34.4) 20.8 4.2 (2.2)		未製品(A-1) S-09-0531と同一形態。先端欠損。A面両側辺より調整刻離。基部は中央に稜が通るが先端部中央に大刻離面残存。B面は右逆斜に打点をもつ主要刻離面より成り、両側辺沿いに調整刻離。基部はA面のみ刻離し、ステップ状を呈す。A面両側辺沿いの調整刻離もまたステップ状を呈す。	先端部 台形状 基部 扇形	
	S-09-0570 JA63 黒色砂質土層	47.9 24.7 8.5 8.2		未製品(D-2) 両面とも両側辺よりあるいは調整刻離を施して成形。両面ともあらく大きい刻離面よりなり、B面中央にわずかに大刻離面残存。両側辺のエッジは鋭い。細かな調整は施されず。	扇形	
	S-09-0575 KU65 溝 第4層上面	21.5 19.6 3.7 1.7		未製品(B-1) うすく幅広く、正三角形に近い平面形。両側辺はよくらみをもつ。先端欠損。A面両側辺、基部より調整刻離。B面は左逆斜部に打点をもつ主要刻離面よりなり、左側辺基部に刻離が施される。右側辺、基部は両面ともステップ状を呈すが細かな丁寧な調整。左側辺はあらく凹凸あり。	扁平な三角形	
	S-09-0577 KB63 第3層・灰黒色砂質土層	35.2 20.3 8.5 5.3		未製品か(B-2) 先端は細く鋭く、左側辺は円くよくらみ、右側辺はややよくらみ気味に下り、左右不揃いな形態。基部は打ち裂り。両面とも丁寧な調整刻離。A面先端は凹凸のあるステップ状を呈し、不揃いだが、A面両側辺、B面両側辺とも比較的揃った刻離面が並列。両面とも先端部は稜が通る。A面右側辺はうすいステップ状を呈す。A面基部中央には大刻離面残存。基部はB面にのみ刻離。それはステップ状を呈す。	先端部 菱形 基部 五角形	
	S-09-0584 KT60 第3層	31.1 24.3 3.9 2.8		未製品 うすく幅広い。A面は大刻離面よりなり、B面は右方向に打点をもつ主要刻離面であり、基部右側には自然面残存。基部は未調整。A面両側辺より調整刻離。左側辺、右側辺先端は丁寧だが、ステップ状を呈す。B面両側辺沿いに粗い調整刻離。	扁平な五角形	
	S-09-0585 KT60 第3層・黒色砂質土層	26.7 14.0 4.5 1.3		未製品(D-2) 右側辺のみ逆斜に円くつくられる。両面とも両側辺沿いに小さい調整刻離。基部はA面のみ打ち欠き。A面先端部に大きく大刻離面残存。B面は基部に打点をもつ主要刻離面であり、基部左側には自然面残存。	扇形	
	S-09-0586 KH70 第3層	(34.0) 17.8 8.9 (6.6)		未製品か 基部欠損。両面とも両側辺より調整刻離。両面両側辺ともステップ状を呈し、中央に大刻離面残存。両側辺のエッジ及び稜線に磨滅あり。	杏仁形	
	S-09-0588 KZ 表探	30.7 19.5 7.1 2.4		未製品(C-2) 基部は右上がりの斜基を呈する。両面両側辺沿いに調整刻離。A面は自然面よりなり、B面は右逆斜に打点をもつ主要刻離面よりなる。基部はB面に刻離がみられるがステップ状を呈す。A面右側辺、B面左側辺はステップ状を呈す。両側辺は小さなジグザグである。両側辺のエッジ及び稜線は磨滅する。	不整形四辺形	
	S-09-0593 MT58 溝 (SF 078) 黒色砂質土層	41.2 16.5 6.8 5.0		未製品か 細身の楕円形。両面とも両側辺より調整刻離。A面先端部左側辺、B面右側辺、先端部左側辺はステップ状を呈し、不整形である。A面基部中央にわずかに、B面中央部に小さく大刻離面残存。稜を致す。両端及び両側辺の突部のエッジは丸く磨滅。	両端部 扇形 中央部 五角形	石鏡か 
	S-09-0594 ME59 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	42.3 18.7 8.5 5.7		未製品(B-2) 右下がりの斜基。先端は円く鈍い。両面とも両側辺、基部より調整刻離。両面ともステップ状刻離面を呈し、中央部では特に強く、中央に大刻離面残存し、厚みも残る。両側辺ともエッジはうすく鋭い。	両端部 扇形 中央部 六角形	
	S-09-0595 MB58 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(27.4) (22.5) 6.2 (3.2)		未製品か(D-2) 基部、両面両側辺より調整刻離。両面ともステップ状刻離面が多い。B面中央にわずかに大刻離面残存。基部及び両側辺の突部のエッジに磨滅あり。	杏仁形	

() は残存部分の法量である。

石 鏡

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) 重量 (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
S-09-0501 JD65	紺色礫混土層	(34.5) 13.8 6.5 (2.7)		未製品(D-1) 基端欠損。A面両側辺より調整刻離。右側辺はステップ状を呈す。左側辺は揃った刻離面が並列。B面両側辺の調整刻離は不揃いの上、ステップ状を呈す。中央部に大刻離面残存。先端部両側辺とも特に深いステップ状を呈し、瘤状に厚みを残し、不整形である。逆刻は角をなし基部は整っている。上下方向が逆になる可能性あり。	先端部 扇形 基部 菱形	
S-09-0607 IR・IS69	黒色砂質土層	57.7 30.8 10.6 13.8		未製品(E-2) 右側辺はくの字形に屈曲し、左側辺は逆刻が角をもたない茎をつくる。両面とも逆刻〜下方はステップ状を呈すが丁寧な調整刻離。先端部は両側辺沿いにおずかかに調整刻離。両面とも大きく大刻離面残存。A面左側は左方に打点をもつ主要刻離面が残る、右側には初段階の調整面残存。B面右側には大刻離面、左側には自然面残存。先端部左側辺の他は、ジグザグを呈する。	先端部 四辺形 基部 六角形 基部 厚手菱形	
S-09-0613 MM62 溝 (SF 074)	黒褐色礫混土層	36.5 16.5 6.3 3.3		未製品(C-2) 両面両側辺に調整刻離。A面中央には大刻離面と初段階の調整面が残存。左側辺はステップ状を呈す。B面中央に大刻離面残存。左側辺はステップ状を呈し、基部では大きく深いステップ状刻離面を呈す。先端部右側辺、基端に平坦な調整以前の面残存。	杏仁形	
S-09-0615 MZ		(46.6) 19.1 8.6 (8.6)		未製品 基端欠損。両面両側辺より調整刻離。B面左側辺はステップ状刻離面を呈し、他の部分にも混在するが揃った刻離面が並列。A面中央に大刻離面残存。B面中央は主要刻離面残存。両側辺ともジグザグを呈しエッジは磨滅。先端は凹みをもつ。	両端部 扇形 中央部 六角形	
S-09-0618 KK67	第3層・黒色砂質土層	37.3 15.8 11.2 5.9		未製品(C-2) 両面両側辺より調整刻離。両面両側辺とも深いステップ状を呈し、瘤状に厚みが残存。A面基部中央に大刻離面残存。基端には自然面あり。全体として幅状で厚みがあり、不整形。周辺のエッジは磨滅。	不整杏仁形	
S-09-0619 KD67	第3層・黒色砂質土層	(37.4) 16.8 7.5 (5.6)		未製品(D-2) 帯筒形状を呈す。先端部欠損。両面両側辺より調整刻離。A面左側辺は大きなステップ状を呈し、右側辺沿いの小さな調整もステップ状を呈す。B面中央部、基部右側からの刻離が大きく、B面でのバランスは失われる。B面中央部右側辺には細かな調整刻離があるが、ステップ状を呈し、厚みは残る。基端には平坦な調整以前の面残存。両側辺のエッジは磨滅。	不整杏仁形	
S-09-0623 KT62	第3層・黒色砂層	41.2 23.2 10.2 8.6		未製品 不整形。両面とも両側辺基端よりあるいは調整刻離。B面中央に大刻離面残存。整形のための細かな調整刻離は施されず。	扇形	
S-09-0632 KB63	灰褐色砂質土層	38.6 18.8 8.3 4.5		未製品(C-2) 右側辺はくの字形に屈曲し、左側辺はよくらみをもつてのび、左右不揃いだが、基端は凹い。両面両側辺、基端より調整刻離。A面先端部右側辺は貝殻状刻離面を呈すが傾斜が急であり両面左側辺はステップ状を呈す。B面左側辺は深いステップ状である。A面中央に大刻離面残存。先端部両側のエッジは磨滅。	先端部 菱形 基部 杏仁形	
S-09-0635 JB68	黒褐色砂質土層	35.8 25.8 7.7 6.8		未製品(B-1) 身筒は広い。基端は打ち欠き面。両面両側辺よりあるいは調整刻離。両面両側辺ともステップ状を呈し、中央に大刻離面残存。先端左側に打面残存。B面は左方向に打点をもつ主要刻離面である。	扁平な杏仁形	
S-09-0640 LE.62~65	第3層	39.3 23.4 5.9 6.2		未製品 両側辺はよくらみをもち基端は右上がりの斜茎。A面周辺より調整刻離。中央左寄りに大刻離面残存。左側辺、基端は、あさいステップ状を呈す。B面中央部は両側辺よりうすく大きい刻離後、両側辺沿いに小さい調整刻離。先端部左側辺はステップ状を呈す。中央に大きく、右側中央に打点をもつ主要刻離面残存。B面右側辺基部に自然面残存。基端部は折れ面よりなる。	先端部 不整四辺形 基部 扇形	(B-2カC-2) 
S-09-0645 LW50	茶褐色砂混土層	39.6 16.3 6.6 4.0		未製品(E-2) 比較的細身で両側辺はよくらみもち、先端は凹い。両面とも両側辺より小さな調整刻離。ステップ状を呈し、両面とも中央に、下方に打点をもつ大刻離面が大きく残存。A面右側辺沿いは剥片の折れ面である。基端部に厚く自然面残存。側辺のエッジは小さいジグザグを呈する。	不整四辺形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 遺構名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm)	視 長 幅 厚 重 量	特 徴	中央 断面	備 考
	S-09-0672 JQ58 整地層	(32.8) 22.9 4.7 (4.1)		未製品か(D-2) うすく傾広。先端欠損。両面とも両側辺より調整刻離。両面とも比較的揃った刻離面が並列。A面先端部に大刻離面、B面中央に大きく主要刻離面残存。ともに右逆斜部に打点をもつ。両側辺は曲折の小さなジグザグを呈す。	先端部 扁平な六角形 基部 扇形	厚理をもつマスカイト 
	S-09-0710 MD58 溝 (SF 074) 黒色土層	53.0 18.6 8.2 5.4		未製品か(E-2) 両側辺で逆斜の位置が揃っていない。先端は円い。両面両側辺より丁寧な調整刻離。A面先端部右側辺は押圧刻離によるうすい揃った刻離面が並列。左側辺は両面と基部右側辺は深いステップ状刻離面を呈し、両側辺のエッジは鋭いが、凹凸が著しい。A面基部中央に大刻離面残存。	両端部 菱形 中央部 六角形	
	S-09-0711 KH58 整地層	(47.3) 19.0 9.2 (7.3)		未製品(E-2) 先端欠損。両面両側より調整刻離。しかしステップ状刻離面も混在し、刻離面揃っていない。両側辺のエッジは鋭い。A面中央に大刻離面残存。	扇形	
	S-09-0713 KH58 整地層	30.8 19.0 6.5 4.1		未製品 楕円形。両面とも両側辺より調整刻離。A面両側辺はステップ状もあるが、刻離面は中央に至る。B面は両側辺のみで、右側辺はステップ状を呈し、先端部中央は基部に打点をもつ主要刻離面よりなる。この刻離面の先端はA面側へまで至る。基部は自然面である。	扇形	
	S-09-0721 MNZ 整地層	(37.2) 18.0 6.8 (4.5)		未製品 基部欠損。先端は平坦面。両面両側より調整刻離。B面中央に先端に打点をもつ主要刻離面残存。両側辺はジグザグを呈す。	扇形	
	S-09-0722 不明	43.2 22.4 7.6 6.6		未製品(B-2) 両面とも両側辺、基部より調整刻離。両面共基部左側辺はステップ状を呈す。両面基部中央に大刻離面残存。斜基部であり、左側辺は逆斜部は円く、右側辺では瘤状に斜出しており、不整形である。	先端部 菱形 基部 六角形	
	S-09-0725 第9・10号住居址 (SA009・010) Plt 7	53.6 22.6 9.8 10.7		未製品(D-2) 細身の楕円形。両面両側よりあるいは調整刻離を施して成形。A面右側辺はステップ状で、中央にわずかに自然面残存。B面右側辺もステップ状を呈す。右側辺はジグザグを呈すが、エッジはステップ状のためくずれた様になり鋭さはない。基部両側辺のエッジの突出部に磨滅あり。	両端部 扇形 中央部 不整形四辺形	
	S-09-0728 JD58 床土・整地層	31.5 27.2 4.9 4.5		未製品(B-1) 正三角形。先端欠損。両面とも大刻離面よりなる。B面左側辺基部に打点をもつ主要刻離面。A面も同一方向に打点をもつ。両面とも両側辺、基部にわずかに調整刻離。長軸でA面へ彎曲。	扁平	
	S-09-0730 MF54 整地層	59.4 22.0 10.8 13.2		未製品(D-2) 楕円形状を呈すが不整形。両面とも両側辺よりあるいは調整刻離を施して成形。A面先端部は右側辺にうすく奥行のある刻離がみられ、なだらかな面をなすが、基部、B面では凹凸が多い。中央部両側辺ともにエッジに厚みが残る。B面中央部右側にも瘤状に厚みが残存。	菱形	
	S-09-0731 MF54 整地層	40.8 16.8 8.3 5.8		未製品(B-2) 両面とも両側辺より調整刻離。A面基部より打ち欠きあり、ステップ状を呈す。A面中央に大刻離面、B面中央には右逆斜に打点をもつ主要刻離面残存。両側辺はジグザグを呈す。先端部両側辺のエッジは磨滅。長軸でわずかにA面側へ彎曲する。	先端部 扇形 基部 五角形	
	S-09-0735 JA58 床土・整地層	(30.2) 25.4 7.4 (6.1)		未製品(B-1) 先端欠損。傾広の二等辺三角形形状を呈す。両面両側辺に調整刻離。両面とも左側辺はステップ状を呈す。A面中央に大刻離面残存。基部は打ち削り後逆斜部に刻離がみられる。両側辺のエッジは磨滅。	扁平な杏仁形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡












図版番号	登録番号 出土地点 遺構番号 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
JA58	S-09-0736 床土・整地層	32.3 27.0 7.2 7.3		未製品(B-1) S-09-0735と同一形態。左側辺はふくらみをもつ。両面両側辺、基辺より調整刻蝕。右側辺は両面ともステップ状を呈す。基辺は折れ面よりなり、B面は刻蝕がみられる。両辺のエッジは磨滅。	杏仁形	
JE54	S-09-0740 床土・整地層	37.4 30.8 6.3 7.6		未製品か(B-1) 正三角形形状。両側辺はふくらみをもつ。A面三辺、B面右側辺は調整刻蝕。A面は三辺ともステップ状を呈す。A面中央にわずかに大刻蝕面残存。B面基部にも大刻蝕面、その上方に自然面残存。基辺は折れ面よりなり。両辺のエッジは磨滅。	先端部 扁平な扇形 基部 扁平な半円形	
JA54	S-09-0743 整地層	43.6 25.3 6.6 6.8		未製品(D-2) 基部は両面両側辺より調整刻蝕。先端部は両面ともわずかに調整刻蝕。両面とも先端部に大きく大刻蝕面残存。B面は基端に打点をもつ主要刻蝕面であり、先端はその末端にあたる。A面右側辺はステップ状を呈す。B面先端部もうすいステップ状を呈す。A面基端には大刻蝕面が残存し、最大厚あり。	先端部 扁平 基部 菱形	
JM66	S-09-0745 整地層	47.2 26.9 8.6 10.6		未製品 A面右側辺、基部左側辺にあらひ調整刻蝕を施して成形。右側辺はステップ状を呈す。A面先端、基辺寄り到大刻蝕面残存。B面基部左側辺、基辺にわずかに調整刻蝕。B面は左側辺中央に打点をもつ主要刻蝕面で、先端部左側は厚く打面残存。	扇形	
JU66	S-09-0749 整地層	50.9 21.2 10.8 10.8		未製品 先端欠損。両面両側より調整刻蝕。A面基部、B面中央に大刻蝕面残存。あらひ調整後、両面両側辺沿いに小さな調整刻蝕を施す。両面側辺沿いの刻蝕面はステップ状を呈す。中央部左側辺は深く厚みが残存。	扇形	
M162 溝 (SF 077) 黒褐色土層	S-09-0754	47.6 28.4 7.3 10.3		未製品 幅広くうすい。先端は凹い。両面とも両側より調整刻蝕。A面先端部左側辺は横った刻蝕面が並列するが、左側辺、基部右側辺はステップ状を呈す。B面中央に大刻蝕面残存し、両側辺はうすいステップ状を呈す。先端部左側辺のエッジは磨滅。	扁平な杏仁形	
MF56 黒褐色礫混土層	S-09-0755	57.1 29.5 8.8 16.9		未製品 A面両側よりあらひ調整刻蝕を施して成形後、基部両側より調整刻蝕。中央に大刻蝕面残存。左側辺はステップ状を呈す。B面も両側辺、基辺よりあらひ調整刻蝕。先端部到大刻蝕面残存。先端部両側辺、基辺沿いに細かな調整を施すが、ステップ状を呈す。基端は打面残存。	扁平な半円形	
KX58 整地層	S-09-0762	(38.3) 23.3 7.6 (7.7)		未製品(A-1) 先端B面へ刻蝕欠損。両面両側辺、基辺に調整刻蝕。両面中央に大刻蝕面残存。左側辺に打点をもつ。A面先端部に風化面あり。B面両側辺はステップ状を呈す。	六角形	
M162 溝 (SF 077) 黒褐色土層	S-09-0763	39.0 20.8 5.8 5.0		未製品(E-2か) 両側辺先端部はふくらみをもち、逆側で角ばり、基部両側辺は直線的に狭くなり、基辺は平坦。A面左側辺、基部右側辺に調整刻蝕。中央に大きく大刻蝕面残存。左側辺はステップ状を呈し、先端部左側辺沿いに細かな調整。B面右側辺、先端部左側辺に小さな調整刻蝕。中央には大きく基辺右角に打点をもつ主要刻蝕面よりなり。基端には厚く自然面残存。	扁平な扇形	
KP58 茶褐色土層	S-09-0766	46.3 21.5 7.3 7.1		未製品 A面両側辺、B面基部左側辺に調整刻蝕。A面中央部両側辺ともステップ状を呈し中央に瘤状に厚みが残る。B面は大刻蝕面であり、左側辺は剣片の打ち割り面である。基辺は折れ。	五角形	
KP58 茶褐色土層	S-09-0767	34.2 24.2 8.0 8.3		未製品(B-2) 両面とも両側辺、基辺より調整刻蝕。A面両側辺、B面右側辺はステップ状を呈す。両面中央に大刻蝕面残存。右側辺のエッジは鋭いが、左側辺のエッジはくずれた様になり、厚みを残す。B面基部に自然面残存。両辺のエッジ、両面の稜線は磨滅。	六角形	

()は残存部分の法量である。



図原番号	登録番号 出土地名 遺構番号 層位	法量 (mm)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
S-09-0770 KP58 茶褐色土層		44.8	未製品(C-2) 両面両側辺より調整刻離。両面ともあらいが、比較的揃った刻離面よりなる。基部左側辺には細かな調整あり、なだらかにのびるが、他の辺のエッジは凹凸がある。基部部には自然面残存。B面先端部左側辺に大きな打ち欠きがあり、凹みをなす。先端部両側辺はジグザグを呈す。逆削部のエッジは磨滅。	菱形		
		20.8				
		6.7				
		5.4				
S-09-0772 KT58 Pit 59		54.3	未製品 両面とも両側辺にあらひ調整刻離。B面基部にも調整があり平坦になる。A面両側辺、B面左側辺はステップ状を呈し、中央に大きく大刻離面残存。A面の打点は左下方にあり。B面は基部に打点をもつ主要刻離面である。左側辺のエッジはジグザグを呈し鋭いが、先端部右側辺には厚みが残る。長軸でA面側へ反る。	扁平な半円形		
		26.8				
		6.3				
		10.5				
S-09-0774 MC55 黒色砂質土層		(46.0)	未製品(C-2) A面先端部左側辺、基部両側辺、基部に調整刻離。先端部右側辺は削片の打ち削り面より成る。基部左側は大刻離面残存。B面基部は大刻離面。先端部右側辺よりあらひ刻離はあるが、深いステップ状を呈し、不整面。先端上にも大刻離面わずかに残存。先端は折れ。周辺の実部のエッジ、両面の被線は磨滅。	先端部 台形状 基部 三角形		
		21.6				
		8.4				
		(8.0)				
S-09-0776 表採		33.0	未製品(B-1) 左逆削部欠損。両側辺はよくらみをもつ正三角形。先端は円い。両面両側辺、B面基部より調整刻離。A面基部右側辺の細かな調整はステップ状。B面両側辺もステップ状を呈す。B面先端部右側辺沿いに細かな調整。B面基部中央に大刻離面残存。基部は打ち削り面。その周囲は敲打によりつおれる。両側辺のエッジ、A面の被線は磨滅。	杏仁形		
		(25.6)				
		8.6				
		(8.0)				
S-09-0777 KP58 Pit 63		(39.0)	未製品 基部。両面とも両側辺、基部より調整刻離を施して成形後、B面基部両側辺のエッジに細かな調整を施す。左側辺はうすいステップ状を呈す。	扁平な不整四辺形		
		(31.2)				
		6.8				
		(7.8)				
S-09-0782 表採		46.8	未製品(D-2) A面中央部に大刻離面。B面中央に右方向に打点をもつ主要刻離面残存。両面とも両側辺よりあらひ調整刻離により成形。B面中央部両側辺とも深いステップ状を呈し、B面の凹凸は大きい。	扇形		
		22.4				
		10.0				
		10.5				
S-09-0796 LC58 第9号住居址 (SA 009) 埋没土層		45.8	未製品 幅広い楕円形状を呈し、基部はB面より調整、凹部を呈す。A面は左下方に打点のある大刻離面。B面は右下方に打点をもつ主要刻離面であり、長軸でA面に反る。A面中央部両側辺にはうすく大きい刻離を施し、先端部両側辺、基部部両側辺には細かな調整。先端部左側辺基部右側辺はステップ状を呈す。B面両側辺に大きな調整刻離。基部右側辺、基部には細かな調整あり、ステップ状を呈す。エッジは鋭いもつ。	扁平		
		28.9				
		6.4				
		10.3				
S-09-0803 KL59 灰褐色土層		(41.0)	未製品 先端部欠損。両面とも基部両側辺より調整刻離を施して成形。基部には削片の打面残存。先端部A面左側辺にわずかに調整あるのみ。右側辺はエッジに細かな調整あり。B面先端部は未調整で、右側に初期段階の刻離面あるのみ。A面は左方向に打点をもつ大刻離面。B面は右下方に打点をもつ主要刻離面よりなる。	先端部 不整環形 基部 菱形		
		24.0				
		8.0				
		(8.4)				
S-09-0804 KT58 Pit 39		(25.4)	未製品 先端部。A面両側辺より調整刻離。中央に大刻離面残存。縦軸が左側に彎曲。B面は大刻離面よりなり右側には打れ面あり、先端部左側辺は未調整で削片の厚み残存。	扇形		
		(18.0)				
		6.9				
		(3.1)				
S-09-0813 KT54 黒褐色土層		(39.4)	未製品(C-1) 先端部欠損。基部は円みをもち両端でやや角張る。両面両側辺、基部より調整刻離。その後A面両側辺、B面右側辺に細かな調整。これは三辺ともステップ状を呈す。A面中央にわずかに大刻離面残存。	中央部 不整杏仁形 基部 扁平な杏仁形		
		20.5				
		7.4				
		(7.1)				
S-09-0814 KT54 黒褐色土層		48.4	未製品 細身で斜身。両面両側辺より調整刻離。A面左側辺沿い、B面ではステップ状を呈し、基部中央に主要刻離面残存。基部は大刻離面の先端部で丸くA面側に至る。基部は未調整。	先端部 菱形 基部 台形状		
		20.0				
		7.2				
		8.3				

()は残存部分の法量である。

石 鏡






図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) 現長 厚 (g) 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0822 KL62 第3層・褐色砂層	(37.2) 22.2 7.0 (7.1)	未製品 楕円形状。両面両側辺、B面蓋辺よりあらい調整制離。中央に大きく大制離面残存し、B面は右方向に打点をもつ主要制離面である。A面基部は整っているが他は揃っていない。A面先端部左側はステップ状を呈す。周辺のエッジ、両面の縁は磨滅。右側辺先端より縦方向に制離欠損。	不整三角形	
	S-09-0825 KT58 灰褐色土層	(33.5) 20.5 5.4 (3.7)	未製品か(E-1) 蓋先端欠損。両面両側辺より調整制離。押圧制離による。A面両側辺は揃った制離面が並列。B面両側辺はステップ状を呈し、右側辺は不整形で凹凸あり。B面中央に大制離面残存。失敗品として放棄されたと思われる。	菱形	
	S-09-0826 KP54 灰褐色土層	34.0 26.6 5.8 4.6	未製品 正三角形形状。先端が右側へ片寄る。A面蓋辺より大きく制離後、両側辺より調整制離。両側辺沿いに更に細かな調整制離。基部右側に大制離面残存。B面は右逆斜に打点をもつ主要制離面よりなり、蓋端面は折れ面よりなる。先端部左側辺に細かな調整がわずかにみられる。	三角形	
	S-09-0828 KH54 茶褐色土層	38.3 29.2 7.4 8.5	未製品(B-1) 二等辺三角形形状。先端はA面側へ反る。A面右下方に打点をもつ大制離面よりなり、B面は左逆斜に打点をもつ主要制離面よりなる。B面両側辺沿いに調整制離。A面三辺に調整あり。右側辺、蓋辺沿いはステップ状を呈す。蓋端左側に自然面残存。先端は未調整。右側辺に折れ面が厚く残存。周辺のエッジ及び両面の突起の縁は磨滅。	台形状	
	S-09-0829 KD54 茶褐色土層	46.3 24.1 8.5 8.8	未製品 A面は背縁をもつ大制離面、B面は蓋辺に打点をもつ主要制離面よりなる。A面両側辺、蓋辺にあら制離を踏す。三辺ともステップ状を呈す。B面両側辺に小さな調整制離あり。蓋端は自然面である。先端部両側のエッジは磨滅あり。	扇形	
	S-09-0831 KL54 灰黒色土層	33.1 16.5 6.9 3.2	未製品(B-1) 先端は細身。A面両側辺より調整制離。B面はあら成形後、基部左側辺、蓋辺より調整制離があるがステップ状を呈し、面の凹凸が大きく揃っていない。先端はA面に反る。	菱形	
	S-09-0841 JU58 茶褐色土層	(37.5) 21.3 6.2 (5.3)	未製品 先端部欠損。基部はやや尖基気味。両面両側辺より調整制離。A面左側、B面両側辺ともステップ状を呈す。両面とも基部には大制離面が大きく残存。B面は左下方に打点をもつ主要制離面である。周辺のエッジ部は磨滅。	扇形	
	S-09-0843 JQ62 茶褐色土層	39.0 19.3 7.3 4.9	未製品(D) 左側辺はくの字形に屈曲し、右側辺は柳葉形状を呈す。両面両側辺より調整制離。A面中央部両側辺ともステップ状を呈し、中央に大制離面残存し、B面右側辺基部はステップ状を呈し、中央部に厚さが残る。先端部右側辺のエッジを揃っている。	扇形	
	S-09-0844 JQ62 茶褐色土層	36.5 23.7 6.6 5.0	未製品か(B-2) 幅広い。A面左側辺、B面右側辺、先端部左側辺に調整制離。大半はステップ状を呈す。蓋辺A面に打ち欠き後エッジに細かな制離。先端部右側辺、基部左側辺、B面先端部右側辺沿いに細かな制離あり。A面右側は左方向に打点をもつ大制離面、B面中央部左側には右下方に打点をもつ主要制離面残存。	扁平な菱形	
	S-09-0854 JA54・58 溝 (SF 080) 上層	(57.3) 16.2 8.5 (7.5)	未製品 細身の柳葉形状。両面両側辺より調整制離。B面中央、A面先端部中央に大制離面残存。両面とも左側辺はステップ状を呈す。B面先端部両側は揃った制離面よりなり、B面では縦状に厚さが残存。両側辺はジグザグを呈す。	菱形	
	S-09-0857 JT66 褐色土層	48.4 23.8 10.0 9.9	未製品(C-1) 両面両側辺よりあらい調整を施して成形。A面基部右側には蓋辺左寄りに打点をもつ主要制離面、B面中央には縦方向に打点をもつ大制離面残存。B面先端部右側には折れ面残存。A面左側辺沿い、基部右側辺沿いに細かな調整制離あり。A面両側辺、B面左側辺はステップ状を呈す。蓋端左寄りに自然面残存。	五角形	

()は残存部分の法量である。

原産番号	登録番号 出土地点 遺構番号 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	側 面 考
	S-09-0867 不明	40.1 28.9 8.6 8.9		未製品(B-1) 二等辺三角形。両面とも両側辺、基辺より調整刻離。両面とも基部に大刻離面残存。あらゆる、先端は円い。	扇形	
	S-09-0868 JZ	(57.2) 28.4 9.0 (15.5)		未製品 ポイント状。両面両側辺よりあるいは調整刻離を施して成形。B面先端部右側には大刻離面残存。A面左側辺、先端部右側辺、B面基部両側辺はステップ状を呈す。周辺のエッジは磨減。	扁平な扇形	
	S-09-0873 JY54 黒色土層	39.4 23.6 9.1 6.8		未製品(B-1) 両面とも両側辺、基辺に調整刻離。両面とも比較的揃った刻離面が並列する。A面両側辺中央部、B面左側辺、基辺はステップ状を呈する。先端には調整以前の平坦な面残存。	菱形	
	S-09-0876 JM66 褐色土層	53.6 20.4 7.7 9.5		未製品 細身。先端部で左側へやや彎曲気味。両面とも両側辺より調整刻離。ステップ状を呈す。A面先端部左寄りに大刻離面、基部中央に下方に打点をもつ、初段階の刻離面が大きく残り、B面中央には右下方に打点をもつ主要刻離面が大きく残存。先端、基辺は打ち割り面である。基辺は未調整。	先端部 扇形 基部 五角形	
	S-09-0887 KT58 Pi4 55	(23.8) 30.7 7.4 (5.3)		未製品 基部。両面とも両側辺よりあらく刻離成形後、両面両側辺沿いに細かな調整刻離を施す。四面ともステップ状を呈す。	不整四辺形	
	S-09-0893 L.C58 第9号住居址 (SA 009)	30.7 20.4 6.6 3.9		未製品か(C-1) 先端部の狭い楕円形態。A面右側は右上方からの打ち欠き面よりなる。左側には大刻離面、基辺よりには風化面残存。周辺に細かな調整刻離あり。B面右側辺は折れ面より成る。B面先端部は上方より調整。基部には大刻離面残存。基部周辺には細かな調整あり。周辺のエッジは磨減。B面両端ステップ状を呈す。	不整四辺形	B面に付着物あり。 
	S-09-0903 JY62 黒褐色土層	(45.8) 19.6 7.2 (6.6)		未製品(B-2) 両面とも両側辺よりあるいは調整刻離。両面両側辺ステップ状を呈し、B面中央には右側辺中央に打点をもつ主要刻離面残存。更に基部A面周辺、B面基辺にはエッジに細かな調整を施し平基につくる。両側辺は逆刺部でくの字形に曲出し、その下方のエッジには磨減あり。	五角形	
	S-09-0907 KD56 黒褐色土層	47.7 16.1 5.4 4.8		未製品(B-2か) 細身。先端部は細長く、基部にふくらみをもつ。両面両側辺より調整刻離。中央には大きく大刻離面残存。両端にも打ち欠きあり。周辺のエッジ、両面の凸部は磨減している。先端部はA面へ反っている。	台形状	
	S-09-0908 KH54	44.1 24.5 7.4 7.8		未製品 楕円形状を呈す。基辺は刺片の折れ面残存。A面は中央に背縁の通る大刻離面よりなり、B面は下方に打点をもつ主要刻離面である。A面先端部に調整刻離。B面両側辺に調整刻離。先端部はあらく、基部両側辺は押圧刻離を施す。右側はステップ状。A面先端部もステップ状を呈す。両側辺のエッジはうすく鋭い。	扇形	
	S-09-0909 JW64 黒褐色土層	49.3 25.7 10.5 11.9		未製品(B-2) A面三辺、B面両側辺より調整刻離。B面基辺は大きな打ち欠き面よりなる。両面中央に大刻離面残存。A面両側辺沿い、基辺はステップ状を呈し、B面両側辺もステップ状を呈す。両側辺ともエッジはくずれた様になり、部分的に厚みが残る。	先端部 菱形 基部 五角形	
	S-09-0920 L.C58 黒褐色土層	49.4 27.8 8.9 11.6		未製品(D-1) ポイント状を呈するが、基部は尖基。両面とも両側辺より調整刻離を施して成形。A面右側辺、基部左側辺、B面右側辺、基部左側辺はステップ状を呈す。基部両側辺のエッジには細かな調整刻離を施して整形。基部右側辺のエッジには折れ面残存。	扇形	

()は残存部分の法量である。

石 鉄












図版番号	登録番号 出土地 遺構 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	規 長 幅 厚 重 量	特 徴	中央断面	備 考										
LK58	S-09-0926 黒褐色土層	58.0 28.8 10.2 16.7		朱製品 ボイント状を呈す。先端は細く突出している。B面は右側面上部に打点をもつ主要剥離面であり、先端部左側には自然面残存。A面両側面よりあるいは調整剥離を施して成形後周辺に細かな調整。基部に大剝離面残存。先端部両側面はステップ状を呈し、左側面には打ち割り面が厚く残存。B面両側面よりあるいは調整剥離、ステップ状を呈する。両端は未調整。	三角形											
							S-09-0928 LK58	(19.2) (29.4) 8.0 (5.0)	朱製品 基部。A面両側面、B面左側面、基部より調整剥離。両面とも大剝離面残存。基部は平坦な調整以前の面より成る。	扁平な杏仁形						
												S-09-0938 LK62	(32.9) 18.2 6.2 (3.5)	朱製品か(B-2か) A面両側面、基部左側、B面両側面より調整剥離。A面基部はステップ状を呈す。基部右側に大剝離面残存。B面は基部左側に打点をもつ主要剥離面が大きく残存。基部は打ち割り面より成る。両側面はジグザグを呈す。	扇形	
LK58	S-09-0943 JU66	42.0 30.2 8.5 10.5		朱製品 両面とも両側面より調整剥離。側面沿いに比較的鋭く剥離面が並列。A面先端部中央に大剝離面、その下に初段階の調整面残存。B面は基部右寄りに打点をもつ主要剥離面である。B面基部に大剝離面を留め、基部右側は打ち割り面よりなる。A面基部左側にわずかに調整あり、ステップ状を呈す。	扇形											
							S-09-0947 LO62	(39.9) 27.8 8.3 (8.5)	朱製品 二等辺三角形。A面右方向に打点をもつ大剝離面、B面は基部に打点をもつ主要剥離面であり、基部は自然面である。両面両側面にあるいは調整剥離。周辺のエッジは丸く磨滅。	台形状						
												S-09-0956 LO58	36.7 20.1 7.5 5.4	朱製品(C-2) 基部中央で最大厚を測り先端に向かってうくなる。A面中央に細長く主要剥離面を留め、打点は左方向にある。B面中央に大きく大剝離面を留め、打点は左上方にある。周辺から剥離が施され、A面に筋が通る。基部には剥片の折れ面が厚く残存。A面左半分は大きなステップ状剥離面であり、他の部分にも残存する。	五角形	
LK58	PL53-12 S-09-0960 LO58	38.2 17.6 6.0 3.7		朱製品か(D-2) 左側面は基部でくの字形に屈曲し、右側面は柳葉形状を呈し、左右不揃いである。両面両側面より調整剥離。両面とも中央に大剝離面残存。先端部左側エッジには調整以前の平坦な面が厚く残存。両側面はジグザグを呈す。基部のエッジは丸く磨滅。	先端部 扇形 基部 杏仁形											
							S-09-0965 LS62	(36.0) 25.0 5.4 (4.1)	朱製品 基部欠損。両面両側面に調整剥離。A面先端部の剥離面は異行があり、中央まで至る。右側面はステップ状を呈す。基部左側に大剝離面残存。B面は左上方に打点をもつ主要剥離面である。左側面中央部に打撃の厚み残存。B面基部右側面は未調整。先端には平坦な自然面残存。	先端部 扇形 基部 不整三角形						
												S-09-0968 LW62	59.4 26.2 7.0 11.5	朱製品(C-1か) 先端は細く鋭い。A面両側面、基部、B面両側面に調整剥離。A面中央には右下方に打点をもつ大剝離面残存し、B面中央左寄りに基部に打点をもつ主要剥離面残存。両面とも右側面、A面基部左側面はステップ状を呈す。基部左側からA面基部にかけて自然面残存。	両端部 扇形 中央部 扁平な杏仁形	

()は残存部分の法量である。












図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	長 幅 厚 重	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0986 IT66 黒褐色土層	27.5 22.2 7.0 3.0		未製品(A-1) 両面両側辺、基辺より調整刻離。両面とも中央にわずかに大刻離面残存。A面両側辺、B面基辺はステップ状刻離面を呈す。右側刻離には調整以前の平坦面残存し、左側刻離は折れ面である。	菱形	
	S-09-0990 MZ 表探	(41.3) 20.1 10.1 (8.6)		未製品 幅状の楕円形状を呈する。先端部欠損。基端には自然面残存。両面とも両側辺より調整刻離。A面は背後をもつ大刻離面残存し、B面は基端に打点をもつ主要刻離面が大きく残存。両側辺はジグザグ状を呈する。	扇形	
	S-09-0993 MZ 表探	42.8 19.8 6.8 7.1		未製品 幅状の楕円形状。両面両側辺より調整刻離。両面にうすく大きな刻離面あり。A面中央両側辺はステップ状を呈し、B面先端部左側辺にもステップ状刻離面あり。A面中央、B面先端部右側、基部左側に大刻離面残存。	扇形	
	S-09-1004 MZ 表探	48.5 29.6 7.9 12.0		未製品(C-1) A面両側辺、B面両側辺、基辺より調整刻離。A面両側辺、B面左側辺はステップ状を呈す。B面基部中央に大刻離面。先端には平坦な自然面、基端には厚みのある折れ面が残存す。基部周辺のエッジは磨滅。	菱形	
	S-09-1005 KY68・69 第2層・上面・噴遊層	53.3 22.2 10.2 10.9		未製品か(D-2) 右側辺は中央でふくらみ、左側辺は基部でくの字形に屈折する。両面とも両側辺より調整刻離。A面は比較的揃った刻離面より成る。B面左側も同様。B面先端部中央に大刻離面残存。右側辺はジグザグを呈す。左側辺は不整。周辺のエッジは磨滅。	菱形	
	S-09-1006 MQ63 褐色砂礫層	52.3 23.6 6.0 9.5		未製品 幅状の楕円形状。基端は折れ面である。A面両側辺、B面両側辺、基辺よりわずかに調整刻離。殆どはうすいステップ状を呈す。両面中央には大刻離面残存。B面は主要刻離面である。先端はややA面に反っているが、それは剥片の反りである。	扁平な杏仁形	
	S-09-1010 KA62 第2層	45.3 (25.4) 8.2 (8.7)		未製品(A-1) 両面とも両側辺、基辺より調整刻離。A面先端部中央には自然面、基部中央には下方からの初段階の刻離面が残存。B面中央には主要刻離面残存。B面左側辺、A面両側辺はうすいステップ状を呈す。	先端部 菱形 基部 三角形	
	S-09-1012 KF62 第2層・灰褐色砂質土層	47.1 26.5 6.7 9.2		未製品(DかE) 両面両側辺より調整刻離。A面中央と先端に自然面残存。B面右側はステップ状を呈し、左側辺より大きな刻離面がのびる。B面基部左側辺には細かな調整あり。基端は剥片の折れ面残存。	扁平な三角形	
	S-09-1016 KH63 第3層・褐色砂質土層	52.0 28.6 11.3 16.3		未製品(C-1) 基部に最大幅あり。両面両側辺よりあらゆる調整を施して成形。更にA面左側辺沿いに小さな調整刻離があるが、ステップ状を呈す。B面両側辺の刻離もステップ状で、中央に右方向に打点のある主要刻離面残存。基辺に細かな調整を施して整形。先端に自然面残存。	五角形	
	S-09-1017 KH63 第3層・褐色砂質土層	(38.0) 33.7 8.1 (12.6)		未製品 先端部欠損。A面中央に背後をもつ大刻離面よりなり、B面は下方に打点をもつ主要刻離面である。基端は折れ、両側辺より調整刻離。右側辺の両面はステップ状を呈す。側辺エッジは磨滅する。	扁平な扇形	
	S-09-1018 KG62 第3層・褐色砂質土層	51.8 19.9 8.6 9.9		未製品(Eタイプ) 先端欠損。両面とも両側辺より調整刻離を施して成形。比較的揃った刻離面よりなる。B面先端部にわずかに自然面残存。	菱形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1020 MK60 黒色土層	60.0 29.0 1.4 (15.6)		未製品(C-1) 両面両側辺より調整刻離。しかし、四辺共ステップ状を呈する。B面先端部右寄りに大刻離面残存。A面基部は右方向に打点をもつ主要刻離面である。先端部の主要刻離面に対応するA面左側辺は深いステップ状を呈し打層の厚さを残し、基部右側辺のエッジもステップ状にずれた様になり、厚みを残す。先端部の縁線上に研磨がみられる。	扇形	
	S-09-1024 MK58 第9号土器堆積 (SL308) 黒色砂質土層	47.8 23.7 1.1 11.7		未製品 両面両側辺よりあく調整刻離を施して成形。A面中央右側にわずかに大刻離面残存。先端のエッジは磨滅。	先端部 変形菱形 基部 五角形	
	S-09-1025 KM66 第4層・黒色砂質土層	50.2 22.9 8.0 10.1		未製品(B-2) 両面とも両側辺、基辺より調整刻離。A面中央に大刻離面、B面中央に右方向に打点をもつ主要刻離面が残存。A面には初段階の大きな刻離面も残存し、先端及び両側辺、B面左側辺はステップ状を呈す。	先端部 三角形 基部 不整六角形	
	S-09-1026 ML61 溝 (SF 074) 褐色砂層	(43.5) 26.1 9.0 (9.5)		未製品(E-2か) 基端欠損。B面左側辺に調整刻離。先端部右側辺は未調整で打ち割り面残存。基部右側辺にはステップ状の刻離面あり。A面右側辺、左側辺先端部には調整刻離。基部にはステップ状の調整刻離あり。B面中央に大刻離面残存。A面中央には左方向に打点をもつ主要刻離面残存。左側に厚みがあり右へうすくなる斜片使用。基端は折れ欠損。周辺のエッジは磨滅。	不整四辺形	
	S-09-1029 不明	42.1 22.5 8.8 9.1		未製品(B-2) 両面両側辺より調整刻離。先端は折れ欠損。基辺は折れ面よりなり、A面に小さな調整刻離あり。A面両側辺沿い基辺、B面両側辺はステップ状を呈す。両側辺のエッジはうすく鋭い。	菱形	
	S-09-1032 MP61 溝 (SF 075) 黒色砂質土層	52.6 21.6 7.8 8.8		未製品(C-2) 細身。基端欠損。両面とも両側辺、基辺より調整刻離を施して成形後、A面先端部右側辺、基辺に細かな調整あり。基部両側辺ともステップ状を呈す。B面も両側辺沿いに細かな調整があり、ステップ状を呈す。A面基部中央に大刻離面残存。先端部はA面へ反る。	扇形	
	S-09-1033 KP66 第2層	(40.4) 19.2 7.6 (6.0)		未製品か(E-1) 基部破片。両面ともあるいは打ち欠き調整後、A面両側辺、B面細身の両側辺に調整刻離。両面両側辺ともステップ状を呈す。基部右側辺のエッジはくずれた様になり、厚みを残す。周辺のエッジは磨滅。	中央部 杏仁形 基部 台形	
	S-09-1034 LE64 第3層・上面	56.6 14.2 10.9 15.4		未製品 不整形。両面ともあるいは調整刻離。A面先端部両側ともステップ状を呈し、B面右側、先端部左側辺もステップ状を呈す。基部右側辺のエッジは敲打されたように白くなり丸い。周辺のエッジの尖部に磨滅があり先端は斜に著しい。A面基部中央に大刻離面残存し、厚みあり、基端には平坦な調整以前の面の一部残存。	先端部 菱形 基部 扇形	
	S-09-1035 MO・MP61 溝 (SF 074) 褐色砂層	(62.1) 22.8 9.9 (14.4)		未製品(E-2) A面は両側辺より丁寧な調整刻離。中央部両側辺はステップ状を呈し、中央に大刻離面わずかに残存。B面はあるいは調整後、両側辺に小さな調整刻離。それは両側辺ともステップ状を呈す。基部中央に大刻離面残存。左側辺中央部のエッジは敲打された様になり白くなり鈍い。蓋の先端に打ち欠きあり。	扇形	
	S-09-1037 MB60 溝 (SF 075) 黒色砂質土層	45.4 26.2 11.8 12.4		未製品(C-1) 基部が幅広い楕円形。両面とも両側辺、基辺よりあるいは調整刻離を施して成形。A面基部中央に右方に打点を持つ主要刻離面残存。B面中央右寄りに大刻離面残存。A面基部、B面両側辺はステップ状を呈す。基辺には更に細かな調整あり。	菱形	
	S-09-1039 MU59 溝 (SF 078) 黒色砂質土層	66.0 22.5 11.3 12.5		未製品か(D-1) 左側辺は先端部でくの字形に屈曲し、右側辺は基部でくの字形に屈曲し、左右不揃いである。左側辺先端部はステップ状を呈し、凹み気味。両面とも両側辺より丁寧な調整刻離。A面左側辺下半は揃った刻離面が並列。右側辺も中央部はステップ状を呈すが、比較的揃っている。B面左側辺先端部は揃った刻離面が並列するが他辺はステップ状を呈し、中央に厚みが残存。B面基部両側辺のエッジに細かな調整あり。	先端部 菱形 中央部 五角形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1041 MG61 溝 (SF 075) 黒色土層	(47.9) 24.1 8.3 (8.1)	未製品(D-1) 両面両側面より調整刻離。基部A面左側面の他はステップ状を呈す。A面基部中央に大刻離面残存し、B面中央には初段階の大きな刻離面残存。基端は折れ欠損。	先端部 扇形 基部 不整四角形		
	S-09-1042 MS57 溝 (SF 078) 表採	(58.2) 23.7 9.5 (12.2)	未製品(C-1) A面両側面、B面右側面、先端部左側面よりあるいは調整刻離。A面先端部には大刻離面、B面基部には右方向に打点をもつ主要刻離面が残存。B面基部に細かな調整あり。右側面中央のエッジは敲打された様に白く染れている。	扇形		
	S-09-1044 MT62 溝・小溝 (SF 074) 灰黒色粘土層	54.8 22.5 1.1 13.2	未製品 長方形の不整形。A面両側面より調整刻離。中央に大刻離面残存。基端寄りに大きな刻離面あり。両端には細かな調整あり。先端はステップ状を呈す。B面両側面、基端より調整刻離。	先端部 台形 基部 扇形	石鏡以外の可能性あり。 	
	S-09-1045 MS59-60 黒褐色粘質土層	(37.5) 23.1 9.2 (7.6)	未製品 基部破片。不整形。両面ともあるいは調整刻離を施して成形。A面は中高でB面は平坦に近い。	扇形		
	S-09-1047 MZ	(25.9) (21.5) (6.5) (2.8)	未製品(D) 基部破片。両面両側面より調整刻離。A面は両側面とも揃った刻離面が並列。B面は右側面の刻離は大きく、左側面はステップ状を呈す。A面先端部に主要刻離面残存。	菱形		
	S-09-1053 MK57 溝 (SF 074) 褐色砂層	52.1 28.8 7.9 11.4	未製品(B-2) 両面とも両側面基端、調整刻離。両面とも中央に大刻離面残存。A面基端にも一部残存。B面は、左上方に打点をもつ主要刻離面である。A面先端部左側面、基部右側面はステップ状を呈す。右側面中央には調整以前の平坦な面残存。	先端部 扇形 基部 不整三角形		
	S-09-1054 JD 68-69 黒色粘質土層	46.4 22.4 9.3 7.3	未製品か 不整形。両面とも両側面より調整刻離後、両側面沿いに細かな調整。A面両側面の基部ではステップ状を呈し、傾斜面が急であり、両側面とも缺が入ったように凹み状をなす。基端は折れ面であり、そのエッジに細かな調整刻離を施す。両面とも基部中央におおむね大刻離面残存。	菱形	A面に鉄分付着。 	
	S-09-1055 MM61 溝 (SF 074) 黒褐色礫混合土層	54.6 29.0 14.7 24.3	未製品 ポイント状。両面とも両側面よりあるいは調整刻離を施す。基端は折れ面が厚く残存。両面とも左側面沿いには小さな調整刻離あり、ともにステップ状を呈す。	先端部 扇形 基部 菱形		
	S-09-1056 LW54 整地層	(25.6) 27.4 6.6 (5.6)	未製品 基部破片。A面は背縁をもつ大刻離面、B面は右側面基部に打点をもつ主要刻離面である。両面とも両側面、基端沿いに小さな調整刻離あり、左側面のエッジには自然面が残存。両面沿いのエッジは磨滅。両面の厚味をもつ部分は磨滅されている。	扁平な不整扇形		
	S-09-1057 LW54 整地層	46.0 27.2 9.1 13.7	未製品 楕円形。A面両側面、基端、B面両側面より調整刻離。その後両側面沿いに小さな調整刻離を施す。A面基端、両面両側面ともそれはステップ状を呈す。	先端部 杏仁形 基部 三角形		
	S-09-1059 JE66 床土・整地層	47.1 30.1 7.1 11.7	未製品(C-2) 両面両側面より強いがうすい調整刻離後周辺に小さな調整刻離を施す。A面中央部に大刻離面、B面先端部には下方に打点をもつ主要刻離面残存。A面ではステップ状が多く、B面左側面沿いにもステップ状を呈す。基端には自然面が残存。	扁平な杏仁形		

()は残存部分の法量である。

石 鏡











図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	重量 (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
S-09-1063 JE62	整地層	45.3 24.1 1.1 9.3		未製品(C-1) A面は左方向に打点をもつ大刻離面。B面は右側面基端寄りに打点をもつ主要刻離面である。両面とも両側面、基面より調整刻離。A面基部~B面基部右側にかけて自然面残存し、厚みが残る。両面とも左側面はステップ状を呈す。先端部両側面のエッジはうすく鋭い。磨滅している。	先端部 扇形 基部 五角形	
S-09-1066 JM58	整地層	(38.7) 25.8 4.4 (5.4)		未製品(D-2カ) 基部欠損。A面左側面よりうすい調整刻離。ステップ状を呈す。右側面自然面残存。B面は右側面中央に打点をもつ主要刻離面である。右側面よりうすい調整刻離を施し打磨の厚みをとる。左側面にもわずかに調整を施す。	扁平	
S-09-1067 JY66	整地層	36.2 27.1 9.4 10.9		未製品 楕円形を半截した形。両面とも両側面より調整刻離。両面中央部に大刻離面残存。B面両側面ともステップ状を呈する。基端は折れ面よりなるが、一部に打ち欠きみられる。	扇形	
S-09-1068 J158	整地層	(30.9) (20.0) (5.6) (2.9)		未製品 基部欠損。両面とも両側面より調整刻離。A面は磨った刻離面が並列。B面左側面はステップ状を呈し、中央に大刻離面残存。先端右側面のエッジに自然面残存。	菱形	
S-09-1074 JQ54	整地層	50.5 22.2 9.3 11.1		未製品(D-2) 楕円形状を呈し、両端は鋭くない。両面とも両側面より調整刻離。A面中央、B面両端部中央に大刻離面残存。基端には打面残存。両側面はジグザグ状を呈す。先端のエッジは磨滅。	不整形扇形	
S-09-1076 KD58	整地層	55.7 26.2 14.2 18.5		未製品(B) 先端部は台形状で基部は四角形状を呈す。両面とも両側面、基面より調整刻離。A面中央部両側面ともステップ状。A面三辺沿いと、B面両側面沿いに細かな調整。それらの両面両側面ともステップ状を呈す。B面中央の左下方に打点をもつ主要刻離面残存し、厚味を残す。	先端部 菱形 基部 扇形	
S-09-1079 JY62	整地層	47.9 27.1 9.0 13.6		未製品 楕円形状。基端は直線的。両面両側面より調整刻離。B面両側面ともステップ状を呈し、基部には右上方に打点をもつ主要刻離面残存。両側面のエッジはうすく鋭い。先端には調整以前の剥片の平坦な面残存。	扁平な扇形	
S-09-1082 LC54	黒色粘質土層	32.0 20.8 6.7 4.1		未製品(B-1) 両面両側面より調整刻離。A面中央には左方に打点をもつ大刻離面、B面には、右側に打点をもつ主要刻離面残存。基端にはあらわ刻離あり。	不整形四辺形	
S-09-1092 IW68 溝 (SF 079) 黒色砂質土層下部		36.8 31.3 6.0 8.5		未製品(B-2) うすく幅広い。両面両側面、A面基面よりうすく調整刻離。両面ともステップ状を呈す。両面中央に大刻離面、基端は折れ面、右側面には自然面が残存。A面左側面には細かな調整あり、エッジを整形しており、左側面は一直線上にのびる。両側面のエッジは磨滅。	扁平	
S-09-1095 JDZ	褐色礫混土層	36.5 25.7 8.5 8.7		未製品 楕円形を半截した形態。A面は比較的小うすい調整刻離。先端はステップ状を呈す。B面は中央部右寄りに大刻離面残す。先端右側面より調整刻離を施すがステップ状を呈し、左側は先端からの打ち欠きにより大きく刻離欠損。基端は折れ面よりなり、B面へわずかに打ち欠きあり、B面側エッジは隠打したようにつぶれる。	扇形	
S-09-1098 JB58	床土層	45.7 25.1 9.3 12.5		未製品 不整形。両面両側面よりあらわ調整刻離を施して成形。A面先端部で深く凹むステップ状刻離面あり。B面左側に大刻離面残存。左側面のエッジには剥片の折れ面が厚く残存。両面とも両側面沿いに細かな調整がみられるが、ステップ状を呈し、全体として不整形面を呈す。左側面、先端のエッジは隠打された様に潰れて丸くなる。	不整形台形	

()は残存部分の重量である。

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1102 JB58 床土層	(50.5) (22.3) 7.0 (7.6)		未製品(B-2カ) 基部左側は折れ欠損。両面とも周辺より調整刺蝋が施される。A面右側辺中央、基部からの調整はステップ状を呈す。A面中央、B面先端には大刺蝋面残存。B面は揃った調整面よりなる。	扇形	
	S-09-1112 MB54	44.8 21.2 9.6 9.4		未製品 不整形。両面とも周辺よりあらゆる調整刺蝋が施されるが、両面とも両側辺の調整は深いステップ状を呈し、中央に厚みを残す。面の凹凸が大きい。B面中央に左側辺下方に打点をもつ主要刺蝋面が大きく残存。基部のエッジのみうすくつくり、基部は右下がり、左側は円く、右側は角ばった逆刺をなす。	不整形	
	S-09-1114 MJ57 礫褐色砂層	51.5 23.5 7.7 8.0		未製品(D) 基部とA面基部に小さく自然面が残る。先端は鈍い。左側辺は、なだらかに外彎し、右側辺の中央よりやや下に角ばった逆刺をもつ。両面共両側辺より調整刺蝋が施され、刺蝋面は中央に至る。ステップ状を呈する刺蝋が多く混在する。	扁平な菱形	
	S-09-1115 KT64 第3層・黒色砂質土層	(43.7) 27.8 8.5 (11.0)		未製品(E-1) 大型。両面ともあらゆる調整刺蝋。A面は左側辺からの刺蝋面が大平を占める。A面中央に自然面がわずかに残存。B面基部中央に大刺蝋面が残存。刺蝋はステップ状を呈するものが多く、A面に比べ、刺蝋は小さい。	不整形	
	S-09-1118 MJ57 黒褐色礫混合土層	43.3 18.9 7.2 5.7		未製品(B-1カC-1) 両面両側辺より調整刺蝋。A面両側辺、B面右側辺はステップ状を呈する。基部は折れ面よりなりB面側に細かな調整を施す。	先端部 扁平な菱形 基部 杏仁形	
	S-09-1139 KJ65 第4層・Pit内	51.8 22.8 7.0 9.0		未製品 基部左方に厚く、先端と右方に薄い。A面は右下方に打点を持つ主要刺蝋面よりなり、先端から右側辺先端部にかけて刺蝋はほとんど施されず。左側辺と基部は、面に対して、急角度に入る刺蝋が施される。B面は左下方に打点をもつ大刺蝋面で、基部両側辺にのみあらゆる調整を施す。	不整形三角形	
	S-09-1148 MN62 溝 (SF 074) 褐色砂層	34.5 22.9 8.4 6.3		未製品(C) A面は、粗い刺蝋が施され、中央に稜を持つ。ステップ状を呈する刺蝋が若干混在する。B面は刺蝋がA面に比べ小さく、ステップ状を呈し中央の左方に打点をもつ大刺蝋面が残る。	三角形	
	S-09-1150 KX62 第2層	60.6 24.3 10.0 15.2		未製品(C-2) 縦長のもの。両面共両側辺より調整刺蝋が施され、A面中央、B面基部中央に小さく大刺蝋面が残る。刺蝋はあらく、ステップ状を呈するものが多く混在する。	先端部 菱形 基部 杏仁形	
	S-09-1154 MI56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(45.7) 26.3 8.6 (10.3)		未製品(C) 両面とも両側辺、基部より調整刺蝋。左逆刺には小さく自然面が残るが右逆刺は円い。B面先端部の下方に打点をもつ主要刺蝋面が残存。両面共にステップ状を呈する刺蝋が多く混在する。	杏仁形	
	S-09-1156 XI66 Pit 23	(35.3) 22.2 7.1 (4.5)		未製品(C-1) 両面共両側辺より調整刺蝋。A面左側辺はステップ状を呈し、中央左寄りに、自然面が残存。B面基部中央には左下方に打点をもつ深いステップ状を呈する初段階の調整面が大きく残存し、両側辺沿いにステップ状を呈する小さい調整が施される。	扁平な菱形	鉄分付着 
	S-09-1157 MZ	(50.5) 24.0 6.4 (6.8)		未製品(E-2) 茎は比較的幅広く薄い。基部折れ欠損。両面とも両側辺より調整刺蝋が施される。A面基部両側辺の刺蝋はステップ状を呈し、中央に旧刺蝋面が残り、この部分は厚みを残す。先端は円く、調整は施されず、B面側には大刺蝋面の一部残存。	扁平な菱形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡

図版番号	登録番号 出土地名 遺構番号 層	位置	法量 (mm)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
JB63	S-09-1163	JB63	46.5	28.3	未製品 両面共周辺より調整刻離。右側辺は凹くよくらみ、エッジはすくつくつられるが、左側辺は、両面にステップ状刻離面を呈し、エッジはくずれた様になり、特に先端部右側辺に厚みを残す。基端は厚い平坦な自然面を残す。B面中央に主要刻離面、A面中央には、深いステップ状刻離面を呈する大刻離面残存。	杏仁形	
				9.1			
				12.9			
JB63	S-09-1164	JB63	40.9	23.6	未製品 (E-1) 両面とも周辺沿いに粗く細かな調整を施すのみ。袈りは両面とも左側からのみ調整を施し袈い蓋をつくる。A面左側刻一先端にかけての左下方に打点をもつ大刻離面が残存し、右側は右下方に打点をもつ、ステップ状を呈する大きな打ち欠き面よりなる。B面基部は左側辺から右側辺に至る大きな打ち欠き面よりなり、先端部には左下方に打点をもつ主要刻離面残存。	扁平な扇形	
				5.4			
				6.4			
MW61-62	S-09-1165	MW61-62	48.6	31.8	未製品 (C-1) 基端は中央で鈍く角を持ち、尖鋭気味。A面周辺より、B面両側より調整刻離。両面共に刻離は粗い。ステップ状を呈する刻離が混在する。A面先端部中央に細長く主要刻離面が残存し、B面には大きく背後をもつ大刻離面残存。	杏仁形	
				8.3			
				12.4			
MP62	S-09-1167	MP62	46.7	20.4	未製品 細長い楕円形。側辺は直線的にのびる。先端は円みを持ち細かく調整刻離される。基端はステップ状を呈する。両面共に刻離はあらく、A面左側は大きな楕圓形刻離面を呈し、中央に大刻離面残存。B面先端部に大刻離面残存し、B面左側辺はステップ状を呈する。両面周辺のエッジに細かな調整。	三角形	
				8.6			
				9.3			
MK62	S-09-1169	MK62	54.6	26.4	未製品 (C-2) 両面とも周辺より調整刻離。両面共側辺の刻離はステップ状を呈し、中央に大刻離面が残る。A面左側辺の調整は特に深いステップ状刻離面を呈す。左方に厚く、右方にすくなる刻片を使用。	三角形	
				8.9			
				12.3			
LK54	S-09-1189	LK54	(40.0)	37.3	未製品 A面は刻離があらく、大きな刻離面よりなり、右側は大刻離面残存。右側辺は未調整。B面は大刻離面で、周辺に調整を施すが、右側辺、基端はステップ状を呈する。	不整形	
				7.5			
				(12.8)			
不明	S-09-1203	不明	48.8	26.1	未製品 (B) 両面共に大きな刻離を施す。更に、A面の左側辺と基端、B面両側辺には小さな刻離を施し、整形する。両面共にステップ状を呈する刻離が混在する。B面に小さく大刻離面残存。	扇形	
				9.2			
				11.8			
IH65	S-09-1207	IH65	43.2	22.8	未製品 (C-1) A面は中央に袈を持つ。A面は初段階の大きな刻離面よりなり、左側は中央被線上に打点をもつ。基部右側にわずかに大刻離面残存。基端左側辺は刻離面の末端が残る。楕圓形刻離面を呈す。この刻離後、先端部左側は被線上に打撃を加えて刻離し、右側辺沿いには調整を施す。B面は、左側に刻離が集中する。刻離はステップ状を呈し、基部右方に大刻離面が残る。	三角形	鉄分付着
				10.3			
				7.1			
KJ62	S-09-1209	KJ62	32.6	18.4	未製品 右側辺は中央によくらみ、D-2タイプ気味。左側辺は基部に浅い袈を持ち、E-2タイプ気味である。A面は刻離が丁寧で、中央に袈を持つ。右側基部はステップ状を呈する。B面は下方に打点をもつ主要刻離面で、周辺に細かく刻離を施す。平坦な面である。	扇形	
				7.6			
				4.4			
MJ62	S-09-1210	MJ62	(44.0)	20.8	未製品 (E-1) A面は中央に背後をもつ大刻離面、B面は下方に打点をもつ主要刻離面である。A面先端部両側辺、B面袈り部分のみ調整刻離。更にA面両側辺のエッジに細かな調整あり。基端はA面への打ち欠き。	扇形	
				6.9			
				(6.4)			
KG65	S-09-1212	KG65	48.1	28.0	未製品 (C-1) 幅広い。薄い。A面先端部中央に自然面残存。基部中央は基端に打点をもつ大きな打ち欠き面である。B面中央に左下方に打点をもつ主要刻離面を留める。両面共に周辺より調整刻離を施す。A面両側辺のエッジには更に細かい調整刻離を残す。	先端部 扁平な六角形 基部 扁平な台形状	
				4.7			
				7.2			

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考		
S-09-1213 MK58 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	40.2	19.5	6.2	4.3	三角形			
	朱製品(B-2) 先端は鋭い。A面左側は下方に打点をもつ大刺離面、B面は左逆刺に打点をもつ主要刺離面である。A面先端部左側は剥片の折れ面残存。A面右側および先端部中央の左側面に刺離が施される。B面は基部左側面に刺離を施す。基部右側面および基部に細かい刺離がわずかに見られる。							
	S-09-1221 ME61	45.1	25.1	4.9			扁平な凸レンズ状	
	朱製品(B-2) A面は上下二面の大刺離面よりなり、先端にわずかに自然面残存。B面は基部左側面に打点をもつ主要刺離面である。右側面の両面、左側面中央の両面のみ調整刺離が施される。							
S-09-1226 MQ56 溝 (SF 078) 暗褐色小粒凝砂層	40.9	26.1	6.5	6.3	四辺形			
	朱製品(C-2a) 左側面は先端から逆刺にかけて直線的にのび、基部によくらみをもち右側面は中央でよくらむ。基部は右上がりである。両面共に両側面より刺離が施されるが両面に大きく大刺離面を留める。A面は背縁をもつ大刺離面、B面は主要刺離面や打点は上方にある。軸はB面側へ彎曲。基部は剥片の折れ面で、A面側へ刺離。A面基部およびB面右側面の刺離はステップ状を呈し、他の部分にも浅いステップ状刺離が混在。両側面のエッジは僅かに磨滅。							
	S-09-1227	47.2	25.4	10.9			13.6	扇形状
不明 朱製品(E-2a) 左右両側面は非対称である。左側面は外縁し、逆刺は円い。右側面の先端から逆刺にかけては直線的にのび逆刺はやや角ばる。厚みをもち基部中央で最大厚を測る。両面共に両側面より刺離を施す。A面両側面寄りおよびB面基部左側面寄りの刺離はステップ状を呈す。他の部分にも浅いステップ状刺離が見られる。A面基部右寄りに大刺離面、B面基部中央に、右下方に打点をもつ主要刺離面を留める。打点の厚みを残す。基部は折れ面を呈し、両面側へ刺離を施す。								
S-09-1228 MI63 溝 (SF 075) 高混黒色粘質土層	43.5	20.9	12.7	10.3	杏仁形			
朱製品(CかD) 右側面は浅く、左側面は大きく彎曲する。厚みがあり、鏡身中央で最大厚を測る。両面共に両側面より刺離を施すが、A面右側面寄り中央に自然面を留める。両面の刺離は更にステップ状を呈す。両側のエッジおよび両面の縁は僅かに磨滅。								
S-09-1239 MX62 暗褐色土層	48.4	23.0	7.0	8.3	扇形			
朱製品(C-1) A面左側面、先端部右側面、基部、B面両側面より調整刺離を施すが、両面に大刺離面を留める。A面左側面からの刺離は中央までのび右側の大刺離面とで接をなす。B面は主要刺離面で打点は右方にある。両面に浅いステップ状刺離が混在。全作に形は整っている。								
S-09-1250 IN66 微混黒褐色土層	32.9	20.0	4.9	2.6	三角形			
朱製品(C-1) A面は粗い刺離が施され、基部は大刺離面を留める。B面は主要刺離面を呈し、打点は左上方にある。両面とも右側面にのみ細かい調整刺離が施されるが、急傾斜面を呈し、側面に厚みをもつ。								
S-09-1253 JA56 第9号周溝部-3区 (SH 128)	39.0	16.9	9.3	5.9	杏仁形			
朱製品(C-1a) 厚みあり。両面共に刺離が施され、大刺離面を留めず。両面右側面の刺離はステップ状を呈す。基部は折れ面よりなり、A面側へ刺離。両側面は鋭い。								
S-09-1256 HN62 砂礫混黒色土層	49.5	23.6	8.6	11.3	不整菱形			
朱製品 厚みあり。左側面はなだらかに下り、右側面は中央で屈曲し、基部は円くすばまる。基部は折れ面よりなる。両面共に両側面より刺離を施し、A面先端部は中央までのびをなす。基部中央に大刺離面残存。B面左側面は大きなステップ状を呈す。基部は折れ面よりB面側へ刺離するが、ステップ状を呈す。他の部分にも浅いステップ状刺離面が混在。先端には調整以前の刺離の平坦な面残存。								
S-09-1264 L054 黒色土層	(44.8)	21.6	10.0	(7.3)	菱形			
朱製品(Eか) 左側面はごくわずかに屈曲し、右側面は大きく屈曲し、基部寄り深く切りが入る。基部は折れ欠損。両面共に両側面より刺離を施す。A面中央に浅い筋が通る。B面中央の右下方に打点をもつ大刺離面が現存。両面左側および両面基部右側はステップ状刺離を呈す。								

()は残存部分の法量である。

石 鏡


図版番号	登録番号 土地 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
S-09-1268 HC54	茶褐色土層・敷地層	46.6 24.4 9.1 (9.9)		朱製品(C-2カ) 厚みがあり、鏡身中央で最大厚を測る。長軸でB面側へ彎曲。両面共に両側辺より剃離を施すが、A面先端部中央に大剃離面を残し、B面は主要剃離面をなす。A面両側辺からの剃離で中央に線をなす。B面は平坦。A面基部両側辺共大きなステップ状剃離面を呈す。周辺のエッジは僅かに磨滅。	三角形	
S-09-1274	不明	(48.8) 14.9 5.3 (4.6)		朱製品(D-2) 細身。A面基部右側に自然面残存。A面先端部には行線をもつ大剃離面が残し、B面は主要剃離面で打点は左側辺先端にある。先端部左側辺には打面を残す。両面共左側辺沿いに調整剃離を施し、右側辺にはあらい調整を施す。右側辺はステップ状を呈す。	扇形	
S-09-1284 CT58	黄土層	41.0 18.9 6.1 4.4		朱製品(E-2) 逆刺は左右非対称で、左側が角ばるのに対し、右側は円い。両面共に両側辺より剃離を施すが、両面中央に大剃離面を留める。A面の打点は右方で、B面の打点は下方である。先端はB面へ反っている。右側基部左側は大きなステップ状剃離面を呈す。右側部分のエッジは磨打されて白く潰れている。	先端部 菱形 基部 五角形状	
S-09-1290 GZ	表層	60.1 27.7 9.7 13.2		朱製品(D-1) 大型。両面共に両側辺よりあらい調整剃離が施される。B面は中央に主要剃離面を留め打点は基端にある。基端は調整以前の打ち割り面である。右側両面の調整はステップ状を呈し、凹凸が著しい。先端部左側辺は小さなジグザグを呈し、エッジは鋭い。	先端部 菱形 基部 逆台形状	
S-09-1298 HO50	Pit 6	(38.8) (29.6) (6.3) (10.6)		朱製品 先端部は折れ欠損。先端部で最大厚を測る。両面共に両側辺より剃離を施すが、大剃離面残存。A面左側辺からは大きく剃離を施しており、一部に大剃離面を留め、打点は上方である。B面は主要剃離面を大きく残し、打点は左上方にある。両面にステップ状剃離面が混在。B面基部部に自然面残存。	扁平な台形	
S-09-1303 MI56	溝 (SF 074) 褐色砂質土層	55.9 26.5 10.2 14.1		朱製品 大型。鏡身中央で最大厚を測る。両面共に両側辺からあらい調整剃離を施し、大剃離面を留めず。B面先端部左側辺は大きなステップ状を呈し、厚みを残し、エッジは潰れている。基端は自然面を残す。	先端部 不整形菱形 基部 杏仁形	
S-09-1314	不明	(32.8) 20.9 7.6 (5.3)		朱製品(D-2) 柳葉形を呈すか、基部破片。基端に自然面を残す。両面共に両側辺より調整剃離が施される。B面右側には大剃離面残存し、そのエッジは調整はあられず。先端部は折れ欠損。両側辺のエッジは僅かに磨滅。両面の縁は磨滅。	杏仁形	
S-09-1317 MJ58	溝 (SF 074) 黒色砂質土層	32.0 30.7 5.8 4.2		朱製品(A-1) 正三角形。先端部両側辺で浅く凹む。両面共に両側辺より剃離が施され、A面では中央部までのひねりをなす。B面左半分は主要剃離面が残存し、打点は右下方にある。B面は平坦。両面左側辺、B面基端には更に細かい調整を施す。両面にやや強いステップ状剃離が混在。	三角形	
S-09-1322 KI66	第2層	42.6 18.3 4.1 3.5		朱製品(CかD) 薄い。A面は主要剃離面で打点は左方にある。B面と基端は自然面である。A面両側辺、B面右側辺沿いにのみ細かい調整剃離が施される。B面基部右側辺は打ち欠きがあるがステップ状を呈し、基部はA面右側を除いて未調整。	先端部 扁平な五角形	
S-09-1326 MR56	溝 (SF 078) 上部・黒色粘質土層	(41.6) 22.6 7.2 (7.3)		朱製品(E-2) 基部中央よりやや下方で最大厚を測り、先端の方へ薄くなる。挟りは右側より左側の方が明瞭。A面は両側辺よりあらい調整剃離。B面は、両側辺から粗く剃離され、大剃離面を留めず。B面両側辺沿いに細かい調整剃離あり、ステップ状を呈す。基端には折れ面残存。	四辺形	
S-09-1329 MG65	黒褐色土層	32.1 22.3 7.0 5.1		朱製品(B-1) 両面中央に大剃離面を留める。B面は主要剃離面で打点は左方にある。両面共に両側辺より粗く剃離、両面両側辺ともステップ状を呈す。A面先端部両側辺、B面基部右側辺には更に細かい調整剃離。基端は折れ面で、その先端におおむねに調整がみられる。周辺のエッジおよび両面の縁は磨滅。	四辺形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 厚 原 重量	特 徴	中央断面	備 考
S-09-1330 IF70	濃褐色褐色土層	50.9 32.6 8.7 10.5		朱製品(D-1) A面先端に自然面を留める。A面基部中央およびB面中央にわずかに大刺離面残存。両側面からの刺離は極く、B面中央部両側面およびA面右側は大きなステップ状を呈し、右側面中央部は厚みがある。A面逆刺から基部にかけての両側面およびB面両側面には更に細かい調整が施される。	扁平な杏仁形	
S-09-1334 ME61 溝 (SF 075)	黒色土層	(38.6) 24.7 7.4 (9.3)		朱製品(B-2) 基部に自然面を留める。両面共に両側面よりあらゆる調整刺離。A面基部からの刺離は大きなステップ状を呈す。更に両面両側面沿いに細かな調整を施すがA面では左側面中央、基部右側面のみである。B面先端部中央に主要刺離面が一部残存し、打点は右方にある。両側面エッジは僅かに磨滅。	台形状	
S-09-1341 MH57	腐植土層	(26.2) 18.3 2.9 (1.7)		朱製品(D-2) 薄い。A面は背縁をもつ大刺離面。B面は主要刺離面で、打点はやや左よりの上方にある。両面共、両側面沿いに小さな調整刺離。B面は平坦。基部は折れ面で、A面側のへりを細かく調整刺離。	扁平な三角形状	
S-09-1343 MM64 溝 (SF 075)	第4層・上面	29.5 18.8 5.8 3.6		朱製品 楕円形態。両面共に両側面より刺離が施され、ステップ状を呈する。A面中央、B面先端に大刺離面残存。A面は中高で、B面は左側面より大きく刺離され平坦な面をなす。先端部に厚みを残す。A面両側面および基部は細かく調整刺離。	先端部 半円形状 基部 台形状	
S-09-1344 JU64 溝 (SF 081)	第1層・黒色土層	45.8 24.8 5.6 8.0		朱製品(B-2) 大型。A面中央に自然面と下方に打点をもつ大刺離面、B面中央に下方に打点をもつ主要刺離面を留める。両側面からは調整刺離が施され、刺離面は略楕円形。A面左側面には更に細かい刺離が見られ、ステップ状を呈する。	先端部 菱形 基部 扁平な六角形	
S-09-1350 KT66	第3層・黒色砂質土層	46.3 25.7 8.7 11.2		朱製品(E-2) 基部中央で最大厚を測る。先端の角度は鋭い。挟りは右側が明確であるのに対し左側はやや浅い。両面共に両側面より粗く調整刺離。B面先端部中央に大刺離面残存。両面の刺離は不揃いでB面両側面ではステップ状を呈し、他の部分にも混在。筋は通っていない。	五角形状	
S-09-1351	不明	37.3 23.8 10.1 8.7		朱製品(Dか) 基部で最大厚を測り、先端へ向けて薄くなる。両面共に両側面より調整刺離。A面中央に主要刺離面を留める。基部右側面およびB面基部左寄り自然面を留める。基部左側は厚い打ち割り面よりなり、へりから両側面へ調整刺離。	杏仁形	
S-09-1354 LB62	第2層	(47.8) (24.3) 5.0 (5.0)		朱製品(D-1) 両面に大刺離面を留める。A面の打点は右方にある。B面は主要刺離面を呈し、打点は上方にある。両面とも両側面沿いに細かい調整刺離が施される。A面左側面は折れ面のまま。両側面のエッジおよび基部部両面の縁で僅かに磨滅。	扁平な五角形	
S-09-1355 ML57	黒色土層	(35.8) 19.6 8.5 (5.8)		朱製品(C-2) 厚みがあり、軸中央で最大厚を測る。両面共に両側面より調整刺離が施される。B面中央に、打点が左下方にある主要刺離面を残し、B面はやや平坦な面である。A面は中高で先端部中央に略楕円形。両面にステップ状刺離が混在。先端はA面側へ刺離。両側面のエッジおよび両面の縁は僅かに磨滅。	扇形	
S-09-1358 MP64	床土層	39.6 28.7 6.5 8.5		朱製品(D-2) 幅広。両面共に両側面より調整刺離。B面は中央に大刺離面を留め、平坦な面をなす。A面両側面、B面基部右側面にやや細かい刺離を施し、ステップ状を呈す。他の部分にもステップ状刺離は混在。基部は厚く折れ面を留め、B面側のへりを少し調整刺離。	台形状	
S-09-1359 MM59 溝 (SF 074)	茶褐色砂質土層	(31.0) (24.4) 5.2 (3.1)		朱製品(D) 基部破片。両面共に両側面から刺離が施され、大刺離面を留めず。A面はやや中高で、B面は平坦な面である。両側面には更に細かい調整刺離が施されている。	扁平な扇形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	量 (mm) (g)	現長 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
S-09-1363 M156	黒色土層	(43.3) 22.7 8.7 (8.7)		未製品(B-2) 鏡身はやや長い。両面共両側辺、芯辺より調整刻離が施され側離面は略揃っている。A面中央、B面基部に大側離面残存。両側辺は更に細かい刻離も見られる。両面にステップ状刻離が混在。A面中央、芯辺附近、B面芯辺附近に研磨が施され、芯辺は鋭い。鏡は両面に通る。	菱形	
S-09-1367 JM line (SF 081) 第4層・暗灰色粘土層		29.4 20.2 6.3 3.3		未製品(C-1) 芯端部で最大厚を測る。A面は両側辺よりあらかじめ刻離しており、基部右に大側離面を留める。芯端からの刻離も見られ大きなステップ状を呈する。B面は主要側離面で右逆側部に打痕がある。両面の先端部右側辺には更に細かい調整刻離が施されている。	扇形	
S-09-1370 MQ63	第6層・褐色砂礫層	40.9 19.2 4.8 3.8		未製品(C-2) A面に刻片をつくる以前の調整面を留め、中央に線をなす。A面基部は左側辺、下方から刻離が施され、ステップ状を呈する。B面は主要側離面で、打点は右下方にある。両面ともに右側辺に細かい急傾斜面を呈する。調整刻離が施される。錯向刻離。	三角形状	
S-09-1372 ME61	黒色土層	39.8 26.8 6.2 6.6		未製品(B-1) A面基部左側に自然面を留める。B面に大きく主要側離面を留め、打点は左方にある。両面共に周辺より調整刻離を施し、ステップ状が混在する。但しA面左側辺は未調整。	扁平な杏仁形	ホルンフェルス を石材とする。 
S-09-1380 ME61	黒褐色礫混合土層	(36.3) 25.3 9.8 (8.5)		未製品(E-2) 厚みがある。両面共に両側辺より刻離され、大側離面を留めず。鏡は両面に通る。刻離は全体にあらく不揃いである。	菱形	
S-09-1384 CP58 (SF 083) 南斜面・黒色土層		38.2 25.9 9.3 9.8		未製品 楕円形態。厚みがあり、鏡身中央で最大厚を測り、先端に向い窄くなる。両面共に周辺より刻離を施すが、A面に左に大側離面を留める。B面先端部に主要側離面を留め、打点は下方にある。基部には自然面残存。A面両側辺、両面の芯辺附近はステップ状刻離を呈する。	扇形	
S-09-1385 HQ64 土塊 (SJ160)		51.0 27.0 9.1 12.9		未製品(Cか) 厚みがあり、先端部寄りで最大厚を測る。基部は左右非対称で左が凸みをもち、右はやや角ばる。両面共に周辺から刻離され、先端部に鏡が通る。基部の刻離は中央までのびずB面中央に大側離面を留める。両面基部およびB面先端部左側辺はステップ状刻離が多く見られる。	先端部 菱形 基部 五角形	
S-09-1390 LX56 (SF 075) 灰混黒色粘土層		47.0 22.5 9.5 10.1		未製品(C-2) 鏡身中央で最大厚を有し、右側辺中央は厚い。両面共に周辺から刻離を施すがB面先端部に大側離面を留め、平坦な面をなす。A面側の刻離は中央までのび中高である。両側辺寄りの刻離はステップ状を呈する。左側辺のエッジはうすく鋭いが、右側辺中央には、厚く打ち割り面が残り、A面側の調整はステップ状呈し、くずれた様を刻離面を呈す。	半円形	
S-09-1396 MN64 溝・第2溝 (SF 074)		(36.9) 25.1 7.7 (9.9)		未製品(C-2) 両面共に両側辺、芯端より刻離が施されるが両面に大きく大側離面を留める。A面の打点は右上方である。B面は主要側離面であり、打点は右下方にあたる。A面左側は大きな折れ面よりなり、ステップ状を呈する。B面基部にもステップ状の刻離が見られる。両側辺、基部のエッジは僅かに磨滅。先端はB面側へ刻離欠損。	台形	
S-09-1397 MO62	黒褐色礫混合土層	46.5 21.5 9.2 (8.9)		未製品(C-2) 厚みがあり、基部中央で最大厚を測る。両面共に両側辺よりあらく刻離され、大側離面を留めず。A面右側辺先端部には細かい刻離も見られる。鏡は両面に通るが、A面が中高であるのに対し、B面は平坦である。B面先端部右側辺に浅い、ステップ状刻離が見られ、他の部分にも浅いステップ状刻離が混在。A面先端部右側辺は僅かに磨滅。	菱形	
S-09-1398 KI64	第3層・暗褐色砂質土層	27.8 12.4 3.6 1.7		未製品(C-2) 小型。鏡身。先端は作り出さず、平面は楕円形状である。両面は大側離面を留め、A面の打点は右下方にある。B面は主要側離面で、打点は基部にある。基部に自然面残存。両面とも左側辺に調整刻離が見られる。錯向刻離。	不整四辺形	

() は残存部分の量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
KH65 第3層・黒色砂質土層	S-09-1400	38.5	未製品(C-2) 両側辺は左右非対称で、左側が浅く外彎するのに対し、右側は浅く内彎する。周辺より刻離が施されるが、刻離面は不揃いで、右側辺寄りに厚みがある。基部右側辺寄り最大厚を測る。額はA面に通り、右に偏っている。B面先端部右側に大刻離面が残存。両面ともステップ状刻離が混在。全体にあらいつくりである。	菱形		
		17.4				
		7.1				
		4.9				
KJ64 第3層・褐色砂質土層	S-09-1401	42.2	未製品(C-2) 幅広い。両面とも大刻離面残存。A面は先端部にあり、打点は右上方。B面は主要刻離面で打点は基部左方にある。右逆刺に自然面を残す。A面は両側辺より刻離され、先端部は小さい刻離で、基部では中央までのびる。B面基部右側辺にも細かい刻離が見られる。基部は主にA面側へ刻離。両側辺のエッジは僅かに磨滅。	扁平な凸レンズ状		
		26.3				
		7.9				
		6.8				
MK60 黒褐色燻混合土層	S-09-1402	39.9	未製品(B-2) 右方に厚く、左方に薄い。A面の刻離は、左側辺のびるが、右側辺はステップ状を呈し他の部分にも浅いステップ状刻離が混在。基部は折れ面よりなる。両側辺エッジは強く僅かに磨滅。	不整四辺形		
		24.2				
		9.4				
		7.8				
不明	S-09-1407	32.6	未製品 楕円形状。両面とも大刻離面よりなり、両側辺にわずかに調整刻離を施す。A面は右下方に打点があり、B面は主要刻離面で、基部中央に打点がある。右側辺はジグザグ状を呈す。	杏仁形		
		15.3				
		4.5				
		3.1				
ML60 黒色砂質土層	S-09-1410	43.6	未製品 軸はB面側へ彎曲。両面に大刻離面を留め、A面の打点は下方。B面は主要刻離面で、打点は下方である。両面とも両側辺よりあらく刻離。A面基部両側辺の刻離は大きなステップ状を呈し他の部分にも浅いステップ状刻離が混在。基部は折れ面よりなる。両側辺エッジは強く僅かに磨滅。	六角形状		
		25.3				
		8.7				
		9.5				
第3層・黒色砂質土層・PhⅡ	S-09-1411	(49.9)	未製品 幅広いで薄身。両面共に両側辺より刻離が施されるが、A面右半分に主要刻離面を留める。打点は上方である。B面先端部には右上方に打点をもつ大刻離面残存。刻離面は全周に大きく不揃いであるが、両面とも両側辺には更に小さい刻離が見られる。両面に浅いステップ状刻離が混在。	扁平な杏仁形		
		32.3				
		6.0				
		(10.3)				
MK61 溝 (SF 074) 灰混黒色土層	S-09-1417	30.3	未製品(E-2) 小型。先端で最大厚を測る。先端は薄く鋭い。軸は右側へやや彎曲。A面中央に大刻離面を留め、打点は右上方。B面は主要刻離面で、打点は基部にある。基部には自然面を留める。A面右側辺からは大きく刻離し、左側辺およびB面両側辺には小さい刻離が施されている。A面にステップ状刻離が混在。	三角形		
		14.8				
		6.8				
		2.4				
表探	S-09-1418	(36.9)	未製品(D-2) 両面共に両側辺より刻離され、大刻離面を留めず。A面右側辺沿いに厚みを残す。B面右半分の刻離は大きなステップ状を呈し、両面の両側辺にも小さいステップ状刻離が見られる。先端はB面側へ折れ欠損。	扁平な半円形		
		21.2				
		6.2				
		(5.6)				
MB58 整地層	S-09-1419	52.1	未製品(E-2) 厚みがあり、断面中央で最大厚を測る。両面共に周辺から刻離を施すが、B面中央に大刻離面残存。右側辺の両面とも大きなステップ状刻離を呈し、厚みを残す。他の部分にも浅いステップ状刻離が混在。両面の状は磨滅。	菱形		
		21.0				
		10.3				
		10.0				
MC61 黒色土層	S-09-1420	48.2	未製品 基部欠損。両面共にあらい調整刻離。A面右側辺は基部からの刻離と共にステップ状を呈す。B面先端部は大刻離面が残存し、未調整。	台形状		
		25.7				
		8.0				
		9.4				
表探	S-09-1421	(25.3)	未製品(B-1) 両面共に大刻離面よりなり、周辺に調整刻離を施しているが、ステップ状を呈し、ほとんど中央のびない。左側辺は折れ面よりなる。	不整形		
		26.8				
		5.1				
		(5.1)				

()は残存部分の法量である。

石 鏡

図版番号	登録番号 出土地点 遺構 (遺構番号) 層	号 地名 標 位	法 規 長 幅 厚 (mm) 重量 (g)	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1422		(29.1) 25.8 7.1 (6.1)	未製品(B-1) A面はあらく剥離され、右側辺と蓋はステップ状を呈す。蓋は特に小さなステップ状を呈する剥離が幾重にもかかっている。A面中央に主要剥離面残存。B面は上方に、打点を持つ大剥離面で、周辺にはほとんど剥離をみない。蓋は右下がりの斜蓋である。	半円形	
	S-09-1424 LE68		(53.5) 25.6 7.9 (11.1)	未製品(C-2) 左側辺に比べ右側辺のふくらみが大きく、左右非対称。A面は右側辺からの剥離が大きく、ほぼ全面におよぶが、先端部は、先端からの剥離よりなり、これはステップ状を呈す。左側辺からの剥離はのびず、側辺にとどまり、ステップ状を呈す。B面は左下方に打点を持つ主要剥離面で、周辺に粗く剥離を呈す。右側辺はA面左側辺と同様のステップ状を呈す。	扇形状	
	S-09-1428 MH64 溝 (SF 075) 黒褐色礫混合土層		40.6 27.3 11.1 13.6	未製品 楕円形。A面はあらく剥離されており、蓋と右側辺はステップ状を呈す。B面は右方に打点を持つ主要剥離面が残る。剥離はあらい。	不整菱形	
	S-09-1429		37.5 24.2 7.7 7.0	未製品(C-2かD-2) 両面共に剥離はあらい。A面の先端部は先端方向から大きくステップ状に剥離しており、中央に大剥離面残存。B面先端部右側に主要剥離面残存。両面共側辺沿いに細かな調整が施される。周辺のエッジは磨滅。	先端部 逆三角形 基部 逆扇形	
	S-09-1430 IW69 溝 (SF 079) 暗褐色粘質土層		47.5 24.7 8.7 8.4	未製品(C-2) 両面共に粗い調整剥離。B面両側辺A面右側辺に更に小さな剥離が施され、これはステップ状を呈す。B面基部に右上方に打点をもつ主要剥離面が残る。左側辺は折れ面残存。	扇形	
	S-09-1431 MNZ		(29.8) 26.8 5.4 (3.3)	未製品(C-2かD-2) 薄い。両面共に側辺から細かく調整剥離が施される。蓋端は自然面を留めやや尖がる。両面には大きく大剥離面を留め、A面の打点は左上方にある。B面は主要剥離面を呈し、左下方に打点がある。	扁平な杏仁形	
	S-09-1432		57.8 26.4 11.1 18.2	未製品 細長い楕円形。A面中央に縦長に自然面が残る。B面では剥離は全体におよぶが、両面共に側辺沿いの剥離はステップ状を呈す。	杏仁形	
	S-09-1434 JH66		52.3 32.0 9.0 13.5	未製品(B-2) B面は大剥離面、A面は左上方に打点を持つ主要剥離面である。両面共に右側辺には剥離をほとんど施さず、左側辺に施すが、ステップ状を呈し、剥離はあらい。A面右側辺蓋部は、主要剥離面の端が残っており、これは楕圓剥離状を呈している。	不整四辺形	
	S-09-1438 MB55		51.4 28.7 7.4 11.7	未製品(B-2) A面は左方に打点を持つ主要剥離面、B面は、左上方に打点を持つ大剥離面である。両面共に周辺にあらく剥離を施す。ステップ状を呈する剥離が多く混在する。蓋はB面側に急角度に入っており、右上がりの斜蓋である。蓋端部右側辺には厚みを残す。	杏仁形	
	S-09-1439 JQ54		41.5 26.9 7.6 9.2	未製品(C-1) A面は右方に打点を持つ主要剥離面、左側辺に若干剥離を施すがステップ状を呈し、右側辺は調整剥離が施され、中央やや右寄りに稜をつくる。B面は、大剥離面で先端部でステップ状を呈し、先端部は瘤状に残るが、他は平坦な面である。周辺に剥離を施す。	先端部 菱形 基部 三角形	
	S-09-1440		40.8 22.3 7.8 7.5	未製品(C-2) 楕円形。両面両側辺より調整剥離。A面中央に主要剥離面が小さく残る。両側辺共にステップ状を呈す。B面中央に縦長の大剥離面が残る。先端部に小さく自然面も残る。A面同様に側辺はステップ状を呈す。	杏仁形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1442 MR50 溝 (SF 085) 黒褐色粘土層	50.3 28.9 9.6 13.0		未製品 A面は背縁をもつ大剣離面、左側辺の一部と 基辺の一部に小さな調整を施す。B面は下方に打点を持 つ主要剣離面、周辺に小さな剣離をあらく施す。先端 部は主要剣離面の先端にあたり、線香剣離状を呈する。	扇形	
	S-09-1444 表探	46.6 27.6 8.8 10.4		未製品(D-1) 先端部の左側辺と基縁は自然面である。 A面は大剣離面と周辺にあらく剣離を施す。B面中央に 大剣離面が小さく残る。両面共にあらく剣離され、ステ ップ状を呈する。	先端部 不整三角形 基部 菱形	
	S-09-1445 IV62 黒褐色土層	50.2 27.0 7.7 9.3		未製品(D-2) A面は左平が大剣離面、左側辺のエッジ に細かい剣離を施す。右側辺からの剣離と中央で接を なす。B面は左側辺中央に打点を持つ主要剣離面、右 側辺に細かい剣離を施している。A面右側辺中央は潰れ ている。	三角形	
	S-09-1448 GZ 上部・砂礫層	44.8 25.9 9.5 12.1		未製品(C-2) 左側辺は直線的で、右側辺はふくらむ左 右非対称。A面は全体に剣離がおよぶが、B面は右下方 に打点を持つ主要剣離面である。左逆刺には平坦な断面 残存。B面の右側辺の剣離は整っているが、左側辺は小 さな剣離をあらく施している。	杏仁形	
	S-09-1449 JZ 第2層・黒褐色砂質土層	51.8 24.5 8.4 10.9		未製品(D-2) A面は大剣離面、左側辺に剣離を施す がステップ状を呈し、エッジはくずれた様になり厚みを 残す。右側辺には、ほとんど剣離を施さず。B面は右方 に打点を持つ主要剣離面、周辺に剣離を施す。B面基 部右側辺はステップ状を呈す。基部右側辺は折れ面から なり、剣離は両面共施されず。	先端部 不整菱形 基部 四辺形	
	S-09-1459 KT62 第2層・黒褐色砂質土層	22.9 18.8 4.7 2.1		未製品(A-1) 基縁は浅いV字形に凹む。逆刺は鈍い。 A面右側辺の先端部はステップ状を呈し、稜をなし、基 部右側辺沿いに自然面が残る。左右非対称。基縁、左側 辺はそれぞれ1つの大きな剣離面よりなり、周辺に小さ く剣離を施す。B面は主要剣離面、上方に打点をもつ。 周辺に小さな剣離を粗く施す。	先端部 三角形 基部 台形状	
	S-09-1464 GT50 溝 (SF 334)	36.5 21.3 8.2 6.3		未製品(C-1) 基縁の左平はやや直線的で、基部は非対 称。両面共に剣離はステップ状を呈し、中央に大剣離面 残存。	杏仁形	
	S-09-1465 MJ63 溝 (SF 077) 灰褐色粘土質土層	39.8 28.3 4.9 7.0		未製品(A-2) 全体的に厚さはあまり変化はなく、板状 である。A面は大きく剣離した後に周辺に急角度に入る 剣離を施すが、右側部基部にはその剣離がなく、先端部 では、ステップ状を呈す。B面は左逆刺に打点を持つ主 要剣離面、周辺にあらく剣離を施す。左逆刺部に打面 残存。基縁は円基の基縁の中央をわずかに凹めてい る。	扁平な台形	
	S-09-1467 MQ63 褐色砂層	36.0 23.3 4.3 4.2		未製品(C-2) A面は両側辺より調整剣離。先端部、基 縁部に大剣離面残存し、先端部左側辺は折れ面である。 B面は剣離面よりなり、大半は右下方に打点を持つ打ち 欠き面である。両面共同辺に細かく剣離を施す粗く、 基縁にはほとんど施していない。	先端部 扁平な四辺形 基部 扁平な台形	
	S-09-1468 MI57 黒色砂質土層	39.1 25.0 6.3 7.1		未製品(C-2) 先端は鈍く、側面に肩を持ち、側面は基 部にかけてあまりふくらまず、ほぼ直線的である。A面 は粗く剣離され、基縁はステップ状を呈し、中央に小さ く、主要剣離面が残る。B面は左側辺中央に打点をもつ 大剣離面と周辺に粗く剣離を施す。先端部右側辺沿いに 自然面残存。	扁平な杏仁形	
	S-09-1469 KK64 第3層・褐色砂質土層	51.4 23.8 8.3 11.4		未製品(B-2) B面は、大剣離面で平坦。A面は右方に 打点を持つ主要剣離面、右側辺中央に最大厚みを持つ凸 面である。側面は中央から基縁にかけてあまりふくら みを持たず、直線的で縦長の形態。両面共に周辺にあら く剣離を施しており、ステップ状を呈する。基縁はB面 のみの剣離である。	杏仁形	

()は残存部分の法量である。

石 鏡


図版番号	発 掘 香 骨 出 土 地 点 遺 構 名 (遺構番号) 層 位	法 現 長 量 幅 厚 (mm) 重 量 (g)	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1470	34.3 24.5 6.6 5.0	未製品(C-2) 左方に厚く、右方に薄い。左側辺の形は整っているが、右側辺は整っておらず、横によくわ。A面右側に大刺離面、B面左に主要刺離面が残る。A面右側面、B面左側辺の刺離は粗く、周辺にとどまる。全体にステップ状を呈する刺離が多く存在する。	不整形	
	S-09-1471	41.3 27.7 10.6 14.4	未製品 ポイント状。平面の大きさに比べ厚い。A面、中央にまで刺離はのびているが小さく大刺離面が残る、周辺は幾重にもステップ状を呈する刺離がみられる。B面は主要刺離面で周辺に刺離を施しておりステップ状を呈する。	五角形	
	S-09-1472 M158 溝 (SF 074) 褐色砂層	30.6 17.3 4.1 2.5	未製品(B-2) A面は左逆刺方向に打点を持つ大刺離面で、B面は右逆刺に打点をもつ主要刺離面。基部左側面に打面残存。A面の両側面に小さな刺離をあらわす。基部は折れ面である。B面は左側辺に若干刺離をみながら、右側辺は、部分的に刺離あり。縦軸はB面側へ彎曲する。	扁平な杏仁形	
	S-09-1473 LB65 第2層	24.0 15.0 3.2 1.8	未製品 楕円形態。A面は大きな刺離面よりなり、左側辺のみに刺離を施す。B面は右下方に打点を持つ主要刺離面で両側面に小さな刺離を施す。基部に厚く先端にうすくなる。	台形状	
	S-09-1474 MJ61 床土層	37.8 21.5 7.5 7.5	未製品(B-1) 縦長の台形状。右側辺は直線的であるが左側辺はややゆるみを持つ。A面は右逆刺近くに自然面が小さく残るがほぼ全面に刺離はおよんでいない。先端はステップ状刺離が施されるが、自然面わずかに残存。B面は右下方に打点をもつ主要刺離面で、周辺に小さく刺離を施しており、左側辺はステップ状を呈する。	杏仁形	
	S-09-1475 LA58 黒褐色礫混合土層	40.0 29.4 10.0 12.1	未製品 ポイント状。平面の大きさに比べ厚みあり。最大幅は基部近くにある。刺離は両面共に、ステップ状を呈するものが大部分を占める。両面中央に大刺離面残存。先端は鈍く円みを持つ。	不整形杏仁形	
	S-09-1476 MF61 黒褐色礫土層	53.0 29.8 7.5 (10.7)	未製品(C-2) 左側辺に比べ右側辺は大きくよくわ。A面は右上方に打点を持つ大刺離面で、右側辺中央に刺離を施し、先端部には細かな刺離を施す。左側辺は先端部のみ細かな刺離を施す。B面は左下方に打点を持つ主要刺離面で、左側辺中央に刺離を施し、先端部右側辺に細かな刺離を部分的に施すのみである。	杏仁形	
	S-09-1477 MN59 溝 (SF 076) 黒色粘質土層	(47.8) 25.1 6.0 (7.7)	未製品 基部には自然面残存。A面右側辺の刺離は中央までのびるが、左側辺は小さな刺離があらわされるのみで左半分は右方に打点をもつ主要刺離面である。B面は基部に打点をもつ大刺離面で、調整は施されおらず、長軸は、D面側へ彎曲している。	扁平な三角形	
	S-09-1478 不明	35.6 23.0 5.2 4.1	未製品(B-1) 基部は右上がりの斜基である。A面両側辺より調整刺離。基部右寄りに大刺離面残存。B面先端部両側辺に沿ってのみ調整が施され、大半は大刺離面よりなる。基部右側辺中央には折れ面残存。	扁平な扇形	
	S-09-1479 JW64 黒褐色土層	69.4 24.4 8.6 14.3	未製品(B-2) 大型。縦に長く、石槍に似る。先端部は厚く、基部に薄い。主軸はB面側へ彎曲する。基部は斜基気味である。A面は自然面、周辺に小さく刺離を施しており、ステップ状を呈する。B面は基部に打点を持つ主要刺離面で、周辺に刺離を施しており、ステップ状を呈するものが多く存在する。基部は折れ面ではステップ状刺離を施す。	先端部 半円形 基部 板状	
	S-09-1480 IB66 黒色砂質土層	49.8 23.8 7.4 8.6	未製品 刺離は粗い。A面右側辺の刺離は中央近くまでのびる。左側辺は周辺のみで、左半分は大刺離面が残り、中央に幾を持つ。B面は先端の右側面に自然面が残り、その角に打点が残る主要刺離面で、周辺に刺離を施す。両面共に刺離の多くはステップ状を呈する。	扁平な扇形	

()は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (透視番号) 層位	法量 (mm) (g)	現場 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1481 IA58 土壌 (SJ 177)	(51.0) 23.9 7.0 (9.0)		朱製品(D-2) 両面とも両側辺より調整刻離。A面基部左側～基部には自然面を残し、先端部中央に大刻離面残存。B面は中央の右上方に打点をもつ主要刻離面が残存し、平坦で両側辺の刻離の多くはステップ状を呈す。	扁平な三角形	
	S-09-1482 不明	37.5 21.3 6.0 5.4		朱製品(B-2) 先端は円く鈍い。基部は右下がりの斜基である。両面共にあらわ刻離後、周辺沿いに細かな調整を施す。両面とも中央に大刻離面が残る。	扁平な杏仁形	
	S-10-0011 KZ 第3層・暗褐色砂質土層	(37.9) 30.4 9.3 (12.2)		朱製品(B-1) 基部は正方形に近い。両面共両側より調整刻離。両面共中央に大刻離面が残る。	菱形	
	S-10-0109 NM59 茶褐色砂質土層	52.3 30.9 8.0 10.9		朱製品(A-1) 縦長。側辺はなだらかに内彎し、基部で広がる。基部は、右方で凹む。両面共に中央に筋が通る。A面の基部の左方に小さく自然面が残存。B面基部左半には、左上方に打点を持つ主要刻離面が残る。両側辺のエッジはうすく鋭い。	菱形	
	S-10-0111 LE・LF 64・65 第3層・茶褐色砂質土層	34.3 27.7 7.3 17.5		朱製品(B-1) A面中央に下方に打点をもつ主要刻離面が残る。両側辺の刻離は粗く、ステップ状を呈するものが混在する。B面先端部の先端方向からの刻離はステップ状を呈しており、基部には背稜をもつ大刻離面残存。先端右側辺には厚く剥片の折れ面残存。基部は折れ面で、両方に調整がみられる。	扇形	
	S-10-0125 不明	58.1 22.2 9.8 13.7		朱製品 縦長。基部は自然面。A面右側辺の刻離は中央までのび左側辺は両側のみで左半は左下方に打点を持つ主要刻離面で中央に筋が通る。B面は基部中央に小さく大刻離面が残る。両面共にステップ状を呈する刻離が多く混在する。	扇形	
	S-10-0281 MK59 第9号土器堆積 (SL 308)	44.5 26.3 11.8 13.4		朱製品 ポイント状。基部中央で最大厚を測る。先端は円い。左側辺はよくらみをもち、右側辺は鎌身の略中央でよくらみ下半は直線的にのびる。基部は右下がりの斜基を呈す。A面両側部両側辺からは大きく刻離され、深いステップ状を呈し先端部はうすい。A面基部、先端にはやや細かい刻離が施されている。B面は両側部から刻離が施されるが中央までのびず、中央に主要刻離面を留める、打点は左方にある。B面基部は打ち欠きにより、ステップ状を呈す。	先端部 扇形 基部 厚手の台形状	
	S-10-0321 HU66 黒褐色硬層	52.2 28.9 8.2 10.5		朱製品(D-1) 両面共に周辺からあらく調整刻離を施すが、A面右側辺部に一部大刻離面を留め、厚みあり。B面中央部には左下方に打点をもつ主要刻離面残存。	先端部 菱形 基部 四辺形	





()は残存部分の法量である。

磨製石鏡

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (透視番号) 層位	法量 (mm) (g)	現場 幅厚 重量	石 材	特 徴	中央断面	備 考
PL.17-34	S-09-0292 KP62 第2層・Pit 2	(33.9) (15.7) (5.7) (3.6)		珪 岩 片	先端部破片。細身。厚みがある。筋は両面中央に通る。側辺のエッジは鋭い。両側辺には刃こぼれ状の粗かい刻離が見られる。	菱形	

()は残存部分の法量である。

磨製石鏃

図版番号	登録番号 出土地 遺構番号 層	法量 (mm) (g)	現場 幅厚 重量	石材	特徴	中央断面	備考
PL.17-35	S-09-0511 MT58 溝 (SF 078) 灰黒色粘質土層	(23.9) 21.0 6.3 (3.8)		サヌカイト	基部破片。両側辺は略平行し、基部は平基式を呈すが、やや円みをもち、左逆側は切れあがる。筋は両面中央に通る。両側辺エッジは長軸と直交する方向に少し研磨が施され、平坦に磨りおとされる。基部も研磨により浅く彎曲してつくれるが、折れ面が残る。	菱形	表面は白く黄白色。 
PL.17-36 PL.61-19	S-09-0379 KX62 第3層・Pit	(38.8) 23.1 3.8 (4.4)		サヌカイト	凸基有基式。薄身。先端から逆刺にかけてわずかに外彎して幅広くなり、逆刺および挟りは略直角をなす。挟り部は両側共に穿孔されて円みをもち、両面共、挟り部が中心寄りの斜め上方に向けて、磨り切りによる溝(長さ3mm)がある。両面ともならいかで筋はない。両側辺のエッジはうすく鋭い。鏃身の厚さは略一定で基部部は薄い。	扁平な杏仁形	表面は白く黄白色。 
PL.17-37	S-09-0384 MH56 溝 (SF 074) 青褐色砂層	(53.3) 18.2 (5.6) (6.5)		サヌカイト か	細身。基部はB面側へ斜離欠損後、一部研磨が施され、基部は平坦な面をなし、左上がりである。逆刺から基部にかけての両側辺は長軸と直交する方向に研磨されている。筋は両面中央に通る。両側辺に一部細かく鋭離が見られるが、エッジは鋭い。	菱形	
PL.17-38 PL.61-20	S-09-1085 MB52 黒褐色礫混土層	56.1 21.1 5.5 8.9		ホルンフェ ルスか	平基式か。基部部は折れ面である。A面右側は研磨の及ばない斜離面残存。筋は両面共通するが、A面では少し右寄りB面では少し左寄りに位置する事から、石刺の先端部破片を再加工したものかとも思われる。基部両側辺には長軸と直交する方向の研磨が施され、浅い挟りをなし(幅9mm)基部に向かいややすぼまる。基部のエッジは磨滅。	菱形	磨製石刺の再加工品か。 

()は残存部分の法量である。

第2節 石匙 (P.L. 53, P.L. 62)

本遺跡出土の石匙は、総数11点である。すべてサスカイトを石材とする打製石器であり、縄石時代よりひきつづき存在し、「皮剥ぎ」としての機能を有する。

石匙は、つまみのある位置により次の様に2分類を行った。

タイプ分類

Aタイプ つまみが刃部と直角ないし直角に近い角度を有するもの。すなわち、つまみが刃部の左右方向に位置するものである。5点あり。すべて直刃であり、片刃(2点)と両刃(3点)の両者がある。大半は一辺に刃をつくりだすが、1点のみ、二辺に両刃をつくりだすのみがみられる(S-23-0008)。

Bタイプ つまみが、刃部と平行して存在するもの。すなわち、つまみが刃部の上方に位置するものである。6点あり。すべて外彎刃であり、一辺に刃をつくりだす。その内、両刃は5点を占め、片刃が1点である。

Bタイプは平面形によって2小分類しうる。

B-1 長さの割合に、横幅が広いもので、刃部は外彎刃であり、扇形を呈す。小型のものが多く、つまみが突出しており、その両側の挟りが明らかなもの(S-23-0005)とつまみに挟りのないもの(S-23-0002)とがみられる。

B-2 長さ横幅がほぼ等しく、平面形が正三角形を呈し、三角形の頂点(背頂部)につまみをもつ(S-23-0003, 0004)。

製作状況

石匙は、全点、両面に大制離面を残している。自然面を残すものが6点あり、その内2点は一方の面に自然面が残存し、他は背面や、つまみの先端に自然面が残っている。

Bタイプは、両面に比較的くり返して、調整制離を施し、大制離面は痕跡的に残るものが多く(S-23-0001, 0004, 0006)。また、一方の面(A面-図の正面)にのみ調整制離を施し、他方の面(B面-図の裏面)は、主要制離面よりなるもののみみられる(S-23-0003, 0005, 0007)。

Aタイプ、Bタイプの前者以外のものは、大制離面が両面に大きく残り、主要制離面の打点も判断しうる。Aタイプ2点(S-23-0010, 0012)、Bタイプ3点(S-23-0001, 0002, 0005)は、刃部と反対側の背頂部に打点があり、刃部は剥片の末端にあたる。他の1点(S-23-0003)は背頂部よりやや右寄りに打点があり、刃部は剥片の末端にあたる。Aタイプの他の2点(S-23-0008, 0011)はつまみと反対側の方向、つまみの下方に打点をもち、刃部が剥片の末端に該当しないものである。

主要制離面と、大制離面の打点の方向は異なり、適当な剥片をつくっているといえる。

B-1タイプに1点(S-23-0001)、両者の打点の方向が一致し、横長剥片を利用した事がわかるものがある。

刃部の制離状況には、両面加工と片面加工の両者があり、Aタイプでは、両面加工のものが3点、片面加工のものが2点ある。Bタイプでは、両面加工のものが4点、片面加工のものが

2点みられる。また、B-1タイプの中には、刃先が両面加工により、交互斜縁のようにジグザグを呈するものもある(S-23-0006)。

石匙は、全体として薄い剥片よりなり、Bタイプでは、調整斜縁を施して整形しているが、Aタイプでは、周辺の必要部分にのみ、加工を加えている。

使用痕 石匙は、「皮剥ぎ」としての機能が考えられるが、刃部に磨滅のみられるものが、4点ある。その内3点は、刃先から刃面にかけて磨滅しており(S-23-0004、0005、0008)、他の1点(S-23-0007)は、両刃を呈すが、刃先は丸く磨滅し、両面とも刃先から長さ5mmの部分には光沢がみられ、両面の稜縁は磨滅している。

刃 器 石匙と同様の機能をもつ打製石器として、「刃器」がある(PL. 53-26~28)。これは剥片の周縁に調整斜縁を施して、背部と刃部をつくりだしている石器である。また、背部に自然面を残し、剥片の末端にのみ調整を施して刃部をつくるだけのものもある。体部中央には、大きく大斜縁面が残り、形を作り上げる事に主眼はおかれず、機能的につくられている。この様な「刃器」が、本道跡では、484点出土している。

遺構出土の石匙は4点あり。内1点(Aタイプ)は第Ⅰ様式期より出土しており、他の2点(Aタイプ、B-1タイプ)は第Ⅱ~第Ⅲ様式期と考えられる。

注 54) 中谷浩字次郎「日本石器時代提要」1943の分類基準に拠る。

55) S-23-0002は片面にのみ加工を施すが、他方の面は傾斜しており両刃を呈す。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号)位	法量 (mm)	横幅 長さ 厚 重量	特 徴	備 考
PL.53-15	S-23-0010 MD60 溝 (SF 075) 黒色土層	58.6 23.3 5.7 6.9		A 細長いスプーン形を呈す。A面背部に調整刻痕を施し、厚みをとる。右側につまみがつくれる。刃部にはA面側に細かな刃こぼれ状の調整あり。片刃を呈す。A面に大刺離面残存し、B面は背面中央よりやや左寄りに打点をもつ主要刺離面からなり、背部、つまみにわずかに調整を施すのみ。	
PL.53-16 PL.62-1	S-23-0012 LK58 溝 (SF 430) 黒褐色砂質土層	72.8 40.0 9.2 22.7		A 平面形は直角三角形形状を呈し、右側につまみをつくる。原石の角を剝離させてできた三角形の剝片を素材とし、A面は大刺離面で、末端の薄い部分を片面加工調整し、刃部を形成。片刃の直刃である。B面は背頂部に打点をもつ主要刺離面であり、わずかにつまみにのみ調整を施す。刃部は主要刺離面の末端にあたり、加工はみられず、背面は自然面よりなる。	(第I様式)
PL.53-17	S-23-0011 JY58 黒褐色土層	67.2 39.9 11.0 28.1		A 平面形は直角三角形形状を呈し、右側につまみあり、B面はつまみと反対側に打点のある主要刺離面、A面は自然面のまま。下辺に両面加工による、両刃の直刃をつくる。刃部、つまみにのみ調整刻痕。背部に厚みあり。	
PL.53-20	S-23-0007 MC54 整地層	27.0 39.0 8.2 7.4		A つまみが刃部に対し斜め方向につくられているのが特徴。全体に平行四辺形状を呈しており、刃部は両刃の直刃である。A面は両辺より調整剝離され、刃部直上は大刺離面残存。B面はつまみに大刺離面が残る、厚みをもつ。体部は大きな打ち欠き面よりなり、B面は両辺にのみ小さな調整。刃部は両面とも刃先～5mmの間に先沢があり、刃先は丸く磨滅。つまみの反対側の辺は、A面側へ直角に刺離している。	
PL.53-21 PL.62-4	S-23-0008 IT66 溝 (SZ 318) 第1層・黒色土層	40.0 27.7 5.0 4.7		A 平面形は隅丸の正三角形を呈し、右側につまみをもつ。左辺と下辺の二辺に両面加工により刃部がつくられ、ともに両刃の直刃を呈す。両面とも大刺離面残存。B面はつまみの下方に打点あり。下辺の刃面の縁は磨滅。	
PL.53-22	S-23-0005 JE62	29.0 47.9 6.4 6.9		B-1 扇形を呈し、背頂部につまみあり。B面は主要刺離面、背頂部に打点あり。A面中央に自然面残存し、背部はあく調整刻痕。刃先に細かな調整により片刃の外磨きをつくる。B面は背部周辺に細かな調整があるのみ。刃部は剝離の末端にあたり、右端部にのみわずかに調整あり。刃先から刃面にかけて磨滅あり。	
PL.53-23	S-23-0002 MM60 溝 (SF 074)	16.2 33.3 4.3 1.9		B-1 小型。二等辺三角形形状を呈す。背頂部に挟り込まないつまみあり。刃部はごく浅い両刃の外磨き。つまみ先端に自然面残存。A面は背頂部に打点をもつ主要刺離面、B面は大刺離面残存。A面左辺と刃部、B面背部の両辺にのみ、細かな調整刻痕。刃部はA面の片面調整だが、B面刃先は傾斜しており、両刃を呈す。	(第Ⅰ-Ⅱ様式)
PL.53-24	S-23-0006 LC58 茶褐色土層	16.7 35.1 5.0 2.1		B-1 小型。横幅の広い扇形。両面とも調整刻痕を施し、B面中央にわずかに大刺離面残存。刃部は両面加工により、両刃の外磨き。刃先はジグザグを呈す。背頂部のつまみの先端にわずかに自然面残存。	
PL.53-25 PL.62-2	S-23-0001 KW60 第3層・黒色砂質土層	17.5 44.3 7.6 4.0		B-1 横幅の広い扇形を呈す。つまみ先端を欠いた形をしている。両面ともに周縁から両面加工され、中央に大刺離面が残存している丁寧な作り。つまみは主要刺離面の頂端に近い。刃部は両刃の外磨き。	

()は残存部分の法量である。

石匙

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号)位	法 量 (mm) (g)	長さ 横 幅 厚 重 量	特 徴	備 考
PL.53-18	S-23-0003 MI65 茶褐色土層	45.0 6.1 9.3	45.0 53.8 6.1 9.3	B-2 平面形は正三角形を呈し、背頂部につまみあり。B面は主要剥離面で、右辺中央に打点をもち、刃部は剥片の末端にあたる。頂部および右側面に自然面を残す。B面を作るまえにA面を調整剥離している。A面左辺・下辺、B面左辺・下辺にのみ細かな調整を施す。刃部は両面加工により、やや外彎する両刃をつくる。	
PL.53-19 PL.62-3	S-23-0004 JU66 整地層	37.5 (42.8) 6.3 7.9	37.5 (42.8) 6.3 7.9	B-2 両面ともに大剥離面をとどめない程、周縁から中央へ深く押圧剥離され、全体の形も整った三角形状を呈す。刃部は両面加工により、両刃の外彎刃を呈す。A面刃部中央23mm幅にわたり、主としてB面側に小さく剥離し、本来の刃縁より2.2mm凹んでいる。これは他の調整剥離とは異なるが本来の皮剥ぎ以外の用途に給されたものであろう。	

()は残存部分の法量である。

第4章 紡織具

本遺跡出土の紡織具として、石製品では紡錘車がある。

第1節 紡錘車 (PL. 54, PL. 62)

本遺跡出土の紡錘車は総数18点である。この内、17点は弥生時代の紡錘車であり、1点は古墳時代に属するものである。

弥生時代の紡錘車

弥生時代の紡錘車は、全て円板形をなす。

石材は、緑色片岩が大半を占めるが、この他に、石英安山岩、ホルンフェルスを用いている石 材
ものもみられる。

法 量
法量は、外径3.8cm×3.9cm～5.5cm×5.7cm (平均 4.5cm)、厚さ0.3cm～0.8cm (平均 0.8cm)、重 量
重量15g⁸⁰⁾～47g⁸¹⁾、中心孔径0.5cm～0.6cm (平均 0.8cm) である。

紡錘車には大型と小型がある。

大型品は1点あり。法量は、外径5.5cm×5.7cm、厚さ0.8cm、重量44g⁸²⁾ (復元重量47g)、中
心孔径0.6cmとなる。

小型品は8点あり。法量は、外径3.8cm×3.9cm～4.8cm×約5.0cm (平均 4.3cm)、厚さ0.3cm～
0.7cm (平均 0.8cm)、重量15g～18g (平均16g)、中心孔径0.5cm～0.6cm (平均 0.5cm) となる。

大型品と小型品とは、外径と重量において、相対的な較差が表われ、大型品では、外径5
cm⁸⁰⁾以上、重量50g前後のものであり、小型品は、外径5cm未満、重量30g未満のものといえる。

未製品

未製品の数も多く、17点中8点を数える。これは、両面が片理面よりなる、薄い板材の周辺
に打ち欠きを施して、円形に成形しているもの (S-15-0011, 0014)、そして、両面に研磨
を施しているもの (S-15-0015) などがあり、製作状況を確認することができる。大型の未製品
は3点、小型の未製品は5点みられる。また完成品から、中心孔は、両面に直接穿孔している
ものが多いが (5点)、両面に敲打後穿孔するものも1点あり (S-15-0001)、一方の面から
のみ直接穿孔するものもみられる (S-15-0008, 0018)。

転用

本来的に紡錘車としてつくっているものと、他の石器、即ち石匙丁の破片に再加工を施して
紡錘車として作り直しているものがある。石匙丁からの転用品が5点みられ、完成品では1点

石匙丁の
再加工

(S-15-0007)にその痕跡を残す。未製品では4点あり。周辺を打ち欠いて成形後、そのエッジを擦っている。未製品全体の半数を占め、転用の比率は比較的高いと考えられる。

完成品の中に、製作時の研磨痕がうすれ、光沢をもち、両面の稜が丸みをもつものがあり、使用によるものと思われる(S-15-0008, 0010)。

弥生時代の紡錘車17点中、遺構より検出されるものは4点あるが、これは、第Ⅱ様式期以降と考えられる。

古墳時代の紡錘車

1点あり(S-15-0005)。これは、側面形が円錐台形をなし、両平面に鋸歯状が線刻されているものである。蛇紋岩を石材としている。

注 56) 新しい欠損があるため、そこを補った復元重量である。

57) 注56) 参照。

58) 中心孔を回り、縦×横ともに5cm以上とする。

59) 30gという数値は、紡錘車の残存状況と照らしあわせて復元重量を求めた結果のものである。

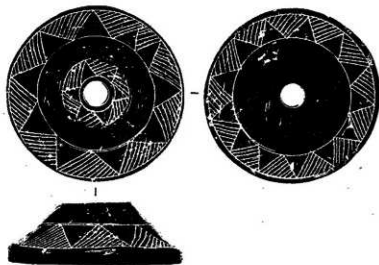


fig.22 古墳時代の紡錘車

1:1

図版番号	登録番号 出土地 遺構 (遺構番号) 層位	法 量 (cm) (g)	外 径 孔 厚 重 量	石 材	特 徴	備 考
PL.54-10	S-15-0004 MP56 溝 (SF 078) 黒色粘質土層	3.8×4.0	— 0.3 (7)	緑色片岩	小型 一部欠損、得手である。両面とも稜は不明瞭で、側面は非常にうすく丸みをもつ。中心孔は剝離欠損するが、一部残存。稜線に僅かに剝離痕が見られる。	B面僅かに鉄分付着。
PL.54-11	S-15-0013 MJ59 黒褐色砂層	4.0×4.4	0.6 0.9 24	緑色片岩	小型の未製品 完形。石庵丁の紐孔部破片を転用したもの。再加工途上であり、周囲から打ち欠いて成形。側面の一部に背部および紐孔残存。もう一方の紐孔を中心孔としている(外孔径A 9mm、B 8mm)。側面の一部に研磨痕が施されている。	石庵丁から転用。 加工途上品。 両面僅かに鉄分付着。
PL.54-12	S-15-0018 MN54 土器埴積 (SL 321) 黒色土層	4.4	0.6 0.6 18	緑色片岩	小型 完形。平面形は正円に近い。両面共に研磨面下に一部剝離面残存。中心孔は中心よりも2mm程ずれて位置する(外孔径A 7mm、B 8mm)。稜は丸味をもつ。表面全体に火を受けて変色し、荒れている。	火をうけて変色、表面は荒れている。
PL.54-13 PL.62-10	S-15-0001 KT66 第2層・黒褐色砂質土層	5.5×5.7	0.6 0.8 (44)	緑色片岩	大型 略方形。側面には稜線に沿った方向の研磨痕が残存。中心孔は両面より敲打後穿孔(外孔径A 9mm、B 8mm)。両面の研磨痕は薄れ、稜は丸味をもつ。	
PL.54-14	S-15-0002 K170 第3層・黒色砂質土層・Pt21	約 4.8	— 0.6 (8)	緑色片岩か	小型 約1/2個体。側面には稜に沿った方向の研磨痕が残存。両面共に研磨痕は薄れている。表面はやや光沢を帯びる。B面角剝離欠損、A面剝落。火をうけたためか。両面とも稜線は明瞭な角をなす。	
PL.54-15	S-15-0003 MBS8 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	約 4.7	0.5 0.7 (14)	黒色片岩	小型 1/2個体。側面には稜線と直交する方向および稜線に沿った方向に研磨痕が施されており、平坦である。両面共に研磨痕が明確で、稜も角ばっている事から、あまり使用されないうちに破損したと思われる。(外孔径A 8mm、B不明)。	
PL.54-16	S-15-0007 JQ58 茶褐色土層	4.8×約5.0	0.5 0.6 (19)	石英安山岩	小型 石庵丁の体部中央破片を転用したもの。再加工途上にある。厚さは不均一で破損部付近で最大厚を有し、相対する側の側面で薄くなる。側面は比較的平坦な面で、稜は両面とも明確な角をなす。紐孔は2孔あるが、孔径の大きい方が比較的中心寄りに位置する(外孔径A 8.5mm、B 7mm)。B面研磨面下に一部剝離面残存。側面に一部打ち欠き面残存。破損部の中央突出部は僅かに磨滅。	石庵丁から転用。 A面鉄分付着
PL.54-17 PL.62-11	S-15-0010 HE52 Pt68底部	3.8×3.9	0.5 0.6 15	緑色片岩	小型 完形。B面研磨面下に一部剝離面残存。両面共周縁に打ち欠き成形面残存。A面全体側面はやや光沢を帯びる。B面は研磨痕残存。側面は上下両端を面取りされ、その稜は丸味をもつ。中心孔は両面より穿孔(外孔径A 7.5mm、B 6.5mm)。	両面に鉄分付着
PL.54-18	S-15-0008 KB64 黒褐色土層	4.1	0.6 0.5 15	緑色片岩	小型 完形。平面形は正円に近い。孔部は略中心に位置する(外孔径A 7mm、B 8mm)。A面孔部稜に重なった小さい穿孔あり(径3mm)。両面共に研磨痕は薄れ、表面全体にやや光沢を帯びる。側面は丸味をもつ。	

()は残存部分の法量である。

紡錘車

図版番号	登録番号 出土地点 遺構 (遺構番号) 層位	法 量 (cm) (g)	外 径 孔 徑 厚 さ 重 量	石 材	特 徴	備 考
PL.54-19	S-15-0017 KX68・69 第3層・茶褐色砂質土層	6.2×6.5 — 0.9 68	— 0.9 68	緑色片岩 (点 紋)	大型の未製品 完形。石庵丁の体部右方破片を転用したもの。側面には石庵丁時の紐孔および背部、刃部が残存。背部・刃部以外の側面には打ち欠きを行い、円形に成形する途上にある。側面は一部磨減している。	石庵丁から転用。 加工途上品。
PL.54-20	S-15-0015 不明	6.2×6.5 — 0.8 51	— 0.8 51	緑色片岩	大型の未製品 完形。周囲に打ち欠きを施し、円形に成形する。打ち欠き成形後、両面に粗い研磨を施す。B面に研磨のおよばない片理面残存。	
PL.54-21 PL.62-12	S-15-0014 MI56 礫混黒褐色土層	6.1×6.8 — 0.9 49	— 0.9 49	緑色片岩	大型の未製品 完形。周囲から打ち欠きにより円形に成形。両面共に片理面のまま。	B面に鉄分付着
	S-15-0009 MM64 整地面	4.1 (0.8) 0.6 (7)	— (0.8) 0.6 (7)	緑色片岩	小型 片断体。火をうけて変色し表面は荒れているため、詳細不明。中心孔は両面より穿孔。	火をうけて変色。表面は荒れている。
	S-15-0011 JI66 整地層	4.9×5.4 — 0.9 33	— 0.9 33	緑色片岩 (点 紋)	小型の未製品 完形。周囲から打ち欠きにより円形に成形。A面は平坦な自然面、B面は片理面よりなり、厚さは均一でない。打ち欠きのエッジは磨減している。	
	S-15-0016 MB50 溝・東流路 (SF 074)	4.9×5.5 — 0.8 39	— 0.8 39	緑色片岩	小型の未製品 完形。石庵丁の体部右方破片を転用したもの。周辺に打ち欠きを施し円形に成形。側面には石庵丁時の紐孔および背部を留める。両面共に研磨のおよばない片理面が一部残存。A面中央部に僅かに敲打痕がある。打ち欠き面には磨減がみられる。	石庵丁から転用。 加工途上品。
	S-15-0019 MB54 茶褐色土層	4.6×5.3 — 1.0 31	— 1.0 31	緑色片岩	小型の未製品 完形。片側が厚く、もう一方の側は薄い。周囲からの打ち欠きにより円形に成形。両面ともに研磨のおよばない片理面残存。側面は一部磨減している。	表面は風化し、荒れている。
	S-15-0020 JG56 溝 (SF 080) 第1層・茶褐色砂質土層	4.8×4.8 — 0.6 (21)	— 0.6 (21)	緑色片岩	小型の未製品 完形。石庵丁の右方体部破片を転用したもの。側面に石庵丁時の紐孔、背部・刃部を留める。周囲から打ち欠き成形した後、三方の角を研磨し、円形につくろうとする。	石庵丁から転用。 加工途上品。
fig. 22	S-15-0005 KP54 茶褐色土層	4.5×4.6 — 0.6 1.6 43	— 0.6 1.6 43	蛇 紋 岩	古墳時代の紡錘車 完形。円錐台形を呈し、側面は垂直に下る(幅3~4mm)。A面傾斜面には中心より放射状にのび、側面では縦線と直交する方向に、表面が削り取られた直線を有し、その後研磨が施されている。側面の研磨は横方向である。A面中心部、傾斜面周縁部、B面周縁部には、2つの同心円内に細直線の線紋が施されている。中心孔の外孔径は6.5mmである。	

() は残存部分の法量である。